

授業科目名	教育原理				
担当教員名	榊原 志保				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人生最初期の「教育」に携わる専門職に求められる教育の基礎理論として、教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想、社会的、制度的事項、学校と地域との連携ならびに学校安全への対応に関する基礎的事項を学びます。今日におけるわが国の教育を成り立たせている教育の思想や歴史、制度、また、その土台にある理念・目的を理解し、それを踏まえて自己の「教育」理解を問い直し、視野を広げ、深めるとともに、現代社会における教育課題や保育者としての役割や使命、責任についての認識と考えを深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 教育に関する理念、思想及び歴史の理解
- 教育制度、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する理解

目標：

教育の基本的概念や理念が、教育の歴史や思想においてどのように現れてきたか、また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解できる。

現代の学校教育に関する社会的、制度的事項ならびに学校と地域との連携や学校安全への対応に関する基礎的知識を身につけるとともに、その課題を理解できる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通
2. DP4. 課題発見

教育に関する他者の意見や主張を丁寧に聴き、正確に把握することができ、また、自分の意見や主張を、文章や口頭発表を通して、分かりやすく正確に伝えることができる。

現代社会における教育をめぐる諸課題について、自分なりの問題意識をもつことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

シャトルシート等授業内課題（5点×11回）	：	授業外学修課題をもとに、授業での学びを的確にまとめることができているかどうかを評価します。
55 %	：	
授業内小テスト（10点×3回）	：	学期中に3回行い、基本的内容の知識・理解を確認します。
30 %	：	
定期試験（レポート）	：	学修成果のまとめとしてのレポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。
15 %	：	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
石橋 哲成 編	・教育原理（コンパクト版保育者養成シリーズ）	・一藝社	・2016 年

参考文献等

木村元 小玉重夫 船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣
 佐藤学 編 『教育本44』 平凡社
 新井郁男・牧 昌見 編著 『教育学基礎資料 第6版』 樹村房
 田中智志 今井康雄 編 『キーワード 現代の教育学』 東京大学出版会
 原聡介 監修 田中智志 編 『教育学の基礎』 一芸社

その他、各回授業のなかで適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けての準備をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	各教員から指示
場所：	各教員から指示
備考・注意事項：	オフィスアワー：授業の中で伝えます。 質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは、授業の中で伝えます）。Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション ―「教育」とは？― 保育者養成教育課程において、なぜ「教育原理」を学ぶ必要があるのかを、①「教育」に対する理解交換（グループワーク）、②「教育原理」がめざすことの学習を通して理解します。	これまで自分がどのような場所でどのような「教育」を受けてきたのかを振り返ってまとめてください。	4時間
第2回 「教育」の意味と場所 授業外学修課題でまとめた「教育」の場所と内容を発表し合い、「教育」の意味と場所について考えます。人間形成は、多様な場所を通過しながらなされていくことについて考察するとともに、そうした場所の相互関係が歴史的にどのように変遷してきたのかについて学んで理解し、教育の歴史と思想を学ぶ意義を確認します。	コルチャックならびに「児童の権利に関する条約」に関する資料を読んで、考えたことを300字から400字程度で書いてきてください。	4時間
第3回 現代の子ども観と教育観 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、現代の子ども観に関する理解を深めます。現代の子ども観が成立してきた歴史を学び、子ども観と教育観との関係についても考察します。	教員から提示されたキーワードについて調べてまとめてきてください。	4時間
第4回 家族と社会による教育の歴史（１）西洋の教育思想と歴史 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、本時で学ぶキーワードの連関について考えます。近代以前の西洋における教育思想と歴史を学ぶなかで、キーワードの意味と連関を確認し、近代以前の家族と社会による教育の歴史に関する知識と理解を獲得します。	教員から提示されたキーワードについて調べてまとめてきてください。	4時間
第5回 家族と社会による教育の歴史（２）日本の教育思想と歴史 授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶキーワードの連関について考えます。近代以前の日本における教育思想と歴史を学ぶなかで、キーワードの意味と連関を確認し、近代以前の家族と社会による教育の歴史に関する知識と理解を獲得します。	エラスムス、ロック、ルソー、ベスタロッツ、フレーベル、ヘルバルト、デューイ、モンテッソーリについて調べ、まとめてきてください。	4時間
第6回 近代教育制度の成立と展開（１）西洋の教育思想と歴史 授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶ教育思想の連関について考えます。近代以降の西洋における教育思想と歴史を学ぶなかで、様々な教育思想の特徴と連関を確認し、近代以降の教育制度の成立・展開に関する知識と理解を獲得します。	教員から提示されたキーワードについて調べてまとめてきてください。	4時間
第7回 近代教育制度の成立と展開（２）日本の教育思想と歴史 授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶ教育史について考えます。近代以降の日本における教育史を学ぶなかで、近代日本における教育制度の成立・展開に関する知識と理解を獲得します。	教育勅語、日本国憲法、教育基本法、学校教育法について調べてまとめてきてください。	4時間
第8回 現代日本における公教育制度の原理及び理念 授業外学修課題で調べてきたことを発表し合い、本時で学ぶ公教育制度の原理及び理念について、教育関係法規に基づいて考えます。第2次世界大戦前後の教育史を学び、戦後日本における公教育制度の土台にある理念・目的に関する知識と理解を獲得します。	学校教育法第1条に規定されている各学校の目的を調べ、気づいたことをまとめてきてください。	4時間

第9回	現代日本における公教育制度の仕組みと諸課題 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、現代日本の公教育制度の仕組みと諸課題について考え、学びます。	P I S A の問題に取り組み、現代社会において求められている力について考えたことをまとめてきてください。	4時間
第10回	現代社会における教育課題（１）世界における教育課題と教育政策の動向 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、現代社会における教育課題について考えます。現代社会において世界的教育課題とされていることについて学び、教育政策の動向についても理解します。	日本における教育課題に関する新聞記事を読み、分かったことと考えたことをまとめてきてください。	4時間
第11回	現代社会における教育課題（２）日本における教育課題と教育政策の動向 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、現代日本における教育課題について考えます。現代日本において教育課題とされていることについて学び、教育政策の動向についても理解します。	コミュニティ・スクール、学校運営協議会について調べ、まとめておいてください。	4時間
第12回	現代日本における学校教育の課題（１）地域との連携 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、学校教育の課題としての地域連携の問題がどのような課題や背景のもとにクローズアップされてきたのかについて考えます。現代日本が直面している社会的課題について学び、学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方を、取り組み事例を踏まえて理解します。	学校保健安全法、学校安全について調べ、まとめてきてください。	4時間
第13回	現代日本における学校教育の課題（２）学校安全への対応 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、学校安全の問題がどのような課題や背景のもとにクローズアップされてきたのかについて考えます。学校の管理下で起こり得る事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解します。	「教育原理」の授業を通しての学びを振り返り、とくに関心や理解が深まったテーマとその内容をまとめてきてください。	4時間
第14回	まとめー「教育原理」を通しての学びを振り返るー 授業外学修課題でまとめたことを発表し合い、「教育原理」授業をとおしての学びの成果を共有します。第1回～第13回の「教育原理」授業をとおしての一連の学びを振り返り、修得すべき力がどれくらい身についたのかを自己評価して学びを総括します。	「教育原理」を通しての学びを総括するレポートをまとめてください。	4時間

授業科目名	教育心理学				
担当教員名	稲田 達也				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

幼児期を中心とした子どもの諸領域における発達および学習の様相を知り、人との相互的にかかわりの重要性を理解して、教育実践に応用する力を身につけることを目的とする。授業の中では、人間の生涯にわたる発達のメカニズムと変化のプロセスについて知る。また、その基盤となる乳幼児期の重要性を理解する。身体、知覚、感情、思考、社会性などの諸領域の発達とその連関について学び、子どもたちの発達を支える保育・教育実践について考察を行う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

保育・教育に必要な心理学の専門的知識／子どもの心身の発達および学習の過程の理解。
子ども理解をもとにした保育者としての実践力を身につける。

目標：

幼児期を中心とした子どもの発達および学習の過程について説明することができる。
人との相互的関わりの重要性を理解し、保育・教育の実践に応用することができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

観点を定めて子どもの発達の現状を客観的に把握することができる／課題を分析し、問題解決の方向性について考察できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末試験

： 「諸領域の発達」「学習」「社会性（人との相互的にかかわり）」の3点について、「1. 基本的事項が理解できている」「2. 関連する心理学的理論の理解」「3. 保育教育実践への応用」の到達度で評価する。

50 %

小テスト

： 知識の定着を図るため、毎回小テストを実施する。

50 %

使用教科書

指定する

著者

石上浩美

タイトル

・ 未来へつなぐ教育心理学ー多文化共生社会を生きる子どもを育むためにー

出版社

・ 嵯峨野書院

出版年

・ 年

参考文献等

- ・ 参考文献は授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 また、日常生活の中で心理学の応用について考えたり、実習等での子どもの関わりにおいて心理学の知識、理論を活用することも意識的に行うこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 授業の前後に質問を受けつけます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	発達の規定因 遺伝と環境が発達に及ぼす影響を理解する。 キーワード：家系図研究、双生児研究、輻輳説、ワトソン、ゲゼル	テキストの関連ページを読む。自分の成長・発達過程に、遺伝と環境がどのような影響を与えたかを考察する。	4時間
第2回	身体的機能と運動機能の発達 新生児期～幼児期における発達のメカニズム（法則性・順序性）や、身体の成長、粗大・微細運動の発達過程を学ぶ。 キーワード：原始反射、発達曲線、発達の法則性・順序性、粗大・微細運動	テキストの関連ページを読む。自分の成長・発達過程を振り返り、特徴的なエピソードなどを家族から聞き取る。	4時間
第3回	知覚・認知の発達 乳幼児期の感覚・知覚機能の発達および感覚・知覚機能と認知過程の関連を理解する。 キーワード：五感、知覚、認知、感覚運動期（ピアジェ）	テキストの関連ページを読む。人間の思考の原点となる感覚・知覚機能について考えを整理する。	4時間
第4回	思考の発達 ピアジェとヴィゴツキーの発達理論について学び、発達とともに思考が深まる過程を理解する。 キーワード：同化、調節、表象（イメージ）、ピアジェ、外言・内言、ヴィゴツキー、発達の最近接領域、足場作り	テキストの関連ページを読む。同化と調節について具体例を考える。保育における足場作りの具体例を考える。	4時間
第5回	言葉の発達 人間の言葉の機能や特徴を理解し、言葉の発達過程を概観する。 キーワード：喃語、一語文・二語文、話し言葉、書き言葉	テキストの関連ページを読む。自分の言葉の発達ははどうだったか、家族から聞き取る。	4時間
第6回	社会情動的な発達 社会情動的発達を理解し、情動を制御する力について感情の発達と合わせて学ぶ。 キーワード：基本的感情、社会的感情、笑い、情動伝染	テキストの関連ページを読む。自分の情動を制御する力はいつ頃から育ってきたか、自分の成長を振り返る。	4時間
第7回	仲間関係の発達 仲間関係の変化を、遊びの形態の変化と共に理解する。 キーワード：ピア、いざこざ、葛藤、バーテン、遊びの形態の変化	テキストの関連ページを読む。仲間関係を支える保育者の役割について考える。	4時間
第8回	他者理解と自己理解 仲間関係の中で他者理解や自己理解が深まっていく過程を理解する。 キーワード：仲間関係、葛藤、いざこざ、自己主張、自己抑制	テキストの関連ページを読む。自分の友達との付き合い方を振り返る。	4時間
第9回	道徳性の発達 善悪の理解や道徳的判断の発達を学ぶ。 キーワード：コールバーグ、道徳的判断、向社会的行動、思いやり	テキストの関連ページを読む。思いやりのある子どもを育てるにはどうすればよいか、保育者の関わり方を考える。	4時間
第10回	社会性の発達 生涯にわたる人間の心理・社会的発達を概観する。 キーワード：心理・社会的発達、心理・社会的危機、発達課題、エリクソン	配布資料を熟読する。自分の家族について年表を作成する。	4時間
第11回	脳の機能と発達 子どもの脳機能の発達と行動の変化を結びつけて理解する。 キーワード：ニューロン、シナプス、前頭葉、早期教育	テキストの関連ページを読む。脳育など近年の脳ブームの是非について考える。	4時間
第12回	学習と発達 条件づけや観察学習など、「学び」の基本的な原理を理解する。 キーワード：レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習、洞察	配布資料を熟読する。さまざまな学習の具体例を考える。	4時間

第13回	動機づけと主体的な学び 学びの原動力になる「やる気」について、動機づけのメカニズムを理解する。 子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。 キーワード：内発的動機づけ、外発的動機づけ、好奇心、成功体験、原因帰属、自己効力感	テキストの関連ページを読む。各段階の発達課題を理解し、自身のこれまでと現在、これからの発達について考察する。	4時間
第14回	子どもの学びと評価 学びや発達を評価する目的と方法について知る。 キーワード：知能検査、発達検査、テスト、保育記録	テキストの関連ページを読む。14回の授業を振り返り、自分の学びを評価する。	4時間

授業科目名	保育者論				
担当教員名	中野 澄				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教諭として勤務、また教育委員会にて教育行政し地域の幼稚園、保育園と学校園行事や就学前教育の取組など、幼保小の連携事業を推進してきた。また、国立教育政策研究所勤務時には、キャリア教育の観点から保幼連携の在り方を研究してきた。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育者（幼稚園教諭や保育士）の使命、職務並びに業務そして必要な基礎的な資質、専門性について学ぶ。保育者が自覚と責任そして自信をもって保育実践に取り組むための「保育の本質」について、我が国の幼児教育の変遷、幼児教育思想・保育観、幼稚園・保育所の法的制度、幼児教育に関する免許・資格、保育者の人間性、保育者としての専門性及び職務遂行能力などについて学習していく。幼児教育に関する今日的な課題について取り上げ、具体的な事例をとおして授業を進める。授業は講義以外にグループワークなどを取り入れる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育者としての実践的内容に関する基礎知識

目標：

保育者論のテキストをもとに、保育実践に必要な基本的な知識を身につけることができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見

保育現場の実情に関する資料から課題を見出し検討することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則 3 分の 2 以上出席した場合のみ、評価の対象とします。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなし不合格とします。レポートなどの提出については指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は受け付けないこともあります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

毎回授業でのレポート	：	内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて評価します。
50 %		
定期試験レポート	：	保育者としての基礎知識及び基本的な資質について、独自のルーブリックに基づいて評価します。知識・理解と表現力の観点から評価します。
30 %		
受講状況	：	授業中の参加意欲、授業態度（受講マナーや私語、携帯電話の使用など授業に関係のない行為をした場合は減点対象とします。）をチェックリストを活用し独自のルーブリックに基づいて総合的に評価します。
20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
汐見稔幸・大豆生田啓友	・新しい保育講座2 保育者論	・ミネルヴァ書房	・2023 年

参考文献等

書名：子どもの心によりそう保育者論
著者名：鈴木昌世 編
出版社名：福村出版
書名：新しい保育・幼児教育方法
著者名：広岡義之
出版社名：ミネルヴァ書房
書名：保育者のための法学・憲法入門
著者名：高乗正臣
出版社名：成文堂

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜3限
場所： 研究室
備考・注意事項： オフィスアワー以外でも、金曜日以外の12時～13時はほぼ研究室にいますので対応します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 保育者になるということ 保育の意義、子どものいのちを守る存在としての保育者、また保育者の役割、倫理、職務内容等の理解、保育に必要な母性的視点について具体的に学ぶ。	保育者を志望する理由をまとめ、自覚がもてるようにする。	4時間
第2回 幼稚園教諭と保育士の免許・資格 国家資格としての幼稚園教諭の免許と保育士の定義を学び、資格を取得するのに必要な科目について教育職員免許法施行規則および児童福祉法施行規則をもとに知る。また、カリキュラムにおける必須科目を理解するとともに、失格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等の関係法規、児童生徒への性暴力防止に関する法律について学ぶ。	幼稚園教諭と保育士資格取得に必要な科目を整理し、自身の履修登録を確認する。	4時間
第3回 保育者の1日－午前の仕事・午後の仕事 保育者の1日について、登園、午前の保育、遊びの支援、給食などの仕事や、午後からの午睡、おやつ、夕方の保育、終わりの業務があることを知り、一人ひとりの幼児を責任をもって保護・育成することを理解する。また、職員会議の必要性についても知る。	P21 - 41まで読んで午前中の仕事内容をまとめる。	4時間
第4回 子どもをわかるとということ 家庭生活や園における活動などから子どもに関する様々な情報を知的理解にとどまらず、体感的・共感的に理解し、家庭との連携と保護者に対する支援も含め、子育てに必要な情報を多面的に捉えることが大切であることを知る。	P51 - 68を読んで子ども理解の重要性をまとめる。	4時間
第5回 子どもと共に活動する－幼稚園の場合 幼稚園における遊びや行事の活動などとおして、子どもの心と体の成長を図る保育者の在り方と留意事項について具体的に知る。	P69 - 80を読んで、幼稚園での子どもの活動と特徴をまとめる。	4時間
第6回 子どもと共に活動する－保育所の場合 保育園における遊びや行事の活動などとおして、子どもの心と体の成長を図る保育者の在り方と留意事項について具体的に知る。	P81 - 93を読んで、保育園での子どもの活動と特徴をまとめる。	4時間
第7回 豊かな文化や自然との出会いをつなぐ仕事 ー絵本と保育ー 身の回りの事象や自然などとの間接的な出会いができる絵本の存在について知り、絵本が子どもの暮らしや、豊かな心を育むことができることなど、絵本の特性を理解する。	P97 - 111を読んで絵本の効用をまとめる。	4時間
第8回 文化や自然との出会いと保育ー生物の世話ー 人生のもっとも初期に出会う教師としての保育者のあり方や、幼児にふさわしい文化経験や自然体験を通して子どもが身に付けることがらなど、子どもの期待に応えることができる保育について理解する。	幼児に適した体験について学んだことをまとめ、説明できるようにする。	4時間
第9回 保護者や家庭と共に歩む仕事 子どもの帰る場としての家庭との連携、親と子の絆を強める保育者の役割、子育て家庭のおかれている現状などについて学ぶ。	P123 - 135を読んでまとめる。	4時間
第10回 保育者と保護者との連携・協働 ー専門機関との協同・連携ー 家庭と園との子育てに関する情報を共有し保育者と保護者が連携すること。保育者、保護者が教育センター、保健センターなどの専門機関及び専門機関への相談・連携・協働すること。また地域における連携・協働の意義や、保育者、保護者が相互に育ち合う関係の重要性について理解する。	P135 - 146を読んでまとめる。	4時間
第11回 保護者間の連携の意義	保護者間の良好な関係性を保つための手立てを調べ、まとめる。	4時間

	保護者の子育てに関する願いや要望を保育者が受け止め、保護者間で改善のための情報共有を図りながら保護者の人間関係を強くしていくことの重要性について理解する。		
第12回	園としての学び合いの文化―保育者の成長と同僚関係― 保育者としての資質向上に向け、保育技術の向上、命を預かる保育者の使命の保持、多様な出会いによる経験の累積など保育者として実力を身につけることが子どもの成長・発達に欠かせないことを理解する。保護者からの信頼を高め他者理解に努めるとともに、組織とリーダーシップを意識しながら、計画に基づく実践と省察・評価が重要であることを理解する。	仕事を通して、学び覚えることの事例を調べ、留意事項をまとめる。	4時間
第13回	保育者の専門性と自己向上心 資質向上に関する組織的取組や保育者の専門性を高めるためには、諸問題と向き合い、子どもを直視しながら課題解決に取り組むことが重要である。その際、保育者の専門性の発達とキャリア形成の向上に向け、同僚とともに考え学び合うことが重要であることを理解する。	保育者としての専門性をまとめ、実践できるようにするための自身の課題をまとめる。	4時間
第14回	子どもと共に成長する保育者 感性豊かであること、創造性が大切であること、子どもに希望を与えられることなどは、子どもの成長・発達を促す保育者にとって重要な事柄であることを理解する。	保育者として子どもを育てる決意を具体的に述べられるようにする。	4時間

授業科目名	教育実習事前事後指導				
担当教員名	榊原 志保・須河内 優子				
学年・コース等	1・2回生	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（須河内）が、幼稚園で幼稚園教諭として勤務（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

幼稚園における教育の意義、幼稚園教諭の役割、幼児の発達過程、園生活の流れなど実践を通して理解し、関心を深めることをねらいとして授業を行う。幼稚園で行われている保育についての具体的なイメージを持って実習に臨むようにするため、教育実習に関する基礎的な知識を習得し、教育実習の意義・目的や実習の内容を理解して自らの課題を明確にする。また、子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務等についても理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

幼稚園教育の意義や職業理解
生活と遊びを通した子どもの学びの過程を理解して保育実践につなげる力を身につける。

目標：

幼稚園教諭の役割を知り、幼稚園実習に対して、明確な目的意識をもつことができる。
子ども理解をもとにして、発達支援や保育実践の方法について具体的に考えることができる。

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP10. 忠恕の心

教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習熟することが必要な知識や技能を理解する。

幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導計画を立案することができる。

教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とする。
積極的な受講態度であること、提出物の期限を守ること、学習を理解していることの観点から評価する。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内レポート	：	ワークシートや課題への取組みを、独自のルーブリックを基に評価する。
60	%	
実習振り返りシート	：	振り返りシートを独自のルーブリックを基に評価する。
20	%	
授業への取り組み状況	：	授業内での積極性及び取り組み状況について、独自のルーブリックに基づいて評価する。
20	%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊短期大学 実習指導担当教員	・ 実習指導ハンドブック	・	・ 2018 年
文部科学省・厚生労働省・内閣府	・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領	・ フレーベル館	・ 2017 年
名須川知子他	・ 保育者になる人のための実習ガイドブックAtoZ	・ 萌文書林	・ 2020 年

参考文献等

随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	第3研究室
備考・注意事項：	上記の時間外でも、研究室在室であればいつでも相談してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 教育実習Ⅰの概要と事前事後指導の流れ 教育実習Ⅰと事前事後指導の授業の流れを知る。	実習指導ハンドブックの通読（P1～P21）	1時間
第2回 実習先事前訪問（オリエンテーション）について オリエンテーションの意味を知り、必要な事柄を具体的に学ぶ。	実習指導ハンドブックの通読（P11、12）	1時間
第3回 実習生としてのマナーと心構え 実習生としてのマナーと心構えを考える。	実習指導ハンドブックの通読（P7、8）、実習ガイドブックAtoZの通読（P139～P146）	1時間
第4回 教育実習Ⅰにおける課題の明確化 実習記録について①記録の内容 課題を明確にして教育実習Ⅰに取り組むために必要なことを学ぶ。実習を記録することの意味を知り、実習記録の内容を学ぶ。	実習指導ハンドブックの通読（P22～P24） 実習ガイドブックAtoZの通読（P114～P123）	1時間
第5回 実習記録について②記入の方法（クラスのねらい、主な活動内容、実習生の目標） 実習記録を書くことを通して、日常を整理してとらえる力と自分の保育者としての在り方を省察していく力を身につけるために必要なことを学ぶ。	実習ガイドブックAtoZの通読（P114～P123）	1時間
第6回 実習記録について③記入の方法（子どもの活動、環境構成、保育者の援助・配慮） 実習記録を書くことを通して、日常を整理してとらえる力と自分の保育者としての在り方を省察していく力を身につけるために必要なことを学ぶ。	実習指導ハンドブックの通読（P. 1～P. 21）	1時間
第7回 幼稚園園長による講話（特別授業） 子どもの発達や遊びの様子、保育の仕事などについて講話を聴き、実習に向けての心構えを学ぶ。	講話についてのレポート	1時間
第8回 教育実習Ⅰの振り返り①事後指導と自己評価 教育実習Ⅰの事後にやらなくてはいけないことを確認する。自己評価を行いながら、教育実習Ⅰを振り返る。	実習指導ハンドブックの通読（P. 1～P. 21）	1時間
第9回 教育実習Ⅰの振り返り②実習報告書の作成 教育実習Ⅰの前にそれぞれが立てた目標・課題を振り返りながら、実習報告書を作成する。	教育実習Ⅰ目標・課題の見直し	1時間
第10回 教育実習Ⅰの振り返り③実習記録の見直し それぞれの実習記録を見直した後、学生同士で実習記録を基に、情報共有を行う。	実習記録の確認	1時間
第11回 教育実習Ⅰ報告会①準備（ポスター制作） グループに分かれて、それぞれの実習について報告をし、情報を共有した上で、ポスター制作の準備を行う。	グループの情報をまとめる	1時間
第12回 教育実習Ⅰ報告会②準備（発表） グループごとに、制作したポスターをもとに、発表準備を行う。	他グループの発表をまとめる	1時間
第13回 教育実習Ⅰ報告会③発表・総括 ポスター発表を通しての学びを共有する。	教育実習Ⅰのレポート	1時間
第14回 教育実習Ⅱの概要と事前事後指導の流れ 教育実習Ⅱの課題と心構え 教育実習Ⅱと事前事後指導の授業の流れを知る。教育実習Ⅰの振り返りをもとに自己課題を明確にし、実習に必要な心構えを再確認する。	実習指導ハンドブックの通読（P27）	1時間

授業科目名	教育課程論				
担当教員名	須河内 優子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

幼稚園における教育課程の意義や目的、変遷や社会的背景、役割を理解し、年齢における発達状況や保育の連続性を踏まえた教育課程の編成及び指導計画の作成の基本と作成方法を学ぶ。その上で実際に指導計画を作成し、発表やグループワークにおける他者との学びあいを通して、より学びを深めていく。また、教育課程の編成から、評価、保育の質の向上へと繋がるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、幼稚園教育要領における評価の基本を知る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 教育課程・全体的な計画の意義・編成の方法
- カリキュラム・マネジメント

目標：

- 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義を理解し、基本原理に即した教育課程・全体的な計画の編成の方法を理解することができる。
- カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP4. 課題発見

- 子どもの理解を踏まえた指導計画の編成の方法を理解し、自ら作成することができる。
- 指導計画の理解・作成を通して、自己の課題を省察・評価・改善することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	40	%	：	課題に対して、授業内での学びをわかりやすく丁寧にまとめられているか、また学びを踏まえて自身の意見や考えを具体的に述べられているかについて独自のルーブリックをもとに評価する。
指導計画の作成	30	%	：	授業内容を踏まえた指導計画の作成及びカリキュラム・マネジメントを考慮した振り返りについて総合的に評価する。
授業への積極的参加	10	%	：	演習、グループワークへの積極的参加や質問に対する積極的発言を総合的に評価する。
定期試験（レポート）	20	%	：	課題の条件を満たし十分に情報収集をおこなった上で、独自の見解を述べられているかどうかを20点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
----	------	-----	-----

岩崎淳子 他	・ 教育課程・保育の計画と評価 ―書いて学べる指導計画 ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領	・ 萌文書林 ・ 文部科学省・厚生労働省・内閣府	・ 2018 年 ・ 2017 年
--------	--	---------------------------------	--------------------------

参考文献等

参考文献 千葉武夫 他 「教育・保育カリキュラム論」中央法規 ISBN978-4-8058-5793-9
必要に応じて適宜資料を配布。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	第3研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 教育課程とは 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程の目的や必要性を理解する。全体的な計画の意義についても理解を深め、乳幼児教育の共通性を学ぶ。	・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を通読する。	4時間
第2回 教育課程の変遷 幼稚園教育要領の改訂及び教育課程の歴史的背景と変遷を学ぶ。併せて保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂の変遷を学び、日本におけるカリキュラムの基礎理論を理解する。	・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園の改訂のポイントをまとめる。	4時間
第3回 教育課程の社会的役割 家庭や社会、地域の実態を踏まえた教育課程編成の要件を学ぶ。保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を学び、社会的背景を理解する。	・ 社会的役割についてテキストを通読する。	4時間
第4回 教育課程編成上の基本原理 幼稚園教育の基本を確認し、教育課程編成上の基本原理を学ぶ。保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育の目標を踏まえた保育の基本的な考え方を理解し、全体的な計画の編成を学ぶ。	・ 幼稚園教育要領第1章第3「教育課程の役割と編成」を読み理解する。	4時間
第5回 教育課程編成上の基本的事項 幼児の生活経験や発達の過程を考慮した教育課程の編成を理解する。併せて園と家庭との連携、教育・保育と子育て支援の連携等を考慮した全体的な計画の編成を理解する。	・ 保育所保育指針第1章第2「教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画等」を読み、理解する。	4時間
第6回 幼児理解と教育課程の編成 幼稚園教育要領における5領域、幼児理解を踏まえた教育課程の編成を学ぶ。保育の質の向上をめざした子どもの理解に基づく編成の重要性を理解する。	・ 子どもの理解について、他の授業で学んだことを復習する。	4時間
第7回 幼稚園の生活と教育課程の編成 小学校教育・保護者・地域との連携・全体的な計画を考慮した教育課程の編成を学ぶ。保育所・認定こども園における総合的な計画のあり方を学ぶ。	・ 幼稚園教育要領第1章第3「教育課程の編成上の留意事項」を通読する。	4時間
第8回 指導計画の考え方 教育課程から長期・短期指導計画への関係性を学ぶ。全体的な計画と長期・短期指導計画、その他の計画(安全計画・保健活動の計画等)との関係性を学ぶ。	・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「指導計画の考え方」「指導計画の作成」部分を通読する。	4時間
第9回 幼児の特徴と指導計画 幼児の発達の実情等、主体的、対話的で深い学びが実現できる指導計画作成上の留意事項を学ぶ。	・ 指導計画作成にむけて、これまでの授業内容を復習する。	4時間
第10回 指導計画の作成 指導計画を作成する。	・ 指導計画で取り上げる活動について教材研究を行う。	4時間
第11回 指導計画の発表 アクティブラーニング型授業の実践発表を通して他者の気づきを学ぶ	・ 指導計画を作成し、他者からの学びを振り返る。	4時間
第12回 指導計画の評価 指導計画作成・実践の評価について、グループ討議を行い学びを深める。計画に基づく保育の柔軟な展開についても学びを深める。	・ グループ討議における他者からの評価をまとめる。	4時間

第13回	幼児理解に基づいた評価の実施 PDCAサイクルの評価の実施を理解する。幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録についても学びを深める。	・評価の基準について授業内容をまとめ、再確認する。	4時間
第14回	カリキュラム・マネジメントの重要性 講義全体を振り返り、教育課程・全体的な計画の意義や指導計画の作成、カリキュラム・マネジメントの重要性についてまとめる。	・授業全体を振り返り、まとめる。	4時間

授業科目名	教育実習Ⅰ				
担当教員名	榊原 志保・須河内 優子				
学年・コース等	1回生	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（須河内）が、幼稚園での実務経験を有する。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

下記の4点をねらいとする。①幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて実践を通して理解する。②遊びや生活を通して幼児とかかわる中で一人ひとりを理解するとともに、幼児の発達や幼稚園教育の実態に触れながら、援助・指導のあり方を体験的に学ぶ。③幼稚園教諭の専門性に触れながら、職務内容及び役割などに関して体験を通して把握し、幼児教育への関心を深める。④幼稚園教諭及び幼児と生活を共にする中で、実習生自身が様々な働きかけを行うことにより、保育技術を習得しながら保育者としての自覚を高める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 観察・参加実習
観察・参加実習

目標：

- 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
学級担任の補助的な役割を担うことができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP9. 役割理解・連携行動

- 指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。
教育実習園の教育方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

実習は10日以上、80時間以上の実習時間が必要です。必要な実習時間を満たさなければ評価できません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実習園による評価	：	実習中の健康管理や提出物などの実習状況や言動及び協調性等の実習態度、子どもとその関わり、保育の知識・理解・技術など、実習園からの評価を換算する。
50	%	
実習記録	：	実習記録を書く力、提出状況などを評価する。
20	%	
巡回報告書	：	実習園別指導教員による事前事後指導の取り組み、実習中の訪問状況を評価する。
10	%	
教育実習報告書	：	適切に教育実習の振り返りができているかを、独自のルーブリックを基に評価する。
20	%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
大阪成蹊短期大学幼児教育学科実習担当教員	・実習指導ハンドブック	・	・2017 年

参考文献等

文部科学省 「幼稚園教育要領」 フレーベル館 2017 ISBN978-4-577-81422-2
厚生労働省 「保育所保育指針」 フレーベル館 2017 ISBN978-4-577-81423-9
幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 フレーベル館 2017 ISBN978-4-577-81424-6

履修上の注意・備考・メッセージ

体調管理に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を完了させるためには、日々の実習終了後における実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすることが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 随時受け付けます（実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については教育実習事前事後指導の授業で案内します）。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	観察・参加実習 ・ 幼児の発達、保育者の援助・配慮、保育の流れについて理解する。 ・ 幼児に接し、共に活動することにより、幼児理解を深める。 ・ 幼稚園の現場を具体的に観察し、捉える。	実習記録を書くとともに、次の日の実習課題、目標等を明確にする。	20時間

授業科目名	保育内容総論				
担当教員名	向井 秀幸				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（向井）が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では、幼稚園・保育所・認定こども園における保育内容の全体構造を理解し、保育の基本と保育内容を学ぶことを目的とします。乳幼児が身近な環境に主体的に関わり、体験を通して試行錯誤しながら育っていく乳幼児期の教育・保育について学びます。また、保育は、子どもの育ちを支える尊い営みであることを理解し、子どもの発達過程の理解を踏まえた遊びの展開、保育内容の構築について学びます。さらに、幼稚園、保育所、認定こども園の役割を理解し、初等教育との接続や子育て支援、多文化共生の保育についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

幼稚園、保育所および認定こども園における保育内容の知識の習得

目標：

教育・保育の基本を理解する。乳幼児の発達過程・個人差に応じた保育内容の展開を理解することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育実践を通しての養護と教育の一体性や乳幼児の発達過程の理解力

乳幼児の活動を総合的にとらえ、環境を通して育つことを理解し、保育内容を構築する知識を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通

他者の考えや発表を傾聴し、保育に対する視野を広げる。また、発表を通して自己の保育観を形成することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題シート	：	幼稚園・保育所・認定こども園の教育・保育の基本となる知識が習得できているかを課題の理解度から評価する。
	20	%
定期試験（レポート）	：	保育学の基礎知識や幼稚園・保育所・認定こども園の保育の基本内容について出題し、理解力、問題解決力を独自のルーブリックで評価する。
	30	%
授業への取り組み状況	：	各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価する。
	15	%
授業内提出物	：	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限を守れているかなどを総合的に評価する。
	35	%

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

豊田和子編者

・ 実践を創造する 演習 保育内容総論（第2版）ISBN:9784860154448

・ 株式会社みらい

・ 2018 年

文部科学省・厚生労働省・内閣府

・ 平成29年告示幼稚園教育要領 ISBN:9784577814222・保育所保育指針 ISBN:9784577814239・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ISBN:9784577814246

・ フレーベル館

・ 2017 年

参考文献等

必要に応じて適宜資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
やむを得ず欠席した場合は、必ず欠席届を提出し、欠席した授業内容を早急に補うことが必要。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 中央館4階第2研究室、授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	子どもを取り巻く環境の変化とこれからの保育内容 ・ 今の子どもがどのような社会環境の中で育てられているのかを学ぶ。保育所や幼稚園等の園の保育環境の特色を知る。保育内容を考える方向性を理解する。 ・ 2018年度施行保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に盛り込まれた「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について学ぶ。	「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についてまとめる。	1時間
第2回	保育所・幼稚園・認定こども園の役割 ・ 養護と教育を一体的に行う営みについて理解する。保育所・幼稚園の役割と教育・保育の考え方について学ぶ。認定こども園の現状と役割、教育・保育について理解する。	幼稚園・保育所・認定こども園それぞれの保育の特徴や役割についてまとめる。	1時間
第3回	保育所・幼稚園・認定こども園の保育内容 ・ 子どもの育ちを支える園生活、遊びを通した保育の重要性について学ぶ。子どもの遊びや生活を領域の視点から考えることを学ぶ。	発達過程別に見た遊びについてまとめる。	1時間
第4回	保育内容を展開するプロセス ・ 保育の計画の意義・種類とその方法や原則について理解する。 ・ 保育展開の過程における子ども理解について学ぶ。 ・ 保育に評価・反省が求められることの意味を学ぶ。	保育所・幼稚園・認定こども園それぞれの「全体的な計画」についてまとめる。PDCAサイクルについてまとめる。	1時間
第5回	乳児（1歳未満）の保育内容 ・ 乳児（1歳未満）の心身の発達の特徴と保育内容についてまとめる。 ・ 乳児（1歳未満）の保育について保育者の役割を理解する。	乳児（1歳未満）の発達の特徴と保育内容についてまとめる。	1時間
第6回	1、2歳児の保育内容 ・ 1、2歳児の心身の発達の特徴と保育内容についてまとめる。 ・ 1歳以上3歳未満児の保育を実践する際の基本的な内容、保育者の役割を学ぶ。	1、2歳児の発達の特徴と保育内容についてまとめる。	1時間
第7回	3、4、5歳児の保育内容 ・ 3、4、5歳児の心身の発達の特徴と保育内容についてまとめる。 ・ 保育を実践する際の環境構成や援助、保育者の役割について学ぶ。	3、4、5歳児の発達の特徴と保育内容についてまとめる。	1時間
第8回	就学前教育と初等教育を接続する保育内容 ・ 就学前教育と初等教育の接続の意義を理解する。 ・ 幼児期と児童期における「学び」の特徴を把握する。 ・ 幼稚園・保育所等と小学校の接続のカリキュラムについて学ぶ。	保幼小連携の事例を調べ、幼児期の学びと児童期の学びの段差を滑らかにする指導・援助について考察する。	1時間
第9回	異年齢児の保育内容 ・ 異年齢保育、異年齢保育における保育内容について学ぶ。 ・ 異年齢保育で子どもに育つ力と、保育者の援助について理解する。	異年齢保育の事例を調べ、異年齢保育の指導・援助についてまとめる。	1時間
第10回	子育て支援を創造する保育内容 ・ 子育て支援の必要性を理解する。 ・ 保育所や幼稚園、認定こども園に求められる役割の変化を理解する。 ・ 子育て支援をする保育者の視点について学ぶ。	子育て支援の実践事例を調べ、子育て支援の意義についてまとめる。	1時間

第11回	地域に開かれた保育所・幼稚園等を創造する保育内容 ・乳幼児の発達と地域社会とのかかわりについて学ぶ。 ・地域の自然環境を生かす保育内容について学ぶ。	地域の自然環境や人的環境を生かした保育内容の事例を調べ、地域と連携して保育を行なう際の留意点と課題についてまとめる。	1時間
第12回	わが国における保育内容の変遷 ・わが国の保育内容の歴史を学ぶ。 ・保育内容がどのように考えられ、どのように変化したのかを理解する。	保育内容の変遷の中で影響を及ぼした人物について調べる。	1時間
第13回	これからの保育内容の課題 ・特別な保育ニーズに対応する保育について理解する。 ・多文化共生について学ぶ。 ・園での災害の備えや食育の取り組みについて学ぶ。	保育現場においてどのような保育ニーズがあるのか、また、災害時の対応や食育への取り組みの事例について調べる。	1時間
第14回	保育内容の今日的課題と保育者の専門性：まとめ ・保育者の専門性について学ぶ。 ・保育内容の今日的課題について理解する。 ・前期14回の授業の総まとめをする。	今までの学習内容の振り返りを行う。	1時間

授業科目名	子どもの体育				
担当教員名	塩田 桃子・範 衍麗				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

現代社会は利便性の追及により社会生活全体が夜型化し、子どもを取り巻く環境の多くが変化しています。子どもが心身ともに健やかに育つためには、生活の中で「動く楽しさ」「友だちと関わる楽しさ」を体験することが大切です。子どもは、様々な運動あそびを通して、遊具や用具、素材の特性を理解しながらあそびを発展させていきます。本授業では、子どもの発達に合わせて、どの子どもも楽しいと感ずることができる運動あそびの指導方法について、体験を通して学びます。子どもが興味・関心をもって、主体的に取り組む「子どもの体育」について実技を中心に学んでいきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

子どもの体育に関する専門的な知識や技能の習得する。

目標：

幼児期に獲得したい基本的スキル（移動系・平衡系・操作系・非移動系）に基づいた実践力を高め、安全についても主体的に考えることができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

子どもの運動あそびを体験しながら、指導法も修得する。

子どもの体育に関する指導方法を理解し、保育実習・教育実習の設定保育、保育現場で運動あそびの指導をする力を身に付けることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP8. 意思疎通

子どもの体育について、子どもにとってなぜ必要か、どのような指導方法が適しているかを理解することができる。

運動あそびの指導力（実践力）を高めながら、あそびを創意工夫することができる。

運動あそびを体験する中で、仲間と共に意見を交換したり、協力する大切さを理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業の参加意欲・態度

：

- ・授業の開始時間、指定ジャージ、体育館シューズの着用、安全配慮に関する規則を守る。
- ・主体的に活動し運動量を確保している。
- ・他の学生と積極的に関ったり、準備や後片付けなどを行う。

30 %

授業の課題・提出物等

：

- ・各授業後、ポートフォリオを作成する
- ・個人の課題や、グループでの課題や発表

40 %

定期試験（レポート）

：

- ・授業での学びや気づきをまとめる
- ・運動あそびの指導について理解し、具体的な指導方法を考えることができる

使用教科書

指定する			
著者	タイトル	出版社	出版年
学校体育研究同志会編（塩田担当）	・新みんなが輝く体育（4）幼児期 運動あそびの進め方	・創文企画	・2021 年

参考文献等

『幼児期運動指針ガイドブック』2013年 文部科学省
幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）幼稚園教育要領解説（文部科学省）
保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）保育所保育指針解説（厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	（月曜日）12：20～13：10
場所：	第8研究室（範・塩田）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション・からだを使った運動あそび ・授業の進め方および実技を行なう上での諸注意 ・現代社会における幼児期の運動あそびの必要性 ・バランス能力を養うあそび ・リズム感覚を養うあそび ・友だちと協力するあそび	幼児運動指針を読んで、さまざまな運動あそびについて調べて、理解を深めておくこと。	1時間
第2回 伝承あそび ・昔から伝わるあそび文化－めんこ・こま・けん玉 ・だるまさんが転んだ、はないちもんめん	伝承あそびについて調べておくこと。	1時間
第3回 マットあそび（調整力を育む運動あそび①） ・マット・跳び箱・平均台を使った運動あそび ・逆さ感覚・回転感覚を体得する	マットを使ったあそびを考え、調整力について調べておくこと。	1時間
第4回 跳び箱あそび（調整力を育む運動あそび②） ・マット・跳び箱・平均台を使った運動あそび ・バランス感覚を体得する	跳び箱や平均台を使ったあそびについて考え、調整力について調べておくこと。	1時間
第5回 鬼ごっこ ・様々な鬼ごっこ ・人数や発達年齢に応じた鬼ごっこの遊び方	様々な鬼ごっこについて調べておくこと。	1時間
第6回 運動会種目 ・走ることを楽しむ（かけっこ・リレー） ・幼児に取り入れることのできる種目（玉入れ・台風の目など）	運動会種目について調べておくこと。	1時間
第7回 身近な素材を使った運動あそび ・新聞紙を使った運動あそび ・レジ袋を使った運動あそび ・その他身近な物を使った運動あそび	新聞紙やレジ袋など身近なものを使ってのあそびについて調べておくこと。	1時間
第8回 なわあそび（用具を使った運動あそび①） ・なわを使った運動あそび（長なわ・短なわ） ・なわあそびの工夫の実際を知る	なわの種類（素材・太さなど）とあそびについて調べておくこと。	1時間
第9回 ボールあそび（用具を使った運動あそび②） ・ボールを使った運動あそび（ボールの特性を知る） ・ボールを使った運動あそび（ゲーム的な遊び） ・ボールあそびの工夫の実際を知る	ボールの種類（重さ・素材など）や特性について調べておくこと。	1時間
第10回 フープあそび（用具を使った運動あそび③） ・フープを使った運動あそび ・フープあそびの工夫の実際を知る	フープの種類（大き・形状など）の遊びについて調べておくこと。	1時間
第11回 リズムダンス（表現あそび①） ・音楽を使ったあそび ・表現（リズム）あそび ・リズムダンスの特性について理解 ・リズムダンスの作品づくり	音楽を使った遊び、表現（リズム）遊びについて調べておくこと。	1時間
第12回 パラバルーン（表現あそび②） ・パラバルーンの特性について理解 ・パラバルーンを使ったいろいろなあそびと作品づくり	パラバルーンの特性といろいろなあそびについて調べておくこと。	1時間

第13回	サーキットあそび ・移動系（走る・這う等）、平衡系（静的・動的に姿勢を保つ等）、操作系（投げる・蹴る・打つ等）、非移動系（ぶら下がる・押す・引く等）の運動課題を設定して巡回する ・多種多様な遊具や用具を使ったあそび	多種多様なあそびを考え、移動系、平衡系、操作系、非移動系について分類しておくこと。	1時間
第14回	子どもの体育のまとめ ・この授業で取り組んだ中身について振り返る。 ・この授業での学びを現場の実態と重ね合わせる。	現場の運動あそびの実態を調べまとめること。	1時間

授業科目名	社会福祉				
担当教員名	鈴木 大介				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会福祉の領域は、非常に広範囲にわたっており、私たちが社会生活を送るうえで欠かすことはできないものである。しかも現代の日本は児童虐待や貧困などさまざまな社会問題を抱えており、その問題に直面している人々も多く、その支援が必要とされている。そのような人々に会った時、保育者として守り、支援する必要がある。本講義では、このような社会福祉が必要とされる社会や人々の現状を理解するとともに、社会福祉についての基本的な知識を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 福祉学分野の専門知識
- 福祉専門職の意義や職務内容に関する理解

目標：

- 社会福祉全般の基礎的理解と現代の日本が抱える福祉に関する社会問題と課題について理解し説明することができる。
- 保育士が福祉職であるということを理解し、説明することができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP8. 意思疎通

- 社会福祉に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。
- 他人の意見を踏まえて、社会福祉に関する自分の意図や主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
 - ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- 教員と学生による質疑応答

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	：	社会福祉の基礎的理解に関する問題を授業内課題として課し、その総合を40点満点で評価する。
40 %	：	
受講状況	：	各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。
40 %	：	
試験（レポート）	：	14回の授業を振り返り、自身の社会福祉に関する考察についてのレポートを20点満点で評価する。
20 %	：	

使用教科書

指定する

著者

倉石哲也・小崎恭弘編著

タイトル

・社会福祉

出版社

・ミネルヴァ書房

出版年

・2017 年

参考文献等

特になし。

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
- ・「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・保育士資格取得のための必修科目。
- ・幼児教育学科のみ履修可能

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜3限

場所： 幼児教育学科第2研究室

備考・注意事項： その他連絡を取りたい場合はEメールで（suzuki-d@osaka-seikei.ac.jp）。メールには学籍番号と名前を必ず入れること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 社会福祉とは（社会福祉のイメージをつかむ） 【社会福祉のイメージをつかみます】 ・今後の授業の進め方についての説明を行う ・学生たちに社会福祉に関するイメージの確認を行う ・社会福祉について基本的な視点を学ぶ	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P2～P9）と社会福祉に係る職業を調べておく。	4時間
第2回 保育における社会福祉 【保育を進めるにあたっての福祉的視点を学びます】 ・日本における子どもの存在 ・子どもの幸せを支える社会福祉と保育	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P10～P17）	4時間
第3回 社会福祉の理念と概念～日本国憲法 【社会福祉の基本的な考え方を学びます】 ・社会福祉とは何か ・日本国憲法に見る社会福祉	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P10～P17、P23、p211）。	4時間
第4回 社会福祉の理念と概念～社会福祉の基礎理念 【社会福祉で大切にされている「考え方」を学びます】 ・ソーシャルイゼーション ・ソーシャルインクルージョン ・自立生活	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P36～P43）	4時間
第5回 社会福祉の一分野としての子ども家庭福祉 【子ども家庭福祉の考え方について学びます】 ・子ども家庭福祉とは ・子ども家庭福祉の対象 ・子ども家庭福祉の理念 ・子ども家庭福祉の制度	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P44～P50）。	4時間
第6回 子どもの権利と子ども家庭福祉 【実際に子どもを支えるための基本的な視点（人権）を学びます】 ・人権とは ・子どもの権利の歴史 ・子どもの権利とは	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P51～P58）。	4時間
第7回 子どもの権利擁護 【実際に子どもを支えるための決まりごと（人権を守りかた）を学びます】 ・権利擁護とは ・権利擁護の仕組み ・子どもの権利擁護の取り組み	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P59～P68）。	4時間
第8回 家庭支援と社会福祉 【子どもを育めた過程全体の支援の仕方を学びます】 ・家庭支援の背景 ・子どもと家庭支援 ・家庭支援における保育士の姿勢 ・家庭支援における保育士の様々な役割	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P78～P84）。	4時間
第9回 社会福祉行政機関と実施機関 【社会福祉の実践を行う、公的な専門機関について学びます】 ・国の社会福祉行政機関 ・地方公共団体の社会福祉実施期間	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P85～P92）。	4時間
第10回 社会福祉の実施機関 【社会福祉の実践を行う、民間の専門機関について学びます】 ・社会福祉施設 ・社会福祉協議会 ・共同募金会 ・民生委員・児童委員	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P112～P120）	4時間
第11回 社会福祉の専門職	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P121～P142）	4時間

	【社会福祉の実践を行っている専門職について学びます】 ・社会福祉分野における専門職 ・社会福祉における主な専門職		
第12回	社会保障制度の基本的枠組み 【社会福祉に関連する具体的な制度について学びます】 ・社会保障制度とは ・近年の社会保障の動向 ・社会保険 ・公的扶助 ・公衆衛生	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P144～P147）	4時間
第13回	相談援助とは何か 【支援が必要な人たちへの関わり方（相談援助）について学びます】 ・社会福祉の中における相談援助の位置づけ ・保育所における相談援助の意味と役割 ・相談援助の視点	振り返りシートの作成、次回に該当するテキスト部分の通読（P198～P205、p232～241）	4時間
第14回	社会福祉の動向と課題 【社会福祉における現在の課題と将来への展望を学びます】 ・人口減少社会への対応 ・これからの社会福祉の課題	テキストと配布資料、振り返りシートを読み返しておく。	4時間

授業科目名	保育原理				
担当教員名	須河内 優子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育所・幼稚園で保育士・幼稚園教諭として勤務（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本授業では、保育とは何か、保育の基本①保育の意義と理念について②わが国における保育に関する法令及び制度③乳幼児保育の基礎④保育の思想と歴史的変遷について⑤保育の現状と課題⑥保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領と幼稚園教育要領、以上を理解することを柱に学びます。また今求められる保育士の役割や時代の状況を把握するとともに、自主学習や意見交換等を通して、その役割を果たしていくための基礎となる力を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	保育の意義、保育の目標、保育の方法などに関する保育の専門知識を習得する。	保育に関する専門知識を深め、保育について理解することができる。
汎用的な力		
1. DP6. 行動・実践		教育・保育に対する使命感や情熱、職責に対する自覚を持ち、子どもの最善の利益を第一に考え、行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
期末レポート	： 授業で得た知識と自らの考えを結びつけ、的確に表現できているかを評価します。
	40 %
小テスト・小レポート	： 授業内容に関する小テスト・小レポートを実施し、理解の定着度を評価します。
	40 %
受講態度(積極性など)	： 授業への積極的参加及び課題に取り組む態度を評価します。
	20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
近藤幹生・倉田新 編著	・ NEW ERA 保育原理 実践を支える保育のこころ	・ ななみ書房	・ 2024 年

参考文献等

必要に応じて適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業の教室・中央館4F第3研究室
備考・注意事項： 授業前後に質問を受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育とは何か 「保育」「教育」「養護」について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する。	教科書 第1章を読み、まとめる。	4時間
第2回	保育の意義と保育の専門性について -児童の最善の利益のために- 「児童の権利に関する条約」等の保育の法的枠組みを理解し、保育の内容と意義について学ぶ。また、保育所・幼保連携型認定こども園・幼稚園の役割について学ぶ。	関連資料を読み、まとめる。	4時間
第3回	保育の基盤としての子ども観 子ども観と保育の内容と方法を学ぶ。保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び、幼稚園教育要領についても詳しく学ぶ。	教科書 第3章を読み、まとめる。	4時間
第4回	子ども理解から出発する保育 子ども理解について学び子どもの発達を理解する。	カウンセリングマインドについて調べる。	4時間
第5回	子どもが育つ環境の理解 子どもが育つ保育環境について学ぶ。	人的環境・物的環境・天候や自然などの環境について調べる。	4時間
第6回	保育内容・方法の原理 保育の基本と保育内容・方法について学ぶ。	教科書 第5章を読み、まとめる。	4時間
第7回	保育の計画と実践の原理 保育における計画の必要性と保育計画について学ぶ。	保育所保育指針の関連する箇所を読む。	4時間
第8回	家庭支援と子育て支援 現在の子育て支援のニーズと相談援助の基本原則について学ぶ。	身近にある子育て支援センターについて調べる。	4時間
第9回	健康・安全と障がいのある子どもへの対応 子どもたちが健康な生活を営むための幼稚園や保育園及び幼保連携型認定こども園での健康と安全への配慮について学ぶ。また、障がいのある子どもの保育の中での留意点について学ぶ。	実際に保育現場で起きた事故について調べる。	4時間
第10回	保育者に求められるもの 具体的な事例などを通して保育という仕事を理解し、保育者の役割について理解する。	保育者の具体的な仕事内容について事前に調べておく。	4時間
第11回	保育の歴史に何を学ぶか 西欧における集団保育施設の誕生と発展・わが国における集団保育施設の誕生と発展について学ぶ。	日本の保育に影響を与えた人物について調べる。	4時間
第12回	保育の評価と苦情処理及び保育者の研修 なぜ、保育の評価が必要なのかを考え、苦情対応について学ぶ。また、保育者の研修と質の向上について学ぶ。	実際の保育現場で行われている保育の評価について調べる。	4時間
第13回	保育の現状・課題と保育制度 子育てを取り巻く社会の変化と保育課題について学び、幼稚園と保育所と幼保連携型認定こども園に關係する制度を学ぶ。	保育所保育指針の関連する箇所を読む。	4時間
第14回	社会情勢の中の保育者の役割 全授業を振り返るとともに、保育者の役割や現状の課題について考察する。	保育者の役割や現状の課題についてレポートにまとめる。	4時間

授業科目名	情報機器の操作				
担当教員名	福永 栄一・岡島 泰三				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育者として求められるコンピュータの扱いを身に付けるとともに、インターネットリテラシーやインターネットを用いた検索手法などについて学びます。特にWindowsの基本的操作に加え、Office系ソフトであるWordを用いた文書作成、Excelを用いたデータ管理とその表現、PowerPointを用いた発表資料作成を中心に学びます。さらに、SNSを含めたインターネットリテラシーや、インターネットを用いた学術的検索手法、メールのやり取り、タッチタイピングなどについても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

コンピュータに関連するスキルを身につける。

目標：

ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的操作ができる。

汎用的な力

1. DP8. 意思疎通
2. DP4. 課題発見

分かりやすい文書や発表資料が作成できる。

データ管理のために、表やグラフを作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み状況	28 %	：	授業中に指示する作業を提出します（2点×14回=28点）。
演習課題	30 %	：	Word, Excel, PowerPoint を用いた演習課題を完成させます（10点×3回=30点）。
最終課題（期末レポート）	42 %	：	インターネットを利用して情報収集を行い、授業で学んだWordやExcelの知識を用いて、総合的なレポートを完成させます（42点）。

使用教科書

指定する

著者

阿部正平・阿部和子・二宮祐子

タイトル

・保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7対応版

出版社

・萌文書林

出版年

・2018 年

参考文献等

- (共通)
- ・授業内で配布する資料

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	田中(オフィスアワー)、岡島(授業前後)
場所：	田中(西館5F個人研究室)、岡島(非常勤講師控室)
備考・注意事項：	メールでアポイントメントを取り、質問などを受け付ける。 メールには必ず学籍番号と名前、希望する時間帯を必ず入れること。 tanaka-te@g.osaka.seikei.ac.jp 岡島：授業前後に質問等を受け付けます。その他、連絡を取りたい場合はEメールで。Eメールには氏名と学籍番号を、必ず記入してください。 岡島 okajima-t@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	パソコンのしくみを学ぼう パソコンのしくみについて学びます。ファイルやフォルダ、ドライブ等の違いを理解し、タッチタイプの訓練を行います。USBメモリの使い方についても解説します。	USBフラッシュメモリへの保存、感想の提出 4時間
第2回	ネットワークを学ぼう コンピューター・ネットワークの考え方や検索エンジンを用いたwebサイトの探し方、電子メール（Eメール）の書き方等について学びます。その他、情報収集の方法についても解説します。	eメールの送信、タッチタイピングの練習 4時間
第3回	ワープロソフトの機能と操作を学ぼう ワープロソフトにおける文字入力や装飾について学びます。字下げや段落、校正等の考え方も解説します。学びの実践として、かんたん文書を作成します。	Wordで簡単な文書を作成保存、eメールの送信 4時間
第4回	ワープロソフトで簡単なおたよりを作成しよう ワープロソフトを使って簡単なおたよりを作成します。ワードアートやテキストボックス、図表や図形の挿入、ビジュアルコトリミング等、ビジュアルコンテンツの作成方法についても解説します。	おたよりの作成、プリンタの使用 4時間
第5回	パソコンリテラシと情報倫理を学ぼう 保育の管理業務でのソフトの活用、文書ファイルなどデータの適切な管理、園での様々なコミュニケーション等について学びます。SNS利用に関する注意、個人情報の取り扱い等についても解説します。	ファイルの暗号化、Lドライブへのアップロード 4時間
第6回	表計算ソフトの機能と操作を学ぼう データ入力や計算、オートフィル、表と罫線等、Microsoft Excelの操作について学びます。学びの実践として、クラス表等を作成します。	表計算ソフトを用いたクラス表の作成 4時間
第7回	表計算ソフトでデータリストを作成しよう 前回までの学びにもとづき、児童台帳等のデータリストを作成します。既存のリストを使って新たなリストを作成する方法や、ファイル内の情報検索と集計の方法についても解説します。	表の作成、Lドライブへのアップロード 4時間
第8回	表計算ソフトでグラフを作成してみよう 棒グラフや折れ線グラフ、円グラフ、グラフの白黒化等の作表と、簡単な計算について学びます。学びの実践として、身体計測記録等のデータリストを作成し、その一部をグラフ表示することに挑戦します。	グラフの作成、白黒化、Lドライブへのアップロード 4時間
第9回	プレゼンソフトの機能と操作を学ぼう 入力方法や配色のポイント、アニメーションの使い方や図や図形の挿入、スライドのデザイン等、Microsoft Power Pointの操作について学びます。保育園の案内等を作成します。	プレゼン発表のための準備 4時間
第10回	プレゼンテーションを学ぼう PowerPointを使ったプレゼンの基本について学びます。プレゼンの構成や喋り方、目線の動かし方、間の取り方等についても解説を行います。	プレゼン発表のための準備 4時間
第11回	プレゼンテーションをやってみよう（1）：前半 クラス前半の学生個人（またはグループ）で、プレゼンを行います。全員が自分（またはグループ）で作ったスライドを使用し、プレゼンに参加します。過去に指摘した評価ポイント（プレゼンの構成や喋り方、目線の動かし方、間の取り方等）にもとづき、全体を評価します。自分（またはグループ）の発表を終えた学生や未発表の学生は、クラスメイトの発表で、気になった点などを記録用紙に記載して提出します。	プレゼンテーションの発表、評価 4時間
第12回	プレゼンテーションをやってみよう（2）：後半	プレゼンテーションの発表、評価 4時間

	クラス後半の学生個人（またはグループ）で、プレゼンを行います。全員が自分（またはグループ）で作ったスライドを使用し、プレゼンに参加します。過去に指摘した評価ポイント（プレゼンの構成や喋り方、目線の動かし方、間の取り方等）にもとづき、全体を評価します。自分（またはグループ）の発表を終えた学生や未発表の学生は、クラスメイトの発表で、気になった点などを記録用紙に記載して提出します。		
第13回	最終課題の説明と作成 講師が指定した評価ポイント（情報収集や図や写真の挿入，時間割／スケジュールの作成，天候／気温に関するグラフ作成，情報の入力，参考文献の書き方，頁番号等）を踏まえて「遠足のしおり」を作成します。	しおりのアイデアをWordにまとめる	4時間
第14回	最終課題の校正と提出 前回に続き，「遠足のしおり」の作成と校正作業を行います。分からない点があれば質問し，最終課題の提出に向けた仕上げ等を行います。	最終課題の仕上げ、提出	4時間

授業科目名	器楽Ⅰ				
担当教員名	泉 敦子・須山 由梨・和泉 真子・高木 貴子・辻村 佳壽子・宮崎 恵				
学年・コース等	1回生	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員全員が実務経験を有する。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、民間音楽教室、大学付属音楽教室、幼稚園、保育園等の音楽講師として勤務。（全28回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育現場において、音楽は子どもの情操教育に大切なものの一つです。美しい調べや心弾む音と触れ合う中で豊かな心が育まれます。毎日の生活の歌や手遊びうた、リズム体操、園の行事、その多くにピアノ演奏が必要となります。
この授業では保育者として必要な読譜力、テクニック、表現力を身に付けることを目指します。
①導入課題の学習を通してピアノの基本的な演奏技術を習得します。
②保育の場で必要とされる弾き歌い曲を学び、実習に備えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	保育者、教育者にとって必要な音楽の知識（ピアノスキル）	情操教育を行う上で必要となる音楽の知識を学び、理解を深めることができる
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	①ピアノスキルの向上 ②歌詞の内容を理解し、叙情的な歌唱演奏ができる	①Seikei・Pianoテキストを修了することができる ②弾き歌い曲を30曲以上マスターすることができる
汎用的な力		
1. DP6. 行動・実践		自主性を持って、課題に取り組む能力を高めることができる
2. DP4. 課題発見		実習等で現場を経験した上で、いかなるピアノスキルが必要かを考える力を養うことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とする。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
前期発表会	： 弾き歌いスキル習熟度について、ルーブリックに基づいて評価する。
35 %	
後期発表会	： ピアノ演奏スキル習熟度について、ルーブリックに基づいて評価する。
35 %	
弾き歌い模擬授業	： 発表やグルーブワークに積極的参加し、課題に取り組む態度をルーブリックに基づいて評価する。
10 %	
受講態度	： 各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（忘れ物、遅刻、付爪・長爪は減点）を総合的に10点満点で評価する。
10 %	
定期試験（レポート）	： 授業内容の理解度を評価する。
10 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
	・ Seikei・Piano	・	・ 年
	・ こどもが大好きなうたの本	・	・ 年

参考文献等

足羽章編『日本童謡唱歌全集』（ドレミ楽譜出版社、2014年、ISBN9784285141177）
全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』（音楽之友社、2014年、ISBN9784276590250）
小泉八重子監修『手あそび歌あそび』（新星出版社、2015年、ISBN9784405071094）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ただし、ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分以上の自主練習を推奨する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜3・4限、木曜2限
場所：	音楽教育センター（西館6階）
備考・注意事項：	上記時間以外でも、随時対応。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、Lesson1：ブラインドタッチの基礎 【オリエンテーション】 ・授業内容（教材等）について ・グレードについて ・楽器・椅子の扱い方について ・個人練習室使用について ・到達目標の設定 【Lesson1：ブラインドタッチの基礎】 ・ナチュラルポジションによる順次進行 ・4/4、3/4拍子 ・リズム練習（全音符、二分音符、四分音符）	基本の楽典を復習する。読譜・リズム打ちを自己練習する。	1時間
第2回 ピアノ実技個人指導：Lesson2：ポジション移動 ・左手のポジション移動 ・音の響きを感じる（臨時記号b） ・リズム練習（付点二分音符、四分休符） 【こどもが大好きなうたの本】ピアノ経験者は個人の技量に適した曲を取り組む	読譜・リズム打ち・左手のポジション移動を自己練習する。	1時間
第3回 ピアノ実技個人指導：Lesson3：ナチュラルポジションからの指広げ ・左手の響き、距離感をつかむ ・臨時記号（b、#） ・リズム練習（八分音符） ・ハ長調の音階 【こどもが大好きなうたの本】ピアノ経験者は個人の技量に適した曲を取り組む	読譜・リズム打ち・指広げ・音階（ハ長調）を自己練習する。	1時間
第4回 ピアノ実技個人指導：Lesson4：付点四分音符とポジション移動 ・付点四分音符と八分音符のリズムをを親しみやすいメロディで感じる ・右手のポジション移動 ・スタッカート、スラー、タイ、オクターブ ・リズム練習（付点四分音符） ・連弾（聖者の行進、一週間） 【こどもが大好きなうたの本】ピアノ経験者は個人の技量に適した曲を取り組む	読譜・リズム打ち・右手のポジション移動を自己練習する。	1時間
第5回 ピアノ実技個人指導：Lesson5：移調（1）基礎 ・移調（ハ長調、ト長調、ニ長調） 【こどもが大好きなうたの本】ピアノ経験者は個人の技量に適した曲を取り組む	読譜・リズム打ち・移調・コード（C・F・G・G7）を自己練習する。	1時間
第6回 ピアノ実技個人指導：Lesson5：移調（2）応用 ・リトミック（おなかのたいそう） ・リズム練習（十六分音符、付点八分音符、八分音符三連符、八分休符、シンコペーション） 【こどもが大好きなうたの本】1回生時必修曲（10曲）より選曲	読譜・リズム打ち・移調・コード（B7・C7・D・D7）を自己練習する。	1時間
第7回 ピアノ実技個人指導：Lesson6：色々なリズム ・左手で拍子をとってメロディを弾く ・左手で拍子をとってメロディを歌う ・弱起（アウフタクト）、フェルマータ 【こどもが大好きなうたの本】1回生時必修曲（10曲）より選曲	ピアノ曲・弾き歌い曲・リズム打ち（複雑なリズム）を自己練習する。	1時間
第8回 ピアノ実技個人指導：Lesson7：重音	ピアノ曲・弾き歌い曲・リズム打ち・重音を自己練習する。	1時間

	・2つ以上の音を同時に弾く ・強弱記号、アクセント ・速度記号 ・リズム練習（3/8、6/8拍子） 【こどもが大好きなうたの本】1回生時必修曲（10曲）より選曲		
第9回	ピアノ実技個人指導：Lesson8：8分の6拍子 ・バイエル52、66番 他 ・レガート奏法 【こどもが大好きなうたの本】1回生時必修曲（10曲）より選曲	ピアノ曲・弾き歌い曲・リズム打ち（8分の6拍子）を自己練習する。	1時間
第10回	ピアノ実技個人指導：器楽まとめ（1） Seikei・Pianoテキスト復習、前期発表会曲を選曲 【Lesson1～9】 ・ふり返り ・リズム練習 ・トレーニング7リズム変え練習 【こどもが大好きなうたの本】前期発表会曲を選曲	前期発表会の曲を分析、考察する。弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第11回	ピアノ実技個人指導：まとめ（2）前期発表会に向けて発表曲の練習 【Lesson1～9】 ・ふり返り ・リズム練習 ・トレーニング7、8リズム変え練習 【こどもが大好きなうたの本】各自選択した発表曲の練習	トレーニング・リズム練習で指を強化する。前期発表会の弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第12回	ピアノ実技個人指導：まとめ（3）前期発表会曲についての曲目解説 ・各自選択した発表曲の練習 【Lesson1～9】 ・ふり返り ・リズム練習 ・トレーニング8リズム変え練習 【こどもが大好きなうたの本】各自選択した発表曲の練習	前期発表会の弾き歌い曲の完成度を高める。	1時間
第13回	前期発表会 ・前期に学修した成果を発表する ・発表後に教員からのコメントを受け、学生同士で感想を述べる	前期発表会を振り返り、課題を見出す。ピアノ曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第14回	ピアノ実技個人指導：Lesson9：分散和音 ・弾き歌い曲でよく使われる伴奏形 ・バイエル103番 他 ・グレード表の確認 【こどもが大好きなうたの本】1回生時必修曲（10曲）より選曲	ピアノ曲・弾き歌い曲・リズム打ち・分散和音を自己練習する。コードネームを復習する。	1時間
第15回	ピアノ実技個人指導：バイエルピアノ教則本について ・バイエル60、61、62、65番から各自選択（3曲以上） ・ハ長調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】1回生時必修曲（10曲）より選曲	ピアノ曲（ハ長調の楽曲）・弾き歌い曲・リズム打ち・音階（ハ長調）を自己練習する。	1時間
第16回	ピアノ実技個人指導：跳躍について ・バイエル60、61、62、65番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】1回生時必修曲（10曲）より選曲	ピアノ曲・弾き歌い曲・リズム打ちを自己練習する。	1時間
第17回	ピアノ実技個人指導：臨時記号について ・バイエル72、73、74、75番から各自選択（3曲以上） ・ト長調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】弾き歌い模擬授業発表曲の選曲	弾き歌い模擬授業発表曲を分析、考察する。ピアノ曲（ト長調の楽曲）・音階（ト長調）を自己練習する。	1時間
第18回	ピアノ実技個人指導：3連符について ・バイエル72、73、74、75番から各自選択（3曲以上） ・ニ長調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】弾き歌い模擬授業発表曲の練習	弾き歌い模擬授業発表曲・ピアノ曲（ニ長調の楽曲）・リズム打ち（3連符）・音階（ニ長調）を自己練習する。	1時間
第19回	ピアノ実技個人指導：転調について ・バイエル76、77、78、80番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】弾き歌い模擬授業発表曲の練習	弾き歌い模擬授業発表曲・ピアノ曲・リズム打ち・転調を自己練習する。	1時間
第20回	弾き歌い模擬授業・動画撮影	弾き歌い模擬授業を振り返り、課題を見出す。意見交換を通じて考えたことをまとめる。動画撮影を行い、自身の演奏を振り返る。	1時間

	・実習を想定した模擬授業を行う ・模擬授業を振り返り、グループディスカッションを行う ・ディスカッションでまとめた意見をグループごとに発表する ・弾き歌い模擬授業発表曲を動画撮影する		
第21回	ピアノ実技個人指導：装飾音符について ・バイエル76、77、78、80番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・リズム打ち・装飾音符を自己練習する。	1時間
第22回	ピアノ実技個人指導：付点8分音符について ・バイエル88、90、91、92、94番から各自選択（3曲以上） ・イ短調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲（イ短調の楽曲）・弾き歌い曲・リズム打ち（付点8分音符）・音階（イ短調）を自己練習する。	1時間
第23回	ピアノ実技個人指導：8分の6拍子の効果的な演奏法 ・バイエル88、90、91、92、94番から各自選択（3曲以上） ・ヘ長調の音階 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲（ヘ長調の楽曲）・弾き歌い曲・リズム打ち・音階（ヘ長調）を自己練習する。	1時間
第24回	ピアノ実技個人指導：後期発表会曲の選曲 ・後期発表会曲の選曲 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	後期発表会の曲を分析し、考察する。弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第25回	ピアノ実技個人指導：後期発表会曲に向けて発表曲の練習 ・各自選択した発表曲の練習 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	後期発表会の曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第26回	ピアノ実技個人指導：後期発表会曲についての曲目解説 ・各自選択した発表曲の練習 ・コードチェック 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	後期発表会の曲の完成度を高める。弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第27回	後期発表会 ・後期に学修した成果を発表する ・発表後に教員からのコメントを受け、学生同士で感想を述べる	後期発表会を振り返り、課題を見出す。ピアノ曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第28回	ピアノ実技個人指導：8分の3拍子とスタッカート奏法について ・バイエル95、96、98、100番から各自選択（3曲以上） ・コードチェック ・グレード表の確認 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・リズム打ち（8分の3拍子）を自己練習する。	1時間

授業科目名	子ども家庭支援の心理学				
担当教員名	清水 千弘・中澤 鮎美				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	清水：福祉, 医療機関で心理職として勤務（全14回） 中澤：教育, 医療, 福祉機関でカウンセラーとして勤務（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は保育士資格取得のための必修科目です。
本講義では生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等を理解します。また、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもと家庭を包括的に捉える視点を習得します。さらに、子育て家庭をめぐる状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解し、適切に支援するためにどのようにすればよいのかについて考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

生涯発達、家庭、親子関係、子どもの精神保健に関する心理学的知識
子どもの発達支援や心理的支援、家庭支援に関する知識と技能

目標：

子どもや家庭を理解するための基礎的知識を身に付け、説明することができる。
子どもや家庭を支援するための方法について考えることができる。

汎用的な力

1. DP9. 役割理解・連携行動

保育者として子どもや家庭を支援するためにどのような役割を果たし、どのように連携すればよいのかについて理解できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

小テスト	：	子どもや家庭を理解するための基礎知識を身につけているかについて授業内で行う小テストで評価する。
30 %		
授業内課題	：	各回の振り返りシートやワークシートなど、授業内課題の取組状況について独自のルーブリックを用いて評価する。
40 %		
授業への積極的参加	：	授業内で行うワーク・演習への参加度や積極的態度について独自のルーブリックを用いて評価する。
10 %		
試験（レポート）	：	講義で学んだ知識をもとに子どもや家庭を支援するための方法を考えることができているかについて、独自のルーブリックを用いて評価する。
20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
本郷一夫・神谷哲司（編）	・ シードブック 子ども家庭支援の心理学	・ 建帛社	・ 2018 年

参考文献等

無藤隆・安藤智子（編）「子育て支援の心理学 家庭・園・地域で育てる」（2008）有斐閣
藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子・網谷綾香「あなたと生きる発達心理学」（2019）ナカニシヤ出版
岡本裕子・深瀬裕子「エピソードでつかむ生涯発達心理学」（2013）ミネルヴァ書房
日本家族心理学会「家族心理学ハンドブック」金子書房（2019）
古荘 純一「子どもの精神保健テキスト」診断と治療社（2015）
白川佳子・福丸由佳（編）「子ども家庭支援の心理学」（2019）中央法規出版
要 正子・小山 顕・國田祥子（編）「子ども家庭支援の心理学」（2022）晃洋書房
松本園子・永田陽子・長谷部日呂美・日比曉美・堀口美智子（著）「子ども家庭支援の心理学」（2019）ななみ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
また、子どもや家庭に関する社会的出来事に関心を持ち新聞やニュースに触れておくこと、日常生活の中で心理学の応用について考えたりすることも大切である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	清水・中澤（授業前後）
場所：	各教室
備考・注意事項：	清水・中澤は非常勤教員のため、授業の前後に質問を受け付けます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 生涯発達 1 乳幼児期から学童期にかけての発達 子どもや家庭支援のために心理学を学ぶ意義、本講義の目標と進め方について確認する。 生涯発達の考え方・発達の連続性について理解し、特に就学後の学童期までの子どもの発達について学ぶ。	前期「教育心理学」で学んだ知識を復習しておく。本講義に期待すること・自分の問題意識を整理し、自分の子ども観・家族観について考えてみる。	4時間
第2回 生涯発達 2 思春期・青年期の発達 思春期・青年期の発達について学ぶ。思春期の心と体の変化、思春期・青年期の親子関係や友人関係、思春期・青年期の心理的葛藤や悩みについて理解する。現在の自己のあり方にも目を向け、青年期におけるアイデンティティ確立/拡散について考察する。	自分自身の思春期・青年期についてどのような変化や葛藤が生じたか振り返り、その意味について考える。	4時間
第3回 生涯発達 3 成人期・老年期における発達 成人初期、中年期、老年期までの発達と心理的葛藤について理解する。仕事・家庭・出産・子育て、親子/家族関係の変化、中／老年期の心身の変化など、各段階でのさまざまな変化と心理的様相、各世代との関係性について学ぶ。	自分自身の中年期・老年期のあり方について考えてみる。身近な中年期・老年期世代（親や祖父母など）と自分自身や他世代との関係性について理論をふまえる。	4時間
第4回 家族・家庭の意義と機能：親子関係・家族関係の理解 現代における家族・家庭の意義や機能について、文化や歴史的文脈もふまえて考察する。愛着理論やシステム論など家族心理学に関する理論を学ぶ。	自身の家族観・家庭観について分析する。	4時間
第5回 子育ての経験と親としての育ち 妊娠期から出産、子育て期の経験を通して、親としての意識がどのように芽生え、どのように親としての成長・発達していくかについて理解する。	子育て経験者に体験談を聞き（あるいは事例を読み）、理論をもとに考察する。	4時間
第6回 子育てを取り巻く社会的状況 核家族化、インターネット文化、待機児童問題、子育て環境の問題など、現在の日本における社会的状況が子育て家庭にどのような影響を及ぼしているかについて理解する。	現代の子育てを取り巻く社会的状況に関する統計データを調べ、どのような現状があるのかについて分析する。	4時間
第7回 ライフコース：恋愛・結婚・子育て・仕事と家庭 青年期以降の恋愛、結婚、子育て、仕事と家庭のワークライフバランスの問題などについて学び、多様な状況と価値観があることを理解する。	自分自身のライフコースについて具体的に考える。	4時間
第8回 多様な家庭とその支援 さまざまな育児上の困難を抱える家庭やステップ・ファミリー、子どものいない家庭、同性婚など、多様な家庭のあり方について理解し、必要となる配慮や支援についても考察する。	多様な家庭のあり方について事例を読んだりWEBで調べるなどして理解を深める。	4時間
第9回 特別な配慮を要する家庭への支援 DVや虐待が疑われるケースなど、特に支援を要するハイリスク家庭について理解し、どのような支援のあり方が適切かについて事例などもふまえながら学ぶ。	保護者や子どもに対する実際の支援事例を読み、重要なポイントについて理解する。	4時間
第10回 子どもの生活・生育環境と心の健康	子どもの精神疾患について調べ、症状や支援について理解する。	4時間

	子どもの生活・生育環境と心の健康との関連、心の健康についてのとらえ方、子どもの精神疾患・障害の概要（疾患・障害名とその主症状）について学ぶ。		
第11回	情緒的な問題とその支援 生活環境や心理的ストレスから生じる子どもの情緒的な問題や障害・疾患などについて理解し、その支援方法について具体的に学ぶ。	情緒的な問題が生じた事例について読み、支援のポイントについて考える。	4時間
第12回	災害後の心理的問題とその支援 災害が起きた後に生じる子どもたちの変化やストレス障害について学び、保育者としてどのように備えるべきか、どのような支援ができるかについて考える。	東日本大震災など近年生じた災害後の子ども達にどのような変化や問題が生じたか、どのような支援が行われたかについて調べる。	4時間
第13回	発達的な課題とその支援 自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害や学習障害、ことばの遅れなど、子どもの様々な発達的な課題とその支援方法について具体的に学ぶ。	発達的な課題を抱える子どもの事例について読み、支援のポイントについて考える。	4時間
第14回	特別な配慮を要する家庭への支援の実際 / まとめ ・これまでに学んできた基礎知識をもとに、特別な配慮を要する家庭への支援のあり方について事例検討する。育児不安、発達障害、ひとり親家庭、虐待、貧困、など、多様な支援ニーズのある家庭に対して保育者としてどのように支援すればよいか、また他職種とどのように連携しながら支援すればよいかについて考察する。 ・14回の学びを振り返り、保育者として子どもや家庭を支援する姿勢について確認する。	保護者や子どもに対する実際の支援事例を読み、重要なポイントについて理解する。学んだ知識を整理し、最終レポートにむけて復習をしておく。	4時間

授業科目名	保育実習Ⅰ（保育所）				
担当教員名	樋口 奈生・向井 秀幸				
学年・コース等	1回生	開講期間	通年（1後～2前）	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（樋口、向井）が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育所実習に臨み、日常の生活や遊びを通して保育所・認定こども園の役割や機能等を理解する。乳幼児の活動を観察することにより、また直接関わることにより、乳幼児の表面的な行動だけではなく、発達や内面の思いへの理解を深めていく。実習までに学んだ教科を基盤にして、保育内容や保育環境の実際を具体的に学ぶ。保育所・認定こども園における子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 保育者としての知識・技能の獲得
- 保育者としての具体的な保育と支援の実施

目標：

保育所実習を通して、乳幼児の発達過程や保育者の役割や機能について説明することができる。

保育所実習において乳幼児への適切な関わりや保育者の職務内容を理解し関心を高めることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP9. 役割理解・連携行動

乳幼児にふさわしい保育のあり方を発見することができる。

個々の乳幼児にふさわしい保育、援助を行うことができる。

保育所・認定こども園の役割と機能を理解し、職員間・関係機関と連携することの大切さを理解することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

実習は10日以上、80時間以上の実習時間がなければ実習放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実習自己課題設定と中間振り返り	10 %	：	学生の自己課題の設定および準備、実習に対する取り組みについて10点満点で評価する。
実習状況	10 %	：	遅刻や早退などの状況、提出物の提出状況を10点満点で評価する。
実習日誌	20 %	：	要点を押さえて実習記録をまとめているのかを20点満点で評価する。
実習施設による評価	40 %	：	実習先からの評価を40点満点に換算して評価する。
実習報告		：	実習の振り返りおよびそのレポートを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」厚生労働省 ISBN:9784577814239
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN:9784577814246
- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科
- ・新・基本保育シリーズ㊹保育実習 中央法規 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子 2019年 ISBN:9784805858004
- ・0歳～6歳 子どもの発達と保育の本（第2版）Gakken 河原紀子 2018年 ISBN:9784058008676

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を成功させるには、毎日の実習終了後、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすること。毎日2時間はかかると考えておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 随時受け付けます。実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導Ⅰ（保育所）の授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育所および認定こども園での実習（1回生2月～3月） ・保育所や認定こども園の保育内容・機能・園生活の流れなどについて、実践を通して理解する。 ・補助的な立場で遊びや生活を通して乳幼児と関わる中で、一人ひとりを理解するとともに、乳幼児の発達の実情や保育の実態に触れながら、援助・配慮のあり方を体験的に学ぶ。 ・補助的な立場から保育者の専門性に触れながら、保育者の職務内容及び役割、また職員とのチームワークなどに関して体験を通して把握し、保育への関心を高める。 ・保育者および乳幼児と生活を共にする中で、実習生自身が様々な働きかけを行うことにより、保育技術を習得しながら将来の保育者としての自覚を高める。	実習記録を記載するとともに、次の日の実習課題、目標等を計画的に準備（毎日2時間以上）すること。	20時間

授業科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）				
担当教員名	樋口 奈生・向井 秀幸				
学年・コース等	1回生	開講期間	通年（1後～2前）	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（樋口、向井）が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育所や認定こども園の保育内容・機能・役割・生活の流れなど実践を通して理解し、保育への関心を深めることをねらいとして、授業を行う。また、実習園における保育について具体的なイメージを持ち実習に臨めるよう、保育所実習に関する基礎的な知識が習得できる授業内容にしている。内容としては、保育所実習の意義・目的、実習の内容の理解、自らの課題の明確化を行う。また実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育・福祉専門職の意義や職務内容、専門知識に関する理解

目標：

保育所実習の意義・目的を理解し、保育者として必要な知識・技能・実践能力の習得をめざして、自らの課題や学習目標を持って実習に臨むことができる。

汎用的な力

- DP5. 計画・立案力

保育所実習における計画を立て、その実行に踏み出し、やり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	：	実習や実習指導を振り返り、保育者として必要な知識や技術および役割について、要点を押さえて記入しているかを30点満点で評価する。
30 %		
課題シート	：	保育所実習の目的・課題に対する明確化および理解度について20点満点で評価する。
20 %		
授業への取り組み状況	：	各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に15点満点で評価する。
15 %		
授業内提出物	：	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限を守れているかなどを総合的に35点満点で評価する。
35 %		

使用教科書

指定する

著者

近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子

タイトル

・新・基本保育シリーズ㊹保育実習 ISBN:9784805858004

出版社

・中央法規

出版年

・2019 年

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」厚生労働省 ISBN:9784577814239
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN:9784577814246
- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科
- ・0歳～6歳 子どもの発達と保育の本（第2版）Gakken 河原紀子 2018年 ISBN:9784058008676

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。やむを得ず欠席した場合は、必ず欠席届を提出し、欠席した授業内容を早急に補うことが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前々
- 場所： 中央館4階第2研究室、授業の教室
- 備考・注意事項： 保育所実習担当のどの教員でも受け付ける。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育実習Ⅰ（保育所）の意義と目的 ・保育実習Ⅰ（保育所）の意義や目的、保育実習指導Ⅰ（保育所）の授業の流れについて学びます。 ・保育実習の年間計画について学びます。	教科書第1講を通読し、保育実習の内容を理解する。	1時間
第2回	保育実習Ⅰ（保育所）への基本的心得 ・保育所や認定こども園の生活と一日の流れについて学びます。 ・学外の保育施設へ一定期間通って学ぶ際の実習生としての心構えやマナーについて学びます。	教科書第6講、保育所保育指針（P4-5）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（P4-5）の通読を行う。	1時間
第3回	保育所・認定こども園の生活と保育者の役割を学ぶ ・保育所や認定こども園での生活について、また、子どもへのかかわりと援助について理解を深めます。 ・保育所や認定こども園における保育者の役割についてDVD視聴を通して理解を深めます。	教科書第6講、第8講を通読し、ワークを通して保育所・認定こども園の生活と保育者の役割について理解を深める。	1時間
第4回	子どもとの関わりと観察を通して、子ども理解を深める ・保育所や認定こども園で生活をする子どもの姿について理解を深めます。 ・子どもを観察することから子ども理解を深める必要性を学びます。	教科書第7講を読むとともにワークに取り組む。	1時間
第5回	保育所・認定こども園の安全と衛生について学ぶ ・保育所や認定こども園の安全管理や衛生への配慮、食物アレルギー児への対応等について学びます。 ・子どもが安心して過ごせる環境について理解を深めます。	教科書第10講の通読とワークに取り組むことによって、安全管理及び衛生管理の理解を確かなものとする。	1時間
第6回	保育実習Ⅰ（保育所）での学びの目的と課題を考える①（視点について考える） ・実習課題の理解を深めるとともに、課題の立て方を学びます。 ・具体的に学びたい事柄を明確にし、課題遂行方法を考えます。	教科書第5講を読み、実習の目的・課題を考える。	1時間
第7回	保育実習Ⅰ（保育所）での学びの目的と課題を考える②（目的・課題の決定） ・保育実習Ⅰ（保育所）の目的を理解し、目標を明確にします。	教科書第5講を読み、実習の目的・課題を明確にする。	1時間
第8回	実習記録の意義と視点（基本の書き方） ・保育所や認定こども園での実習で使用する実習記録の基本的な書き方を学びます。 ・実習記録作成に伴い、実習園の情報収集をします。 ・オリエンテーションの心構えや準備について理解します。	教科書第4講を通して、実習記録の書き方の留意点を学ぶ。	1時間
第9回	実習記録の書き方①（子どもの発達と保育者の意図を踏まえた記述） ・項目「子どもの活動」、「援助と配慮（保育者・実習生）」の書き方を学びます。 ・実習での保育者の子どもとの関わりや保育内容、その方法について観察し記録することを学びます。	教科書第4講を読み、授業内容を踏まえワークに取り組む、実習記録の書き方の理解を確かなものとする。	1時間
第10回	実習記録の書き方②（環境構成、考察、保育の振り返りの視点） ・項目「環境構成」の書き方について学びます。 ・実習記録作成を通して、子どもの活動が促される環境構成を学びます。	教科書第4講、また、保育所保育指針（P13-31）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（P17-33）を読み、環境構成に関するワークに取り組むことを通して、環境構成の意味を学ぶ。	1時間
第11回	子どもにとっての遊び（絵本）を考える	教科書第7講、第10講を読み、子どもにとっての遊びの意味合いについて理解を深める。	1時間

	・保育所や認定こども園での実習を控え、実習生としての心得や姿勢について、また、実践で心掛けたい絵本の選び方や読み聞かせの方法について理解を深める（外部講師招聘予定）。		
第12回	保育実習Ⅰ（保育所）に向けての直前指導 ・子どもの健康と安全管理、自己の実習目標、課題を再確認します。 ・実習園別指導担当教員による事前指導（実習の心構えと直前指導等）の進め方や内容を理解します。	教科書第3講、実習ハンドブック（P.13-21）を読み、実習中の留意点について理解を深める。	1時間
第13回	保育実習Ⅰ（保育所）の心構えと留意点 ・保育実習Ⅰ（保育所）に向けての心構えやマナーについて学びます。 ・保育実習Ⅰ（保育所）に向けての準備状況について確認、チェックをします。 ・保育実習Ⅰ（保育所）に向けて、保育技術や実践のあり方について学びます。	教科書第3講、実習指導ハンドブック（P13-21）を読み、実習に向けての心構えやマナー、準備などについて確認を行う。	1時間
第14回	保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと今後の課題の明確化 ・保育実習Ⅰ（保育所）の実践を振り返り、達成できたことと課題になったことを可視化し、保育実習Ⅱに向けての学びの方向性を検討します。	保育実習Ⅰ（保育所）での学びについて振り返る。	1時間

授業科目名	子どもの保健				
担当教員名	寺辻 良子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	国立病院の小児循環器外科に勤務経験あり。 現在、保育園の看護師として勤務している。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達について学びます。受胎から出生までの流れを学び、命の大切さについて理解を深めます。また子どもが罹患しやすい疾病、各機能に特徴的な疾病や障害についても理解し、子どもの健康状態を知る視点や、その予防・対応の仕方を学びます。さらに子どもが心身ともに健康に育つための生活環境や精神面の課題を理解し、保育現場における環境整備や、栄養・衛生管理、事故防止のための安全対策、子どもを取り巻く社会制度やサービスについても理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保健体育分野の専門的知識を身につける。

目標：

子どもの発育・発達を理解し、説明することができる。子どもの健康状態を把握するために必要な知識を身につけることができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育における保健体育の意義を理解する。

子どもの健康の保持・増進に向けて、何が必要なのか理解し、説明できる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

保育現場の実情や社会状況を踏まえて、保育者が保育の専門性を高めていくためには、何が必要か理解できる。

2. DP7. 完遂

わからないことをわからないままに放置せず、一つ一つ丁寧に知識を身につけることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

理解を深め、知識として身につけていくためには、順を追って知っていくことが大切です。休んだ箇所は自己学習し、必要があればオフィスアワーを活用しましょう。また、自分がどの程度理解できたのか、理解できていないところは何か、プリントで確認します。理解できない箇所はプリントの「まとめ・感想」部分に質問しましょう。全体の1/3以上の回数の欠席は、成績評価いたしません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

振り返り、レポート提出、授業態度	：	毎回授業の内容について理解できているかを確認し、積極的に授業に参加しているかを評価します。
30 %		
確認テスト	：	定期テスト以外に、第8回目に確認テストを行います。身体の仕組みや健康について理解できているかをテストで確認し評価します。
20 %		
発表	：	子どもの保健に関するテーマ別にグループワークを行い、発表します。独自のルーブリックに基づいて評価します。
10 %		
定期テスト	：	子どもの保健に関して理解できているか確認していきます。
40 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小林美由紀編著	・ 授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト改訂第3版	・ 診断と治療社	・ 2024 年

参考文献等

「国民衛生の動向」（財）厚生統計協会
中根淳子/佐藤直子編著 子どもの保健 ななみ書房 2023年
鈴木美恵子編 これだけはおさえない 保育者のための子どもの健康と安全 改訂版 創成社 2023年
厚生労働省 保育所保育指針解説平成30年3月 フレーベル館 2023年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、保育士資格取得必修科目です。子どもの命を預かる専門職に必要な知識を習得するための授業である、という意識を持って授業に取り組んでください。授業内容や専門用語などが理解できないときは、挙手して質問するように心がけてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	教室または非常勤講師控室
備考・注意事項：	授業時間内に質問するか、振り返り用紙に記入してください。 1人の疑問は、みんなの疑問でもあります。振り返り用紙に書かれた内容は、次の講義時に回答します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保健における「子どもの保健」の概要 シラバスや受講時のルールとマナーについて理解します。 健康の定義を理解し、保健活動の意義、健康に対する保健活動の実際を学びます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第2回	子どもの出生と母子保健の意義 母親の胎内で守られてきた胎児が出生によって起こる劇的な環境の変化に対し、どのように対応していくか学ぶとともに、母親の健康を守る母子保健と子どもの健康を守る小児保健が一体となった母子保健の意義を考えていきます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第3回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 現代の子どもの健康を考える場合、社会的背景の時代的変遷に伴う変化を読み取り、課題を明らかにしていきます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第4回	子どもの身体発育と運動機能の発達 ～発達を促す関わり～ 子どもの身長、体重の測定や評価の方法を学びます。また、発育とともに、運動機能の発達についても学んでいきます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第5回	生理機能発達① ～体温調節機能・呼吸器系・循環器系～ 子どもの身体の発育だけではなく、内部の臓器の生理機能（体温調節機能、呼吸器系、循環器系）の発達を学んでいきます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第6回	生理機能発達② ～体液調節・排泄機能・睡眠～ 内部機能のうち、体液調節、排泄機能、睡眠について学び、また、生理機能の発達に伴った生活習慣の身に着け方について学んでいきます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第7回	地域における保健活動と子どもの虐待防止① 様々な児童福祉しせつについて学びます。また施設の利用に際してどのような施策が関わっているかを学びます。児童虐待の種類や現状を理解し、それを防止するための対策や、発見した時の対応や連携について学びます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第8回	地域における保健活動と子どもの虐待防止② 前回の授業を踏まえ、虐待に関するDVDを視聴し、感想を書いて提出します。	教科書の該当ペーを読んでくる。 1時間
第9回	保育現場の日常の保健活動 子どもの健康状態の把握の仕方について学んでいきます。また、子どもの体調不良時の主な症状とその評価、対応の仕方について学んでいきます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第10回	感染症と予防接種 生体における防衛反応を学びます。病気にならないための免疫の仕組みが、これまで学んできた身体の構造や機能と関連していることを理解します。アレルギー反応についても理解します。感染成立の三大要因を学びます。感染成立の三大要因に即して、感染症対策を考えます。自らが感染しないようにできること、子どもが罹らないように保育者としてできること、感染を拡大させないようにできることを考えます。予防接種の仕組みを免疫の仕組みと関連させて理解し、予防接種を受ける際に気をつけなければならないことを学びます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間
第11回	救急疾患の特徴とその対応 子どもの救急疾患では迅速に対応していく必要があるため、どのような特徴があり、どのような対応が必要なのか学んでいきます。またSIDS (Sudden Infant Death Syndrome) について理解し、その予防方法について学びます。三重大事故死因について学び、死に至らないようにするには、関わる大人がどのようなことに気をつけなければならないのかを考えます。	教科書の該当ページを読んでくる。 1時間

第12回	確認テストと振り返り及びまとめ 第1回から第11回までの講義内容について理解できているか確認するため、テストを行います。	第1から第11回までのプリント、教科書内容を復習しておく。	1時間
第13回	アレルギー疾患、小児慢性疾患の特徴と適切な対応 免疫と関わるアレルギー疾患の特徴と対応を学びます。また、アレルギー疾患、慢性疾患をベアワークでまとめ、発表します。学んだことをアウトプットをすることで、知識を確実なものにいきます。また、友達の発表を聞くことで、情報の共有や新しい知識を得られ、刺激となり自分自身の学びの機会としていきます。	アレルギー疾患、慢性疾患についてまとめる。	1時間
第14回	保護者の情報共有と家族支援 様々な子どもたちの健康状況と支援についての具体的な情報共有の方法を学んでいきます。 また、本授業の総括をし、理解の難しかったところなどを復習していきます。	第1回からのレジュメを整理し、持ってくる。理解できていないところがないか、確認する。	1時間

授業科目名	こども音楽療育概論				
担当教員名	加戸 敬子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	音楽療法士として、障害児（者）、精神障害者、神経難病患者への音楽療法を、施設、病院にて実施。（加戸；全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

音楽の特性を利用し、病気や障がいをもつ子どもへの療育を行う方法や理論について学修する。音楽が流れると自然にからだが動いたり声が出たりするのは、人が生来的に持っている反応で、脳の機能に関係している。言語表現が未熟な子どもや、障がいによりコミュニケーションをとることが困難な子どもに対し、音楽の機能を意図的に用いて心身の発達を促すのが音楽療育である。本授業では、音楽療法の原理を基に音楽療育の基礎的な知識と技術を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	施設や園での音楽の役割	音楽の機能と音楽療育の目的を述べるができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	障害児への療育としての音楽スキル	活動に応じた楽器奏、伴奏、歌唱の選曲ができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		従来の音楽教育との違いについて述べるができる。
2. DP5. 計画・立案力		障害の特性に応じた療育の目的と方法を計画することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 遅刻3回につき1回欠席とみなす。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
振り返りシート14回	： 各回の授業内でのまとめと考察を評価する。授業内容を踏まえ独自の考えが述べられており、具体例が挙げられていれば3点、授業内容を踏まえ課題について述べられていれば2点、授業内容に沿っていれば1点とする。
20 %	
授業内ワーク・確認テスト	： 小集団での楽器奏、歌唱、創作等を行い、目的に沿いオリジナルのアイデアが盛り込まれていれば5点、目的に沿って音楽としての流れが良ければ4点、目的に沿っていれば3点とする。
40 %	
学期末試験	： 音楽療育の基礎知識、音楽療育と音楽教育の違い、教育・保育現場で音楽による支援についての理解度を測る。定期試験時に確認テスト結果を振り返り評価を行う。
30 %	
受講態度	： 各回、授業への積極的な参加（発表や質問への加点）と、受講態度（受講マナーや私語などによる授業の妨げなどは減点）により、総合的に評価する。
10 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
生野里花・二俣泉	・音楽療法のためのオリジナル曲集「静かな森の大きな木」	・春秋社	・2001 年

参考文献等

『統合保育・教育現場に応用する 音楽療法・音遊び』下川英子 音楽之友社 2009年
『音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル』二俣泉・鈴木涼子 春秋社 2011年
『音楽療法のためのピアノ小品集』クライヴ・ロビンズ ヤマハミュージックメディア 2002年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目はこども音楽療育士資格のための科目で、幼二免、保育士資格に関わる科目の一部と、2 回生時に「こども音楽療育演習」および「こども音楽療育実習」の単位を取得することにより資格が取得できる。なお、2 回生「こども音楽療育演習」は本科目で一定の成績を修めた者が受講できる。
2 単位の科目であるため、平均すると毎回 4 時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後、火・金の昼休み
場所：	西館 6 階加戸研究室
備考・注意事項：	上記以外は担当教員に問い合わせること。kato-hi@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション、こども音楽療育とは 授業の概要と評価方法、こども音楽療育士資格について説明し、受講生の音楽歴、演奏経験を確認する。 音楽療育現場での『はじめの歌 1』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、自分の音楽歴と心理的に作用したと思われる曲について考えておく。	4時間
第2回 音と音楽の起源 聴覚と音の関係を知る。人類が音を音楽に発展させたと考えられている 6 つの起源説から人類と音楽の歴史について考える。 音楽療育現場での『はじめの歌 2』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、自分の思うところの音楽の起源についてまとめておく。	4時間
第3回 音楽療法の歴史と音楽療育 古代の治療・儀式としての音楽から現代の音楽教育・音楽療法へと発展した経緯について討議し、知識を深める。 音楽療育現場での『はじめの歌 3』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、音楽教育と音楽療法の相違点についてまとめる。	4時間
第4回 音楽のもつ作用 音楽のもつ生理的・心理的・社会的作用とスピリチュアルケアについて、体験を通して学ぶ。 音楽療育現場での『発声の歌』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、音楽の作用について自己の体験を基にまとめておく。	4時間
第5回 様々な領域での音楽療法 障害児・者、精神疾患、高齢者、緩和ケア、難病患者などを対象にした音楽療法を知り、対象に応じた音楽療法の目的と手法、期待できる効果を知る。 音楽療育現場での『楽器活動 1』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、任意の領域について自分の考えをまとめる。	4時間
第6回 障がい児の特性と音楽による支援、こどもホスピス 身体障害、知的障害、発達障害等の病理と特性を知り、障害受容と親支援、きょうだい支援についての学びを通して音楽による支援方法を知る。 病弱児の定義と「こどもホスピス」での音楽療法を紹介し、小児癌と重度障害児への音楽の意義について考察する。 音楽療育現場での『楽器活動 2』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、障害児をもつ親、きょうだいの支援について調べておく。	4時間
第7回 即興演奏と創造的音楽療法 即興音楽について知り、ノードフ・ロビンズの創造的音楽療法を、記録映像と体験を通して学ぶ。 音楽療育現場での『楽器活動 3』のワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、創造的音楽療法についてネット等で調べておく。	4時間
第8回 音楽療法の実践領域① 音楽と記憶 認知症高齢者への音楽療法を通して、音楽と記憶との結びつきを学ぶ。 精神科病棟での音楽療法を通して、音楽による社会性、協調性の獲得について学ぶ。 音楽療育現場での『音楽遊び 1』ワーク、セッション表の作成	振り返りシートの作成、記憶と脳との関係について調べておく。	4時間
第9回 音楽療法の実践領域② 心理的作用	振り返りシートの作成、神経難病の種類と症状について調べておく。	4時間

	神経難病患者（パーキンソン病、筋ジストロフィー、ALS等）、ターミナルケアとしての音楽療法を通して、音楽による心理ケア、スピリチュアルケアについて学ぶ。 音楽療育現場での『音楽遊び2』のワーク、セッション表の作成		
第10回	音楽と遊び、ドラムサークル 発達や目的に応じた歌・楽器を使った遊びを通して自己表現や社会性を身につける方法を探る。 言語を用いないドラム合奏を体験し、リズムによる一体感、達成感を体感する。 音楽療育現場での『音楽遊び3』のワーク、セッション表の作成	振り返しシートの作成、幼児を対象にした手遊びや歌体操について調べておく。	4時間
第11回	音楽療法の実践領域③ 発達障害児・者 発達障害についての理解を深め、発達障害児を含む保育現場での音楽療育、音楽療法が行なわれている現場とセッション内容について知る。 音楽療育現場での『おわりの歌1』のワーク、セッション表の作成	振り返しシートの作成、保育における発達障害児への支援方法についてまとめる。	4時間
第12回	音楽療育によるコミュニケーション 療育現場での障害児のコミュニケーション方法を想定し、音楽による対象児との関わり方について検討する。音楽療育現場での『おわりの歌2』のワーク、セッション表の作成	振り返しシートの作成、言語以外のコミュニケーション法について調べておく。	4時間
第13回	音楽療育現場での楽器、手作り楽器 実践で使用する楽器とその演奏法、目的について学ぶ。 身の回りのものを使って簡易楽器を作成する。 音楽療育現場での『おわりの歌3』のワーク、セッション表の作成	振り返しシートの作成、楽器の種類と演奏法についてまとめる。	4時間
第14回	セッションの記録と評価、まとめ セッションの記録の取り方と評価方法について学ぶ。 既習内容の確認 今までのセッション表を基に、1つのセッションプログラムを検討する。	振り返しシートの作成、全セッション表をまとめ、1セッションの流れを想定する。	4時間

授業科目名	保育実習Ⅰ（施設）				
担当教員名	中川 陽子・鈴木 大介				
学年・コース等	1回生	開講期間	通年（1後～2前）	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

実習に臨み、日常生活や余暇活動を通して福祉施設の役割や機能等を理解する。
利用児・者の活動を観察することにより、また直接関わることにより、利用児・者の表面的な行動だけではなく、発達や内面の思いへの理解を深めていく。
実習までに学んだ教科を基盤にして、養護内容、施設環境の実際を具体的に学ぶ。福祉施設における対象者（成人含む）の人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	福祉施設職員としての知識・技能の修得	福祉現場での実習を通して、施設の果たすべき役割について説明することができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	福祉施設職員としての具体的な保育と支援の実施	施設利用者に施設の機能を活用し、個々の利用児・者に応じた支援をする力量を身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		利用児・者を取り巻く環境を理解し個々の利用者にあつた適切な支援方策を発見することができる。
2. DP6. 行動・実践		個々の利用児・者に則した支援を提供することができる。
3. DP9. 役割理解・連携行動		福祉施設の役割機能を理解するとともに、協働や関係機関との連携の必要性を学ぶことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

実習は10日以上、80時間以上の実習時間がなければ実習放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
実習自己課題設定と中間振り返り	： 学生の自己課題の設定および準備、実習に対する取り組みについて10点満点で評価する。
10 %	
実習状況	： 遅刻や早退などの状況、提出物の提出状況を10点満点で評価する。
10 %	
実習日誌	： 要点を押さえて実習記録をまとめているかを20点満点で評価する。
20 %	
実習施設による評価	： 実習施設からの評価を40点満点に換算して評価する。
40 %	
実習報告	： 実習の振り返りおよびそのレポートを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科

その他適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を成功させるには、毎日の実習終了後、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすること。毎日2時間はかかると考えておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 初回授業時に提示する
- 場所： 各教員による
- 備考・注意事項： 実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導Ⅰの授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	1回生2月～3月、福祉施設での実習 学校で得た教科全体の知識、技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。児童や利用者に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。児童養護施設等の児童福祉施設（通所型・入所型含めて）や障害者施設でそれぞれの施設の役割や機能、子どもの養育や利用者への支援及び保護や家庭への支援、児童の自立支援計画、観察、記録及び自己評価などを具体的に理解し、保育士業務や職業倫理について学ぶ。	実習記録を記載するとともに、次の日の実習課題、目標等を計画的に準備（毎日2時間以上）すること。	20時間

授業科目名	子ども家庭福祉				
担当教員名	中川 陽子・小島 知子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小島先生：乳児院・児童養護施設において児童指導員、心理療法担当職員として勤務。また児童家庭支援センターでの心理職やスクールカウンセラー、キンダーカウンセラーとして対人相談援助職の勤務経験も有する。（全14回） 中川：障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

子ども家庭福祉の実践は、子どもたちの幸せを保障するために、子ども・子どもが暮らす家庭・子どもが生活する地域社会に対して行われるものである。本科目では、現代社会における子どもを取り巻く状況を知り、保育者として必要な子ども家庭福祉の法制度、機関、サービスについての知識を学び、環境調整にあたる姿勢を養うことを目的とする。また、社会の状況を把握したうえで、児童の権利擁護の視点も含めた支援のあり方について学び、理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	福祉専門職としての基礎的知識の習得。	子ども家庭福祉の知識を習得し、子どもや家庭を取り巻く環境を説明することができる。
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	福祉専門職としての役割の理解。	対象者の代弁者としてアドボケートすることを理解し、説明することができる。
汎用的な力		
1. DP8. 意思疎通		他者の意見をよく聴き、自分の意見を正確に伝えることができる。
2. DP10. 忠恕の心		他者の立場に立って考え、行動することができる。
3. DP4. 課題発見		現代の子どもと家庭における問題や課題を自ら考え、今後の解決策を見出すことができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・課題解決学習（PBL）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とする。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題	： 「子ども家庭福祉」授業内にて、子ども家庭福祉の基礎的な理解に関する確認を独自のルーブリックに基づいて適時実施し30%換算で評価する。
30 %	
振り返りシート	： 授業内にて実施する「子ども家庭福祉」振り返りシートを独自のルーブリックに基づいて適時実施し、30%換算で評価する。
30 %	
授業への取り組み状況	： 各回授業に取り組む姿勢や意欲、グループ討議や発表などの積極性や論理性をもとに20%換算で評価する。
20 %	
定期試験（レポート）	： 「子ども家庭福祉」授業全体の理解度や見解について定期試験（レポート）を実施し、20%換算で評価する。
20 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田邊 哲雄・中 典子 編	・「第5版 子ども家庭福祉論」	・晃洋書房	・2025 年

参考文献等

参考文献は、適宜授業内で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、予習復習すること。
授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に提示する

場所： 各教員による

備考・注意事項： 各教員で質問の方法が異なります。初回授業時に確認してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 現代社会と子ども—子ども家庭福祉とは— ・授業内容・計画及び評価方法 ・子どもの定義と子ども家庭福祉の理念と概念 ・子どもを取り巻く養育環境・生活環境の変化 ・子ども家庭福祉を学ぶことの意義について学びます。	子ども家庭福祉とは何か考えをまとめておくこと。	4時間
第2回 子どもの権利 ・子ども家庭福祉と子どもの権利 ・子どもの権利の歴史的変遷 子どもの権利を守る取り組みについて学びます。	前回の復習及び子どもや家庭に関する新聞記事などを確認し、子ども家庭福祉の現状について知る。	4時間
第3回 子ども家庭福祉の歴史 ・欧米の児童福祉の歴史 ・日本の児童福祉の歴史 ・児童家庭福祉から子ども家庭福祉について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第4回 こども家庭福祉の法と体系 ・子ども福祉を支える法と制度の基礎 ・児童福祉法 ・子ども家庭福祉にかかわる法律について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第5回 子ども家庭福祉の実施機関と財源 ・国の実施機関 ・都道府県による実施機関 ・市町村による実施機関 ・地域での実施機関について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第6回 子ども家庭福祉の専門職 ・専門職としての福祉の仕事 ・子ども家庭福祉の専門職（行政機関・児童福祉施設の専門職） ・子ども家庭福祉専門職の専門性の向上について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第7回 子育て支援 ・少子化と子育て支援の動向 ・子ども・子育て支援新制度 ・今後の子育て支援施策 ・子育て段階に応じた支援 ・母子保健と健全育成について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第8回 多様な保育サービス ・保育所とは ・保育所を取り巻く環境 ・保育所保育の特性 ・多様な保育ニーズへの対応 ・地域の関係機関・施設とのつながりについて学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第9回 社会的養護	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間

	・社会的養護とはなにか ・社会的養護の形態・現状 ・保育者と社会的養護の関係性 ・子どもの最善の利益と社会的養護について学びます。		
第10回	障害のある子どもの福祉と家族支援 ・障害とは何か ・ライフステージにおける障害児者福祉サービス ・障害児の保育と教育との連携 ・家族を取り巻く現状と支援について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第11回	ひとり親家庭 ・子ども家庭福祉とひとり親家庭 ・ひとり親家庭を取り巻く社会状況 ・ひとり親家庭への支援について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第12回	貧困家庭、外国籍等の子どもとその家族への対応 ・貧困家庭の子どもたち ・貧困が及ぼす子どもへの影響 ・貧困家庭への対応 ・外国籍等の特別な配慮が必要な背景のある子どもとその家庭への対応について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第13回	子ども虐待・非行 ・子ども虐待とは何か ・子ども虐待の実態 ・子ども虐待への支援 ・非行という言葉 ・非行の動向 ・非行への対応 ・非行の原因と克服について学びます。	前回の復習及び次回の授業該当箇所について確認しておくこと。	4時間
第14回	子ども家庭福祉の課題 ・次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 ・地域における連携・協働とネットワーク ・近年の子ども家庭福祉にまつわる諸問題 ・子ども家庭福祉の中にある「保育」について学びます。	前回の復習及び定期試験について確認し準備しておくこと。	4時間

授業科目名	乳児保育Ⅰ				
担当教員名	樋口 奈生				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育現場での勤務経験を有する。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では人の一生の中で最も著しい発育、発達をとげる乳児期（3歳未満児）の特徴を理解し、適切な養育・保育の方法を習得することを目指す。乳児保育の理念と役割、現状と課題等、乳児保育の実施に関する基本理念と現状を理解する。現在の保育制度・政策にも目をむけ、乳児保育がなぜ必要なのか、社会的背景から考えていく。また、今般の乳児保育施設に求められる保護者および関連機関とのパートナーシップについても理解を深める。保育の質を高めるために必要な課題は何か理論的に考え乳児保育の重要性を学ぶことを本科目の目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

乳児の発達、発育の理解に関わる確かな知識、職業理解

目標：

乳児保育に関わる確かな知識、職業理解を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP9. 役割理解・連携行動

乳児を取り巻く社会情勢に関心をもち、論理的に考え課題を明らかにすることができる。

集団やチームの中で役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回の授業に出席することを原則とする。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内の小テスト・レポート

評価の基準

： 授業内での小テスト・レポートを作成し授業内容の理解度、考察度を評価する。

40 %

授業内の演習・発表、態度

： 授業に臨む態度の積極性、演習・発表の内容について評価する。

20 %

期末レポート

： 授業内容を理解し、課題に即した内容で記述できているか評価する。

40 %

使用教科書

指定する

著者

志村聡子

タイトル

・ はじめて学ぶ乳児保育 9784810315158

出版社

・ 同文書院

出版年

・ 2022 年

参考文献等

特に無し

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期2単位の科目である。
授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を復習し次回の授業に向けてテキストの該当箇所を読んで次回の授業に向けて予習をすること。
また与えられた課題の提出期限を守ることは必須であり、保育者を目指す者として積極的に授業に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	授業教室
備考・注意事項：	授業の前後に質問を受ける。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	乳児保育の意義・目的 乳児保育はなぜ必要なのか、意義と目的を学びます。 また、乳児保育の歴史の変遷について学びます。	教科書レッスン1を読む	4時間
第2回	乳児保育の役割・乳児保育の成り立ち 乳児保育の役割と機能、乳児保育の成り立ちを学びます。	第1回の授業を振り返るとともに、名札の制作	4時間
第3回	子ども・子育て支援制度 3歳児未満児の家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について学びます。	第2回の授業を振り返るとともに、名札の制作	4時間
第4回	知っておきたい法律のいろいろ 乳児保育に関連する法律（児童福祉法など）について学びます。	日本の育児制度をネットなどで調べ諸外国との違いをまとめる	4時間
第5回	保育所保育指針とは 保育所保育指針の目的・現行指針の改定ポイントについて学びます。	第4回の授業を振り返るとともに、教科書レッスン4を読む	4時間
第6回	保育所保育指針における乳児保育のポイント（発達過程） 0.1.2歳児の発達過程について学びます。	乳児保育に求められるものはなにかまとめる	4時間
第7回	保育所保育指針における乳児保育のポイント（配慮事項） 0.1.2歳児の保育に関わる配慮事項について学びます。 「ブックスタート運動」について学びます。	乳児絵本紹介のポップ制作	4時間
第8回	人生の基礎としての乳児期・乳児のこころの発達 ポルトマンの考え方に学ぶ・身近な人との絆を育む過程を学びます。	乳児絵本紹介のポップ制作、第7回の授業を振り返るとともに、教科書レッスン7・8を読む	4時間
第9回	乳児のことばの発達 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わりについて学びます。 乳児絵本紹介のポップ発表	事例ことばの育ちについて考えをまとめる	4時間
第10回	乳児のからだ からだの発達と運動機能の発達について学びます。	第9回の授業を振り返るとともに、教科書レッスン10を読む	4時間
第11回	保育所で過ごす1日の流れ 年齢別デイリープログラムについて学びます。	コラム5を読んで感想を書く	4時間
第12回	保護者との連携を考える 乳児を取り巻く協力関係について学びます。	第11回の授業振り返るとともに、教科書レッスン13を読む	4時間
第13回	複数担任制・発達の遅れと向き合う 保育者同士の連携の在り方・保護者支援について学びます。	第12回の授業振り返るとともに、教科書レッスン11・14を読む	4時間
第14回	乳児保育の今後の課題 これまでの授業を振り返るとともに、乳児保育とは何か、乳児保育の重要性について再確認します。	これまでの授業を振り返りまとめる。	4時間

授業科目名	乳児保育Ⅱ				
担当教員名	樋口 奈生				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育現場での実務経験を有する。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では乳児保育Ⅰを踏まえて、乳児保育に必要な知識や技術をさらに習得することを目指す。養護及び教育の一体を踏まえ、三歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。また赤ちゃん人形を用いた実技、指導計画の立案、教材研究等の実技を行い具体的な技能も高め視野を広め研鑽をつめるようにしていく。
保育の質を高めるために必要な課題は何か考え乳児の重要性を学ぶことを本科目の目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

乳児の発達、発育の理解に関わる確かな知識、職業理解
保育実践を構想する力

目標：

乳児保育に関わる確かな知識、職業理解を身につけることができる。
乳児の生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に考えることができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP9. 役割理解・連携行動

乳児の発育・発達を踏まえ、乳児保育における計画を具体的に作成することができる。
集団やチームの中で役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回の授業に出席することを原則とする。規定回以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業内小テスト・レポート

30 %

期末レポート

30 %

授業内の演習・発表・態度

40 %

評価の基準

： 授業内での小テスト・レポートを作成し授業内容の理解度、考察度を評価する。

： 授業内容を理解し、課題に即した内容で記述できているか評価する。

： 保育者となる自覚をもって授業に臨む態度や積極性、演習・発表の内容について評価する。

使用教科書

指定する

著者

タイトル

出版社

出版年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は後期1単位の科目である。
授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を復習し次回の授業に向けてのテキストの該当箇所を読んで次回の授業に向けて予習をすること。
また与えられた課題の提出期限を守ることは必須であり、保育者を目指す者として積極的に授業に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：授業前後

場所：授業教室

備考・注意事項：授業の前後に質問を受ける。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	乳児保育の基本① 子どもと保育士等との関係の重要性について学びます。	愛着について理解を深める	1時間
第2回	乳児保育における安全管理 乳児を事故から守る方法を学びます。	安全管理についてまとめる	1時間
第3回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践①抱き方・おんぶの仕方 乳児との触れ合いの基本を学びます。	乳児の抱き方をまとめる	1時間
第4回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践②着替え・おむつ交換 着替えの配慮、排泄への対応を学びます。	着替え・おむつ交換についてまとめる	1時間
第5回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践③授乳・調乳 授乳の仕方、調乳、冷凍母乳について学びます。	調乳・授乳についてまとめる	1時間
第6回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践④離乳食の介助 離乳食の介助方法について学びます。	離乳食の介助についてまとめる	1時間
第7回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践⑤おもちゃ（軍手人形指導計画の作成） 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践について学びます。 （軍手人形指導計画の作成）	軍手人形の計画書作成	1時間
第8回	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践⑥おもちゃ（軍手人形の発表） 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践について学びます。 （軍手人形の発表）	発表のまとめと反省	1時間
第9回	乳児保育における配慮の実践①健康 乳児期特有の病気とくすりの取り扱いを学びます。	乳幼児突然死症候群や乳幼児揺さぶられ症候群についてまとめる	1時間
第10回	乳児保育における配慮の実践②環境 乳児保育における環境の実践について学びます。	乳児保育における環境製作	1時間
第11回	乳児保育における配慮の実践③連絡帳 保護者との連携について学びます。	連絡帳及の書き方についてまとめる	1時間
第12回	乳児保育における計画の実践①実践 長期的な指導計画と短期的な指導計画について学びます。	乳児の遊びについて調べる	1時間
第13回	乳児保育における計画の実践②実践・振り返り 個別的な指導計画と集団の指導計画について学びます。	指導計画を見直し、乳児保育のねらいや子どもについての理解を深める	1時間
第14回	乳児保育の総合的理解 これまでの授業を振り返るとともに、保育現場での実際の保育について確認し、まとめます。	授業全体を振り返り乳児保育の重要性を確認し、まとめる	1時間

授業科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）				
担当教員名	中川 陽子・鈴木 大介				
学年・コース等	1回生	開講期間	通年（1後～2前）	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育所以外の社会福祉施設での実習にあたり、福祉施設の機能・役割・生活の流れなど実践を通して理解し、施設実習への関心を深めることをねらいとして、授業を行う。
また、実習施設における支援内容について具体的なイメージを持ち実習に臨めるよう、保育実習に関する基礎的な知識が習得できる授業内容にしている。内容としては、保育実習の意義・目的、それぞれの施設の特徴、実習内容の理解、自らの課題の明確化を行う。また実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮及びプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

福祉専門職の意義や職務内容、専門知識に関する理解

目標：

施設実習の意義・目的を理解し、保育者として必要な知識・技能・実践能力の習得をめざして、自らの課題や学習目標を持って実習に臨むことができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

施設実習における計画を立て、その実行に踏み出し、やり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	：	実習や実習指導を振り返り、保育者として必要な知識や技術および役割について、要点を押さえて記入しているかを30点満点で評価する。
授業内課題	：	個人調査票等が要点を押さえ、期限内に作成・提出できているかを評価する。
授業への取り組み状況	：	各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に15点満点で評価する。
授業内提出物	：	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限を守れているかなどを総合的に35点満点で評価する。

使用教科書

指定する

著者

近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子

タイトル

・新・基本保育シリーズ㊟保

出版社

・中央法規

出版年

・2019 年

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」 厚生労働省
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 内閣府 文部科学省 厚生労働省
- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 初回授業時に提示する
- 場所： 各教員による
- 備考・注意事項： 実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導Ⅰの授業で案内します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	施設実習の意義と目的 ・保育実習（施設）の意義や目的 ・保育実習指導の授業の流れ ・保育実習の年間計画について学びます。	ワークシートの作成、子どもの権利条約について調べておく	1時間
第2回	保育実習と人権 福祉施設の対象である子どもや利用者の人権について学びます。	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P124-131、136-146）から人権の理解を深める。	1時間
第3回	施設における保育の役割と利用者理解 ・福祉施設における保育者の役割について学びます。 ・福祉施設の利用者について、その傾向や背景、特徴などについて学びます。（虐待や発達障害等）	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P200-208）を通して、施設実習の理解を深める。	1時間
第4回	福祉施設の理解（障がい児関係施設） 障害児入所施設や児童発達支援センターについて学び、その理解を深めます。	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P208-212）により、障がい児・者の施設理解を深める。	1時間
第5回	福祉施設の理解（障がい者関係施設） 障害者支援施設や障害福祉サービス事業所について学び、その理解を深めます。	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P186-190）を通して、障がい福祉サービス事業をより深く理解する。	1時間
第6回	福祉施設の理解（社会的養護：乳児院） 乳児院について学び、その理解を深めます。	ワークシートの作成、実習テキストの通読（P190-196）を通して、乳児院での実習の留意点を学ぶ。	1時間
第7回	福祉施設の理解（社会的養護：児童養護施設・母子生活支援施設） ・児童養護施設について学び、その理解を深めます。 ・母子生活支援施設について学び、その理解を深めます。	ワークシートの作成、実習テキストの通読を通して、児童養護施設、母子生活支援施設での実習の留意点を学ぶ。	1時間
第8回	施設内の環境（安全と衛生） ・福祉施設における生活環境の整備について学びます。 ・福祉施設における安全管理、健康管理、危機管理などについて学びます。	ワークシートの作成、実習テキストの通読を通して、施設内の安全や衛生について理解を深める。	1時間
第9回	実習課題および実習施設研究 ・配当された実習先の種別、施設の検索 ・実習課題の理解を深めるとともに、課題の立て方を学びます。 ・保育実習Ⅰ（施設）の目的を理解し、目標を明確にします。	ワークシートの作成、各実習先のHPや資料をまとめておく。	1時間
第10回	個人調査票の作成 第9回目に行った種別の確認と実習先の特色について明確にし、個人調査票の作成をします。 ・施設実習に向けて、実習目標とその達成課題を考えます。 ・具体的に学びたい事柄を明確にし、課題遂行方法を考えます。 ・実習個人票の書き方、留意事項について学びます。	実習指導テキストや検索物の通読、個人調査票の完成を目指す	1時間
第11回	施設実習における実習記録の書き方／個人調査票の修正・清書 ・施設実習で使用する実習記録の書き方を学びます。 ・施設実習における記録の基礎を学びます。 ・「施設概要」「活動記録」の欄の書き方と留意事項を学びます。 ・「エピソード（内容・感想・疑問・考察）」「反省・課題」欄の記載について学びます。 ・実習における準備及び諸確認を行います。（検温、検体、出勤簿、誓約書、欠席時の対応、お礼状の書き方等） ・個人調査票の修正、清書の提出を行います。	ワークシートの作成。各実習先の資料をもとに実習記録の施設の概要をまとめる。個人調査票の清書の提出	1時間

第12回	施設現場における利用者対応と実習の留意点について ・施設現場からみた保育実習の留意点や事前準備、実習生の在り方について学びます。 ・福祉施設で働く卒業生（施設種別ごと）に登壇してもらい、上記観点について講演いただきます。 ・施設職員（卒業生）の話を聞いたうえで、実習への向き合いかた、個別の事前準備等について考察します。	ワークシートの作成。	1時間
第13回	実習の心構えと実習に臨む際の留意事項の最終確認 ・外部講師を招聘し、現場視点から実習に向けての留意事項・現場理解に関する講義を行います。 ・施設実習の心構えについて学びます。 ・実習にむけての最終チェックを行います。	ワークシートの作成	1時間
第14回	保育実習Ⅰ（施設）の振り返り ・保育実習Ⅰ（施設）の振り返りを行います。 ・保育実習ⅡⅢへの学びの活用を考えます。	グループ演習のワークシート作成。	1時間

授業科目名	社会的養護Ⅰ				
担当教員名	中川 陽子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会的養護の理念と概念について理解するとともに、社会的養護の観点に立った児童養護の理論と施設養護、家庭養護の実践を学ぶ。また、社会的養護における子どもの権利擁護と援助者である保育士等の倫理と責務を学ぶとともに、多様なニーズを抱える社会的養護の現状と課題について考えることができることを目的とする。また、子どもの最善の利益を実現するために、社会的養護が果たすべき役割について理解を深め、保育士としての専門的資質の習得を目指す。さらに、現代社会における児童養護問題の発生要因等が理解し、その予防のための保育者のあり方について考え実践するための知識を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

福祉分野の専門知識

目標：

社会的養護に関する基礎的理解と社会的養護を必要とする子どもたちを取り巻く状況等について理解し、説明することができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP8. 意思疎通

社会的養護に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。

他人の意見をふまえて、社会的養護に関する自分の意図や主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	：	授業内にて、「社会的養護Ⅰ」の基礎的な理解に関する確認を独自のルーブリックに基づいて実施し、30%換算で評価する。
30 %		
振り返りシート	：	授業内にて実施する「社会的養護Ⅰ」振り返りシートを独自のルーブリックに基づいて適時実施し、30%換算で評価する。
30 %		
授業への取り組み状況	：	各回授業に取り組む姿勢や意欲、グループ討議や発表などの積極性や論理性をもとに20%換算で評価する。
20 %		
定期試験（レポート）	：	「社会的養護Ⅰ」授業全体の理解度や見解について20%換算で評価する。
20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
芝野松次郎・新川康弘・山川弘和（編著）	・ 社会的養護入門	・ ミネルヴァ書房	・ 2021 年

参考文献等

参考文献は適宜授業内で紹介します。
芝野松次郎・新川康弘・山川弘和 編著（2021）『社会的養護入門』（ミネルヴァ書房）が使用教科書です。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間以上の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の予習をし、内容を記録しておくこと。授業外学修課題として振り返りシートを作成し、次回授業で提出すること。授業内マナーを守り積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回授業時に提示する
場所：	中川研究室
備考・注意事項：	その他の曜日や時間に面談を希望する場合は、Gメールで事前に連絡をしてください。 Gメールには、学年・クラス・学籍番号・名前を明記してください。 Gメールアドレス nakagawa-yo@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 現代社会における社会的養護の意義 ・授業内容・計画及び評価方法の説明をします。 ・社会的養護を学ぶことの意義と授業の進め方について説明します。 ・社会的養護と関連概念について学びます。 ・社会的養護の基本的な考え方と体系について理解します。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第2回 社会的養護の歴史的変遷 ・海外・日本における社会的養護の歩みについて学びます。 ・「子どもの最善の利益」と「あたりまえの生活」について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第3回 社会的養護の基本・制度・法体系 ・社会的養護における法制度、子どもの権利の視点について学びます。 ・社会的養護の基本原則について学びます。 ・社会的養護における保育士等の倫理と責務について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第4回 社会的養護の仕組みと実施体系 ・社会的養護の仕組みと実施体系について学びます。 ・児童福祉法の改正と「新しい社会的養育ビジョン」について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第5回 里親、ファミリーホーム、養子縁組 ・家庭養護の推進について学びます。 ・里親制度について学びます。 ・小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）について学びます。 ・養子縁組について学びます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第6回 社会的養護の実践①児童養護施設、児童自立支援施設、自立援助ホーム ・児童養護施設、児童自立支援施設、児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）について学びます。 ・各々の施設に関する法制度や専門職、子どもたちの生活について学びます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第7回 社会的養護の実践②乳児院、母子生活支援施設、児童心理治療施設 ・乳児院、母子生活支援施設、児童心理治療施設について学びます。 ・各々の施設に関する法制度や専門職、子どもたちの生活について学びます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第8回 社会的養護の専門職 ・児童福祉施設に配置されている主な職種とその役割について学びます。 ・フォスターリング機関（里親養育包括支援機関）と多職種連携について学びます。 ・社会的養護におけるソーシャルワークの視点について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間

第9回	社会的養護の施設等の運営管理 ・乳児院・児童養護施設の高機能化及び多機能化・機能転換・小規模化・地域分散化について学びます。 ・被措置児童等の虐待防止とその取り組みについて学びます。 ・第三者評価について学びます。 ・施設保育士としての倫理について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第10回	社会的養護における子ども理解と支援の実際 ・社会的養護における子どもの理解について学びます。 ・日常生活支援について学びます。 ・施設保育士に求められることを考えます。 ・課題を課し、社会的養護に関する基本的知識、応用的知識に対する理解度を確認します。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第11回	社会的養護における生活の特性と支援の実際 ・児童養護施設、里親の事例から法制度、専門職、子どもの生活について学びを深めます。 ・保育者として必要なスキルについて考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第12回	社会的養護におけるケアの展開と支援の計画、記録及び自己評価 ・社会的養護の展開過程（アドミッションケア、インケア、リービングケア、アフターケア）、アセスメント、自立支援計画について学びます。 ・ケース記録、自己評価、ケースカンファレンスについて学びます。 ・事例をもとに子どもの最善の利益と家庭への支援について考えます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第13回	社会的養護に関わる専門的技術と実践 ・事例に基づき、専門的技術について学びます。 ・施設保育士のあり方について考え、自己覚知をしていきます。 ・親子分離を予防する在宅支援における社会的養護の活用について学びます。 ・パーマネンシー保障について学びます。 ・家庭養護の推進と施設養護の専門機能化、人材養成と待遇の改善に向けてについて学びます。	授業内容の振り返りを行う。次回の講義に該当する部分を通読し、自学として教科書に調べたことを書き込む。	4時間
第14回	社会的養護の課題と展望 ・米国における子ども虐待に対する法制度的対応と家庭維持の取り組みについて学びます。 ・日本の社会的養護改革への動きと児童福祉法、新しい社会的養育ビジョンについて考えます。 ・今までの授業のまとめと振り返りを行います。	学修成果物を完成させる。社会的養護Ⅰに関しての理解度の確認を行いながら目標達成度、自己評価を行っておくこと。本科目について振り返りを行い、定期試験準備をする。	4時間

授業科目名	社会的養護Ⅱ				
担当教員名	鈴木 大介・畠中 大輔				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	畠中：1995年より児童養護施設 公徳学園にて勤務。現在は主任指導員および個別対応職員。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

社会的養護Ⅰで学んだことをもとにして、具体的に児童養護の理論と体系（施設養護、家庭的養護、家庭養護）の実際を学んでいく。また社会的養護にかかわる保育士としての専門的資質を養うために、社会的養護施設における子どもの生活の実際や、ソーシャルワークの方法と理論、技術、社会的養護にかかわる専門職、社会的養護にかかわる子どもたちの権利擁護について理解し、子どもの自立を支援するために必要な援助の理論、知識、方法について学んでいく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

社会的養護の専門知識及び技術

目標：

社会的養護にかかわる保育者として、社会的養護にかかわる子どもたちや保護者、家庭への対応技術を身につけ、自分の考えを述べるができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

社会的養護の実践に関する他人の意見や主張を正確に把握することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	：	社会的養護にかかわる保育者としての基礎的理解に関する問題を授業内課題として課し、評価する。
20	%	
振り返りシート	：	独自ループリックに基づいて、振り返りシート(10回分)を0～3点で評価し、総合点数を30点満点で換算し評価する。
30	%	
授業への取り組み状況	：	独自ループリックに基づき、授業に取り組む姿勢や意欲、グループ討議や発表などの積極性や理論性を総合的に評価する。
30	%	
試験(レポート)	：	社会的養護にかかわる子どもたちや保護者、家庭への対応技術に関しての事例に対して、14回の授業の振り返りから自身の考察をレポートとし、評価する。
20	%	

使用教科書

指定する

著者

杉山宗尚・原田句哉 編著

タイトル

・ 図解で学ぶ保育 社会的養護II

出版社

・ 萌文書林

出版年

・ 2021 年

参考文献等

適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間以上の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後

場所： 授業教室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 社会的養護Ⅱとは ・授業の内容・計画及び評価方法を説明します。 ・社会的養護Ⅰの復習をしながら全体的な枠組みと演習の進め方を説明します。 ・社会的養護にかかわる子どもたちのイメージとその支援内容について確認をします。	社会的養護の歴史や現状について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第2回 社会的養護の理解 ・社会的養護の歴史及び現状について学びます。 ・子どもや保護者を守るための取り組みについて学びます。	「新しい社会的養育ビジョン」及び社会的養護に関する法制度について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第3回 社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み ・「新しい社会的養育ビジョン」について考えます。 ・社会的養護に関する法制度について学びます。	社会的養護にかかわる保育士について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第4回 社会的養護にかかわる保育士の役割 ・社会的養護にかかわる保育士の役割について学びます。 ・保育士の倫理について学びます。 ・保育士の専門性について考えます。	社会的養護におけるアドミッションケアについて調べておく。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第5回 アドミッションケアー施設入所・里親委託前後の支援 ・子どもの保護について学びます。 ・施設入所・里親委託前後の支援を学びます。 ・自立支援計画について学びます。	社会的養護におけるインケアー日常生活支援について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第6回 インケアー日常生活支援 ・施設・里親における日常生活支援について学びます。 ・インケアにおける「衣食住」の支援について学びます。	社会的養護におけるインケアー治療的支援について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第7回 インケアー治療的支援 ・インケアにおける治療的支援について学びます。 ・インケアにおける心理療法について学びます。	社会的養護におけるアドミッションケア・インケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第8回 ケーススタディ：アドミッションケア・インケア ・事例を通して、アドミッションケアの具体的な支援について学びます。 ・事例を通して、インケアの具体的な支援について学びます。	社会的養護におけるリービングケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第9回 リービングケアー自立支援 ・子どもの自立へ向けた支援について学びます。 ・子どもの生き立ちを知るための支援について学びます。 ・人とつながるための支援について学びます。	社会的養護におけるアフターケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第10回 アフターケアー退所後の支援 ・家庭復帰に伴うアフターケアについて学びます。 ・就職・進学によって社会へ出た子どもへのアフターケアについて学びます。	社会的養護におけるリービングケア・アフターケアについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第11回 ケーススタディ：リービングケア・アフターケア ・事例を通して、リービングケアの具体的な支援について学びます。 ・事例を通して、アフターケアの具体的な支援について学びます。	社会的養護におけるソーシャルワークについて調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第12回 ソーシャルワーク ・社会的養護におけるソーシャルワークについて学びます。 ・社会的養護におけるバイスディックの7原則について学びます。	社会的養護における家庭支援・里親支援について調べる。次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間

第13回	家庭支援と里親支援 ・社会的養護における家庭支援について学びます。 ・社会的養護における里親支援について学びます。	社会的養護における記録と評価について調べる。 次回に該当するテキスト部分の通読。	1時間
第14回	支援の流れと記録・評価 ・事例を通して、自立支援計画の策定について学びます。 ・記録の意義・目的について学びます。 ・記録の方法・種類について学びます。 ・第三者評価の仕組みについて学びます。	テキストと配付資料を読み返し、社会的養護の理解を深める。	1時間

授業科目名	幼児と言葉				
担当教員名	松元 早苗・白瀬 浩司				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松元は、私立幼稚園、公立幼稚園で約20年間幼稚園教諭としての勤務経験がある。白瀬は、私立中学校・高等学校で教諭としての勤務経験があるほか、絵本専門士として講演や研修の講師を務めた。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育者としての自覚と責任、そして自信をもって保育実践に取り組むためにはコミュニケーションの基本でもある言葉についての学修を深めることが大切である。そこで、領域「言葉」の授業を通して、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を学修する。日常生活においても、人間の証といえる「言葉」の意義と機能について理解し、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を学修する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

幼児の言葉の意義・役割とその育み方を学ぶ

目標：

乳幼児期の発達とことばの関係において、言葉が育つことで言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことの意義・役割を理解できる。

2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

幼児の言葉に関する知識

幼児の言葉の発達過程の理解や、言葉を使うことの楽しさ、美しさを理解できる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

豊かな発想を生かして、創造的に取り組むことができる。

2. DP6. 行動・実践

個や小集団の力が発揮できるような発表 資料が作成できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則3分の2以上出席した場合のみ、評価の対象とします。規定回数以上の出席がなければ、無評価となります。レポートなどの提出については指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は受け付けません。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業時小課題	：	授業内のグループワーク（自己紹介/言葉遊び/絵本と紙芝居/ことわざ他）に基づく全員を前にした報告を評価する。
30	%	
授業ワークシート	：	個別の学修ワークシート（各回の学修テーマに沿った課題設定、学修成果）の記録を評価する。
30	%	
試験（小テスト・レポート）	：	定期的な確認のための小テスト4回実施（20％）。学んだ基礎的な「幼児と言葉」の内容について小論文（原稿用紙）の記述で評価する（20％）。
40	%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
太田光洋・古相正美・野中千都ほか	・ 保育内容「言葉」一話し、 考え、つながる言葉の力を 育てる―	・ 同文書院	・ 2021 年
柘植誠子・藤原牧子・松元早苗・園 田育代・向井秀幸	・ 子どもの心に届く言葉かけ ―保育の内容とその方法―	・ ミネルヴァ書房	・ 2018 年

参考文献等

- ・幼稚園教育要領（平成29年告示 文部科学省）ISBN978-4-577-81422-2
- ・保育所保育指針（平成29年告示 厚生労働省）ISBN978-4-577-81423-9
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府 文部科学省 厚生労働省）ISBN978-4-577-81424-6

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	教室、第3研究室、西館57研究室
備考・注意事項：	授業の前後、授業の教室、第3研究室（松元）、西館57研究室（白瀬）で受け付けます。 松元が不在で緊急を要する場合は、matsumoto-sa@g.osaka-seikei.ac.jpまで連絡してください。 白瀬が不在で緊急を要する場合は、shirase@g.osaka-seikei.ac.jpまで連絡してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育の基本と領域「言葉」 保育・幼児教育の基礎知識を踏まえ、領域「言葉」を学ぶ目的を知る。また、子どもの言葉をどう受けとめて関わるべきかを考える。さらに、保育・幼児教育のめざすもの、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿などを具体的に学ぶ。	幼児教育の基本や保育者に必要な資質等について理解し、保育者としての自覚がもてるようにする。	4時間
第2回	人の育ちと言葉の役割 人間にとっての言葉の意義とそれを獲得する過程を知り、さらに言葉が持つ機能や、子どもの言葉の育ちを支える土台について理解する。	言葉の意義・獲得過程・機能や言葉の育ちを支える土台について再確認する。	4時間
第3回	領域「言葉」の実践①―活動実践家から学ぶ― 領域「言葉」にかかわる活動の実践について理解する。外部講師を迎え、発達年齢に応じた絵本の選び方、子どもを惹きつける絵本の読み聞かせ方法（声のトーンや大きさ等）について学ぶ。	領域「言葉」の活動の一端について理解し、他にどのような活動があるかを調べてみる。	4時間
第4回	領域「言葉」の実践②―自己紹介アイテム作成― 領域「言葉」にかかわる活動に取り組む。実習園で用いる名札づくりや自己紹介アイテムの制作を行い、実演する。受講生同士で互いの実演を見ることで、領域「言葉」の具体的な活動について知見を拡げることにもなる。	制作が未完成の場合は、次時までに完成させ、実演に備える。	4時間
第5回	領域「言葉」のねらいと内容①―乳児保育― 乳児の発達を知り、領域「言葉」における乳児保育にかかわる「ねらい」および「内容」を理解する。	乳児の発達と、この時期の保育の「ねらい／内容」を確認し、小テストに備える。	4時間
第6回	領域「言葉」のねらいと内容②―1歳以上3歳未満児の保育― 1歳以上3歳未満児の発達を知り、乳児保育と連続する領域「言葉」における「ねらい」および「内容」を理解する。	1歳以上3歳未満児の発達と、この時期の保育の「ねらい／内容」を確認し、小テストに備える。	4時間
第7回	領域「言葉」のねらいと内容③―3歳以上児の保育― 3歳以上児の領域「言葉」における「ねらい」および「内容」を理解する。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について再確認する。	3歳以上児の時期の保育の「ねらい／内容」を確認し、小テストに備える。	4時間
第8回	3歳未満児における言葉の発達とおとなの役割 「言葉が成立するまで」と「言葉の成立以降」の各時期について知るとともに、1歳頃までと1歳以降の言葉の特徴と発達を押さえる。また、乳児と1歳以上3歳未満児それぞれの言葉の発達とおとなのかかわりについて理解する。	各年齢児の言葉の発達とおとなのかかわりについて、自分なりに考察する。	4時間
第9回	3歳以上児における言葉の発達とおとなの役割 3歳児・4歳児・5歳児の言葉の発達について事例を通して特徴を捉えるとともに、3歳以上児にとっての文字との出会いや書き言葉を獲得するための要素について理解する。	各年齢児の言葉の発達とおとなのかかわりについて、自分なりに考察する。	4時間
第10回	想像する楽しさを広げる児童文化財①―絵本の読み聞かせについて学ぶ―	絵本に関するグループワークでの学修成果について復習し、小テストに備える。	4時間

	○声に出して読む。練習した朗読を個別発表する。 ○絵本作品の特質や内容について、読みの基本的事項を学ぶ。 ○科学的（知的）な興味を刺激する作品も必要であることを学ぶ。 ○物語をとおして登場人物になってみる。		
第11回	想像する楽しさを広げる児童文化財②—絵本と紙芝居の違いを学ぶ— ○声に出して読む。練習した朗読を個別発表する。 ●紙芝居作品の特質や内容について、読みの基本的事項を学ぶ。 ●生活習慣・防災教育につながる作品も必要であることを学ぶ。 ○物語をとおして登場人物になってみる。	紙芝居に関するグループワークでの学修成果について復習し、小テストに備える。	4時間
第12回	児童文化財の活用と実践①—絵本読み聞かせと紙芝居の発表— ○声に出して読む（グループ内で絵本・紙芝居を選び、グループ全員で発表する） ◎絵本・紙芝居作品の特質や内容について、グループでの工夫点などを発表する。 ◎役割演技（ロールプレーを取り入れた発表を行う） ◎気づいたり学んだりしたことを話し合う。	読み聞かせについて、グループ学修での練習をとおして学んだことをまとめる。	4時間
第13回	児童文化財の活用と実践②—ペープサート制作— グループで作品を選び、人物の設定から人形の制作までの作業に取り組む。完成したところでグループ別に実演のためのリハーサルを行う。	ペープサート未完成のグループは作業を仕上げる。完成したグループは実演のためのリハーサルを行う。	4時間
第14回	児童文化財の活用と実践③—ペープサート実演— 前時に制作したペープサートをクラス全員の前で実演する。視聴する側は他のグループ作品について評価票に評価と一言コメントを記入する。	自分の取り組みと他グループ作品についての振り返りを行う。	4時間

授業科目名	幼児と表現A				
担当教員名	楠井 淳子・熊谷 綾子				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育園にて音楽講師として勤務。（楠井：全14回） カワイ音楽教室講師として勤務し、幼児リトミッククラスを担当（熊谷：全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

領域「表現」の指導に関する幼児の姿やその発達およびそれを促す原因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成について実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。具体的には、映像や具体的事例を用いた体験的な学修と、ICTの活用や、アクティブ・ラーニングを取り入れながらグループ討議や個々の振り返り、考察を繰り返し行うことによって指導力と協働する力を育みながら、幼児期における多様な表現活動を支援することの意義と重要性を理解し、子どもの表現とその援助のための知識や技術を総合的な観点から身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	幼児の表現の姿やその発達を理解する。	①幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。②表現を生成する過程について理解する。③幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	音楽表現の基本的な知識・技能を学ぶことを通し幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	①みる・聴く・感じる・楽しむことを通して様々な表現に対するイメージを豊かにすることができる。②身の周りの物を身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。③表現することの楽しさを実感するとともに
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		さまざまな環境を通じた表現の有りかたや方法を知り自己の課題を見出すことが出来る
2. DP6. 行動・実践		表現に対するイメージを豊かにし、より新たな表現活動へと繋ぐことが出来る
3. DP8. 意思疎通		協同して活動することを通じて他者の表現に共感しともに楽しさを生み出す要因について考えより豊かな活動につなげることが出来る

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。
規定回数の出席が無ければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

課題提出	：	毎授業ごとの課題ワークや振り返りの記録の内容をループリックに基づき評価する。
40	%	
発表とポートフォリオ作成	：	学習のまとめの発表および自己と他者の発表内容や気付きをポートフォリオにまとめる。
30	%	

定期試験

： 最終レポートでの学びの評価をルーブリックに基づいて行う。

30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
八木正一監修、竹内貞一編著	・ 保育者養成のための音楽表現 模擬実践をとおして学ぶ	・ 大学図書出版	・ 2020 年

参考文献等

- ・ 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）幼稚園教育要領・解説
- ・ 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）保育所保育指針・解説
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領・解説
- ・ その他、授業中に適宜資料を紹介または配布する

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜2限、金曜1限
場所：	第9研究室
備考・注意事項：	質問は授業の前後やメールでも対応する。 メールには学籍番号と氏名を必ず入れること

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	領域「表現」とは ・ 領域「表現」のねらいおよび内容を理解する。 ・ 乳幼児の遊びや生活に関わる領域「表現」の位置づけについて考える。	『幼稚園教育要領』領域「表現」のねらいおよび内容をレポートにまとめる	4時間
第2回	幼児の表現の発達を理解 ・ 映像や事例から乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解する。 ・ 幼児の素朴な表現に気付き、共感する。	授業内容を振り返り幼児の発達と表現についてレポートにまとめる	4時間
第3回	環境と表現の関係を理解する ・ 身体の諸感覚を通して環境と対話し、感受性（気付き・思考・イメージ）を豊かにする。	授業内容を振り返り、環境と表現の関係についてレポートにまとめる	4時間
第4回	身の周りの音・声・楽器による音楽遊び ・ 生活や遊びの中にある声や音の面白さに気付く。 ・ 声や動き等、自ら創り出す音の多様性を生かした表現を行う。 ・ 声や楽器等を用いて応答的な音楽表現を即興的に行う。	即興音楽について調べておく。	4時間
第5回	豊かな表現のために①歌唱表現を身に付ける ・ 季節や行事の歌を通して、言葉の意味や情景が伝わるような、表情豊かな歌唱表現を身に付ける	作曲家や曲の背景について調べたことをまとめ、楽譜に演奏上の注意点を記載する	4時間
第6回	豊かな表現のために②合唱 ・ 合唱を通じ、声の重なり合う美しさと言葉の表現を体験する。	授業内容を振り返り、合唱についてのレポートを作成する	4時間
第7回	豊かな表現のために③合奏 ・ 合奏のアンサンブルを通じて音の重なり合う美しさを体験する。	授業内容を振り返り合奏についてのレポートを作成する	4時間
第8回	歌遊びを「学び」の視点から捉える①わらべうた、手遊び ・ わらべうたや手遊びを体験し、音楽的な「学び」について考える。	授業内容を振り返りわらべうたまたは手遊びのレポートを作成する	4時間
第9回	音遊びを「学び」の視点から捉える②簡易楽器を用いたリズム遊び ・ 簡易楽器を用いたリズム遊びを体験し、幼児の発達に即したリズム遊び例を考える。	授業内容を振り返り幼児の発達に即したリズム遊びをレポートにまとめる	4時間
第10回	イメージと表現活動①作曲 ・ 言葉のイントネーションやリズムを生かし、協働して簡易な曲を創作する。	授業内で探索した曲を楽譜にする	4時間
第11回	イメージと表現活動②イメージを音で表現する ・ 絵本や物語などの児童文化財を取り上げ、その印象やイメージなどを音・音楽で表現する。	授業の内容を振り返りレポートにまとめる	4時間
第12回	豊かな表現活動のための工夫や配慮	授業の内容を振り返りレポートにまとめる	4時間

	・楽器や声、身の周りの音を使ったさまざまな表現の工夫や方法、配慮について考える。		
第13回	ICTの活用と音楽表現と幼小接続 ・ICTを活用した音楽表現活動を具体的に考える。幼小接続の観点から領域「表現」を考える。	授業の振り返りレポートをまとめGoogleclassroomに提出する	4時間
第14回	学習のまとめ ・学習のまとめを発表する。	授業を振り返り他者の発表の感想と自身の課題をレポートにまとめる	4時間

授業科目名	幼児と表現B				
担当教員名	紺谷 武・芦田 風馬				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校にて図画工作科教員を経験（芦田：14回） 幼稚園等での造形講師（紺谷、芦田：14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

幼児の造形表現を中心に、幼児の発達段階と表現活動の関係をふまえて段階的に授業を進行する。生活や自然の中の身近なモノをきっかけとしたイメージや遊び、「感じる」「考える」「自分なりに表す」という活動のプロセスなど、幼児の造形表現の特徴について理解を深める。また、材料・道具の基礎的な扱い、子どもの表現に対する応答的な関わりなど、豊かな感性・表現する力・創造性を育むために保育者として求められる知識・技能・能力について学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

幼児の造形表現を支援するために必要な知識・技能・能力を習得する

目標：

授業で示された知識・技能を理解し、造形表現に応用することができる

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践
- DP7. 完遂

豊かな感性をもとに、造形表現のテーマや、それを実現するために求められる知識・技能・能力的課題を発見することができる。

造形表現のプロセスを見通し、必要な材料・作業の段取りなどを計画・立案することができる。

立案した計画をもとに行動し、実践の中で柔軟な対応を取り入れることができる。

造形表現のプロセスにおいて知識・技能・能力的課題をクリアし、作品を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
また、授業終了時に提出するポートフォリオ（スクラップブック）も成績の判断基準とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（作品に関する評価）

： 課題ごとに求められる内容、および知識・技能・能力の理解や応用が、作品とポートフォリオ（スクラップブック）に反映されているかを、独自のルーブリックに即して評価する。

80 %

毎回の授業における課題への取り組み

： 各授業で主体的・積極的に課題に取り組んでいるか、授業外課題が反映されているかを評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者

横英子

タイトル

・ 保育をひらく造形表現

出版社

・ 萌文書林

出版年

・ 2008 年

参考文献等

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 紺谷（金2）
場所： 主に教育第1研究室
備考・注意事項： 各教員の研究室を訪ねてください。アポイントを取ることが望ましいが、教員が研究室にいればいつでも質問してください。
芦田先生については、非常勤講師のため授業日に質問等をするようにしてください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業のはじめに（幼稚園教育要領をもとに幼児の造形表現の位置づけを確認する） ・授業内容を理解し、幼児と表現に必要な基本的知識を確認する ・自身が保育の現場で造形活動を通して子どもたちにどのように接するべきかを考え言葉にする	幼児の造形表現に関する前提・基本的知識について振り返り、ポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第2回 表現を育む土壌としての感性（生活や自然の中の形・色・手触り・動き） ・身近にある生活や自然の環境にある要素について知る ・環境と身体性のかかわりから生まれる造形表現について知る	幼児の造形表現において重要となる「感性」について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第3回 「かく」ことの原初（描画のはじまりについて） ・簡単な作業を通して描画材料について扱い方の基本を復習する ・道具の基本的な使い方を学ぶことはもちろん、保育者としての大切に片付ける心を持つ ・初めての描画材とのかかわりから生まれるスクリブルの特徴について知る	幼児の描画活動の始まり、材料・道具の扱い方について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第4回 丸から広がるイメージ（前図式期にいたるまでの描画について） ・スクリブルからの発展として頭足人などの描画の特徴を学ぶ ・子どもの発達段階を知り、幼児期の描画の特徴を学ぶ	描画の発達段階と表現の特徴について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第5回 色から広がるイメージ（幼児の色彩感覚・色とイメージ） ・幼児の色彩表現の特徴を知る ・保育者として必要な色彩の基礎を学ぶ	色彩についての基礎・幼児の色彩表現の特徴を振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第6回 音から広がるイメージ（オノマトペと抽象形態・言葉による表現） ・抽象形態の基礎を学ぶ ・色彩と形態の構成について学ぶ	オノマトペ・色彩・抽象形態の関わりについて振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第7回 イメージを「絵」に表す（図式的表現による絵遊び） ・幼児期の絵の特徴を振り返る ・複雑化してくる子どもの情緒や認知による描画の特徴を学ぶ ・描画の実践を通して、認知や言葉による影響を体験する。	幼児の描画活動における図式的表現について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第8回 素材との出会い（感触遊び・感覚遊び） ・造形活動を目的としない、身体と素材との関わり方の基礎を学ぶ ・保育者として様々な素材を受け入れ、楽しめる価値観を身につける	造形活動の萌芽となる素材との身体的関わりについて振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第9回 素材との関わり（構成遊び・見立て遊び） ・素材との出会いを起点とし、構成や見立て遊びへの発展を体験する ・幼児の構成遊びや見立て遊びの特徴について知る	構成や見立てによる造形表現への展開について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
第10回 素材によって促される造形（造形遊び） ・素材や環境との出会いや関わりから生まれる目的にとらわれない活動の基礎を体験する ・幼児の造形遊びの特徴について知る	造形活動の中から表現のテーマが生成される「造形遊び」の特徴について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間

第11回	素材を用いて行われる製作①（構想・案出）	成果物のイメージ・作業の計画が求められる製作活動の特徴について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
	・素材と道具を用いた計画的な製作に取り組む ・素材と道具についての特徴を理解する		
第12回	素材を用いて行われる製作②（実製作）	実製作の体験をもとに、幼児の造形表現に必要な配慮・工夫について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
	・利用する素材や道具の応用を発見する ・実製作を通して、幼児の製作活動に必要な配慮について気づく		
第13回	製作から広がる遊び（製作物を基にした遊び）	製作から更なる活動・遊びに展開させる重要性について振り返り、教科書も参考にしながらポートフォリオ（スクラップブック）にまとめる。	1時間
	・実際の製作物を利用した遊びを共有（鑑賞）する		
第14回	授業のおわりに（作品と学びをポートフォリオにまとめる）	ポートフォリオ（スクラップブック）を完成させる	1時間
	・授業を振り返り、学びの定着を強くする ・これまでのポートフォリオについて整理を行い、授業終了後にポートフォリオを提出する		

授業科目名	幼児と健康				
担当教員名	塩田 桃子・範 衍麗				
学年・コース等	1回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期における大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。また、子育て支援・小学校や地域・保護者との連携など、様々な視点から保育を捉え、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義と重要性を理解できるように、ICTの活用や、アクティブ・ラーニングを取り入れた学習を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。	幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等の知識を身に付けることができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	様々な視点から保育を捉え、幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義を理解する。	幼児期において多様な動きを獲得していくことの意義を理解し、指導ができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		幼児の健康の問題や社会状況を踏まえ、幼児の健康を守る保育者の役割を理解することができる。
2. DP7. 完遂		分からないことを質問し、しっかり知識を身に付けることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等		
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。		
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準	
授業の参加意欲・態度	：	授業への取組に対する意欲や態度を評価します。
	10	%
授業の提出物	：	授業の内容について理解できているかを評価します。
	30	%
小テスト・レポート・発表	：	独自のループリックで評価します。
	30	%
定期試験(レポート)	：	授業内容の理解に関するレポートで評価します。
	30	%

使用教科書

指定する			
著者	タイトル	出版社	出版年
前橋明監修（範担当クラス）	・ 幼児と健康	・ 大学図書出版	・ 2024 年
宮下恭子監修（塩田担当クラス）	・ オンライン授業に対応 改訂版 乳幼児の健康－教育 ・ 保育に向けた計画と実践	・ 大学図書出版	・ 2023 年

参考文献等

【使用教科書】 (塩田担当) 文部科学省. 幼稚園教育要領. フレーベル館. 2017 (塩田担当) 厚生労働省. 保育所保育指針. フレーベル館. 2017 (塩田担当) 内閣府. 文部科学省. 厚生労働省. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領. フレーベル館. 2017
【参考文献】 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）幼稚園教育要領解説 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、保育士資格と幼稚園免許取得必須科目です。授業中の携帯電話の使用を禁止します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日12：20～13：10
場所：	第8研究室
備考・注意事項：	担当教員は上記研究室に在室しています。質問がある場合はお越しください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 乳幼児の健康課題 健康の定義と乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康について学びます	テキストの内容を読み、乳幼児の発育発達について予習します。	4時間
第2回 乳幼児期の身体的発達の特徴・生理的機能の発達 乳幼児期の身体的発達の特徴・生理的機能の発達を学びます。	テキストを読み、基本的生活習慣について予習します。	4時間
第3回 乳幼児期の基本的生活習慣の形成とその意義 乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の獲得及び生活リズムの形成とその意義を学びます。	テキストを読み、安全教育について考えます。	4時間
第4回 幼児期の安全教育と健康管理 子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性和健康管理を学びます。	テキストを読み、安全管理の大切を考えます。	4時間
第5回 幼児期の怪我の特徴や応急処置・病気の予防 幼児期に起こりやすい怪我の特徴と応急処置の基礎及び病気の予防について学びます。	テキストを読み、子どもの運動発達を予習します。	4時間
第6回 運動発達と運動あそびの意義 乳幼児の運動発達と運動あそびの意義を学びます。	テキストを読み、多様な動きを理解します。	4時間
第7回 多様な動きを引き出す運動あそび①多様な動きの基礎的理解 子どものあそびとして行う運動のあり方を学びます。	テキストを読み、多様な動きと環境との関係を理解します。	4時間
第8回 多様な動きを引き出す運動あそび②多様な動きと環境との関係 子どもの多様な動きを引き出す運動の環境設営の方法を学びます。	テキストを読み、運動遊びの援助のポイントを理解します。	4時間
第9回 多様な動きを引き出す運動あそび③運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味と両者の関係 運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味、両者の関係を学びます。	テキストを読み、多様な動きを促す遊びを予習します。	4時間
第10回 多様な動きを引き出す運動あそび④生活における身体活動の在り方 乳幼児の生活における身体活動の在り方を学びます。	テキストを読み、生活の中の多様な動きを理解します。	4時間
第11回 多様な動きを引き出す運動あそび⑤社会環境の変化と幼児期の動きの経験との関係 社会環境の変化と、幼児期の動きの経験との関係を学びます。	テキストを読み、幼児期の運動発達を理解します。	4時間
第12回 行事としての運動①幼児期の運動発達を理解した指導について 幼児期の運動発達を理解した指導を学びます。	テキストを読み、幼児の運動遊びについての知識を復習をします。	4時間
第13回 行事としての運動②幼児の身体活動経験を豊かにするための工夫や配慮	テキストを読み、幼小接続の実践例について考えます。	4時間

幼児の身体活動経験を豊かにするための工夫や配慮を学びます。		
第14回 第14回：幼小接続について・まとめ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、領域健康と小学校の教科とのつながりを学びます。	1 ～ 1 4 回授業の復習をします。	4時間

授業科目名	音楽概論				
担当教員名	楠井 淳子・熊谷 綾子				
学年・コース等	1回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育園にて音楽講師として勤務。（楠井：全14回） カワイ音楽教室講師として勤務し、幼児リトミッククラスを担当（熊谷：全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

子どもの豊かな音楽表現活動を援助するために必要な、音楽の知識や技能を身に付けます。具体的には、楽譜を正確に読み書きできるように楽典を理解します。その知識を基にした上で、実技面では正確なリズム・音程感覚を身に付けるために読譜やリズム打ち、視唱などのソルフェージュ課題の練習を行います。また、子どもの歌の歌唱、弾き歌い、基礎的な伴奏法（コード・リズム）を行うことを通して、保育の実践に向けた音楽能力を獲得することを目指します。このように本授業では理論と実践を統合しながら、学習を進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

保育者、教育者にとって必要な音楽の知識（楽典）。
保育者、教育者にとって必要な音楽表現の技能。

目標：

豊かな音楽表現を行なう上で必要となる音楽の知識やそのしぐみを学び、理解する事ができる。
子どもの音楽表現を援助する為に必要な音楽の演奏技能を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP9. 役割理解・連携行動

自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高める事ができる。
アンサンブルなどのグループワークを通して、協働する力を育むと共に自己の役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末テスト	：	定期試験で音楽の楽典に関する理解度を測るための筆記試験を行い、評価する。
30 %		
授業内課題 1	：	学期中に複数回行なう小テストや課題シートの内容の到達度を独自のルーブリックをもとに評価する。
30 %		
授業内課題2	：	実技試験（歌唱とピアノ伴奏）の到達度を独自のルーブリックをもとに評価する。
20 %		
受講態度（積極的参加）	：	授業内におけるグループワークや発表などへの積極的な取り組み状況を独自のルーブリックをもとに評価する。
20 %		

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
楠井淳子 著	・ 保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現～楽典とソルフェージュ～改訂版	・ ふくろう出版	・ 2018 年

参考文献等

参考文献等は授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜2限
場所：	教育第9
備考・注意事項：	質問は授業の前後やメールでも受け付けます。 メールには学籍番号と氏名を必ず入れること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	譜表と音名 ・ 高音部譜表、低音部譜表、大譜表、音名、変化記号 ・ 簡単な読譜（ト音記号）、視唱課題 ・ 子どもの歌の歌唱	読譜・視唱課題の自己練習。テキストの練習問題（楽典：譜表、音名）を復習する。	4時間
第2回	音符と休符 ・ 音符と休符の種類と長さ、連符の理解 ・ 音符、休符を書く ・ 簡単な読譜（ヘ音記号）、視唱課題 ・ 子どもの歌の歌唱	読譜・視唱課題の自己練習。テキストの練習問題（楽典：音符と休符）を復習する。	4時間
第3回	拍子とリズム① 単純拍子の理解 ・ 単純拍子のリズムパターンの理解とリズム打ちの練習 ・ 音符、休符を書き、リズム打ちをする ・ 4/4、3/4、2/4拍子の視唱課題 ・ 子どもの歌の歌唱 ・ 譜表と音名、音符・休符の授業内確認テスト	読譜・リズム打ち・視唱課題の自己練習。テキストの練習問題（楽典：拍子とリズム）を復習する。	4時間
第4回	拍子とリズム② 複合拍子の理解 ・ 6/8拍子のリズムパターンの理解とリズム打ちの練習 ・ 6/8拍子の記譜法の理解 ・ 6/8拍子の視唱課題 ・ 子どもの歌の歌唱	読譜・リズム打ち・視唱課題の自己練習。テキストの練習問題（楽典：複合拍子）を復習する。	4時間
第5回	リズム楽器とリズムアレンジ ・ 発達に応じたリズム楽器と奏法 ・ 歌唱曲にリズム楽器を加える ・ グループ毎に歌唱曲に効果的なリズム楽器を選び、リズムパターンを考える。 ・ 拍子とリズムの授業内確認テスト	幼児の発達に応じたリズム楽器を調べておく。リズム打ちの自己練習。	4時間
第6回	記号と標語 ・ 速度、強弱、曲想を表す音楽用語・記号 ・ 奏法に関する記号 ・ 反復記号 ・ 子どもの歌の歌唱と視奏（旋律奏）	テキストの練習問題（楽典：記号と標語）を復習する。視唱・視奏課題の自己練習。	4時間
第7回	音程① 単音程と幹音の音程 ・ 単音程、幹音 ・ 2度・3度音程を含む視唱課題 ・ 子どもの歌の歌唱と視奏（旋律奏） ・ 記号と標語の授業内確認テスト	テキストの練習問題（楽典：音程）を復習する。視唱・視奏課題の自己練習。	4時間
第8回	音程② 派生音と複音程 ・ 派生音、複音程 ・ 4度・5度音程を含む視唱課題 ・ 子どもの歌の歌唱と視奏（旋律奏）	テキストの練習問題（楽典：音程）を復習する。視唱・視奏課題の自己練習。	4時間
第9回	長音階	テキストの練習問題（楽典：長音階）を復習する。視唱・視奏課題の自己練習。	4時間

	・長音階のしくみ ・長音階の調号（＃、♭）、調判定 ・簡単な低音部譜表の視唱課題 ・音程の授業内確認テスト		
第10回	短音階と移旋 ・短音階の仕組み ・短調の調号と臨時記号 ・短調の楽曲の歌唱。 ・移旋	テキストの練習問題（楽典：短音階）、移旋を復習する。弾き歌いの自己練習。	4時間
第11回	和音の構成と視奏 ・和音の仕組み（長三和音・短三和音・減三和音・増三和音・七の和音） ・各種三和音の視奏 ・基本形と展開形 ・音階の授業内確認テスト	テキストの練習問題（楽典：三和音）を復習する。視奏課題（和音伴奏）の自己練習。	4時間
第12回	コードネームと簡易伴奏① メジャーコードとマイナーコード ・コードネームの仕組み ・コードネームの練習課題（メジャーコード、マイナーコード） ・歌唱曲を簡易伴奏で弾く ・コード伴奏による指定曲の視奏（メジャーコード、マイナーコード）	テキストの練習問題（楽典：コードネーム）を復習する。コードネームの練習課題（メジャー及びマイナーコード）	4時間
第13回	コードネームと簡易伴奏② セブンスコード ・セブンスコードの仕組み ・コードネームの練習課題（セブンスコード） ・歌唱曲を簡易伴奏で弾く ・コード伴奏による指定曲の視奏（メジャーコード、マイナーコード、セブンスコード） ・コードの授業内確認テスト	テキストの練習問題（楽典：コードネーム）を復習する。指定曲のコードによる視奏の自己練習。	4時間
第14回	視奏課題の実技試験、音楽理論のまとめ ・指定曲のコード伴奏による実技試験 ・音楽理論のまとめ	実技試験の自己練習。楽典の既習内容を復習する。	4時間

授業科目名	幼児理解・教育相談				
担当教員名	園田 和江・中澤 鮎美				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	園田：教育機関で相談員, 教員として勤務。保育士として実務経験有り(全14回)。 中澤：教育, 医療, 福祉機関でカウンセラーとして勤務 (全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は、幼二免取得のための必修科目です。幼児理解および教育相談の理論と方法について学びます。まず、幼児理解・教育相談の意義や基礎的態度について学び、その重要性を理解します。そのうえで、個々の子ども達の心理的特質や発達の課題、集団や家庭における諸問題を理解するための基礎知識を学びます。さらに、臨床心理学を中心とした心理学理論やカウンセリングの技法を活用し、適切に教育相談を進めるための具体的な方法について考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	幼児理解の理論と方法／臨床心理学の知識をもとにした教育相談の理論と方法	幼児期の子どもの心理、行動について理論的に説明できる。／教育相談の現場で出会う諸問題とその支援方法について説明できる
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	幼児理解・教育相談に関わる実践力	幼児理解・教育相談に関する知識・技能を教育現場での実践に応用できる
汎用的な力		
1. DP9. 役割理解・連携行動		教育者として自分が果たすべき役割を理解し、他者と連携して子どもを支援することができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内での取り組み状況	： 振り返りシートや授業内課題の内容、および、学習態度（ディスカッションへの積極的参加、質問・発表などは加点）を独自のルーブリックをもとに評価する。
40 %	
振り返りのワークシート	： 教科書や配布する事例報告を読むことや、事例の映像を視聴することを通し、ワークシートを記入する。内容が、授業の内容を踏まえて適切な読み取りと考察ができているかを独自のルーブリックをもとに評価する。
40 %	
定期試験（レポート）	： 1. 基礎的事項が理解できている（基礎）」「2. 心理学の知識を教育で現場の実践や日常場面に結びつけて考えることができている（応用）」の2つの観点から評価する。
20 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
(園田担当クラス)小田豊・秋田喜代美(編著)(園田・宮秋担当クラス)	・子どもの理解と保育・教育相談 第2版	・みらい	・2021 年

参考文献等

- ・文部科学省「幼児理解と評価」(2010)
 - ・文部科学省「生徒指導提要」(2010)
 - ・沼山博・三浦主博「子どもと関わる人のための心理学—発達心理学・保育心理学への扉—」萌文書林(2020) ISBN4893473697
 - ・諸富祥彦・富田久枝「スキルアップ 保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニック」誠信書房(2020) ISBN-10 4414416647
- その他、適宜授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
また、日常生活の中で心理学の応用について考えたり、実習等で子どもとの関わりにおいて心理学の知識、理論を活用することも大切である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	園田(初回に提示する)、中澤(授業前後)
場所：	園田(研究室もしくは教室)、中澤(教室)
備考・注意事項：	園田：授業前後も質問等を受け付けます。 中澤(非常勤)：授業の前後に質問を受け付けます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 保育における幼児理解・教育相談の意義 幼児理解とはなにか、教育相談とはなにかについて学び、その意義を理解する。また、幼児理解・教育相談の実践の基礎となる「臨床心理学」や「発達心理学」の扱う対象や位置づけについて理解する。 キーワード：幼児理解、教育相談、臨床心理学、発達心理学、個性記述、アセスメント	「教育心理学」で学んだ内容を教科書やレジュメをもとに復習しておく。また、臨床心理学を学ぶことが、保育においてどのような意義があるのかをまとめる。	4時間
第2回 子どものパーソナリティを理解する パーソナリティ(人格・性格)の成り立ちや分類法などについて学び、心の個性をとらえる視点と方法論を知る。また、心理検査に関する知識を学び、幼児理解のための具体的方法を知る。 キーワード：パーソナリティ(人格・性格)、類型論・特性論、アセスメント、面接法、観察法、心理検査(質問紙法、投影法、作業検査法)、テストバッテリー	自分自身のパーソナリティを把握し保育者として大切にしていきたいところやもっと伸ばしていきたいところについて考える。	4時間
第3回 子どもの発達の道すじを理解する 子どもの定型発達について理解した上で、個々の子どもの発達段階をとらえる視点や発達上の課題を理解する方法について学ぶ。 キーワード：発達理論、発達検査、ことばの発達、心の理論	「教育心理学」で学習した発達理論について復習しておく。	4時間
第4回 “気になる子”を理解する—観察と記録をもとに— 保育・教育の現場で出会いうる“気になる子”について、さまざまな事例をもとに検討し、支援の在り方について考える。“気になる子”を理解するうえでの観察と記録の重要性について理解する。 キーワード：観察、記録	これまでに出会った“気になる子”についてその背景について考える。	4時間
第5回 発達に課題のある子の理解と支援 自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害や限局性学習障害の主特性とそのメカニズムを理解し、支援の在り方について考える。 キーワード：社会的相互作用、注意の範囲、感覚の過敏・鈍さ、ワーキングメモリ、自己抑制、空間知覚、音韻的意識	発達障害について調べ、保育園や幼稚園等で実際にどのような支援が行われているのか実践事例を調べる。	4時間
第6回 教育相談のための心理学理論① 無意識へのアプローチ 精神分析療法の起源と成立、意識過程、心の構造、防衛機制などについて学び、子どもの心理や行動理解への応用について考える。 キーワード：精神分析、意識・前意識・無意識、エス・自我・超自我、防衛機制	自分自身の日常場面や、保育・教育の現場で出会いうる防衛機制の具体例について考える。	4時間
第7回 教育相談のための心理学理論② 行動へのアプローチ 1回生前期の「教育心理学」で学んだ学習理論を振り返りながら行動療法について学び、子どもの行動変容への活用を考える。 キーワード：条件づけ、随伴性、反応形成、系統的脱感作、行動変容	「教育心理学」で学んだ学習理論を復習しておく。行動療法などの事例を読む。	4時間
第8回 ストレスへの反応と対処	自分のストレス対処法を振り返り、改善点を考える。	4時間

	ストレスやストレス反応とはどんなものか、ストレスコーピングの種類などを知る。子ども、保護者、自分自身のストレスケアやストレスマネジメントのあり方について考察する。 キーワード：ストレス、ストレス反応、ストレスコーピング、ストレスマネジメント		
第9回	子どものメンタルヘルス 精神疾患の種類を知り、うつ病や神経症の主症状と支援について学ぶ。また、子どもの情緒障害や問題行動について学び、保育者としてどうかかわるかについて考える。 キーワード：うつ病、神経症、子どもの情緒障害、問題行動	保育者として子どもの情緒障害や保護者の精神疾患に出会った時、あるいは身近な人が精神疾患に罹った場合にどんな対応・支援ができるかを考える。	4時間
第10回	個と集団：いじめ・不登園への理解と支援 集団の中で生じうるいじめや子ども同士の問題、登園しぶりなどについて知り、どのように理解し支援していけばよいかについて考える。 キーワード：いじめ、不登園、登園しぶり	いじめがなぜ起こるのかについて考える。登園しぶりの背景について調べる。	4時間
第11回	親子関係のゆがみ マルトリートメント（不適切な養育）の生じる背景を、親と子のそれぞれの立場から理解する キーワード：養育態度、育児不安、気質、愛着、愛着障害、内的ワーキングモデル	虐待につながるリスク要因にはどのようなものがあるかについて調べる。マルトリートメントの事例を読み、支援方法について知る。	4時間
第12回	カウンセリングマインドと子育て支援 保育者として必要なカウンセリングマインドについて学び、その重要性を理解する。保育者としての教育相談に役立つカウンセリングの技法を学ぶ。また、保育現場における保護者理解・保護者支援について考え、ロールプレイなどを通して保護者と向き合う方法を学ぶ。 キーワード：傾聴、非指示的心理療法、自己一致、受容、共感的理解、保護者支援	日常生活において他者の話をカウンセリングマインドをもって傾聴してみる。	4時間
第13回	教育相談の組織的展開と連携 教育相談を展開するにあたり重要な職員同士の連携、他職種・他機関との連携、家庭との連携のあり方について学ぶ。 キーワード：協働性、保育カンファレンス、連携、協働性、チーム保育、コンサルテーション	これまでに自身が他者と協働して役割を果たした経験を振り返り、自分自身の強みと課題について分析する。	4時間
第14回	保育者としてのキャリアデザインとメンタルヘルス 自らの保育者としてのあり方について見つめなおし、今後のキャリアデザインを描く。保育者として自らのメンタルヘルスを保持・増進することの重要性とその方法を学ぶ。また、これまでの学びを振り返る。 キーワード：青年期、アイデンティティ確立と拡散、キャリアデザイン、ライフプラン、ワークライフバランス	これまでに学んだことを復習し知識を整理する。さらに学ぶべき自身の課題について考える。	4時間

授業科目名	保育内容の指導法（環境）				
担当教員名	松元 早苗・向井 秀幸				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松元は私立幼稚園、公立幼稚園で約20年間、幼稚園教諭として勤務 向井は私立保育園で14年間、保育士として勤務(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

人間にとって環境は広範囲に存在するものです。人間は誰でも、自分が生きている環境の中で経験を積み重ねながら成長していきます。どのような環境で生活しているかにより、私たちのする経験は決まってしまう。それゆえ、生活環境の質は成長過程にある子どもにとって極めて重要であります。近年の急速な社会の変化にともない、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。本科目では領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身につけます。現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と環境との関わりを発達等の視点から学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	保育の専門に関わる確かな知識・技能・職業理解を身につける。	幼児と環境とのかかわりを理解し、保育内容の指導法「環境」の視点から、援助・指導に関する専門的知識や技能を身につける。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		子どもにとっての環境を論理的に考え、課題を明らかにすることができる。
2. DP6. 行動・実践		環境の体験を通して主体性を持ち、積極的に行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題	： 授業内容の課題・理解度、考察度を評価します。
30 %	
授業内の演習	： 授業に臨む態度や積極性について総合的に評価します。発表の内容について評価します。
20 %	
授業内での発表	： 授業内での発表の内容について評価します。
20 %	
期末レポート	： 課題に即した内容が論理的に述べられているか、独自のルーブリックを用いて評価します。
30 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
----	------	-----	-----

榎沢良彦・入江礼子

・ シードブック 保育内容 環境 第3版

・ 建帛社

・ 2018 年

参考文献等

- ・ 幼稚園教育要領 文部科学省 フレーベル館 2017年 9784577814222
- ・ 保育所保育指針 厚生労働省 フレーベル館 2017年 9784577814239
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 内閣府、文部科学省、厚生労働省 フレーベル館 2017年 9784577814246

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を復習し、次回の授業に向けて予習してください。
また、与えられた課題の提出期限を守る事は必須であり、保育者を目指す者として積極的に授業に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 松元、向井：授業前後
場所： 授業教室・第3研究室・第2研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	「環境」で何を学ぶのか 領域「環境」のねらい・内容を理解し、現在の子どもを取り巻く「環境」について考える。	(幼稚園教育要領・保育指針)の「環境」の部分を読んで、要点を整理する。	1時間
第2回	領域「環境」の意味 子どもにとっての身近な環境とはどういうものか、生活の中で様々な環境と出会う事の大切さを学ぶ。	教科書第1章を読み、領域「環境」と他の領域との関係を考える。	1時間
第3回	子どもの育ちにかかわる現代の生活環境とその課題 子どもの育ちに自然や物や生き物等、身近な環境との関わりを学ぶ。	子どもを取り巻く生活環境を保育所、幼稚園にとどまらず地域や国、地球規模という広い範囲で調べる。	1時間
第4回	環境への興味とかかわり方の発達 子どもの環境への関わりについて、乳児期・幼児期の発達との関連を考える。	これまで学んだ乳児期・幼児期の発達を振り返り、教科書第3章を読む。	1時間
第5回	子どもの活動を引き出す保育環境 どのような環境が子どもの育ちにつながる意味がある環境となるのか、保育環境の条件を考える。	教科書第4章を読み、「環境調整」の重要性について考える。	1時間
第6回	物とのかかわりにおける子どもの育ち 子どもが身のまわりに数多く存在する「物」と、どのように出会い、関わり、遊びを展開し行動していくかを考える。	子どものあそびの環境にはどのような物、素材があるか調べてみる。	1時間
第7回	生き物とのかかわりにおける子どもの育ち 子どもが生き物と出会う事にどのような意味があるのかを探り、子どもと生き物との豊かな関わりを支えている保育者の在り方についても考える。	自分の育ちの中でかかわってきた生き物を振り返ったり、実習園での子どもと生き物の関わりを考察する。	1時間
第8回	自然・季節とのかかわりにおける子どもの育ち 子どもが自然とかかわること、その中で季節を感じることを大切さ、今の保育の中で何ができるのかを考える。乳幼児の生物・自然との関わりと、具体的な活動（自然体験活動等）について学びます。フィールドワーク（安威川河川敷）を行います。	フィールドワークや実習で経験したことを振り返りながら、子どもの生活、あそびに自然・季節を感じることがいかに大切であるかを考察する。	1時間
第9回	地域社会・施設とのかかわりにおける子どもの育ち 子どもの日常生活が地域社会の中で行われる中、大人として保育者として地域社会と子どもをどう捉え、どのようにかかわっていくかを学ぶ。	子どもの生活に関係する地域の公共施設にはどのようなものがあるか、その施設とどのような関わりがあるか具体的に考える。	1時間
第10回	情報環境・文化財とのかかわりにおける子どもの育ち 家庭及び地域社会が作る環境の様々な情報・メディアの中での子どもの育ちを考える。子どもが生きる力の芽生えとしての「自己充実感」「自己達成感」を大切にしたい子どもの育ちを学ぶ。	教科書9章の具体事例を読み、子どもたちがどのように日常生活の中で情報環境・文化財に出会っているか考える。	1時間
第11回	数量・図形への興味と認識の育ち 子どもは生活の中で多様なかかわりを通して数量や図形に触れ親しんでいく。子どもが活動する中で数量・図形に興味、関心を引き出す保育者の援助の大切さを学ぶ。	子どもが数量・図形のどのようなように出会っていく環境があるか、実習園での経験などから考察する。	1時間
第12回	文字・標識への興味と認識の育ち	教科書第11章を読み、具体事例を通して子どもの文字・標識の関わりとその環境の中での育ちを考察する。	1時間

第13回	子どもの文字や標識との出会いの姿を捉えながら、興味・関心のあり方を探る事を通して、子どもにとっての文字・標識環境を考える。 子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割① ・ 人的環境としての保育者の役割 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の主眼である『周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う』と共に『子どもたちの中に思考力の芽生えを培う』ための保育者の役割に焦点を当てて考えていく。	身近な園環境が、子どもの豊かな体験につながるようにするには保育者はどのような役割を担っているのか考察する。	1時間
第14回	子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割②・質の高い保育環境としての保育者とは・まとめ これまでの授業を振り返り、子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割・重要性を確認する。	質の高い保育環境としての保育者をめざすことの重要性を認識し、子どもにとって最善の人的環境の大切さを考察する。	1時間

授業科目名	幼児と人間関係				
担当教員名	松元 早苗				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園教諭として、約20年間の勤務経験あり（全14回）				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

領域「人間関係」を通して発達的基础としての保育内容について理解を深めると共に、それをどのように具体化し、子どもたちに経験させるか、その方法について学ぶ。乳幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深める。そのうえで、乳幼児にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。子どもが他者との関係の中で健全に自己を育み、他者と協同しつつ、幸せに生きていくことができるよう、保育者は子どもの成長に寄り添うことが求められる。子どもの成長の伴走者として、保育者が持つておくべき視点や具体的な知識・技術の基礎を修得することを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育者としての専門知識

目標：

人とのかかわる力の育ちがその後に続く一人ひとりの人生を支える力となることを理解することができる。

幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解できる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育者としての専門的知識・技能

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP8. 意思疎通

学びから計画を立案し、保育の中で実践できる。

学生同士が問題を発見し、協同して解決策の発見ができるようになる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業態度	：	授業に対しての積極性を、独自のルーブリックに基づいて評価します。
40	%	
授業内課題	：	提出物、小テストから、独自のルーブリックに基づいて評価します。
40	%	
定期試験（レポート）	：	授業内容の理解度を独自のルーブリックに基づいて評価します。
20	%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
金俊華・垂水直樹	・ 幼児と人間関係	・ 同文書院	・ 2021 年

参考文献等

幼稚園教育要領（著者：文部科学省 出版社：フレーベル館）ISBN978-4-577-81422-2
保育所保育指針（著者：厚生労働省 出版社：フレーベル館）ISBN978-4-577-81423-9
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（著者：内閣府 出版社：フレーベル館）ISBN978-4-577-81424-6

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。
授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業教室または、幼児教育学科第4研究室
備考・注意事項：	その他連絡がとりたい場合は、メール（matsumoto-sa@g.osaka-seikei.ac.jp）に連絡すること。その際、必ず学籍番号と名前を入れること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 領域「人間関係」の社会的背景 1. 家族、地域社会の変化 2. 子ども・若者の「個性」と「人間関係」 3. 社会的存在としての自己	現代の人間関係の問題について400字程度にまとめる。	4時間
第2回 子どもの発達と人間関係 1. 乳幼児期における人間関係の理解 2. ライフサイクルから見た乳幼児期の「発達課題」 3. 子ども同士の人間関係	領域「人間関係」のねらいと内容を復習する。	4時間
第3回 領域「人間関係」ねらいと内容―「幼稚園教育要領」を中心に― 1. 幼児期に育むべき資質と能力 2. 領域「人間関係」のねらいと及び内容の考え方 3. 領域「人間関係」の内容	幼児期に育むべき資質・能力について400字程度にまとめる。	4時間
第4回 保育者のかかわり方と集団づくり 1. 年齢による発達段階と人間関係の特徴 2. 保育者が行う集団作り 3. 個を見る視点と集団をみる視点	保育者が行う理想の集団作りについて400字程度にまとめる。	4時間
第5回 対話から生まれる「協同的な学び―遊びを通した「個」と「集団」の成長― 1. 「個」と「集団」の関係について 2. 協同的な遊びと学び 3. 対話によって展開して「協同的学び」の実現	協同的あそびと学びについて400字程度にまとめる。	4時間
第6回 幼児教育・保育における子ども同士の関係 1. 友達関係の息苦しさ 2. 「みんな仲良く」から「排除しない」関係へ 3. 保育者としての集団作り	自らが経験した友達関係について400字程度にまとめる。	4時間
第7回 子どもとのかかわりを通した幼児理解と評価 1. 保育の質と保育者/子ども関係 2. かかわりを通して幼児理解 3. 領域「人間関係」における評価の視点	特別な支援が必要な子どもについて予習する。	4時間
第8回 特別な支援を必要とする子どもの援助 1. 障害のある子どもの理解 2. その他の特別なニーズのある子どもたちの理解 3. 特別な支援が必要な子どもを「抱え込む」保育・教育	特別な支援が必要な子どもの保育・教育について400字程度にまとめる。	4時間
第9回 子どもの家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の視点 1. 家庭の多様性 2. 子どもの育ちに対する家庭の影響 3. 子ども家庭支援の重要性	子どもの育ちに対する過程の影響について400字程度にまとめる。	4時間
第10回 幼児教育・保育と小学校との接続との課題―人間関係の視点から― 1. 小学校移行の考え方 2. 保育現場における実践を考える	幼保小連携について人間関係の視点から考察し、400字程度にまとめる。	4時間
第11回 幼児教育・保育における性をめぐる問題 1. 保育所保育指針における性 2. 性の多様性 3. 「隠れたメッセージ」への配慮 4. 乳幼児期からの「包括的性教育」 5. 性をめぐる子どもたちとの対話	乳幼児期からの「包括的性教育」について400字程度にまとめる。	4時間
第12回 多文化共生社会における幼児教育・保育の課題	幼児期における多文化共生について400字程度にまとめる。	4時間

	1. グローバル化する世界 2. 日本の公立小学校における外国人児童生徒の状況 3. 幼児期における多文化共生		
第13回	人とかかわる力を育てる保育者の役割と援助 1. 保育者の役割の重要性 2. 保育者の人間関係 3. 子どもと保育者の人間関係	保育者同士の人間関係について400字程度にまとめる。	4時間
第14回	人とかかわる力を育てる大人の人間関係～良好な人間関係の構築～・まとめ 1. 人とかかわる力を育てるために必要な保育者の支援・援助 2. 良好な人間関係の構築のために行うべきこと、考え	人とかかわる力を育てるための保育者の支援・援助について600字程度にまとめる。	4時間

授業科目名	保育内容の指導法（言葉）				
担当教員名	松元 早苗・白瀬 浩司				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ保育・教育現場での実務実績を有する（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

領域「言葉」は、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

乳幼児の言葉の発達の理解。領域「言葉」を活かした保育内容、保育者としての指導のあり方

目標：

実習での経験や、それまでの他の授業との関連性から、乳幼児の言葉の獲得を理解し、保育現場での実践に活用することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

豊かな言葉の獲得と言葉の発達のための専門性の向上

児童文化としての言葉の重要性を保育に取り入れ、言葉を通しての子どもの豊かな感性を育むための専門的技術・技能を習得することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP8. 意思疎通
4. DP9. 役割理解・連携行動

実習での経験や、他学生の意見を聞くことで自分自身の課題を見出し改善できる。

課題を基に、それを改善するための案を考え、実践することができる。

他学生の発表を通して意見交換をすることで、相手の表現を理解し、自らの思いを伝えることができる。

他学生との共同作業の際、自分の意見を積極的に伝え、相手の話しを聞く態度を養い、協力して取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。原則 3 分の 2 以上出席した場合のみ、評価の対象とします。規定回数以上の出席がなければ、無評価となります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講姿勢（ワークシート）： 授業内での積極性及び取り組み状況について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

40 %

演習課題（模擬保育）： 児童文化財を教材とし、作成した指導案と、それに基づいた模擬保育について評価します。

40 %

定期試験（レポート）： 定期試験レポートについて、独自のルーブリックに基づいて評価します。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
柘植誠子・藤原牧子・松元早苗・園田育代・向井秀幸	子どもの心に届く言葉かけ—保育の内容とその方法—	ミネルヴァ書房	・ 2018 年

参考文献等

幼稚園教育要領（著者：文部科学省 出版社：フレーベル館）ISBN978-4-577-81422-2
保育所保育指針（著者：厚生労働省 出版社：フレーベル館）ISBN978-4-577-81423-9
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（著者：内閣府 出版社：フレーベル館）ISBN978-4-577-81424-6

1 年次に『幼児と言葉』で使用したテキスト『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉』（萌文書林、2024年／ISBN978-4-89347-259-5）も引き続き使用します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
また、与えられた課題の提出期限を守ることが必修であり、将来保育者を目指す者としてふさわしい学生として、授業に取り組むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 授業教室、第 3 研究室、西館57研究室
備考・注意事項： 授業の前後、授業の教室、第 3 研究室（松元）・西館57研究室（白瀬）で受け付けます。
松元が不在で緊急を要する場合は、matsumoto-sa@g.osaka-seikei.ac.jpまで連絡してください。
白瀬が不在で緊急を要する場合は、shirase@g.osaka-seikei.ac.jpまで連絡してください。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	領域「言葉」における素材・教材 児童文化財の種類（絵本、物語、言葉遊び、アプリなど）を知るとともに、文化財との出会いが遊びへ繋がり、さらに子どもの言葉の育ちへと繋がっていくことを理解する。活用の事例として、言葉遊び（なぞなぞ・しりとり・さかさ言葉など）を取り上げる。	児童文化財について調べ、発表する題材を選ぶ。 1時間
第2回	児童文化財の活用①（絵本） 児童文化財の活用について理解を深める。絵本を用いた具体的な保育場面を想定して保育指導案（略案）を作成し、模擬保育に取り組む。	模擬保育の内容の検討・振り返りを行う。 1時間
第3回	児童文化財の活用②（紙芝居） 児童文化財の活用について理解を深める。紙芝居を用いた具体的な保育場面を想定して保育指導案（略案）を作成し、模擬保育に取り組む。	模擬保育の内容の検討・振り返りを行う。 1時間
第4回	乳児保育—領域「言葉」のねらいと内容（Ⅰ）— 乳児の発達を知り、領域「言葉」における乳児保育にかかわる「ねらい」および「内容」を理解する。	乳児の発達と、この時期の保育の「ねらい／内容」について復習する。 1時間
第5回	1歳以上3歳未満児の保育—領域「言葉」のねらいと内容（Ⅱ）— 1歳以上3歳未満児の発達を知り、乳児保育と連続する領域「言葉」における「ねらい」および「内容」を理解する。	1歳以上3歳未満児の発達と、この時期の保育の「ねらい／内容」について復習する。 1時間
第6回	3歳以上児の保育—領域「言葉」のねらいと内容（Ⅲ）— 3歳以上児の領域「言葉」における「ねらい」および「内容」を理解する。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について再確認する。	3歳以上児の時期の保育の「ねらい／内容」について復習する。 1時間
第7回	3歳未満児における言葉の発達とおとなの役割 「言葉が成立するまで」と「言葉の成立以降」の各時期について知るとともに、1歳頃までと1歳以降の言葉の特徴と発達を押さえる。また、乳児と1歳以上3歳未満児それぞれの言葉の発達とおとなのかかわりについて理解する。	各年齢児の言葉の発達とおとなのかかわりについて、自分なりに考察する。 1時間
第8回	3歳以上児における言葉の発達とおとなの役割 3歳児・4歳児・5歳児の言葉の発達について事例を通して特徴を捉えるとともに、3歳以上児にとっての文字との出会いや書き言葉を獲得するための要素について理解する。	各年齢児の言葉の発達とおとなのかかわりについて、自分なりに考察する。 1時間
第9回	言葉のかかわりに配慮を要する乳幼児と保育	配慮を要する乳幼児に対する保育者の配慮と支援内容について復習する。 1時間

	乳幼児期の言葉の発達過程とともに、発達の遅れの要因となる各種の障がいについて知る。その上で、言葉の発達をうながすための保育者の配慮と支援内容を理解する。さらに、障がいのある子どもの保護者に対する保育者の支援について知る。		
第10回	小学校との接続―話し言葉から書き言葉へ― 事例から小学校との接続における子どもの言葉の発達を理解し、保育者のかかわりについて学ぶ。小学校・家庭・地域社会との連携の意義を理解する。	自身が関わる年齢層の時だけではなく、それ以後の子どもの育ちを見通すことも重要だと知る。	1時間
第11回	生活で使う話し言葉の「伝え合い」から小学校の「話し合い活動」につなぐ 挨拶、依頼・謝罪、異年齢交友などの生活の中で使われる言葉を押さえ、「伝え合い」におけるポイントと保育者のかかわりについて理解する。	話し言葉の「伝え合い」から小学校の「話し合い活動」という流れを常に意識する。	1時間
第12回	文字で伝える―保育所保育指針など3法令と小学校学習指導要領における文字教育― メッセージカード・かるたなど、子どもにとっての文字の獲得過程を知るとともに、保育園・幼稚園と小学校それぞれの現場における法令による文字教育の扱いについて理解する。	それぞれの法令に示された文字教育の扱いについて復習する。	1時間
第13回	子どもが物語を楽しむ方法 素話やストーリーテリングなど子どもが物語を楽しむ方法について知り、即興で3分のストーリーテリングに全員が取り組む。また、子どもの絵本体験について理解を深めるとともに、各年齢でどのような絵本が適切か考える。	ストーリーテリングの復習を行い、年齢別絵本リストを作成してみる。	1時間
第14回	子どもの言葉の育ちにかかわる今後の課題 時代の変化と言葉の育ちにかかわる課題について学ぶ。コミュニケーションにおけるポイントや「伝え合う」力の育みについて理解するとともに、ICTを活用した言葉の育みに関する現状と多文化共生社会の実現に向けた保育のあり方について考える。	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、再確認しておく。	1時間

授業科目名	幼児と環境				
担当教員名	向井 秀幸				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（向井）が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

幼児と環境とのかかわりを理解し、領域「環境」の視点から、援助・指導に関連する専門的知識や技能を身につけることを目指します。子どもを取り巻く環境と、環境とのかかわりを通じた育ち（発達）の過程について学びます。また、周囲の環境と積極的に関わるさまざまな遊びを通じて、子どもたちの思考や言語、行動がどのように変化をするのか、幼児の発達過程をふまえた、深い学びを実現するための理論・方法について理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育の専門に関わる確かな知識・技能・職業理解を身につけている。

目標：

幼児と環境とのかかわりを理解し、領域「環境」の視点から、援助・指導に関する専門的知識や技能を身につける。

汎用的な力

- DP4. 課題発見
- DP5. 計画・立案力
- DP6. 行動・実践

幼児と環境とのかかわりを理解する。

領域「環境」の視点から、援助・指導に関する専門的知識や技能を身につける。

幼児の発達過程をふまえた、深い学びを実現するための理論・方法を学ぶ。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内の課題発表・演習	：	授業内容に応じて取り組む課題や演習について、独自のルーブリックを用いて評価します。
30 %		
定期試験（レポート）	：	期末試験として、レポート試験を設定します。独自のルーブリックを用いて評価します。
20 %		
授業への取り組み状況	：	各回授業における積極的な参加や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等授業の妨げになる場合は減点）を総合的に評価します。
15 %		
授業内提出物	：	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限が守れているかなどを総合的に評価します。
35 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・領域「環境」 田宮緑 萌文書林 ISBN 9784893474278
 - ・保育内容 子どもと環境-基本と実践事例- 田尻由美子 無藤隆 同分書院 ISBN 9784810315240
 - ・保育内容 環境 酒井幸子 守巧 萌文書林 ISBN 9784893472366
- 必要に応じて、授業内で適宜資料を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の時間外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 中央館4階第2研究室、授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	「幼児と環境」で何を学ぶのか 授業内容と方法、約束事について説明します。授業の流れを知り、「幼児と環境」の関わりについて考えます。保育の現場で展開されている保育の中で、基本として何が大切にされているかを振り返ります。	ワークシートへの記入（子どもにとって必要な環境とは何か、保育者として子どもと一緒にどのような環境を作っていくのかについて考えます）	4時間
第2回	保育における植物の意義①—身近な植物の栽培方法を知る— 子どもにとって植物とはどのような存在であるのか、植物と触れ合うことでどのような感性が育まれていくのかを考えます。	ワークシートへの記入（身近な植物の栽培方法や適切な時期、準備物について理解を深めます。また、栽培を通して子どもの何を育んでいくのかについて考えます）	4時間
第3回	保育における植物の意義②—栽培の準備を行う— 植物を育てることを通して保育者として何をねらいとしていくのか、そのねらいの達成のために必要な知識や情報について考えます。	ワークシートの記入（子どもが主体的に取り組める観察の進め方、記録の取り方、役割分担のあり方について考えます）	4時間
第4回	身近な自然と子どものかかわり 身近な自然に子どもが興味をもつためのきっかけを保育者としてどのように作っていけばいいのかを考えます。	ワークシートへの記入（身近な自然物を取り入れてどんな体験活動やあそびが展開できるのかを考えます）	4時間
第5回	子どもの意欲を引き出す物的環境①—設計図を考える— 子どもは自分で考えて、イメージを広げながら遊びを展開することを乐しみます。子どもの表現したい気持ちを満たす表現環境について考えます。	ワークシートへの記入（身近にある素材を使い、年齢に応じた表現環境について考えます）	4時間
第6回	子どもの意欲を引き出す物的環境②—保育室の環境構成を考える— 保育実習室を使い、子どもの動線や目線の高さを考慮した意欲的に遊ぶことができる環境構成のあり方について考えます。	ワークシートへの記入（子どもの意欲を引き出す環境構成を考え、構成図を考えます）	4時間
第7回	行事における環境構成 大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園の「こどもてんらんかい」を見学し、行事における環境構成のあり方について理解を深め、意見を交換します。	ワークシートへの記入（作品展を見学し、行事における環境構成での学びについてまとめます）	4時間
第8回	保育において子どもが体験する文化や伝統、行事とは 日本に古くから伝わる文化や伝統行事に触れることで、子どもの感性は大きく揺さぶられます。文化や伝統行事のならわしや由来を保育者がいかに発信して伝えていくのか、その手立てを考えます。	ワークシートへの記入（日本の文化や伝統行事のならわしや由来、また、子どもへの発信方法について考えます）	4時間
第9回	生活する地域への理解を深める①—地域を知る— 子どもが安心して過ごすには、生活をしている地域に対する愛着をもつことが必要です。地域の良さや特徴を知るために、フィールドワークを行います。（学園周辺）	ワークシートへの記入（地域の特徴についてまとめます）	4時間
第10回	生活する地域への理解を深める②—地域の特徴をまとめる— フィールドワークで得た情報を整理する中で、子どもが地域への理解を深め、愛着をもつきっかけ作りについて考えます。	ワークシートへの記入（フィールドワークで得た情報を整理し、視覚化を行います）	4時間
第11回	環境の側面からジェンダーを考える	ワークシートへの記入（保育における無意識の行動について考え、意見を交換します）	4時間

	幼児期における経験や体験は人格形成における土台となります。保育者として多様性に触れる保育を環境を通してどのように展開していくのかを考えます。		
第12回	保育における植物の意義③ー栽培を通しての学びをまとめるー 栽培活動を通しての気づきや学び、反省点を整理して、子どもが主体的に取り組める栽培活動のあり方を考えます。	ワークシートへの記入（栽培活動を通しての気づきや学び、反省点を整理して、実践的な栽培活動のあり方を考えます）	4時間
第13回	園外保育のあり方を考える 園外での活動は、子どもがさまざまな刺激や経験を得る機会となります。保育者としてどんなねらいをもって園外活動を実施するのか、行先の選定や行程を想定しながら考えます。	ワークシートへの記入（園外保育のねらいを達成するため、行先の選定や行程を考え、意見交換を行います）	4時間
第14回	幼児にとっての人的環境、物的環境について考える これまでの授業内容を振り返り、子どもが主体的に活動できるような環境を整えるためには何が必要なのかを考えます。	ワークシートへの記入（子どもが主体的に活動できるような環境を整えるには何が必要かを考えます）	4時間

授業科目名	子どもの音楽				
担当教員名	楠井 淳子・熊谷 綾子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育園にて音楽講師として勤務。（楠井：全14回） カワイ音楽教室講師として勤務し、幼児リトミッククラスを担当（熊谷：全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目では領域「表現」のねらい・重要性を理解し、子どもの豊かな音楽表現活動を援助するために必要な知識や技術を習得すること」及び「子どもの豊かな感性を育むための教育と保育の実践へ向けた応用力を養うこと」を目的とします。具体的には①コード伴奏法を理解し、弾き歌いに習熟する。②リトミックの指導法を学び、実践できる。③各年齢に応じた幼児合奏を習得する。④簡易楽曲の創作法を学び、創造的な音楽表現を考察するなど、子どもたち豊かな感性を養えるような保育の展開を考え、実践できる力を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	幼児音楽の専門知識	乳幼児の心身の音楽的発達状況と、子どもの音楽表現を援助する方法や技術を理解し修得する事ができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	幼児音楽の実践とその応用	保育や教育の現場で実践できる力を養い、様々な状況に対応できる応用力を身に付ける事ができる。
汎用的な力		
1. DP6. 行動・実践		自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高めることができる。
2. DP9. 役割理解・連携行動		各種楽器の合奏やリトミックなどのグループワークを通して、協同する力を育み、自己の役割を果たすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内課題1【発表】	： 合奏やリトミックのグループワーキングを独自のルーブリックをもとに評価する。
20 %	
授業内課題2【提出物・レポート】	： 複数回の課題ワーク、レポート、編曲創作課題を独自のルーブリックをもとに評価する。
40 %	
授業内課題3【実技】	： 子どもの歌の弾き歌いとリトミックの伴奏などの授業内実技課題を独自のルーブリックをもとに評価する。
20 %	
定期試験【レポート】	： 指定された日時に提出された定期試験レポートを独自のルーブリックをもとに評価する。
20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

音楽教育研究会編『幼児教育・保育士養成のための 新編 幼児の音楽教育』（音楽教育研究会、2009年）
その他の参考文献は授業内で適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜2限
場所： 教育第9
備考・注意事項： 上記以外の時間帯の質問には授業の前後や第9・10研究室在室時間に対応します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	子どもの発達と音楽、遊びを伴った子どもの歌①（そのねらいの考察） ・子どもの発達と音楽の関わりについて学ぶ ・弾き歌いのレパートリー表（目標）を作成する ・遊びを伴った子どもの歌のねらいについて考える ・コードを復習し、子どもの歌のコード伴奏をする ・遊びを伴った子どもの歌の実践（手遊び歌）	手遊び歌の歌唱とコード伴奏の自己練習	1時間
第2回	遊びを伴った子どもの歌②（手遊び歌） ・遊びを伴った子どもの歌の実践（手遊び歌） ・和音の転回形を理解し、カデンツを演奏する ・子どもの歌の弾き歌い（カデンツを用いて） ・様々な調のカデンツを学び、演奏する	子どもの歌の歌唱とカデンツ奏の自己練習。リトミックについて調べる。	1時間
第3回	リトミック①（ねらいの理解と体験） ・リトミックのねらいを学ぶとともに体験する ・保育案の作成 ・子どもを取り巻く身近な自然環境をテーマに取り入れる ・リトミックで使用する変奏法について学ぶ	リトミックレポートを作成する。保育案を完成させる。	1時間
第4回	リトミック②（グループ討議） ・グループ活動：作成した個人の保育案の中からグループ発表する保育案を選び、設定保育案を作成する ・個人保育案の提出	伴奏形の変奏を考察し、自己練習する。	1時間
第5回	リトミック③（グループ練習） ・グループ活動：設定保育（リトミック）のグループ練習	リトミックのグループ発表練習	1時間
第6回	リトミック④（グループ発表） ・グループ活動：設定保育（リトミック）の発表 ・他のグループの発表を見て、批評と感想をまとめ、意見交換や討議を行う	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。	1時間
第7回	子どもの合奏①（子どもの年齢別合奏法の理解） ・子どもの年齢に応じた合奏法を学ぶ ・グループ活動：合奏の練習	編曲の考察をする	1時間
第8回	子どもの合奏②（子どもの年齢別合奏編曲法） ・子どもの年齢別合奏編曲法を学ぶ ・子どもの合奏の編曲を行う	弾き歌いの自己練習。合奏編曲を進める。	1時間
第9回	子どもの合奏③（編曲の実践） ・子どもの合奏の編曲を行う ・グループ活動：合奏の練習と発表	弾き歌いとリトミックの伴奏の自己練習。合奏編曲を仕上げる。	1時間
第10回	子どもの合奏④（発表） ・グループ活動：合奏の発表 ・他のグループの発表について、批評と感想をレポートにまとめ意見交換や討議する	編曲とレポートのまとめを完成させる。	1時間
第11回	子どものための音楽作品の創作①（創作法の理解） ・基礎的な音楽の創作法（メロディーの作り方）を学ぶ ・身体表現を伴った音楽作品の創作など、創造的な音楽表現について考察する	子どものための歌や器楽作品を創作する。	1時間
第12回	子どものための音楽作品の創作②（創作と記譜法） ・子どものための歌や器楽作品を創作する ・記譜法を学ぶ ・創作した曲を実際に演奏してみる	弾き歌いとリトミック伴奏の自己練習。創作課題を進める。	1時間
第13回	子どものための音楽作品の創作③（創作のまとめ）	弾き歌いとリトミック伴奏の自己練習。創作課題を仕上げる。	1時間

・子どものための歌や器楽作品の創作をまとめる ・自作品を正確に記譜し、完成させる		
第14回 実技発表 ・レパートリー曲の中から弾き歌いを発表する ・リトミックの伴奏（変奏形を含む）を発表する	これまでの授業で学修した内容をまとめる。課題が仕上がっていない場合は仕上げて提出する。	1時間

授業科目名	保育内容の指導法（健康）				
担当教員名	範 衍麗・塩田 桃子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中の領域「健康」について、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」と示されています。この授業では、そのねらいと内容及び内容の取り扱いについて理解します。子どもの育ちを保育者はどのように支え、指導していくのか、その意味や役割について理解をし、必要な知識・技術を身につけます。特に乳幼児の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、安全な生活、運動発達の特徴を深め適切な指導方法を身に付けるための授業を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい・内容・内容の取扱いに関する内容を理解する。	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容から、幼児の発達や学びの過程を理解する。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	領域「健康」における指導案の作成と模擬保育の実践を通して、専門的知識に基づく実践を構想し評価・改善することができる。	領域「健康」のねらいと内容を踏まえて、幼児が身につけていく内容と指導の留意点について、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。
汎用的な力		
1. DP5. 計画・立案力		領域「健康」のねらいに則した内容の指導についての指導計画をたてることができる。
2. DP9. 役割理解・連携行動		領域「健康」における保育者の役割を理解し、保育者間・保護者との連携や協働作業を進める力をつける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、チャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等		
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。		
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準	
授業への意欲・態度	：	授業への取り組みに対する意欲や態度
20 %		
指導計画の立案・模擬保育の実践	：	領域「健康」のねらいと内容を踏まえた指導計画の立案、模擬保育の実践および、評価と改善
40 %		
提出物	：	ワークシート作成・授業内課題の提出
20 %		
定期試験(レポート)	：	授業の内容の理解に関する試験

使用教科書

指定する			
著者	タイトル	出版社	出版年
谷田貝公昭編（範担当クラス）	・健康（コンパクト版保育内容シリーズ①）	・一藝社	・2018 年
監修：勝木洋子、編集：大和晴行・日坂歩都恵（塩田担当クラス）	・保育者をめざすあなたへ子どもと健康【第3版】	・株式会社みらい	・2025 年

参考文献等

適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日12：20～13：10
場所：	中央館4階第8研究室（範・塩田）
備考・注意事項：	担当教員は上記研究室に在室しています。質問がある場合はお越しく下さい。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	領域「健康」をめぐる現代的課題・保育における「健康」の意味と領域「健康」のねらいと内容の理解 領域「健康」をめぐる現代的課題を踏まえ、保育における「健康」の意味を考えます。また、幼稚園児教育要領に示された幼稚園児教育の基本を踏まえて、領域「健康」のねらいおよび内容・内容の取扱いについて理解します。	幼稚園教育要領を熟読し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての理解を深めておきます。	1時間
第2回	基本的生活習慣の形成と援助 基本的生活習慣を獲得する意味やその形成を支える保育者の役割および具体的な援助の方法について学びます。	過去の自分の幼児期の発達の姿を振り返り（家族の人に聞いたり）、基本的に生活習慣の形成のプロセスについて書き出してみます。	1時間
第3回	健康管理と安全能力を育む援助 健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助について理解を深めます。	最近の子どもを巻き込んだ交通事故、災害などの社会的な事件について、新聞や雑誌などの記事を抜き取り、事故や災害が災難に至らない為にはどのような安全指導が必要か考えてみます。	1時間
第4回	健康な心と体を育む保育の構想（健康指導、安全指導を中心にした指導計画立案） 健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導案を立案します。	指導案を立てるに当たって、まず健康指導や安全指導のねらいと内容を考え、テーマを絞り込み、指導案作成の準備をしておきます。	1時間
第5回	健康な心と体を育む保育の構想（健康指導、安全指導の実践、情報機器の活用） 健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導案を立案するための教材を考えます。	具体的な指導のために相応しい教材はどのようなものが存在するするかリサーチしておきます。また、使用したい教材がない場合は、自分で作っておいたり、工夫をして準備をしておきます。	1時間
第6回	健康な心と体を育む保育の実践（健康指導、安全指導の在り方と模擬保育・振り返り） 幼児の動機付けや意欲などを配慮した健康指導、安全指導のあり方について模擬保育を通して学びます。	グループ単位で模擬保育を行うに当り、指導案を準備しておきます。	1時間
第7回	健康な心と体を育む保育の評価と改善（1）（幼児理解と保育の視点を基盤とした振り返り） 作成した指導案に従って実施した模擬保育について省察や評価の振り返りをします。ロールプレイ形式による模擬保育において、保育者の立場からの指導の反省点や子どもの立場においての理解度などについて、意見交換をしまとめていきます。	保育者、子どもそれぞれの立ち場における、分かりやすさや指導の難しさなどを分析して、幼児が経験して身に付けていける指導のあり方を再検討します。	1時間
第8回	多様な動きの経験を促す援助（遊びや動きの経験を促す環境構成と援助） 遊びや生活の中の動きの経験を促がす環境構成と援助について学びます。	幼児の健康は活発な運動遊びによって支えられるので、その様な遊びが展開できる環境構成と指導のあり方について考えていただきます。	1時間
第9回	一人一人の子どもの心身の発達の特徴や育ちを踏まえた環境構成と援助 気になる子、障がい児、肥満児、家庭経験、性格特性等に 応じた援助の在り方について学びます。	気になる子、障がい児、肥満児、家庭経験、性格特性等とは具体的にどのような事例があるのか調べて書き出しておきます。	1時間
第10回	健康な心と体を育む保育の構想（運動遊びを中心にした保育計画立案）	運動あそびのねらいと内容について振り返り、指導案の立案に役立つ遊びの種類や遊び方、指導法などについて資料収集をしておきます。	1時間

	健康な心と体を育むための、活動的な運動遊びを中心にした指導案を立案します。		
第11回	健康な心と体を育む保育の構想（運動遊びの指導の実際、情報機器の活用） 具体的な保育場面を想定した運動遊びを中心とした指導案立案のための教材を考えます。	具体的な指導のために相応しい教材はどのようなものが存在するのかわかりやすくおきます。また、使用したい教材がない場合は、自分で作っておいたり、工夫をして準備をしておきます。	1時間
第12回	健康な心と体を育む保育の構想（遊びの意欲を高める運動指導の在り方） 幼児の動機付けや意欲などを配慮した運動遊びの指導について模擬保育を通して学びます。	グループで単位で模擬保育を行うに当り、指導案を準備しておきます。	1時間
第13回	健康な心と体を育む保育の評価と改善（2）（幼児理解と保育の視点を基盤とした評価） 作成した指導案に従って実施した模擬保育について省察や評価の振り返りをします。ロールプレイ形式による模擬保育において、保育者の立場からの指導の反省点や子どもの立場においての理解度などについて、意見交換をします。	保育者、子どもそれぞれの立場における、分かりやすさや指導の難しさなどを分析して、幼児が経験して身に付けていける指導のあり方を再検討します。	1時間
第14回	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿、領域健康と小学校教科とのつながり・まとめ 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿は、幼児が遊びを経験していく中で育っていくものであるが、小学校では教科の中で遊びが活用され経験して身に付けていくことになるので、保育者はあそびの中で展開される言葉や数量、その他の知識や社会的な理解や道徳心を育む内容も盛り込んだ指導計画をたてていく事を理解をします。	小学生のあそびの様子や学習の様子を観察して、幼児期の健康のねらいと内容が小学校での学習にどの様に繋がるのかを考えておきます。また、身近なところで見聞きする幼児の健康課題を調べておきます。また、授業時に話しあった内容について考えたこと、感じたこと、これからの幼児教育に必要な課題などをまとめてレポートにします。	1時間

授業科目名	子どもの造形				
担当教員名	紺谷 武				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校にて図画工作科教員を経験（芦田：14回） 幼稚園等での造形講師（紺谷、芦田：14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

描画・製作・造形遊びを中心に、伝統的なものから今日の情報機器を利用したもので、幼児と接するときに有効となる、保育者として必要な造形活動に関する保育技術や知識を学びます。獲得した技術を用いて、自らも工夫しながら教材開発ができるように授業を通じてイメージを豊かにしてもらいたと思います。
また、授業のまとめとして卒業後保育所及び幼稚園現場等で活用できる貴重な資料になる、ポートフォリオを作成します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

幼児の造形活動を保育者として設定し、支援するために必要な知識・技能・能力を習得する。

目標：

造形活動による保育を行うために必要な材料や用具の理解、知識や技術を習得し、保育現場での描画や製作、造形遊びなどの内容を自ら考えることができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

ポートフォリオ（スクラップブック）に、製作課題や案出した造形活動などをまとめ、実践に活かす力を養う。

製作課題や案出した造形活動などの記録をもとに、実践に向けた気付き・配慮・工夫・改善点などを抽出することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

豊かな感性をもとに、造形表現のテーマや、それを実現するために求められる知識・技能・能力的課題を発見することができる。

2. DP5. 計画・立案力

造形表現のプロセスを見通し、必要な材料・作業の段取りなどを計画・立案することができる。

3. DP6. 行動・実践

立案した計画をもとに行動し、実践の中で柔軟な対応を取り入れることができる。

4. DP7. 完遂

実践のプロセスにおいて知識・技能・能力的課題をクリアし、作品や造形活動案を完成させることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、チャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
また、授業終了時に提出するポートフォリオ（スクラップブック）も成績の判断基準とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

定期試験（作品に関する評価）

： 課題ごとに求められる内容、および知識・技能・能力の理解や応用が、作品とポートフォリオ（スクラップブック）に反映されているかを、独自のルーブリックに即して評価する。

80 %

日常の授業態度に関する評価

： 各授業で主体的・積極的に課題に取り組んでいるか、授業外課題が反映されているかを評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
横英子	・ 保育をひらく造形表現	・ 萌文書林	・ 2008 年

参考文献等

授業中に適宜資料の配布と提示をする。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	紺谷（金2）会議等で不在の場合あり
場所：	教育第一研究室
備考・注意事項：	各教員の研究室を訪ねてください。アポイントを取ることが望ましいが、教員が研究室にいればいつでも質問してください。芦田先生については、非常勤講師のため授業日に質問等をするようにしてください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	幼児の造形表現の意義と概要について 幼児の造形表現の意義と授業概要について学びます。また材料の配布や造形用具の準備、ポートフォリオの作成について説明を聞きます。	ポートフォリオ作成の準備と、材料用具に関する確認と用意。	1時間
第2回	描画 1 描画遊びの基礎と実践 幼児の絵遊びの基礎と実践について学びます。絵遊びの実践をととして自身の感性を広げます。（クレヨンあそびやスクリブル、オートマチック技法やスタンピングなど）	教科書2章「表現を育む人になる」を読んで復習をしておく	1時間
第3回	描画 2 幼児の描画の発達と特徴について 幼児の絵遊びの応用と実践について学びます。（画用紙にパスやペンなどでお話の絵、行事の絵、生活の絵など）	絵遊びの基礎・応用と、その実践をポートフォリオにまとめておく	1時間
第4回	描画 3 幼児の描画指導・援助の実践について 幼児の絵遊びの指導・援助の実践の事例について学びます。（ごっこ遊びの絵、しかけのある絵、グループ画など）	絵遊びの指導・援助方法や用具、材料、環境構成についてポートフォリオに整理しておく	1時間
第5回	製作 1 製作遊びの基礎と実践 幼児の製作遊びの基礎（貼る、折る、切る）と、幼児のはじめての用具・材料（はさみ、のり、折り紙など）との関わりを実践をととして学びます。	教科書3章、P45-46「紙の変身-平面と立体」「紙の技-伝える・演じる」を読んで復習をしておく	1時間
第6回	製作 2 幼児の製作の基本と、その特徴について 幼児の製作遊びの応用を実践をととして学びます。（切り紙、立体紙製作など）	製作遊びの基礎・応用と、その実践をポートフォリオにまとめておく	1時間
第7回	製作 3 幼児の製作指導・援助の実践について 幼児の製作遊びの指導・援助の実践の事例について学びます。（壁面製作、行事の製作物、遊べる物、使える物など）	製作遊びの指導・援助の方法や、用具、材料、環境構成について、ポートフォリオに整理しておく	1時間
第8回	造形遊び 1 造形遊びの基礎と実践 0、1、2歳児の物遊びを中心に、造形遊びで実際に使える簡単な玩具（おもちゃ）をつくります。	造形遊びの玩具の作り方、遊び方をポートフォリオにまとめておく	1時間
第9回	造形遊び 2 幼児の造形遊びの特徴について 幼児の造形遊びの応用と実践について、感触遊び、行為そのものを楽しむ遊びなどの探索的な遊びの活動をととして学びます。	造形遊びの基礎・応用と、その実践をポートフォリオにまとめておく	1時間
第10回	造形遊び 3 幼児の造形遊びの指導・援助の実践について 幼児の造形遊びの指導・援助の実践の事例について学びます。（ごっこ遊び、形・色遊び、構成遊びなど）	造形遊びの指導・援助の方法や、用具、材料、環境構成について、ポートフォリオに整理しておく	1時間
第11回	環境を豊かにするプロジェクト 1 環境を豊かにするプロジェクトの基礎 環境を豊かにするプロジェクトの学習を教材書から学んだあと、実践につなげます。	教科書6章「環境を豊かにするプロジェクト」P155を読んで復習しておく。	1時間
第12回	環境を豊かにするプロジェクト 2 環境を豊かにするプロジェクトの実践・製作 環境を豊かにするプロジェクトとして、グループで協力して取り組める活動をおこないます。（場に関わる遊び、新聞遊びなど）	教科書「新聞紙の挑戦」P51、「池プロジェクト活動」P178-179を読んで復習しておく	1時間

第13回	保育案 1 造形表現における保育案の理解と作成 造形表現の保育案について学び、やって見せる導入（直接的な援助）と、環境による導入（間接的な援助）の二つの保育案を作成します。題材は今まで経験した授業実践からか、教材書から選んで書きます。	造形表現指導の実際を、教材書の指導のねらいから、直接的な援助までを読んで整理しておく。また、授業内での学びをポートフォリオに整理します。	1時間
第14回	授業の振り返りとポートフォリオの整理 これまでの授業を振り返り、ポートフォリオについて整理を行う。授業終了後にポートフォリオを提出します。	ポートフォリオのまとめや、作品の出来ていないところを完成させる	1時間

授業科目名	保育内容の指導法（人間関係）				
担当教員名	松元 早苗				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	松元：私立・公立幼稚園で約20年間、教諭として勤務（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

幼稚園教育要領や保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記された領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、乳幼児にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実施する方法を身に付ける。乳幼児期の人間関係の発達の特徴を踏まえ、保育における人とかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する。事例や視聴覚教材等を使用し、子どもを理解した保育が行える授業を展開する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育者としての専門知識

目標：

子どもの豊かな人間性を育むために必要な、保育者としての技能や知識を修得し、保育者としての自覚を持つことができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育者としての実践力の修得

保育者として、人と関わる力を養い、子どもの「生きる力」を育むことができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

実習の経験から、保育者を目指す学生として人間関係の重要性を理解し、自分自身の課題を見出すことができる。

2. DP8. 意思疎通

見出した課題の改善策を基に、人とかかわる力を養い、実践することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「不可」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への参加・貢献度

： 各回授業への積極的参加や授業態度を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。授業内でのグループワークや発表において、他者の意見をよく聴き、自己の意図を正確に伝えているか評価します。

40 %

課題・演習

： 授業内容に応じて課題や演習を行い評価する。課題は授業内、または宿題とし、期限内に提出すれば評価を行う。課題（15%）演習（15%）で評価します。

40 %

定期試験（レポート）

： 授業での学びを保育者を目指す者として十分理解できているかを、レポート試験で評価します。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
田村美由紀・室井佑美	・ 人間関係ワークブック	・ 萌文書林	・ 2017 年

参考文献等

幼稚園教育要領（著者：文部科学省 出版社：フレーベル館）ISBN978-577-81422-2
 保育所保育指針（著者：厚生労働省 出版社：フレーベル館）ISBN978-4-577-81423-9
 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（著者：内閣府 出版社：フレーベル館）ISBN978-4-577-81424-6

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
 「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	授業の教室
備考・注意事項：	授業の前後、授業の教室・第3研究室で受け付けます。 松元が不在で、早急な対応が必要な場合は、メールにて受け付けます。 matsumoto-sa@eg.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 領域「人間関係」における保育および教育の目標 1. 人間関係を取り巻く現代社会の状況 2. 幼保連携型認定こども園における教育・保育の基本と目標。幼稚園教育の基本 3. 保育所保育に関する基本原則	「人間関係」における原題社会の問題についてまとめる。	1時間
第2回 領域「人間関係」におけるねらいと内容 1. 認定こども園・幼稚園・保育所の領域「人間関係」 2. 人間関係の育ちを支える保育者	保育者の役割について考える。	1時間
第3回 身近な人との関わりと発達 1. 愛着の形成と分離行動 2. 自我の芽生え 3. 思いやイメージを言葉で表現する	「人間関係」と「表現」の関連性について調べる。	1時間
第4回 保育者に求められている人間関係 1. 乳児期の関わり 2. 幼児期の関わり 3. 保育者同士の関わり 4. 保育者と保護者の関わり	保育者の関わりについてまとめる。	1時間
第5回 仲間との関わりと発達 1. 自己調整力の育ち 2. 道徳性と規範意識の芽生え	人間関係における道徳性と規範意識についてまとめる。	1時間
第6回 遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割Ⅰ—イメージの共有— 1. 遊びの中でイメージを共有すること 2. 仲間入りをめぐる保育者の役割	遊びの中での保育者の役割についてまとめる。	1時間
第7回 遊びの中での人との関わりと保育者の役割Ⅱ—試行錯誤の過程— 1. コミュニケーションと試行錯誤 2. 友達の思いとともに探求するおもしろさ	子ども同士の関わりにおける保育者の役割についてまとめる。	1時間
第8回 遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割Ⅲ—自己主張・葛藤・育ち合い— 1. 遊びの中で身につける調整力 2. 子どもの相談する・子どもが解決する 3. 自己主張をあまりしない子ども	自己主張や葛藤・育ち合いにおける保育者の役割についてまとめる。	1時間
第9回 遊びのなかでの人との関わりと保育者の役割Ⅳ—協同的な遊び— 1. 協同して遊ぶ経験 2. 時間がかかる活動や遊びを通して育つもの 3. 小学校へつなぐ育ちを支える人間関係	小学校へつなぐ育ちを支えるための保育者の役割についてまとめる。	1時間
第10回 人との関わりが難しい子どもへの支援 1. 集団生活に困難をとまなう子どもへの保育 2. 誰もが居場所のある集団づくり	人との関わりが難しい子どもに対する保育者の援助についてまとめる。	1時間
第11回 領域相互の関連性と保育展開Ⅰ—指導計画の意義・作成・実践例（0～2歳児）— 1. 0歳児の指導計画と実践 2. 1歳児の指導計画と実践 3. 2歳児の指導計画と実践	指導計画作成を通して学んだことを復習する	1時間
第12回 領域相互の関連性と保育展開Ⅱ—指導計画の意義・作成・実践例（3歳児）— 3歳児の指導計画と実践 指導計画作成のポイント 【課題】見つけて気づくこと	指導計画作成で気づいたことに関してまとめる。	1時間

第13回	領域相互の関連性と保育展開Ⅲ—指導計画の意義・作成・実践例（4歳児）— 4歳児の指導計画と実践 指導計画作成のポイント 【課題】見つけてあなたがつくろう	4歳児の特徴をまとめ、指導計画作成に活かす。	1時間
第14回	領域相互の関連性と保育展開Ⅳ—指導計画の意義・作成・実践例（5歳児）・まとめ— 5歳児の指導計画と実践 指導計画作成のポイント 【課題】あなたが作って、やってみよう 領域「人間関係」に関するまとめ	「人間関係」における保育者の役割についてまとめる。	1時間

授業科目名	保育方法論				
担当教員名	園田 育代・須河内 優子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（園田・須河内）が、幼稚園で幼稚園教諭として勤務（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育方法の基本について理解し、保育の方法や技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。具体的には、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育、保育それぞれの役割を理解し、乳幼児の発達過程、園行事の実際、情報機器の活用方法、子どもとの関わり方、教材等の学びを深める。授業の内容として、講義と演習に重点をおき、グループワークを取り入れながら学び合い、保育実践力を培う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

保育方法、保育内容と実践を理解することができる。
ねらい、活動内容、環境構成、保育者の援助・配慮の視点を含めた指導計画を立案する。

目標：

保育方法の基礎的理論と実践を理解することができる。
幼児期にふさわしい活動内容を取り入れた指導計画の立案できる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践
2. DP9. 役割理解・連携行動

指導計画の発表と評価を行い、実践力を身に付けることができる。
他者と協同して課題に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	：	授業内におけるワークへの積極的参加と各章末の演習課題についての実践演習シートの記入の適切性について、独自のルーブリックで評価する。
40	%	
定期試験	：	指導計画の作成とまとめのレポートについて、授業内容をふまえたものであるか、そこに独自の理解や具体性が見られるかについて、独自のルーブリックで評価する。
40	%	
受講状況	：	各回授業への積極的参加や授業態度を評価する。
20	%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
宮下恭子、篠原いくよ、柘植誠子	・教育・保育方法－実践のための理論と実際－	・大学図書出版	・2018 年

・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

・文部科学省・厚生労働省・内閣府

・2017 年

参考文献等

必要に応じて適宜配布。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 第3研究室

備考・注意事項： 上記の時間外でも研究室に在室であればいつでも受ける。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育方法の基礎的理論の理解 幼稚園・保育所の保育方法の歴史と変遷、保育様式の変遷や、保育の方法について学ぶ。	第1章の演習課題「個人課題1」を行う（P37）	4時間
第2回	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における教育、保育 幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育について、それぞれの役割など学ぶ。	第1章の演習課題「個人課題2」を行う（P37）	4時間
第3回	保育形態の多様性及び安全・保健計画 保育形態や危機管理、安全指導、保健計画について学ぶ。	第2章の演習課題「個人課題1」を行う（P53）	4時間
第4回	育みたい資質、能力と幼児理解に基づいた計画の基礎的な考え方 幼児理解に基づいた保育指導計画の基礎的な考え方について学ぶ。	第2章の演習課題「個人課題2」を行う（P53）	4時間
第5回	3歳未満児の発達の特性と保育者のかかわりについて 3歳未満児の発達の特性と保育者のかかわりについてについて学ぶ。	第3章の演習課題「個人課題1」を行う（P76）	4時間
第6回	3～5歳児の発達の特性と保育者のかかわりについて 3～5歳児の発達の特性と保育者のかかわりについてについて学ぶ。	第3章の演習課題「個人課題2」を行う（P76）	4時間
第7回	子どもの遊びの特徴からみる保育の展開 遊びの楽しさの本質、主体的な活動等子どもの遊びの特徴から、保育への展開について理解を深める。	第4章の演習課題「個人課題1」を行う（P94）	4時間
第8回	園行事の実践と実践方法 運動会、生活発表会、誕生会等などの行事や地域とのかかわり、伝統文化を取り入れた実践方法について知識を広げ、実践方法について学ぶ。	第5章の演習課題「個人課題1」を行う（P112）	4時間
第9回	教材についての基礎的な要件と指導計画の理解 教材の工夫と保育における活用方法、指導計画の立案について理解する。	第4章の演習課題「個人課題2」を行う（P94）	4時間
第10回	情報教育の機器の活用と課題 情報機器の活用、情報の管理と保護、活用と課題について学ぶ。	第6章の演習課題「個人課題1」を行う（P128）	4時間
第11回	情報機器の活用方法を工夫した指導計画の作成 情報機器の活用方法について調べ、幼児期にふさわしい指導計画を立案する。	第6章の演習課題「個人課題2」を行う（P128）	4時間
第12回	指導計画の発表・評価を行う 指導計画の発表と評価を行い、自己の学びにつなげる。	ワークシートの作成	4時間
第13回	保護者及び地域社会との連携 保護者と連携することの重要性を知り、その方法について理解する。また、地域社会との連携の実践を学ぶ。	第7章の演習課題「個人課題1」を行う（P142）	4時間
第14回	園内、園外研修の必要性の理解 園内、園外研修等の必要性について理解する。	第8章の演習課題「個人課題1」を行う（P156）	4時間

授業科目名	教育実習Ⅱ				
担当教員名	榊原 志保・須河内 優子				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（須河内）が、幼稚園での実務経験を有する。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

以下の5点をねらいとする。①教育実習Ⅰでの学びを活かして、自ら課題をもちながら幼児とのかかわりを深め、幼稚園教育の基本を理解する。②保育技術を学び、幼児の発達を踏まえながら、幼児の主体的な活動を行うための環境構成及び援助のあり方を学ぶ。③指導計画の立案や活用方法を学び、保育活動を実践する。④家庭や地域と連携を図りながら幼児教育に携わる幼稚園の実態に触れる。⑤習得した理論を自ら実践することを通して、幼稚園教諭としての専門性を理解し、自らの保育観をもつようになる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	観察・参加実習・責任実習	幼児の実態や幼稚園教育要領を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	観察・参加実習・責任実習	保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。
汎用的な力		
1. DP9. 役割理解・連携行動		学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解することができる。
2. DP6. 行動・実践		様々な活動の場面で適切に幼児と関わるができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	実習は10日以上、80時間以上の実習時間が必要です。必要な実習時間を満たさなければ評価しません。		
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準		
実習園による評価	50	%	： 実習中の健康管理や提出物などの実習状況や言動及び協調性等の実習態度、子どもとその関わり、保育の知識・理解・技術など、実習園からの評価を換算する。
実習記録	20	%	： 実習記録を書く力、提出状況などを評価する。
巡回報告書	10	%	： 実習園別指導教員による事前事後指導の取り組み、実習中に訪問状況を評価する。
教育実習報告書	20	%	： 適切に教育実習の振り返りができているかを、独自のルーブリックを基に評価する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
----	------	-----	-----

参考文献等

文部科学省 「幼稚園教育要領」 フレーベル館 2017 ISBN978-4-577-81422-2
 厚生労働省 「保育所保育指針」 フレーベル館 2017 ISBN978-4-577-81423-9
 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」 フレーベル館 2017 ISBN978-4-577-81424-6

履修上の注意・備考・メッセージ

体調管理に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を完了させるためには、毎日の実習終了後、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすることが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 随時受け付けます（実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については教育実習事前事後指導の授業で案内します）。

授業計画

学修課題

授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回

本実習

- ・ 幼児の発達、保育者の援助・配慮、保育の流れについて理解する。
- ・ 幼児に接し共に活動することにより、子ども理解を図る。
- ・ 担当指導教員の立場を体験から理解する。（責任実習）

実習記録を書くとともに、次の日の実習課題、目標を明確にする。

20時間

授業科目名	子どもの健康と安全				
担当教員名	範 衍麗・寺辻 良子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

子どもの保健で習得した知識をもとに、演習を通して子どもの健康についての理解を深め、栄養・衛生・安全に関わる保健活動を理解し、保健活動の方法を学びます。子どもの健康状態を把握するための観察や身体計測の意義や方法、清潔を保ち感染予防のための手洗い・歯磨き・身体の清潔について学びます。さらに子どもが起こしやすい症状の対応や、園や家庭で起こりやすいケガに対する予防やその対処の方法、緊急時における救急処置や応急手当てなどについても学びます。関連するガイドラインに基づいて適切な対応を具体的に学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	保育における保健体育分野の専門的知識と技術を身につける。	子どもの健康を把握するための観察や身体計測の方法を理解し身につけることができる。子どもの健康を保持・増進するための栄養・衛生・安全管理の方法を理解し、身につけることができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		子ども一人ひとり、子ども集団全体の健康状態を把握するための観察や身体計測を理解し、課題を明らかにすることができる。
2. DP6. 行動・実践		子ども一人ひとり、子ども集団全体の健康の問題に対して、発育・発達を阻害することなく適切に対応できる。
3. DP10. 忠恕の心		子ども一人ひとり、子ども集団全体の代弁者となつて、子どもを取り巻く環境を整えていくことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
観察・身体計測・身体の清潔・心肺蘇生などの実技演習の授業は幼稚園実習や保育実習のオリエンテーションなどと重ならないように、実習先との調整をしてください。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業の参加意欲・態度	： 主体的に演習活動に参加し、チームのメンバーと協力しながら準備や片付けなどを積極的に行います。
30 %	
小テスト	： 小テストは、実践に結びつく内容なので、理解して実践できるかどうかを確認し評価します。
20 %	
レポート	： レポートは、提出期限を守り指示内容に沿っているか、理解を深める努力をしているかで評価します。
20 %	
定期テスト	： テストは、実践に結びつく内容なので、理解して実践できるかどうかを確認し評価します。
30 %	

使用教科書

指定する			
著者	タイトル	出版社	出版年
鈴木美枝子 編	・これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全	・創成社	・2024 年

参考文献等

吉岡毅・長谷川浩道・千羽喜代子 著 「実習育児学」 日本小児医事出版社
大西文子 著 「子どもの保健 演習」 中山書店
落合利佳 編著 「[シリーズ・新しい時代の保育者養成]子どもの保健」 あいり出版

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は保育士資格取得必修科目であるため、子どもの命を預かる専門職に必要な知識と技能を習得するための授業であるという意識を持って授業に取り組んでください。授業での私語や居眠りは認めません。授業内容や専門用語などの言葉が理解できないときは、挙手して質問するように心がけてください。
授業外学習課題は、一年次に学んだ「子どもの保健」の復習です。試験のためではなく自分の将来のために必要ですから、丁寧に復習しておきましょう。医学は年々進歩しています。子どもを取り巻く環境（テレビ、携帯電話、遊び場の欠如など）も10年・20年前と比較すると大きく変化しています。子どもに関係する政策や法律も年々変化しています。卒業後は、自ら新しい情報を入手しなければなりません。科目によっては重複する内容もあります。その内容を振り返りながら、理解を深めましょう。さらに、観察する能力を磨くために、小説を読んだり映画鑑賞をするなどして、追体験をしましょう。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 範：月曜日12:20～13:00、寺辻：授業の前後
場所： 範：第8研究室、寺辻：教室
備考・注意事項： 授業の前後以外で質問したい場合は、メールにて受け付ける。メールには必ず学生記番号と氏名を明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション 保育施設における保健活動 シラバスや受講時のルールやマナーを理解します。子どもにとっての健康とは何か、健康の定義に沿って子どもの健康を保持・増進していくための保健活動とはどのようなことかを学びます。	保育所保育指針第三章を読んでくる。	1時間
第2回	身体計測 身体計測の意義を理解した上で、注意しなければならないことを意識しながら、人形を用いて、身体計測をグループごとに行います。実習後レポートにまとめ、次週の授業開始時に提出します。レポート内容は、計測値と計測で注意することをまとめます。	一年次に学んだ子どもの発育・発達について復習してくる。	1時間
第3回	健康観察 健康観察の意義とその方法について学びます。体温はいろいろな影響を受けて変化することを理解し、体温を正しく計測する方法を学びます。体温や脈拍の測定、呼吸音の聴取を実際に行い、健康観察をするうえで必要な知識と技術を学びます。	一年次に学んだ、子どもの保健の循環器系・呼吸器系・消化器系の構造と機能、病気とその対応を復習してくる。	1時間
第4回	体調不良時の対応 体調不良時の症状とその対応の仕方を学びます。発熱、嘔吐、下痢、便秘、咳、痙攣（けいれん）発疹、その他、痛みなどの症状がみられる場合の対応と、予測される病気についても学びます。	感染症について調べ、発表用スライドを作成します。	1時間
第5回	感染症の予防と対策 感染症の予防と対策について学びます。学校保健安全法施行規則についても学びます。手洗いやうがいをすることの意味を理解し、正しい方法を学びます。施設における衛生管理について学びます。	一年次に学んだ子どもの保健のテキスト5章3感染症を読んでくる。	1時間
第6回	感染症発生時と罹患後の対応 保育所における感染症対策ガイドラインや近年のデータを踏まえ、感染症対策について具体的に理解します。	一年次に学んだ免疫の仕組みについて復習してくる。	1時間
第7回	身体の清潔に関する演習 身体の清潔の意義を理解し、沐浴ができないときの清潔方法を学びます。注意しなければならないことを意識しながら、人形を用いて、身体の清潔をグループごとに行います。	沐浴などの体を清潔にする意義や注意することをまとめる。	1時間
第8回	個別な配慮を要する子どもへの対応（アレルギー疾患） 保育所におけるアレルギー対応ガイドラインに基づいて、子どもの発達や状態に即した適切な対応を、具体的に学びます。緊急時に使用することがあるエピペンについても学びます。アトピー性皮膚疾患と気管支喘息について理解します。	一年次に学んだ子どもの免疫の仕組みを復習してくる。	1時間
第9回	個別な配慮を要する子どもへの対応（障害のある子ども）	一年次に学んだ子どもの運動機能の発達、精神機能の発達を復習してくる。	1時間

	障害とは何かを理解し、障害のある子どもの対応を学びます。保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応を、具体的に学びます。		
第10回	乳幼児の事故とケガ SIDS 子どもの事故死の現状と子どもの事故の特徴を理解し、事故防止対策、安全教育について学びます。SIDS (Sudden Infant Death Syndrome) 乳幼児突然死症候群について理解し、注意しなければならないことを学びます。	一年次に学んだ子どもの安全についての内容を復習してください。	1時間
第11回	救急処置と応急手当て 救急蘇生法 応急処置・包帯法について学びます。調べてきた誤飲しやすいものを発表し、日常で気をつけなければならないことを考えます。施設内外の安全対策や誤飲防止のための環境整備について学びます。子どもの心肺蘇生法・AEDの使い方について学びます。	誤飲防止チェッカーを作製し、身近なもので危険なものを調べてくる。一年次に学んだ子どもの循環器系・呼吸器系の構造と機能を復習してくる。	1時間
第12回	園外保育の子どもの安全への配慮 園外保育の事故の現状を理解します。散歩時の安全管理の取組や遠足の事前準備や当日の配慮を学びます。道路の歩き方、子どもの行動把握、子どもの人数や健康状態の確認など具体的に学びます。	誤飲防止チェッカーを作製し、身近なもので危険なものを調べてくる。一年次に学んだ、子どもの循環器系・呼吸器系の構造と機能を復習してくる。	1時間
第13回	危機管理と災害対策 教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における危機管理と災害対策について具体的に理解する。	保育所保育指針第3章4を読んでくる。	1時間
第14回	地域保健活動 子どもの保健教育とその管理 保健所における母子保健活動や地域における育児支援活動、保健所や地域との連携について学びます。第1回から第13回の授業を振り返り、理解が不十分な箇所を確認します。	理解が不十分な箇所を学習する。	1時間

授業科目名	子どもの食と栄養				
担当教員名	須田 あゆみ・谷口 信子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	須田：管理栄養士として実務経験を有する（保育園、保育者養成校に勤務。全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

小児の心身の発育に食生活が大きく関わっていることを理解し、その発育段階に応じた望ましい食生活と食育について、講義・演習・調理実習を通して学ぶ。具体的には健康的な食生活の意義と栄養に関する基礎知識、小児の発育段階に応じた食事、食物アレルギー等疾病時の食事について保育者として基本的な知識、技術を得ることを目的とする。食育については地域・社会・文化・環境との関わりの中から食育を理解し、食育を実践できる力を習得する。また、この講義・実習を通して、学生自身の食生活を見直すきっかけとすることも目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

小児の食事についての知識

目標：

小児の発育段階に応じた食事・食物アレルギー等疾病時の食事について、保育者として提示することができる

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

小児の食生活に関する技能・技術

調理実習や演習を通じて、小児の発達段階に応じた食生活に関して、保育者として実践することができる

汎用的な力

1. DP9. 役割理解・連携行動

グループワーク・プレゼンテーション等、協同で課題に取り組むことにより、自分がどのように協力するべきかを考え、行動する力をつけることができる

2. DP6. 行動・実践

調理実習を行うことにより、年齢に応じた食事作りの知識および技術を習得する。

3. DP6. 行動・実践

人の前に立ち、自分の伝えたいことをわかりやすく伝える発信力の大切さ・難しさを経験し、より意識をもって取り組むことができる

4. DP4. 課題発見

プレゼンテーションを行うことにより、子どもや自分たちの食生活における問題点を考えることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

また、以下のような授業態度が見られる場合、1点ずつの減点とします。

- ・何度注意しても私語が多い。
- ・何度注意しても授業に無関係な作業を行っている。
- ・調理実習時に爪を切っていない。ネイルをしたまま参加する。

成績評価の方法・評価の割合

小テスト

評価の基準

： 健康的な食生活の意義と栄養に関する基礎知識、小児の発育段階に応じた食事、食物アレルギー疾病等の食事についての知識とその理解について評価する。

レポート・課題	：	講義・演習・調理実習での理解度、技能・技術の習得度を評価する。
40　％		
食育プレゼンテーション	：	自分達の食生活改善に向けた食事について話し合い、テーマに基づいたお弁当を各自が家で作成し、その写真・レポートを持参して発表する。
20　％		
試験（レポート）	：	指定するテーマについての記述内容で、授業の理解度を評価する。
10　％		

使用教科書

指定する			
著者	タイトル	出版社	出版年
太田百合子、堤ちはる	・ 子どもの食と栄養 第3版	・ 羊土社	・ 2025　年

参考文献等

日本人の食事摂取基準[2025年版]/厚生労働省HP
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン/厚生労働省
平成27年度 乳幼児栄養調査/厚生労働省

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

調理実習時には、エプロン、三角巾、手拭タオルを持参すること。
忘れた場合にはエプロンクリーニング代が必要となる。
調理実習室使用時は、特に衛生面への配慮が必要なため、家庭とは異なる使用・片付けの細かい注意をその都度行うが、施設使用のルールであるため協力すること。

この授業を受講する者は、必ず教科書を購入すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	担当曜日の昼休み
場所：	非常勤講師控室
備考・注意事項：	授業前後の質問も積極的に受け付ける。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	小児の栄養と食生活の意義 本講義の概要についてオリエンテーションを行うので初回は必ず出席すること。 日本人の現在の栄養摂取状況や、乳幼児栄養調査のデータも合わせて、食べ物の必要性和子どもの心身の発育との関りを理解する。食生活の現状等、課題についてグループワークを行う。	4時間
第2回	子どもの発育・発達と食生活1（身体発育と栄養状態の把握、食機能） 小児期の子どもの身体発育や食べる機能の発達について理解する。また、食欲、消化、吸収、排泄のしくみを学ぶ。	4時間
第3回	栄養に関する基礎知識（栄養の基本概念と栄養素の種類と機能） 栄養の基本的概要と栄養素の種類と機能について学ぶ。日本人が不足しがちな栄養素を理解するとともに、自身の食生活を振り返り、問題点を見つける。 また、食育プレゼンテーション「私の食生活の改善を目指すお弁当」作成についての説明を聞き、自分たちが健康でいるために必要な栄養素を摂取できるお弁当とはどのようなお弁当かを話し合う。 授業の最後に小テストを行う。	4時間
第4回	子どもの発育・発達と食生活2（乳児期の栄養、妊産婦の食生活） 妊娠期の栄養と食生活および、乳児期の栄養について学ぶ。 母乳の利点・注意点、調製粉乳の種類と取り扱いについて学び、レポート課題としてまとめてもらう。	4時間
第5回	子どもの発育・発達と食生活3（離乳の意義、離乳食の進め方） 乳汁栄養について学んだ内容を復習しつつ、乳児期の栄養・食生活における離乳の意義および具体的な進め方を学ぶ。次週の調理実習について、オリエンテーションも行う。	4時間
第6回	子どもの発育・発達と食生活4（調理実習①：離乳食～幼児食、調乳）	4時間

	調理実習室で実習についてオリエンテーションを行い、実習室の使い方および、離乳食作成を学ぶ。離乳初期、中期、後期及び幼児食に適した食材や調理形態を理解しながら実習を行い、咀嚼機能の変化も考えるとともに、大人の食事を取り分ける方法についても学ぶ。市販のベビーフードの試食もする。		
第7回	子どもの発育・発達と食生活5（幼児期の食機能の発達と成長、食事内容について） 幼児期の食機能の発達および幼児期の栄養や基本的な食生活、保育者としての対応について学ぶ。授業の最後に小テストを行う。	予習：教科書の該当箇所を読む。小テストの勉強をしておく。復習：離乳期、幼児期の食生活について復習する。他：食育プレゼンテーションお弁当の作成、レポートに取り組む。	4時間
第8回	子どもの発育・発達と食生活6（幼児期の栄養・食生活上の問題と対応） 幼児期の栄養・食生活上の問題点としてどのようなことがあるのかを意見交換し対応を考える。学童期から思春期の栄養・食生活について学ぶ。	行事食のレポート作成	4時間
第9回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養1（食物アレルギー） 食物アレルギーをもつ子どもへの対応について学ぶ。食物アレルギーについてレポートを作成する。	食物アレルギーについて理解し、レポート作成	4時間
第10回	食物アレルギーについて（調理実習②） 食物アレルギーを理解するために、実際におやつを作ってみる。 ①スノーボールを小麦粉と米粉を使って作る。 ②オレンジゼリーを粉寒天とゼラチンを使って作る。	予習：教科書の関連箇所を読んでおく。復習：食物アレルギーのレポートをまとめる	4時間
第11回	食育の基本と内容1（食育の意義、目的と基本的な考え方）、家庭・児童福祉施設における食事と栄養 食育がなぜ必要とされるのかを理解する。児童福祉施設における食事と栄養について理解する。	食育できる絵本探し	4時間
第12回	食育の基本と内容2（食育プレゼンテーション） 食育の実際：計画、評価、環境作り 食育できる絵本の紹介（ビブリオバトル形式で）	お弁当作成課題の提出	4時間
第13回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養2（疾病および体調不良時の食事について） 疾病および体調不良時の食事について学ぶ。障害のある子どもへの対応	「お弁当」のプレゼン準備	4時間
第14回	食育発表・全体のまとめ 食育プレゼンテーション「私の食生活の改善を目指すお弁当」を発表する。子どもの食と栄養の意義についてのこれまでの授業の全体的なまとめを行う。	定期試験に向けて復習	4時間

授業科目名	特別支援教育・保育概論				
担当教員名	園田 和江				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	園田：教育機関で相談員、教員として勤務。保育士として実務経験有り(全14回)。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

乳幼児期における特別支援教育および障害児保育は、一人一人の障害や発達状態に配慮しながらも、乳幼児期にふさわしい楽しい遊びや安心できる生活を通して子どもの人格そのものの豊かな発達を保障していくことをめざしている。本演習では、発達障害を含む様々な障害の特性を学ぶだけでなく、実践例を通して、障害のある乳幼児の支援方法について基礎的認識を持つことを目的とする。また、家族支援や機関連携などについても学び、保育者として障害児の子育て全体を見通すことのできる知識を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	障害の特性についての知識を学び、障害児支援の課題を知る。	障害の特性に合わせて、教育・保育上の配慮点を述べることができる。
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	障害児を持つ家庭への支援や機関連携について学ぶ。	障害を持つ子どもの家族支援における保育者としての基本的姿勢を身につける。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		障害児の支援の実践でそれぞれの事例における保育者の役割ついて、考察することができる。
2. DP8. 意思疎通		他者の意見を聴いたうえで、障害児支援に対する自分の意見を述べるすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業への積極的な参加態度	： 個人やグループでの発表に関する発言やグループ内での貢献度、不適切な授業態度(私語、居眠り、携帯電話の使用等)の有無を独自のルーブリックをもとに評価します。
	40 %
授業内ワークシート	： 教科書や配布する事例報告を読むことや、事例の映像を視聴することを通し、ワークシートを記入する。内容が、授業の内容を踏まえて適切な読み取りと考察ができているかを独自のルーブリックをもとに評価します。
	40 %
試験（レポート）	： 前期・後期の学習を振り返り、講義内容の理解度と考える力を評価します。
	20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
野内友規	・「気になる子のインクルーシブ教育・保育」	・中央法規	・2022 年

参考文献等

- ・「障害児保育ワークブック インクルーシブ保育・教育をめざして」星山麻木(編著) 萌文書林 2020年 (ISBN : 978-4-89347-328-8)

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、通年2単位の演習科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学習が求められる。その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回に提示
場所：	研究室もしくは授業の前後
備考・注意事項：	質問がある場合は、授業前後の時間に受け付けます。また、振り返りのワークシートなどに質問を記入すれば、次週以降に回答します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 保育現場にいる障害のある子ども 発達障害を中心に保育現場で出会う子どもの障害の概要と特性並びにその変容について学ぶ。	障害について自分がどのように考えているかまとめてくる。教科書の該当箇所と配布資料を読み、子どもの障害の概要と特性や変容について復習する。	1時間
第2回 乳幼児期の発達課題①：愛着形成 対人関係の基礎となる愛着の特徴と発達、愛着の型について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、愛着形成について復習する。	1時間
第3回 乳幼児期の発達課題②：運動発達 乳幼児期の粗大運動や微細運動の発達について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、運動発達について復習する。	1時間
第4回 乳幼児期の発達課題③：基本的生活習慣の確立 乳幼児期の食事・排泄・衣服の着脱・挨拶など基本的な生活習慣の確立について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、基本的な生活習慣の確立について復習する。	1時間
第5回 乳幼児期の発達課題④：言語・コミュニケーション 言語機能の発達、前言語期を含めたコミュニケーションの発達について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、言語・コミュニケーションについて復習する。	1時間
第6回 障害児保育の仕組み①：制度と形態、専門性 幼稚園や保育所における障害児保育、障害児通園施設における保育について学ぶ。 外部講師としてインクルーシブ保育を行って50周年を迎えた社会福祉法人路交館 副理事長 宮崎勝宣氏、北岡聖愛園園長 新山妙子先生、北岡聖愛園統括主任 白山美鈴先生をお招きする。子ども同士のかわりを中心に、インクルーシブ保育の実践について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、幼稚園や保育所の障害児への制度と形態、専門性について復習する。	1時間
第7回 障害児保育の仕組み②：健診と早期発見、保育、就学相談、学校への接続 乳幼児検診と早期発見、就学時健診、ライフコースについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、健診と早期発見、保育、就学相談、学校への接続について復習する。	1時間
第8回 障害の特徴と保育の実践①：知的障害の特徴と支援 ダウン症など知的障害の特徴と支援のポイントについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、知的障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
第9回 障害の特徴と保育の実践②：自閉症の特徴と支援 自閉症の認知や行動や社会性の特徴、二次障害について学び、特性の理解に基づく支援のポイントについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、自閉症の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
第10回 障害の特徴と保育の実践③：ADHDの特徴と支援 ADHDの認知、行動の特徴と特徴を踏まえた支援のポイントについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、ADHDの特徴と配慮事項について復習する。	1時間
第11回 障害の特徴と保育の実践④：学習障害（LD）・発達性協調運動障害（DCD）の特徴と支援 LDやDCDの認知、行動の特徴と特徴を踏まえた支援のポイントについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、学習障害と発達性協調運動障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
第12回 障害の特徴と保育の実践⑤：視覚障害と支援 視覚障害の特徴と具体的な支援の実践について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、視覚障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間

第13回	障害の特徴と保育の実践⑥：聴覚障害と支援 聴覚障害の特徴と具体的な支援の実践について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、聴覚障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
第14回	前期のまとめ 第1回授業から第13回授業までの学びを振り返って要点を確認して総括する。	期末テストに向けて、前期授業の内容を復習する。	1時間
第15回	障害の特徴と保育の実践⑦：肢体不自由、てんかん、言語障害と支援 肢体不自由、てんかん、言語障害の特徴と具体的な支援について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、肢体不自由、てんかん、言語障害の特徴と配慮事項について復習する。	1時間
第16回	障害児保育の体制づくり①：発達保障のインクルーシブ保育と支援体制 障害児の個別の指導計画に基づく保育や問題行動への対応、合理的配慮の実践のための支援体制作りについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、インクルーシブ保育と支援体制について復習する。	1時間
第17回	障害児保育の体制づくり②：個別の支援計画 子どもの持つ困難さ（ニーズ）や保護者のニーズに合わせた支援計画の作成を学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、個別支援計画について復習する。	1時間
第18回	事例から学ぶ 一知障の子ども一 障害を持つ乳幼児の事例を通して、個々の発達を促す生活や遊びの環境、また子ども同士のかかわりと育ちあいについて学ぶ。	事例プリントを読み返し、再度自分なりに学んだことをまとめておく。	1時間
第19回	発達支援の技法①：親への支援（ペアレントトレーニング） 障害児のきょうだいやクラスメイトが経験するさまざまな問題や必要な支援について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、保護者への支援について復習する。	1時間
第20回	発達支援の技法③：親からの情報や行動観察による子ども理解 生育歴や生育環境を初め子どもの適応機能や問題行動など保護者から得られる情報や行動観察による子どもの理解について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、保護者からの情報や行動観察による子ども理解について復習する。について復習する。教科書のP176-187並びに配付資料に目を通し復習する。	1時間
第21回	発達支援の技法④：心理検査による子ども理解 発達検査や知能検査の他、言語機能や愛着の型など基本的なアセスメント法について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、心理検査による子ども理解について復習する。	1時間
第22回	発達支援の技法⑤：感覚統合、ポータープログラム 脳神経生理学に基づく訓練方法としての感覚統合と応用行動分析に基づく早期教育プログラムとしてのポータープログラムについて学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、感覚統合とポータープログラムについて復習する。	1時間
第23回	発達支援の技法⑥：応用行動分析による問題行動への対応（事例に学ぶ） 応用行動分析に基づく問題行動への対処法や積極的行動支援の実践について実践例を通して学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、応用行動分析による問題行動について復習する。	1時間
第24回	障害児支援の教材 障害の特性に配慮した教材の工夫について学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、障害児支援の教材について復習する。	1時間
第25回	発達支援の技法⑦：絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS） PECSによる自発的コミュニケーションの訓練のやり方やその効果について実践例を通して学ぶ。	配付資料を読み、PECSについて復習する。	1時間
第26回	発達支援の技法⑨：TEACCHプログラム（事例に学ぶ） 自閉症の認知特性に合わせて視覚支援や構造化などを行うTEACCHプログラムについて実践例を通して学ぶ。	教科書の該当箇所と配布資料を読み、TEACCHについて復習する。	1時間
第27回	発達支援の技法⑩：対人関係発達支援（RDI）、ESDMなど RDI、ESDM、ふれあいペアレントプログラムなど最近注目されている関係発達のアプローチについて学ぶ。	配布資料を読み、発達支援の技法について復習する。	1時間
第28回	後期のまとめ 第15回授業から第27回授業までの学びを振り返って要点を確認して総括する。	期末テストに向けて、後期授業の内容を復習する。	1時間

授業科目名	保育内容の指導法（表現）				
担当教員名	楠井 淳子・熊谷 綾子・花岡 千晶				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	保育園にて音楽講師として勤務。（楠井：7回） カワイ音楽教室講師として勤務し、幼児リトミッククラスを担当（熊谷：7回） 幼稚園・保育園等での造形講師（花岡：7回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

領域「表現」のねらいや内容を理解し、表現の豊かさの年齢的特徴や発達などの知識を学びます。わらべうたなどの歌遊び、楽器を用いた音遊び、身近な素材を使った表現遊びなどを演習します。模擬保育とその振り返りを通して、乳幼児の発達に応じた総合的な表現活動の展開や指導法を学びます。また、色々な素材を使った制作物を作ったり、描いたりするための基礎的技術を学び、遊びを通して豊かになる表現活動の展開方法や指導法を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

表現についての基礎的な技術を学び、幼児期の表現遊びを演習し、表現遊びの展開方法を工夫します。

目標：

表現の知識・技能を保育現場で活用することができる。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践

自らの役割を理解し、主体性を持ち、積極的に行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業への取り組み	42 %	：	各回授業への積極的参加やグループメンバーとの協調性を基に総合的に評価します。
授業内課題	20 %	：	乳幼児の発達に応じた内容や活動の展開についての配慮などを評価します。
模擬保育	30 %	：	模擬保育のルーブリックに基づいて評価します。
試験（レポート）	8 %	：	指定された日時に提出された定期試験レポートを独自のルーブリックをもとに評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
八木正一（監修）竹内貞一（編著）	・保育者養成のための音楽表現 模擬実践をとおして学ぶ	・大学図書出版	・2020 年

参考文献等

必要に応じて適宜授業内で用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 2限
場所： 第9研究室
備考・注意事項： 質問は授業の前後やメールでも対応する。
メールには学籍番号と氏名を必ず入れること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	＜音楽表現＞1 豊かな音楽表現遊び 授業の概要と進め方、表現とは 本授業の授業概要と進め方を理解する。 領域「表現」のねらい及び内容を学び、乳幼児の表現とは何かを理解する。 音楽表現の豊かさの年齢的特徴、乳幼児の音楽的な発達を学ぶ。 音楽表現活動において育みたい資質・能力について具体的に考える。	資料を調べ、乳幼児の表現についての理解を深める。	1時間
第2回	＜音楽表現＞2 わらべうたあそび わらべうたによる伝承遊びを体得し、わらべうた遊びの指導法を学ぶ。 わらべうたの概要とそのねらいと意義について学ぶ。	わらべ歌遊びを練習する。わらべうた遊びの指導援助をまとめる。	1時間
第3回	＜音楽表現＞3 身近な素材を使った表現遊び 紙コップ、紙皿、ペットボトル、ビーズなどを用いて、手作り楽器を製作し、音楽表現遊びを演習する。 身近な素材を使った表現遊びの指導法を習得する。	身近な素材を使った表現遊びの指導援助をまとめる。	1時間
第4回	＜音楽表現＞4 様々な音楽表現遊び 楽器や素材、身体などを用いた音楽表現遊びを考案し、実践する。 様々な音楽表現遊びの指導法を習得する。	様々な音楽表現遊びの指導援助をまとめる。	1時間
第5回	＜音楽表現＞5 保育内容を立案する 前回までの内容を振り返り、自らを保育者と想定して、保育内容を考え保育指導案を立案する。	保育指導案の構想を練る。	1時間
第6回	＜音楽表現＞6 模擬保育 グループ活動：各自の保育指導案をもとに、グループでディスカッションを行い、模擬保育案を決定する。模擬保育のグループ練習を行う。	模擬保育を行うための準備を行う。	1時間
第7回	＜音楽表現＞7 模擬保育とその振り返り 保育指導案に沿って模擬保育を実践し、その振り返りを通して改善を試みる。	模擬保育を通して学んだことをまとめる。	1時間
第8回	＜造形表現＞1 紙製作の基本を知る。 授業の授業概要と進め方を理解する。 領域「表現」のねらい及び内容を学び、乳幼児の表現とは何かを理解する。 造形表現における年齢的特徴、乳幼児の発達を学ぶ。 造形表現活動において育みたい資質・能力について具体的に考える。 材料用具の扱い方を再確認し、紙製作の基本的な操作を使い、立体と平面を組み合わせて指人形を作る。	画材料の使い方を確認し、乳幼児が表現する方法を考える。	1時間
第9回	＜造形表現＞2 保育内容を立案する 前回作った製作を振り返り、自らを保育者と想定して、保育内容を考え保育案を立案する。	年齢に応じた保育内容を考える。	1時間
第10回	＜造形表現＞3 水性ペンによる材料あそび 技法を使って子どもの発達に応じた指導の方法や内容を学ぶ。 材料の特性を生かした使い方を習得し、あそびを通して学ぶ意味を理解する。	遊びを通して学ぶことを理解する。	1時間
第11回	＜造形表現＞4 パスによる材料あそび 材料の特性を生かした使い方を習得し、あそびを通して学ぶ意味を理解する	遊びを通して学ぶことを理解する。	1時間
第12回	＜造形表現＞5 身近な素材を使った製作あそび 素材の特性を知り、紙パックを使ってイメージを広げて作る指導法を習得する。	乳幼児の発達を知り、イメージしたものを自分なりに表現する。	1時間
第13回	＜造形表現＞6 情報機器の活用 表現活動における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、保育構想に活用できるアイデアを考える。	製作物を構想する。	1時間

第14回	〈造形表現〉7 総合的な製作あそび これまでに授業で習得したことを振り返り、年齢の発達に応じた遊びの展開を考え、実践し、その振り返りを通して改善を試みる。	これまでの授業を振り返り、表現することの大切さを学ぶ。	1時間
------	---	-----------------------------	-----

授業科目名	子ども家庭支援論				
担当教員名	中川 陽子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

子ども家庭支援の意義と役割を踏まえた上で、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。その上で、子育て家庭に対する支援の体制について理解し、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の在り方について理解を深める。

- 具体的には次の3項目をねらいとする。
1. 現代社会における子ども家庭支援の意義と役割を理解する。
 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本を理解する。
 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援について関係機関との連携を踏まえて理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1. 幅広い教養やスキル	子ども家庭支援の意義とその機能について理解する。	現代社会において子育て家族を取り巻く諸課題を的確にとらえることができる。
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	子育て家庭及びその取り巻く社会的状況等を理解する。	子育て家庭への支援体制及び関係機関との連携について、日々の保育実践を関連づけてとらえることができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		社会の今日的課題を的確にとらえることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。 規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業態度	： 各回授業において、授業内容のポイントを押さえた予習シートが作成されているか、授業での学びを的確に示しているかについて評定します。
30 %	
レポート	： 授業内で指示する2つの課題について、次の点を評定する。 ・家族の今日的課題を的確にとらえ、専門的な知見から、課題・問題点を論じているか。 ・個々の家族の事例を専門的な知見からとらえているか。
30 %	
定期試験	： 以下の点を中心とした課題への取組を評価する。 ・子ども家庭支援をめぐる法体系、制度への理解 ・子ども家庭支援の意義と機能への理解 ・関係機関との連携を踏まえた保育士としての専門性
40 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
才村純・芝野松次郎・新川泰弘（編著）	子ども家庭支援・子育て支援入門	・ ミネルヴァ書房	・ 2021 年

参考文献等

適宜文献の紹介および資料等配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
 予習シート作成を中心とした「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
 具体的には、受講生全員に各回の講義に先立ち、あらかじめ提示したキーワードをもとに予習内容をまとめた予習シートの作成を義務づける。授業においては各自の予習シートの内容を確認しながら、当該授業内容について加筆するなどして基礎的理解を図った上で講義に臨むことができるようにする。
 その上で授業終了時点で、授業で学んだことなどをまとめる時間を設け、学習内容の定着を図る。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	初回授業時に提示する
場所：	中川研究室
備考・注意事項：	連絡をとりたい場合は、Gメール（アドレス：nakagawa-yo@g.osaka-seikei.ac.jp）にて、科目名、学科名、学年、クラス、学籍番号、氏名を明記し、内容をお伝えください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション 子ども家庭支援論を学ぶ意義と必要性を理解する。 ・授業の進め方（授業外学修を含む）および成績評価の方法について説明します。 ・保育専門職として子育て家庭を支援していく必要性を考えていきます。	授業に先立ち、テキストを通読しておくこと。	4時間
第2回 保育士が行う家庭支援の原理 ・全体としての家族をとらえる視点から保育士が行う家庭支援を考えていきます。 ・キーワード：子ども家庭福祉の理念、子どもの最善の利益、第一義的責任	予習シートの作成（子育て支援の必要性について）	4時間
第3回 子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 ・子育て家庭に関わる実践力向上に資する支援とはどういうものかを考えていきます。 ・キーワード：自己決定 子育ての喜び 家庭の教育力	予習シートの作成（家庭の教育力について）	4時間
第4回 子ども家庭支援において支援者に求められる基本的態度 ・子育て家庭への支援にあたって求められる支援者の基本的態度について考えていきます。 ・キーワード：受容 共感的理解 信頼関係 秘密保持	予習シートの作成（人権に配慮した保育について）	4時間
第5回 家庭の今日的状況とそれに応じた支援 ・地域社会の変容という視点から家族の置かれた今日的状況を考えた上で、支援に在り方を考えていきます。 ・キーワード：子育て家庭の孤立 地域の子育て力	予習シートの作成（核家族の孤立化について）	4時間
第6回 子ども家庭支援に関連する法と制度 ・テキスト該当部分である56～69ページをもとに家庭を支援する基本的枠組みをとらえていきます。 ・キーワード：児童福祉法 児童福祉六法 児童相談所 児童福祉施設	予習シートの作成（子育て支援のための法制度について）	4時間
第7回 子育て支援サービスの体系とその内容 ・子育て支援サービスを体系的に理解していきます。 ・キーワード：子育て支援サービス 子ども・子育て支援新制度	予習シートの作成（子育て支援事業と実施体制について）	4時間
第8回 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進と地域の社会資源の活用 ・子育て支援施策・次世代育成支援対策の推進にあたっての地域の社会資源の活用について考えていきます。 ・キーワード：次世代育成支援	予習シートの作成（次世代育成支援について）	4時間
第9回 保育所入所児童の家庭への支援 ・保育所における家庭支援を考えていきます。 ・キーワード：保育所の役割 子どもの最善の利益	予習シートの作成（保育所保育指針における子育て支援について）	4時間
第10回 地域子育て家庭に対する支援の実践 地域子育て支援について実践事例をもとに理解を深めます。 ・キーワード：地域子ども・子育て支援 ドロップインセンター	予習シートの作成（地域子ども・子育て支援事業について）	4時間
第11回 要保護児童及びその家族に対する支援1（児童虐待への対応） ・児童虐待の現状と世代間伝達を断ち切るための保育者の役割を考えていきます。 ・キーワード：要保護児童とその家族 児童虐待 世代間伝達	予習シートの作成（児童虐待の定義・現状について）	4時間
第12回 要保護児童及びその家族に対する支援2（障害のある子どもと家族への対応）	予習シートの作成（障がいのある子どもと家庭への支援）	4時間

	・保育士としての障がいのある子どもと家族への対応を考えていきます。 ・キーワード：障がい 保育者の役割 社会資源		
第13回	子育て支援サービスの今後の方向性 ・保育等の子育て支援サービスに関する課題・背景と解決の方向性について考えていきます。 ・キーワード：子育て支援サービス アウトリーチ	予習シートの作成（子育て支援サービスにおけるアウトリーチサービスについて）	4時間
第14回	保育士が行う子ども家庭支援の専門性 ・保育士の専門性を確認した上で、子ども家庭支援に関わる倫理・知識・技術について、確認していきます。 ・キーワード：ソーシャルワーカーとしての保育士	予習シートの作成（保育士の専門性・保育相談支援の技術について）	4時間

授業科目名	子どもの文化				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立中学校・高等学校で教諭としての勤務経験があるほか、20年以上にわたり、保育者・教育者の養成に携わってきた。また、絵本専門士として講演や研修の講師を務めている。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

近年、大人たちにとっての絵本の効用も取り上げられるようになりました。本講座では、子ども文化の一つである絵本・童話の物語世界を読み解いていきます。子どもたちと保育者をつなぐ媒介（素材）としてのみ捉えるのではなく、〈大人読み〉の作業を通して、保育者を目指すあなた自身もまた絵本や童話の世界を楽しみ、味わえるようになってほしいと考えています。作品読解の仕方を軸に据えつつ、読み聞かせ技術や作品選定の方法、選んだ作品のプレゼンテーションなど、保育現場での実践へつながる事柄も学修します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	絵本の特徴・形式について理解すること、読み聞かせの技法について再確認すること、対象作品を正しく読解すること。	絵本の物語世界を文字情報・絵画情報を手がかりに正しく読み取ることができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	作品世界の理解について討議して共有し合うこと、正しく伝達・表現しうる適切な演出を選定すること。	絵本の物語世界を理解した上で、聞き手を意識した読み聞かせを行うことができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		対象を正しく理解した上で、そこに内包される課題を見出すことができる。
2. DP6. 行動・実践		理解した対象について、適切な形で伝達・表現することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
絵本紹介プレゼンテーション	： 事前準備（スライド作成）10%、プレゼンテーション10%とします。
振り返りメモ、読み聞かせ評価票	： 各回に提出する振り返りメモ、読み聞かせ評価票の記述により、よく理解できている＝3点、概ね理解できている＝2～1点とします。
受講態度	： 各回の授業への参加態度（発言・グループ討議）、課題への取り組み姿勢、授業資料の整理状況（ファイル提出）により、評価します。
最終課題（定期試験）	： 論題に対する理解と、記述内容により評価します。なお、基本的な文章スキルにかかわる減点項目については、講義時に提示。
	30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

【参考文献】
『物語のすがた―初等国語教育・絵本と童話の教材分析―』（太陽書房、2020年）【ISBN978-4864202473】

【備考】
なお、14回の全体的な授業構成は基本的に動かないが、事例として扱う絵本は最新情報を照会しつつ変更する場合のあることをご承知おきたい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 4 限
場所： 西館 5 階（図書館横） 57 研究室
備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	絵本とは何か【絵本総論】 絵本を保育者と子どもをつなぐ媒介（素材）としてのみ捉えるのではなく、〈大人読み〉―大人の読者としての楽しみ方―について共通理解を持ちます。また、絵本の特徴や種類、構成要素を学び、読み聞かせの基本技法についても再確認します。	次時の演習に備え、絵本『どろんこハリー』の読み聞かせ練習を繰り返す行う。	1時間
第2回	物語絵本と科学絵本【さまざまなジャンルの絵本①・③】 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『どろんこハリー』の主題や本作品の創作時に投影された文化的な背景を捉えていきます。また、『しずくのぼうけん』『せいめいのれきし』など科学絵本についても確認します。 ※絵本『どろんこハリー』読み聞かせ演習	次時の演習に備え、絵本『いいからいいから 3』の読み聞かせ練習を繰り返す行う。	1時間
第3回	基礎編①／絵本『いいからいいから 3』を読み解く 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『いいからいいから 3』結末部に文字ではなく絵画のみで示された込められた事柄を読み取っていきます。 ※絵本『いいからいいから 3』読み聞かせ演習	次時の演習に備え、絵本『となりのせきのますだくん』の読み聞かせ練習を繰り返す行う。	1時間
第4回	基礎編②／絵本『となりのせきのますだくん』を読み解く 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、文字情報で語りきれない事柄を絵画情報が補っているさまを捉えるとともに、絵本『となりのせきのますだくん』に示された主人公からの対象の見え方が意味することについて読み取っていきます。 ※絵本『となりのせきのますだくん』読み聞かせ演習	次時の演習に備え、絵本『ももたろう』の読み聞かせ練習を繰り返す行う。	1時間
第5回	基礎編③／絵本『ももたろう』を読み解く【さまざまなジャンルの絵本②】 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『ももたろう』に登場する主人公と仲間たちの関わりと、昔話の物語構造や主題を捉えていきます。 ※絵本『ももたろう』読み聞かせ演習	次時の演習に備え、絵本『ラチとらいおん』の読み聞かせ練習を繰り返す行う。	1時間
第6回	基礎編④／絵本『ラチとらいおん』を読み解く 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『ラチとらいおん』について、文字・絵画情報を照らし合わせながら物語の仕掛けや構造を読み解いていきます。 ※絵本『ラチとらいおん』読み聞かせ演習	次時の演習に備え、絵本『わすれられないおくりもの』の読み聞かせ練習を繰り返す行う。	1時間
第7回	〈大人読み〉応用編①／絵本『わすれられないおくりもの』の作品世界 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『わすれられないおくりもの』の主題や構造、補い合う文字・絵画情報を押さえながら捉えていきます。 ※絵本『わすれられないおくりもの』読み聞かせ演習	次時の演習に備え、絵本『街どろぼう』の読み聞かせ練習を繰り返す行う。	1時間
第8回	〈大人読み〉応用編②／絵本『街どろぼう』の作品世界 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『街どろぼう』の主人公の孤独と切ないほどに強い願いを読み取っていきます。 ※絵本『街どろぼう』読み聞かせ演習	次時の演習に備え、絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』の読み聞かせ練習を繰り返す行う。	1時間
第9回	〈大人読み〉応用編③／絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』の作品世界 文字情報と絵画情報の双方に着目しつつ、絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』の物語世界に描かれた《仕掛け》と《謎》を捉えていきます。 ※絵本『しろくまちゃんのほっとけーき』読み聞かせ演習	次時の演習に備え、絵本の歴史の資料に目を通す。	1時間

第10回	絵本の歴史、絵本賞について【絵本各論①】 世界の絵本の歴史、日本の絵本の歴史について理解し、代表的な絵本作家の作品をおさえるとともに、〈絵本〉の変遷について理解します。また、主な絵本賞や児童文学賞について確認します。	次時の演習に備え、お薦めの絵本を各自1冊選書し、繰り返し読み込んでおく。	1時間
第11回	課題編①／絵本紹介プレゼンテーションの準備作業 各自が持ち寄った絵本について、作品世界の読解を行いつつプレゼンテーション用スライド作成の準備作業を行います。	次時の実演に備え、各自で絵本紹介プレゼンの練習を繰り返し行う。	1時間
第12回	課題編②／絵本紹介プレゼンテーション（1）3歳児対象絵本 担当者による絵本紹介プレゼンテーションの実演を行います。聞き手はそれぞれのプレゼンに対する審査・評価票を記入します。	次時の実演に備え、グループでの絵本読み聞かせ練習を繰り返し行う。本時に読み聞かせを終えたグループは、反省レポートを各自で執筆する。	1時間
第13回	課題編③／絵本紹介プレゼンテーション（2）4～5歳児対象絵本 担当者による絵本紹介プレゼンテーションの実演を行います。聞き手はそれぞれのプレゼンに対する審査・評価票を記入します。	次時の討議に備え、これまでの講義内容について、各自で振り返りしておく。本時に読み聞かせを終えたグループは、反省レポートを各自で執筆する。	1時間
第14回	〈大人読み〉と〈子ども読み〉のはざまで―選書の仕方、お話し会の企画・構成について― 絵本に対する大人の反応や読解と、子どもの反応や読解との差異について改めて確認するとともに、子どもたちにどのような形で絵本・童話を提供していくべきか考察・討議を行います。	最終課題（定期試験）に向け、これまでの本講座の学びを振り返る。試験の範囲等については、本時の講義において指示する。	1時間

授業科目名	子どもの文化				
担当教員名	小澤 佐季子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園での文庫活動に関する実務経験があります。（全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

本科目では、児童文化を伝承する意義を理解し、児童文化財（絵本、紙芝居など）について学ぶ。子どもの周辺文化のなかでも、絵本、紙芝居、昔話などに関して知識を深め、保育現場で実践する上での留意点、子どもたちへの伝達の実践について学ぶ。また、絵本、紙芝居、お話、わらべうたなどの実演実習をすることにより、保育の現場で実践するうえでの技術を身につける。多くの絵本や昔話にふれることによって、作品選択の基礎を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力 児童文化に関する知識と実践力

目標：

絵本やお話を学び、保育の現場で実践する技術を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP6. 行動・実践

幼児とお話を結びつける方法を学ぶことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実技	：	内訳は、絵本の読み聞かせ10%、紙芝居の実演実習5%、おはなしの実演実習10%。独自のルーブリックに基づいて評価します。
25 %		
提出物（ワークシート）	：	内訳は、「絵本の読み聞かせ」、「お話の実演」、「子どもの頃の遊び調査」、各5%。
15 %		
提出物（メモ）	：	毎回の授業で振り返りメモを提出する。授業内容を理解し、自分で考えられていれば、2-3ポイント、理解不足は1ポイント。
30 %		
受講態度	：	授業に積極的に参加し、課題に取り組む態度を評価する。
15 %		
期末試験	：	まとめのテスト課題。
15 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

- 時間： 授業の前後
- 場所： 授業の教室
- 備考・注意事項： 授業の前後、メール（ozawa@g.osaka-seikei.ac.jp）でも質問を受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	児童文化という言葉の範疇 児童文化とは何か 子どもの頃の遊びについて語り合い、子どもの周辺文化について考えます。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 4-10）の部分を通読。	1時間
第2回	絵本 1 絵本とは 絵本とは何か。思い出の絵本について 絵本の読みきかせの仕方について学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 11-12）の部分を通読。絵本の読み方実習の練習をする。	1時間
第3回	絵本 2 ものがたり絵本について ものがたり絵本、昔話絵本などについて考えます。 ＊絵本の読み方実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 13-14）の部分を通読。絵本の読み方実習の練習をする。	1時間
第4回	絵本 3 科学・知識絵本等 科学・知識絵本、しかけ絵本など、絵本の多様性に触れます。 ＊絵本の読み方実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 15-16）の部分を通読。絵本の読み方実習の練習をする。	1時間
第5回	絵本 4 絵本の歴史について 絵本の歴史、絵本研究の方法について学びます。 ＊絵本の読み方実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（p. 17）の部分を通読。絵本の読み方実習の練習をする。	1時間
第6回	紙芝居 1 紙芝居とは 紙芝居とは何か、その歴史について 紙芝居の演じ方を学びます。 ＊紙芝居の実演実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 18-19）の部分を通読。	1時間
第7回	紙芝居 2 紙芝居のいろいろ 様々な紙芝居の多様性に触れます。 ＊紙芝居の実演実習	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 20-21）の部分を通読。	1時間
第8回	昔話 1 昔話とは 昔話とはなにか。 昔話の構成や特徴をしり、現代に伝承する意味について考えます。 お話（素話）の覚え方や語り方について、お話の実習・実演するお話を選ぶ時間をとります。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 22-23）の部分を通読。	1時間
第9回	昔話 2 語り方のいろいろ 語り部の語る昔話を聴きます。 ＊お話の実習・実演	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp. 22-25）の部分を通読。素話の練習をする。	1時間
第10回	昔話 3 日本の昔話 さまざまな昔話に触れ、その特徴について考えます。 ＊お話の実習・実演	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（p. 23）の部分を通読。素話の練習をする。	1時間
第11回	昔話 4 世界の昔話	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（p. 24）の部分を通読。素話の練習をする。	1時間

	さまざまな昔話に触れ、その特徴について考えます。 ＊お話の実習・実演		
第12回	昔話 5 幼児と昔話 昔話を保育現場で用いることについて、 昔話絵本・童話絵本について、 子ども読者を意識したお話の選び方について考えます。 ＊お話の実習・実演	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（p.25）の部分を通読。素話の練習をする。	1時間
第13回	子どもの遊びとわらべうた 子どもの遊びの意味について わらべ歌遊びについて学びます。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp.29-32）の部分を通読。	1時間
第14回	まとめと振り返り 現在の児童文化と子どもを取り巻く状況について考えます。	振り返りシートの作成、および次回に該当するテキスト（pp.26-28）の部分を通読。	1時間

授業科目名	器楽Ⅱ				
担当教員名	泉 敦子・須山 由梨・岩本 千佳子・宇治田 仁美・大守 由紀・柿原 宗雅・川西 理恵子・後藤 浩実・長尾 有子・藤倉 智文・宮崎 真理子・矢吹 直美				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	実技				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員全員が実務経験を有する。小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員、民間音楽教室・大学付属音楽教室、幼稚園、保育園等の音楽講師として勤務。（全28回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育現場において、音楽は子どもの情操教育に大切なものの一つです。美しい調べや心弾む音と触れ合う中で豊かな心が育まれます。毎日の生活の歌や手遊びうた、リズム体操、園の行事、その全てにピアノ演奏が必要となります。
この授業では、器楽Ⅰで修得した技術の更なる向上を図り、保育者として必要とされるピアノ実技能力と弾き歌い能力を確実に身につけることを目指します。
①教則本（バイエル、ブルクミュラー等）の学習を通してピアノの基本的な演奏技術を習得します。
②保育の場で必要とされる弾き歌い曲を学び、実習に備えます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

保育者、教育者にとって必要な音楽の知識（ピアノスキル、歌唱）
①音楽的な素晴らしい演奏ができるピアノスキルを身につける
②歌詞の内容を理解し、叙情的な歌唱演奏ができる

目標：

情操教育を行う上で必要となる音楽の知識を理解することができる
「こどもが大好きなうたの本」を50曲マスターすることができる

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP4. 課題発見

自主的な練習を継続することにより、ピアノスキル等を高めることができる
実習等で現場を経験し、必要とされている音楽知識やピアノスキルを発見できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

前期発表会	：	ピアノ演奏スキル習熟度について、ルーブリックに基づいて評価する。
35 %		
後期発表会	：	ピアノ演奏スキル習熟度について、ルーブリックに基づいて評価する。
35 %		
弾き歌い模擬授業	：	発表やグループワークに積極的参加し、課題に取り組む態度をルーブリックに基づいて評価する。
10 %		
受講態度	：	各回授業において発表などの積極的参加や授業態度（忘れ物、遅刻、付爪・長爪は減点）を総合的に10点満点で評価する。
10 %		
定期試験（レポート）	：	授業内容の理解度を評価する。
10 %		

使用教科書

指定する			
著者	タイトル	出版社	出版年
	・ Seikei・Piano	・	・ 年
	・ ブルクミュラー25の練習曲 op. 100	・	・ 年
	・ こどもが大好きなうたの本	・	・ 年

参考文献等

足羽章編『日本童謡唱歌全集』（ドレミ楽譜出版社、2014年、ISBN9784285141177）
全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』（音楽之友社、2014年、ISBN9784276590250）
小泉八重子監修『手あそび歌あそび』（新星出版社、2015年、ISBN9784405071094）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
ただし、ピアノ技術の修得には継続的な練習が望ましいため、毎日30分以上の自主練習を推奨する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜3・4限、木曜2限
場所：	音楽教育センター（西館6階）
備考・注意事項：	上記時間以外でも、随時対応。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、器楽Ⅰの復習 ・ 授業内容（教材等）について ・ グレードについて ・ 到達目標の設定	基本の楽典を復習する。ピアノ曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第2回	ピアノ実技個人指導：フレーズについて ・ バイエル100、102、104、105番より各自選択（3曲以上） ・ 初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲（へ長調の楽曲）・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第3回	ピアノ実技個人指導：実習に向けて弾き歌い曲の練習（1）基礎 ・ バイエル100、102、104、105番より各自選択（3曲以上） ・ 初見視奏 ・ 実習園からの課題曲を練習	ピアノ曲・実習園からの課題曲を自己練習する。 8分の3拍子を復習する。	1時間
第4回	ピアノ実技個人指導：実習に向けて弾き歌い曲の練習（2）応用 ・ バイエル100、102、104、105番より各自選択（3曲以上） ・ 初見視奏 ・ 実習園からの課題曲を練習	ピアノ曲・リズム打ち（複付点四分音符）・実習園からの課題曲を自己練習する。	1時間
第5回	ピアノ実技個人授業：実習に向けて弾き歌い曲の練習（3）発展 ・ バイエル100、102、104、105番より各自選択（3曲以上） ・ 初見視奏 ・ 実習園からの課題曲を練習	ピアノ曲・半音階・実習園からの課題曲を自己練習する。	1時間
第6回	ピアノ実技個人指導：実習のふり返り ・ 実習での課題や問題を検証し、改善策を考える ・ 初見視奏	実習中に修得した曲を復習する。ピアノ曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第7回	ピアノ実技個人指導：レガート奏法について ・ ブルクミュラー1～8番より各自選択 ・ 初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・レガート奏法を自己練習する。	1時間
第8回	ピアノ実技個人指導：重音（3度）について ・ ブルクミュラー1～8番より各自選択 ・ 初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・重音を自己練習する。	1時間
第9回	ピアノ実技個人指導：持続音の弾き方について ・ ブルクミュラー1～8番より各自選択 ・ 題名にふさわしい曲想づくり ・ 初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・持続音・曲想に合った表現を自己練習する。	1時間
第10回	ピアノ実技個人指導：前期発表会曲を選曲	前期発表会の曲を分析、考察する。ピアノ曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間

	・前期発表会曲の選曲 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ		
第11回	ピアノ実技個人指導：前期発表会に向けて発表曲の練習 ・各自選択した発表曲の練習 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	前期発表会の曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第12回	ピアノ実技個人指導：前期発表会曲についての曲目解説 ・各自選択した発表曲の練習 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	前期発表会の曲の完成度を高める。弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第13回	前期発表会 ・前期に学修した成果を発表する ・発表後に教員からのコメントを受け、学生同士で感想を述べる	前期発表会を振り返り、課題を見出す。ピアノ曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第14回	ピアノ実技個人指導：32分音符について ・ブルクミュラー1～8番より各自選択 ・初見視奏 ・グレード表の確認 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・リズム打ち（32分音符）を自己練習する。	1時間
第15回	ピアノ実技個人指導：連打について ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・連打を自己練習する。	1時間
第16回	ピアノ実技個人指導：転調について ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】弾き歌い模擬授業発表曲の選曲	弾き歌い模擬授業発表曲を分析・考察する。ピアノ曲・弾き歌い曲を転調を意識して自己練習する。	1時間
第17回	ピアノ実技個人指導：装飾音符について ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】弾き歌い模擬授業発表曲の練習	弾き歌い模擬授業発表曲・装飾音符を自己練習する。	1時間
第18回	ピアノ実技個人指導：スタッカート奏法について ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】弾き歌い模擬授業発表曲の練習	弾き歌い模擬授業発表曲・スタッカート奏法を自己練習する。	1時間
第19回	弾き歌い模擬授業・動画撮影 ・実習を想定した模擬授業を行う ・模擬授業を振り返り、グループディスカッションを行う ・ディスカッションでまとめた意見をグループごとに発表する ・弾き歌い模擬授業発表曲を動画撮影する	弾き歌い模擬授業を振り返り、課題を見出す。意見交換を通じて考えたことをまとめる。動画撮影を行い、自身の演奏を振り返る。	1時間
第20回	ピアノ実技個人指導：ペダル奏法について ・ブルクミュラー9～18番より各自選択 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・ペダルを自己練習する。	1時間
第21回	ピアノ実技個人指導：効果的なダイナミック（強弱）の付け方について ・ブルクミュラー19～25番より各自選択 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲を強弱を意識して自己練習する。	1時間
第22回	ピアノ実技個人指導：腕の交差について ・ブルクミュラー19～25番より各自選択 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・腕の交差を自己練習する。	1時間
第23回	ピアノ実技個人指導：速いパッセージの練習方法について ・ブルクミュラー19～25番より各自選択 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲・速いパッセージを自己練習する。	1時間
第24回	ピアノ実技個人指導：後期発表会曲の選曲	後期発表会の曲を分析、考察する。弾き歌い曲を自己練習する。	1時間

	・後期発表会曲の選曲 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ		
第25回	ピアノ実技個人指導：後期発表会に向けて発表曲の練習 ・各自選択した発表曲の練習 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	後期発表会の曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第26回	ピアノ実技個人指導：後期発表会についての曲目解説 ・各自選択した発表曲の練習 ・初見視奏 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	後期発表会の曲の完成度を高める。弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第27回	後期発表会 ・後期に学修した成果を発表する ・発表後に教員からのコメントを受け、学生同士で感想を述べる	後期発表会を振り返り、課題を見出す。ピアノ曲・弾き歌い曲を自己練習する。	1時間
第28回	ピアノ実技個人指導：曲にふさわしいテンポについて ・ブルクミュラー19～25番より各自選択 ・初見視奏 ・グレード表の確認 【こどもが大好きなうたの本】個人の技量に適した曲を選ぶ	ピアノ曲・弾き歌い曲をふさわしいテンポを意識して自己練習する。	1時間

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）				
担当教員名	榎原 志保・紺谷 武・松元 早苗・向井 秀幸・須河内 優子・塩田 桃子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	6名の教員のうち4名が実務経験あり。幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校の教員、保育士、幼稚園の実技指導経験者6名。経験者の担当回：全14回				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本科目は、幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得するにあたって、教育・保育の専門職業人の育成を目的とするものです。すなわち教育・保育現場における①使命感や責任感②社会性や対人関係能力③幼児・子ども及び保護者理解④教育・保育内容の指導力を実践的に習得するものです。現場で必要とされる保育やICTの知識・技術を再確認し、実践力を身につけます。したがって、授業は演習形式で、学生が積極的・主体的に活動することが前提となっています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	教育・保育の専門職業人として必要な専門的知識や技能の修得	教育者・保育者としての①使命感や責任感②社会性や対人関係能力③幼児・子ども及び保護者理解④教育・保育内容の指導力を身につけ発揮することができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		教育・保育現場における課題を発見し、改善方法を考えることができる
2. DP9. 役割理解・連携行動		教育者・保育者としての役割を自覚し、他者と連携しながら課題解決に向けての行動をとることができる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。指定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を行わない。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
第1回から第8回の演習の評価	： 授業内容の理解度及び考察の度合い、授業への積極的参加（発表、自主的な発言等）、不適切な授業態度の有無について、独自のルーブリックに基づき各回5段階で評価を行う。
40 %	
第10回から第13回の保育実践に関する演習4回分の評価	： 指導案作成や模擬授業への取組、演習への積極的参加、不適切な授業態度の有無について、独自のルーブリックに基づき、総合的に評価する。
20 %	
外部講師の講演についてのレポート	： 講演内容を理解し、学んだことを適切に記述できているかについて独自のルーブリックに基づき評価する。

10 %

自己の学修状況・課題の省察

： 「教職履修カルテ」等に基づき自己の学修状況や課題について省察することができているかについて評価する。（第1回・第14回の課題の取り組みを評価）

10 %

期末レポート

： 「教職履修カルテ」の最終まとめ部分。教職実践演習およびこれまでの学び全体を振り返り、己の課題について明確化できているかについて、独自のルーブリックに基づき評価する。

20 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
寺田恭子・榊原志保・高橋一夫	・保育・教職実践演習 わたしを見つめ、求められる保育者になるために	・ミネルヴァ書房	・2017 年

参考文献等

幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。授業内マナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： グループごとに指定された時間

場所： グループごとに指定された場所

備考・注意事項： 各グループの担当教員が対応します。グループごとの指定時間・場所については初回授業前に指示します。

授業計画

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	これまでの学修の振り返り／保育者としての使命と責任 1. これまで学科で学んできた内容について「教職履修カルテ」をもとに振り返り、自身の課題を明確にする。子どもへの尊敬と愛情のまなざしをもった専門職業人としてのあり方を考察する。「保育・教職実践演習」の意義・授業の進め方などについて理解する。 2. 子どもの権利と保育を護る社会意識について理解する。教育法規・福祉関係法規に関する演習を行う。	テキストを読み、これまでの学修を振り返る。関連資料を基に、理解を深める。関連法規の復習をする。	4時間
第2回	保育者としての社会性・対人関係 社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚を持つ、保護者や地域の関係者との人間関係の構築等）についての講義・グループ討論	関連資料を基に、理解を深める。自身の社会性・対人関係能力上の課題を理解する。	4時間
第3回	安全管理・事故対応 乳幼児に適した環境構成について考える。子どもの事故について、対応の仕方を理解する。リスクマネジメントの概念や対応マニュアルについて学ぶ。	乳幼児の発達や安全管理などを配慮した環境構成図を作成する	4時間
第4回	保幼小の連携 保幼小の連携に関する課題に取り組む。子どもを安心して入学させられるよう、児童の発達や学びを理解します。指導や教材の共通点と相違点を明確にし、幼児から児童への連続性を踏まえた指導内容や指導方法を工夫できるようにする。	関連資料を基に、理解を深める。保幼小の連携について先進事例を調べる。	4時間
第5回	子ども理解の方法と発達支援 観察や記録の意義を理解し、適切に子ども理解をするためのスキルについて学ぶ。子どもの表現や発達をとらえる視点を理解し、支援のあり方について考察する。	関連資料を基に、理解を深める。学んだスキルを実践で発揮してみる。	4時間
第6回	葛藤場面に応じた指導と集団づくり こども自身やこども同士の葛藤場面（例：母子分離不安、おもちゃの取り合いなど）に対して、どのように関わったらいかなどを、ロールプレイをもとにして考える。こどもの発達に応じた集団づくりのありかたについて考察する。	現場においてどのような葛藤場面が生じうるか考え、関わり方を検討する。	4時間
第7回	こどもの多様性に寄りそう 特別支援の実践について事例をもとに理解を深める。こどもを取り巻く複雑な環境や現代的課題について理解を深め、支援のあり方を考察する。	特別支援に関連したさまざまな事例を読み理解を深める	4時間
第8回	保護者と子育てを共有する関係性 保護者支援のあり方についてロールプレイや事例研究を通して理解する。	保護者対応についてさまざまな事例を読み理解を深める	4時間
第9回	現場の実践に学ぶ（外部講師による講演会）	講演を通して学んだことをレポートする	4時間

	外部講師を招き、教育・保育現場での実践を学び、専門職業人としてのあり方を理解する。		
第10回	実習での設定保育の振り返り これまでの実習で行った設定保育について振り返り、指導案の改善点等について検討する。	実習記録等をもとに自身の設定保育について振り返る	4時間
第11回	指導計画の立案 保育指導案を作成し、ディスカッションを行う。	保育指導案の構想を練る	4時間
第12回	模擬保育① 実践的協同学習 模擬保育やICTを活用したグループワークを行い、グループディスカッションを行う。	模擬保育を行うための準備を行う	4時間
第13回	模擬保育② 課題の発見 模擬保育やICTを活用したグループワークを行い、グループディスカッションを行う。「教職履修カルテ」などをもとに、これまでの演習を振り返り、自身の課題を確認する。	模擬保育を通じた振り返りにより、自己の課題について考察する	4時間
第14回	学修のまとめ これまでの演習および2年間の学びを「教職履修カルテ」などを通して振り返り、自己の課題を明確にする。今後に向けてどのようにしていくべきかについて検討する。	「教職履修カルテ」を用いた振り返りを通して自己の課題について考察し、レポートにまとめる。	4時間

授業科目名	子どもの理解と援助				
担当教員名	園田 和江・宮秋 多香子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	園田：教育機関で相談員、教員として勤務。保育士として実務経験有り（全14回）。 宮秋：教育機関で相談員として勤務（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習は、1回生前期に開講される「教育心理学」を受講し、人間の発達に関わる心理学的知識をあらかじめ有している状態を念頭に置いて組み立てられています。幼児教育における学びとは、生活や遊びを通じた学びです。この授業では、生活や遊びを通して、子どもたちの個々の発達の姿を把握する観察力と、適切な発達援助を行う実践力を培うことを目的とします。また、保育者間の協働、保護者との連携、保幼小連携など、現代の保育課題についても理解を深めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

子どもの発達の姿を理解し、適切な発達援助を実践できる力を身につける。

目標：

子どもの発達や保育の中での人間関係などを心理学的に理解し、気持ちに沿った援助を考えることができる。

汎用的な力

1. DP9. 役割理解・連携行動

自らの役割を認識し、他者に適切に働きかけて良好な人間関係を築くことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内での学習状況

： 個人やグループでの発表に関する発言やグループ内での貢献度、不適切な授業態度(私語、居眠り、携帯電話の使用等)の有無を独自のルーブリックをもとに評価します。

40 %

小テスト

： 心理学の専門的知識の定着度と理解度を、客観テストによって確認します。

40 %

期末レポート

： 生活や遊びを通して、子どもたちの個々の発達の姿を把握する観察力と、適切な発達援助を行う実践力を身につけることができたかどうか。独自のルーブリックにもとづき、評価します。

20 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・青木紀久代(2022)「なぜ？から探る子ども理解と援助」みらい

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回2時間の授業外学修が求められます。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習してください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 園田(初回授業に開示します)、宮秋(授業前後)

場所： 園田(研究室もしくは教室)、宮秋(教室)

備考・注意事項： 園田：授業前後も質問等を受け付けます。
宮秋（非常勤）は、授業の前後に質問を受け付けます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 心理学による子ども理解 保育実践において、心理学的観点から子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。	これまでの心理学の学びがどの程度身についているか、小テストを行う。	2時間
第2回 子どもに対する共感的理解 子どもの気持ちを受容的に受け止め、肯定的配慮行って自己実現を促す関わりを理解する。	子どもに向かい合う時に具体的にどんな点に気を付けばよいかを考える。	2時間
第3回 子どもの生活と学び 子どもの一日の生活・一年の生活について見通す。基本的な生活習慣が発達に及ぼす影響を知る。	季節に合わせた年間行事とその意味をまとめる。	2時間
第4回 子どもの遊びと学び 子どもたちの遊びの発達について理解する。遊びを通した学びの意義と遊びの環境について考える。	子どもの遊びの種類や特徴をまとめる。	2時間
第5回 子ども集団と仲間の発達 仲間関係や自己主張と自己抑制の発達について理解する。仲間関係を育む環境整備や保育的関わりについて考える。	仲間とはどんな存在か、これまでの経験を振り返って考える。	2時間
第6回 子どもの主体性を引き出す保育環境 発達の最近接領域を復習し、子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。	自分自身がやる気がわく・わからない場面を整理する。	2時間
第7回 環境としての保育者 保育者が子どもに与える影響を知り、子どもの糧になる関わりを考える。	現在の自分を振り返り、今から気を付けていくべきことをまとめる。	2時間
第8回 葛藤やつまずきを乗り越える力 子どものストレスの生じ方やストレス反応について理解する。レジリエンスを高める関わりやソーシャルサポートを考える。	自分自身の日頃のストレスマネジメントを振り返る。	2時間
第9回 個人差や発達課題に応じた援助 発達の個人差について理解する、個別のニーズに応じた支援を考える。	これまで出会った事例に即し、具体的な支援方法を考える。	2時間
第10回 子ども理解の方法(1)：観察と記録 子どもを観察する視点を整理し、要点を書きとる方法を学ぶ。	日常生活の中で誰かを観察して記録をとる練習を行う。	2時間
第11回 子ども理解の方法(2)：省察と評価 子どもとの関わりを省察し、子どもの発達や自分の保育を評価する方法を学ぶ。	自分の自己評価の特徴をまとめる。	2時間
第12回 発達援助における協働(1)：保護者、保育者との情報共有の実践 保護者や保育者間での情報共有の実践を知り、協働の重要性を理解する。	保育カンファレンスについて見聞きしたことをまとめる。	2時間
第13回 発達援助における協働(2)：就学に向けた支援、保幼少連携 他職種、他校種との連携の実践を知り、協働の重要性を理解する。	新聞などで保幼小連携の記事をまとめてくる。	2時間
第14回 子育て期の家庭や社会に関する問題 少子化、核家族化、待機児童、貧困、保育料無償化など、子育て期の家庭や社会に関する問題を知る。家庭や社会の問題が子どもの発達に及ぼす影響について考える。	新聞などで家庭に関する問題や保育に関する社会的トピックについて調べてくる。	2時間

授業科目名	子育て支援				
担当教員名	向井 秀幸・水上 明美・鈴木 大介				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	それぞれ小学校で小学校教諭・校長、幼稚園で園長として、また保育所で保育士として勤務。（全7回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

現代の子育て家庭は少子化、地域の人間関係の希薄化、貧困、親の精神疾患等極めて厳しい状況におかれています。また女性の社会進出が期待される半面、家事・育児の負担が女性にかかっていることが多く見られます。そのような中、子育ての課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上をめざす、子どもの保育に関する相談、助言、行動見本を体系的に学びます。特に、子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解し、様々な場や対象に即した子育て支援の内容と実際を理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

福祉、保育の専門職としての子育て支援についての知識の獲得
相談内容に即したサービスの提供

目標：

子育て支援の基本や独自性・意義と原則について、概要を説明し解説することができる。
相談者のニーズを的確にとらえ、課題解決のために必要な社会資源に結び付け、子育て支援の内容や方法を検討することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP9. 役割理解・連携行動

相談にきた人の課題を的確に把握し、改善方法を考えることができる。
教育者・保育者としての役割を自覚し、他者と連携しながら課題の解決に向けての行動をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

授業内課題	：	子育て支援にかかわる保育者としての基礎的理解に関する問題及び社会的養護にかかわる子どもたちや保護者、家庭への対応技術に関して出題し評価する。
40	%	
受講状況（積極的参加・受講態度）	：	各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（私語、携帯電話の操作、居眠り等は減点）を評価する。
40	%	
期末レポート	：	課題に対して取り上げた論点の内容、分析力、独創性、文章表現力などについて評価する。
20	%	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
小野敏郎・三浦主博	・保育実践に求められる子育て支援	・ミネルヴァ書房	・2021 年

参考文献等

- ・「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館 ISBN：9784577812426
- ・「幼稚園教育要領」文部科学省 フレーベル館 ISBN：9784577814475
- ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 ISBN：9784577814499

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後
場所： 水上第3研究室、鈴木第2研究室、向井第2研究室

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 保育実践における子育て支援 ・子育て家庭を取り巻く社会の状況 ・保育実践における子育て支援 ・保育所における子育て支援	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P18-25）の通読と、保育士の倫理について調べておく。	1時間
第2回 保育者の専門性と倫理 ・保育者の専門性 ・保育者に求められる倫理	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P29-34、P60-73）の通読と、アセスメントという言葉について調べておく。	1時間
第3回 支援のニーズに対する気づき・理解とアセスメント ・保護者のニーズをいかに理解するか ・保護者との信頼関係の形成に必要な態度 ・子ども及び保護者の状況・状態の理解 ・保護者の養育力の向上	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P35-44）の通読と、バ이스ティックの7原則について調べておく。	1時間
第4回 相談・助言の基本技術 ・保護者との信頼関係の形成の基本的な姿勢 ・保護者との信頼関係の形成に必要な知識・技術	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P91-107、P75-89）の通読と、子育て支援の過程の内容について調べておく。	1時間
第5回 支援の計画・記録・評価・カンファレンス ・子育て支援の展開 ・記録の必要性と方法 ・評価の必要性と方法 ・子育て支援の計画 ・子育て支援における「環境」	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P110-117）の通読と、子育て支援の専門職として考えつく職種を1つ以上あげ、それについて調べておく。	1時間
第6回 職員間の連携・協働 ・職員間の役割分担の理解 ・職場における連携・協働の基本的視点	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P110-117）の通読と、子育て支援の専門機関として考えつく機関を1つ以上あげその内容を調べておく。	1時間
第7回 関係機関や専門職との連携・協働 ・子育て支援における関係機関の役割分担 ・多職種協働の基本的視点	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P46-57）の通読と、社会資源という言葉調べておく。	1時間
第8回 社会資源の活用 ・子育てを支援する社会資源の理解 ・子ども・子育て支援新制度による地域の子育て支援サービス ・保育所等への入所に関する保育者のかかわり	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P120-130）の通読と、保育所の現状について調べておく。	1時間
第9回 保育所における支援とその実際 ・親同士のネットワークづくりと子育てへのアドバイス ・子どもを「かわいい」と思いつづけられる環境の構築 ・多様な勤務形態を踏まえたかかわり	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P1323-142）の通読と、地域子育て支援という言葉について調べておく。	1時間
第10回 地域の子育て家庭に対する支援とその実際 ・園庭開放を初めて利用した親子へのかかわり ・子育て広場を利用する親子への関わり	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P145-169）の通読と、様々な障害の特徴について調べておく。	1時間
第11回 障害のある子ども及び家庭に対する支援とその実際 ・配慮が必要な子どもへの保育と保護者支援 ・保護者との子供理解の共有と地方自治体・関係機関・専門職との連携・協働	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P145-169）の通読と、多様な子どもの生活ニーズについて調べておく。	1時間

第12回	特別な配慮を要する子ども及び家庭に対する支援とその実際 ・配慮が必要な子どもへの保育と保護者支援 ・保護者との子ども理解の共有と地方自治体・関係機関・専門職との連携・協働	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（172-178）の通読と、母親・父親の子育て不安について調べておく。	1時間
第13回	要保護児童等の家庭に対する支援とその実際 ・育児不安を抱え孤立した母親の支援	演習シートの作成。次回に学習するテキスト部分（P179-188、191-206）の通読と、児童虐待の現状および子育て家庭のニーズについて調べておく。	1時間
第14回	児童虐待の予防と対応、多様なニーズを抱える子育て家庭に対する支援とその実際 ・虐待の可能性がある親への支援 ・中学校担任との協働による弟たちの保育所への入所 ・保護者からのSOSに基づく保護者間トラブルの予防 ・保護者からの度重なる苦情への対応 ・保育所・地域の連携による母親の再犯防止の見守りと親子関係の改善	演習シートの作成。これまでの授業全体を振り返り、子育て支援における保育者の役割と課題についてレポートにまとめる。	1時間

授業科目名	在宅保育				
担当教員名	樋口 奈生・須河内 優子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（樋口・須河内）が、保育現場の勤務経験を有する（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

女性の社会進出、核家族や都市化の進展、出生率の低下等、子どもと家庭を取り巻く環境は時代と共に多様化しており、就労と育児の両方のためには、従来の保育所等の施設保育では対応しきれない保育ニーズが高まっている。さらに、ゆとりのある豊かな家庭生活の実現を支援するためには、各家庭における個々の保育ニーズを理解し、その保育ニーズに対応したきめ細やかなサービスを充実する家庭訪問保育者の高度な専門性が求められる。グループワークや演習を通して、子どもの命を預かる保育者としての責任を自覚するとともに、社会的なニーズの理解と家庭訪問保育の保育技術の習得を目指し、家庭訪問保育の意義と実際についての理解を深めることを目的とする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	乳幼児の発達、発育の理解に関わる知識、職業理解	乳幼児に関わる確かな知識、家庭訪問保育の職業理解を身につけることができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育実践を構想する力	乳幼児の生活や遊びと家庭在宅保育の方法について具体的に考えることができる。
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		家庭在宅保育を取り巻く社会情勢に関心をもち、論理的に考え課題を明らかにすることができる。
2. DP5. 計画・立案力		乳幼児の発育・発達を踏まえ、家庭在宅保育における計画を具体的に考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
毎回の授業に出席することを原則とする。規定回以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「一」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
授業内の小テスト・レポート	： 授業内での小テスト・レポートを作成し授業内容の理解度、考察度を評価する。
30 %	
授業内の演習・発表、態度	： 保育者となる自覚をもって授業に臨む態度や積極性、演習、発表の内容について評価する。
30 %	
期末レポート	： 授業内容を理解し、課題に即した内容で記述できているか評価する。
40 %	

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
公益財団法人全国保育サービス協会 (編)	・「家庭在宅保育の理論と実 際」第2版	・中央法規	・2020 年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は後期2単位の科目である。授業外学修課題に取り組むことに加え、その回の授業の内容を復習し次回の授業に向けて予習をすること。また家庭訪問保育は、施設型の保育と異なる保育の専門性も求められます。なぜ認定ベビーシッター資格を取得したいのか、しっかりと自己課題を向き合い、本科目を履修することを期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業前後
場所：	授業教室・研究室
備考・注意事項：	研究室に在席であれば相談して下さい。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にか かる目安の時間
第1回 家庭訪問保育の意義・目的 家庭保育はなぜ必要なのか、意義と目的 家庭訪問保育者としての心得 保育マインドについて 実践演習（お世話）	教科書序章を読む	4時間
第2回 在宅訪問型保育の概要 家庭訪問保育の歴的变化について 在宅訪問型保育の運営基準 実践演習（遊び）	第1回の授業を振り返り、①レポート課題「家庭訪問保育に求められているもの」、保育教材製作	4時間
第3回 家庭訪問保育を行うために必要な基礎知識（生活） 乳幼児の生活と遊び 実践演習（遊び）	第2回の授業の振り返りとともに、教科書第2章を読む、保育教材製作	4時間
第4回 家庭訪問保育を行うために必要な基礎知識（発達） 乳幼児の発達と心理 実践演習（遊び）	第3回の授業の振り返りとともに、教科書第3章を読む、保育教材製作	4時間
第5回 家庭訪問保育を行うために必要な基礎知識（食事） 乳幼児の食事と栄養 実践演習（お世話）	これまでの授業を踏まえ、具体的な家庭訪問保育場面での援助についてまとめる。②レポート課題	4時間
第6回 家庭訪問保育を行うために必要な基礎知識（保健） 小児保健Ⅰ・Ⅱ 事故の予防と対応	第5回の授業の振り返りとともに、教科書第5・6章を読む	4時間
第7回 実践演習（遊び） 保育技術（遊び編）製作した保育教材の発表	発表の感想、乳幼児の家庭での遊びについてまとめる。③レポート課題	4時間
第8回 在宅訪問型保育の実際（計画） 在宅訪問保育の保育内容・計画と記録	教科書101頁の演習内容をまとめる。①演習課題	4時間
第9回 在宅訪問型保育の実際（環境） 在宅訪問保育における環境整備・運営	第8回の授業の振り返りとともに、教科書第8・9章を読む	4時間
第10回 在宅訪問型保育の実際（安全） 安全の確保とリスクマネジメント・在宅訪問型保育の職業論理と配慮事項	第9回の授業の振り返りとともに、教科書第10・11章を読む	4時間
第11回 在宅訪問型保育の実際（保護者対応） 在宅訪問型保育における保護者への対応	教科書156頁の演習内容をまとめる。②演習課題	4時間
第12回 在宅訪問型保育の実際（配慮を必要子どもへの対応） 在宅訪問型保育の実際 子どもの虐待 特別に配慮を要する子どもへの対応	第11回の授業の振り返りとともに、教科書第13・14章を読む	4時間
第13回 実践演習（お世話） 保育技術（お世話編）	第12回の授業の振り返りとともに、教科書第15章を読む	4時間
第14回 一般型家庭訪問保育保育の実践	家庭訪問保育の重要性をこれまでの授業を振り返りまとめる	4時間

一般型家庭訪問保育の業務の流れ
これまでの授業の総括

授業科目名	保育実習Ⅱ				
担当教員名	樋口 奈生・向井 秀幸				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育士養成科目のすべてを基礎として、それらを統合し、実際に乳幼児や保育者と関わる体験を通して、保育の理論と実践との関係について習熟することを目的とする。保育所や認定こども園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。乳幼児の発達過程を理解し、ふさわしい保育のあり方を習得する。既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、乳幼児の保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。保育の計画、実践、記録及び自己評価等について実践を通し習熟する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育者として知識・技能の獲得

目標：

保育所実習を通して、保育者がどのような職務を具体的にしているのか、そこでの果たすべき役割や機能は何か等について説明することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

実践を通して、保育者としての乳幼児の保育力、保育計画立案とその実践力等の養成

大学で学んだ理論を実践の場においていかに具体化・統合化されるかを体験的に学び、専門職への自覚を深めることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP9. 役割理解・連携行動

乳幼児を取り巻く環境を理解し、子ども一人ひとりにふさわしい保育のあり方を発見することができる。

子ども一人ひとりに適した保育を行い、保育環境を整えることができる。

保育所や認定こども園の役割と機能を理解するとともに、チームワークの大切さや関係機関・小学校との連携の大切さを実感することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

実習は10日間以上、80時間以上の実習時間がなければ実習放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

実習自己課題設定と中間振り返り	10 %	：	学生の自己課題の設定および準備、実習に対する取り組みについて10点満点で評価する。
実習状況	10 %	：	遅刻や早退などの状況、提出物の提出状況を10点満点で評価する。
実習日誌	20 %	：	場面観察や個別観察を行い、記録を書くことができているのかを20点満点で評価する。
実習施設による評価	40 %	：	実習先からの評価を40点満点に換算して評価する。
実習報告		：	実習の振り返りおよびそのレポートを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」厚生労働省 ISBN:9784577814239
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN:9784577814246
- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科
- ・新・基本保育シリーズ②保育実習 中央法規 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子 2019年 ISBN:9784805858004
- ・0歳～6歳 子どもの発達と保育の本（第2版）Gakken 河原紀子 2018年 ISBN:9784058008676

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を成功させるには、毎日の実習終了後、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすること。毎日2時間はかかると考えておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 随時受け付けます。実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導Ⅱの授業で案内します。

授業計画

第1回 保育所および認定こども園での実習（2回生8月～9月）

- ・保育実習Ⅰ（保育所）での学びを活かして、自らの課題をもちながら乳幼児との関わりを深め、保育の基本を理解する。
- ・保育全般に参加する中で保育技術を学び、乳幼児の発達や集団の特徴を踏まえながら、安定した情緒のもとで自発的な活動を行うための環境構成及び援助のあり方を学ぶ。
- ・乳幼児一人ひとりの個性・特徴・発達課題を理解した上で個に応じた援助を実践するとともに、指導計画の立案や活用方法を学び、保育活動を実践する。
- ・家庭や地域との連携を図りながら保育に携わる保育所および認定こども園の実態に触れる。
- ・修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、保育者としての専門性や資質を理解し、自らの保育観をもつようになる。

学修課題

実習記録を記述するとともに、次の日の実習課題、目標等を計画的に準備（毎日2時間以上）すること。

授業外学修課題にかかる目安の時間

20時間

授業科目名	保育実習Ⅲ				
担当教員名	鈴木 大介				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示「不可」

授業概要

保育士養成科目のすべてを基礎として、それらを統合し、実際に福祉施設で児童や保育士等と関わる体験を通して、保育の理論と実践との関係について習熟することを目的とする。※施設の支援内容と機能を体験的に理解する。※児童に直接関わることを通し、児童や児童をとりまく環境への理解を深める。※保育士の職務内容や役割を理解する。施設職員になるための実習にあたるので、これまで学習してきた社会的養護や社会的養護内容、児童家庭福祉などの科目の授業内容を振り返り、利用者の権利擁護のための実際を学ぶ。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

福祉施設の職員としての知識・技能の獲得

目標：

福祉現場での実習を通して、職員がどのような支援を具体的に行っているのか、施設の果たすべき役割や機能は何か等について説明することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

福祉施設職員としての具体的な支援の実施

施設利用者に対して、施設が有している機能を活用し、個々の利用者に応じたサービスを提供することができる力を身につける。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践
3. DP9. 役割理解・連携行動

利用者を取り巻く環境を理解し、個々の利用者に合った適切な支援方策を発見することができる。

個々の利用者に即した支援を具体的に提供することができる。

福祉施設の役割と機能を理解するとともに、チームワークの大切さや関係機関との連携の大切さを実感する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

実習は10日間以上、80時間以上の実習時間がなければ実習放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とする。

成績評価の方法・評価の割合

実習自己課題設定と中間振り返り

評価の基準

： 学生の自己課題の設定および準備、実習に対する取り組みについて10点満点で評価する。

10 %

実習状況

： 遅刻や早退などなどの状況、提出物の提出状況を10点満点で評価する。

10 %

実習日誌

： 要点を押さえて実習記録をまとめているかを20点満点で評価する。

20 %

実習施設による評価

： 実習施設からの評価を40点満点に換算して評価する。

40 %

実習報告

： 実習の振り返りおよびそのレポートを20点満点で評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

基本保育シリーズ② 保育実習 近喰晴子他 2 名編著 中央法規出版 (ISBN : 9784805858004)
「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科
より深く理解できる 施設実習 藤京子他 2 名著 萌文書林 (ISBN:9784893472212)
幼稚園・保育所・施設 実習ワーク 小林育子他 3 名著 萌文書林 (ISBN:9784893473561)

履修上の注意・備考・メッセージ

健康に留意し10日間の実習をやり遂げること。実習を成功させるには、毎日の実習終了後、「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その日の実習内容を丁寧に振り返るとともに、次の日の実習に向けて準備をすること。毎日2時間はかかると考えておいてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 木曜日2限
場所： 中央館4階 第2研究室
備考・注意事項： 実習園別指導教員に何でも相談してください。
実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導Ⅲの授業で案内します。

授業計画

第1回 2回生8月～9月、児童養護施設等の児童福祉施設（通所型・入所型含めて）で10日間の実習

学校で得た教科全体の知識、技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用能力を養う。児童や利用者に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。児童養護施設等の児童福祉施設（通所型・入所型含めて）や障害者施設でそれぞれの施設の役割や機能、子どもの養育や利用者への支援及び保護や家庭への支援、児童の自立支援計画、観察、記録及び自己評価などを具体的に理解し、保育士業務や職業倫理について学ぶ。

学修課題

実習記録を記載するとともに、次の日の実習課題、目標等を計画的に準備（毎日2時間以上）すること。

授業外学修課題にかかる目安の時間

20時間

授業科目名	保育実習指導Ⅱ				
担当教員名	向井 秀幸・樋口 奈生				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	担当教員（樋口、向井）が実務経験を有する。保育所において保育士の職に就いていた。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

保育実習Ⅰ（保育所）の実践を踏まえ、保育所や認定こども園の保育内容・機能・役割・生活の流れについてさらに理解を深めることをねらいとして授業を行う。子ども理解を深め、子どもの発達過程にふさわしい指導計画の立案及び実践ができる授業内容としている。また、保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解、課題の明確化、子どもの人権と最善の利益の考慮やプライバシーの保護と守秘義務理解できる授業としている。実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 保育者としての知識・技能の習得
- 専門職としての保育実践力の獲得

目標：

- 保育者としての知識・技能を習得し、自らの課題や目標を持って実習に臨むことができる。
- 子どもの発達過程にふさわしい保育計画の立案及びそれに基づく実践ができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP6. 行動・実践

- 保育所実習での学びを振り返り、自己の課題を省察することができる。
- 使命感や職責に対する自覚ならびに子どもの立場に立ち、愛情を持って保育を行うことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。積極的な受講態度であること。提出物の期限を守ること。学習を理解しているとの観点から評価をします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	：	14回の授業終了後にレポートの提出をもって試験とする。今までの実習や実習指導を振り返り、保育者としてより専門的な知識や技術および役割について、要点を押さえて記入しているのかを30点満点で評価する。
30	％	
課題シート	：	遊びの実践における計画や取り組みなどを総合的に20点満点で評価する。
20	％	
授業への取り組み状況	：	各授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を総合的に15点満点で評価する。
15	％	
授業内提出物	：	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限を守れているかなどを総合的に35点満点で評価する。
35	％	

使用教科書

指定する			
著者	タイトル	出版社	出版年
近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子	・新・基本保育シリーズ®保育実習 ISBN:9784805858004	・中央法規	・2019 年

参考文献等

- ・平成29年告示「保育所保育指針」厚生労働省 ISBN:9784577814239
- ・平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN:9784577814246
- ・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科
- ・0歳～6歳 子どもの発達と保育の本（第2版）Gakken 河原紀子 2018年 ISBN:9784058008676

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。やむを得ず欠席した場合は、必ず欠席届を提出し、欠席した授業内容を早急に補うことが必要となる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	授業の前後
場所：	中央館4階第2研究室、授業の教室
備考・注意事項：	保育所実習担当のどの担当教員でも受け付ける。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	保育実習Ⅱの意義と目的 ・保育実習Ⅱの意義と目的を考える。	教科書第1講の通読、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第2回	子どもの安全管理について考える ・保育現場における乳幼児の安全管理について学ぶ。	教科書第10講の通読、保育所保育指針の通読（P34）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P36）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第3回	年齢に応じた遊びの内容を考える①（保育教材、制作案を考える） ・子どもの発達や興味・関心に応じた遊びの内容を実践する。 ・保育教材について理解を深める。	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第4回	年齢に応じた遊びの内容を考える②（保育教材の作成） ・第3回で考えた保育教材の制作案をもとに保育教材を作成する。	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第5回	年齢に応じた遊びの内容を考える③（保育教材の作成および発表準備） ・保育教材の作成と発表に向けた準備を行う。	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第6回	年齢に応じた遊びの内容を考える④（実践および発表） ・作成した保育教材のねらいや工夫した点についてプレゼンを行う。	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第7回	実習記録の書き方を学ぶ（保育者の視点に立ち、援助や配慮の意図を考える） ・保育実習Ⅰ（保育所）での学びを踏まえ、保育者の視点に立ち、援助や配慮の意図を考えた実習記録の書き方について理解を深める。	教科書第4講を読み、授業内容を踏まえ課題シートに取り組み、援助や配慮の意図を考えた実習記録の書き方の理解を確かなものとする。	1時間
第8回	保育実習Ⅱの目的・課題を考える ・具体的に学びたい事柄を考え、課題遂行方法を考える。	教科書第5講の通読、実習指導ハンドブックの通読（P9）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第9回	保育実習Ⅱの目的・課題の明確化 ・第8回で考えた保育実習Ⅱの目的・課題を明確にする。	教科書第5講の通読、実習指導ハンドブックの通読（P9）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第10回	子どもの理解を深め、保育者のかかわり方を学ぶ（計画の立案） ・子どもの興味や関心、発達を踏まえ、一人ひとりに応じた保育者のかかわりを意識した保育計画を立案する。	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間

第11回	子どもの理解を深め、保育者のかかわり方を学ぶ（計画の修正） ・第10回で作成した保育計画の修正を行い、子どもが主体的に活動できる保育計画を考える。	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第12回	子どもの理解を深め、保育者のかかわり方を学ぶ（計画の実践） ・立案した保育計画をもとに、実践を行う。	教科書第7講および第9講の通読、保育所保育指針の通読（P13～22）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の通読（P17～25）、ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第13回	保育実習Ⅱの心構えと留意点 ・保育実習Ⅱに向けての心構え、準備について確認を行う。	教科書第3講、実習ハンドブック（P.13-21）を読み、実習に向けての心構えやマナー、準備などについて確認を行う。	1時間
第14回	保育実習Ⅱの振り返り及び今後の課題の明確化 ・保育実習Ⅱの学びを振り返り、保育者としての今後の課題について考える。	授業内で他者と共有したことからの学んだ内容をまとめる。ワークシートに授業内容をまとめて提出する。	1時間

授業科目名	保育実習指導Ⅲ				
担当教員名	鈴木 大介				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

福祉施設の支援内容・機能・役割・生活の流れなどを理解する。福祉専門職としての知識・技能を修得し、自らの課題を明確にし、実習施設ごとに確かな目標と課題を設定する。また各児童福祉施設について概要及び援助の基本視点、具体的実践事例について学ぶ。それらを通じて、実習施設における子どもや利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。また実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

- DP2. 専門的知識・技能、職業理解
- DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

- 福祉の専門職としての知識・技能の習得。
- 福祉の専門職としての実践力の獲得。

目標：

- 福祉の専門職としての知識・技能の習得し、自らの課題や目標を持って実習に臨むことができる。
- 現場で子どもや利用者の状況に応じた支援を行うことができる。

汎用的な力

- DP6. 行動・実践
- DP8. 意思疎通
- DP9. 役割理解・連携行動

- 使命感や情熱、職責に対する自覚をもって、支援活動を行うことができる。
- 実習の成果物について、互いに意見を出し合い、理想の保育者像について考えることができる。
- グループでの活動を通して、自己の役割を理解し、適切に行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。積極的な受講態度であること。提出物の期限を守ること。学習を理解していることの観点から評価します。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

期末レポート	：	14回の授業終了後にレポートの提出をもって試験とする。今までの実習や実習指導を振り返り、保育者としてより専門的な知識や技術および役割について、要点を押さえて記入しているかを30点満点で評価する。
30	%	
授業内課題	：	実習計画書や個人調査票が要点を押さえ、期日内に作成・提出できているかを評価する。
20	%	
受講状況	：	各授業において発表などの積極的参加や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等授業の妨げになる場合は減点）を総合的に15点満点で評価する。
15	%	
授業内提出物	：	授業内容の理解や考察などが反映されているか、提出物の期限が守れているかどうかなどを総合的に35点満点で評価する。

使用教科書

指定する			
著者	タイトル	出版社	出版年
近喰晴子他 2 名編著	・ 基本保育シリーズ㊹ 保育実習	・ 中央法規出版	・ 2019 年

参考文献等

・「実習指導ハンドブック」大阪成蹊短期大学幼児教育学科

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	木曜 2 限
場所：	中央館4階 第 2 研究室
備考・注意事項：	随時受け付けます。実習園別指導教員に何でも相談してください。 実習園別指導教員、対応できる時間、研究室以外のオフィスアワーの受付については保育実習指導Ⅲの授業で案内します。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 施設実習の意義と目的、施設保育士の役割 施設保育士を目指した動機及び施設内での保育士の役割について考える。 2回目の施設実習に行く意義と目的について考える。	・施設保育士を目指した動機についてまとめる。 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第2回 施設種別及び支援内容 児童福祉施設（児童養護施設、乳児院、障害児入所施設、児童発達支援センター）と障害者支援施設及び障害福祉サービス事業所の施設概要と支援内容について学ぶ。	・自分が実習に行く施設の支援内容及び支援目的についてまとめる。 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第3回 施設利用児の理解 児童福祉施設（児童養護施設、乳児院、障害児入所施設、児童発達支援センター）における児童について、その障害や生活状況について学ぶ。	・各児童福祉施設について、その社会的役割をまとめる。 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。	12時間
第4回 施設利用者の理解 障害者支援施設及び障害福祉サービス事業所の利用者について、その障害や生活状況について学ぶ。	・成人の福祉施設の社会的役割についてまとめる。 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。 第1回～4回の授業内容を復習しておく。	1時間
第5回 実習の目標及び実習計画 実習計画書の作成 各自、実習の目的及び実習計画について考える。 実習計画を作成する。	・実習計画書の下書きを行う。 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。 実習計画書の下書きを完成させる。	1時間
第6回 福祉現場における援助の原理 福祉現場における援助の原理を学ぶ。 ・実習と子どもの養護 ・自立支援 ・自立支援における施設保育士と保育所保育士の役割の違い	児童福祉施設での実習を振り返り、授業内容を踏まえて課題シートにまとめる。	1時間
第7回 福祉現場における援助の理論 福祉現場における援助の理論を学ぶ。 ・施設保育士の業務 ・子どもの権利擁護 ・家庭復帰に向けた保護者支援	児童福祉施設での実習を振り返り、授業内容を踏まえて課題シートにまとめる。	1時間
第8回 福祉現場における援助の計画 福祉現場における援助の計画を学ぶ。 ・支援計画の理解、計画に基づく活動、援助 ・配慮を必要とする子どもの支援 ・人権を守るための工夫、人権保障と自己実現（特別な配慮の必要性について）	児童福祉施設での実習を振り返り、授業内容を踏まえて課題シートにまとめる。	1時間
第9回 福祉現場における援助の実践と計画 福祉現場における援助の実践と計画を学ぶ。 ・基本的生活習慣の確立 ・健康管理 ・衛生管理と感染症に対する対応 ・危機管理と事故防止	児童福祉施設での実習を振り返り、授業内容を踏まえて課題シートにまとめる。	1時間

第10回	実習の目標および実習計画の完成、対応プログラム・実践案の作成 ・添削指導されたところを修正し、実習計画案を完成させる。 ・施設種別に応じた利用児・者への対応プログラム・実践案を作成する	実習計画案を完成させる。	1時間
第11回	個人調査票の作成演習 個人調査票の書き方について学ぶ。 各自個人調査票を作成する。	個人調査票の作成	1時間
第12回	記録の書き方 毎日の目標の立て方および考察の仕方について学ぶ。記録の書き方の形式の確認を行う。	・発表する内容について自分なりに考えてまとめる。 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第13回	個人調査票の完成と実習施設における直前指導 個人調査票の添削指導された所を修正し完成させる。実習における心構えを確認し、実習個別指導教員による事前指導を受ける。	個人調査票の完成 ・課題シートに授業内容をまとめて提出する。	1時間
第14回	保育実習Ⅲの振り返りおよび事後指導 保育実習Ⅲの学びを振り返り、保育者としての今後の課題について考える。	実習個別指導教員による事後指導を受ける。事例検討シートおよび振り返りシートに実習内容や今後の課題についてまとめ提出する。	1時間

授業科目名	こどもと絵本（概論）				
担当教員名	白瀬 浩司・小泉 直美				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼児への絵本を読む実践活動に長年携わり、大学、公民館活動などで講師として絵本の読み聞かせや、絵本の紹介、絵本の選定、絵本の楽しさなど、絵本のもつ魅力の数々を伝える活動を行ってきた。（全14回）				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

「認定絵本士」に必要な資質・能力を身に付けるために、「絵本とは何か」「絵本の歴史」「視覚表現、言語表現」「幼児の知的・社会的発達と絵本の関係」などを学ぶ。また絵本の体系・ジャンル、メディアとしての絵本の位置づけなど、幼児教育現場での現状や児童文化財としての絵本の役割を理解するとともに、絵本の活用方法などを通して絵本士としての基礎的な内容を学ぶ。絵本との出会いを学ぶ場面や、絵本の世界を広げる場面では、図書館や書店等において実践経験を持つ方を講師として招聘し、学修を進める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	絵本に関する幅広い知識	絵本のもつ意義と機能を理解する。絵本を通して想像する楽しさを広げる児童文化財の意義を絵本のもつ意義と機能を理解するとともに、児童文化財としての絵本の意義を理解する。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	絵本に関する知識・絵本の活用方法	絵本を通して想像する楽しさを広げ、活用に向けコーディネート力・企画力を養うことができる。
汎用的な力		
1. DP5. 計画・立案力		絵本を用いた活動の具体的取組について理解する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなし不合格とします。レポート課題などの提出については、指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は、受け付けません。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
小課題	： 授業内のグループワークに基づく報告、小テスト、小レポート等を評価する。
ワークシート	20 % ； 個別の学修ワークシート（各回の学修テーマに沿った課題・学修成果）の記録を評価する。
定期試験	50 % ； 与えられた論題に関する学期末レポートをまとめる。
	30 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
----	------	-----	-----

参考文献等

G B編集部『全国 大人になっても行きたいわたしの絵本めぐり』（ジー・ビー、2020年）ISBN9784906993857
柳田邦男『人生の1冊の絵本』（岩波新書／岩波書店、2020年）ISBN9784004318286
岡田達信『新・絵本はこころの処方箋 絵本セラピーってなんだろう？』（瑞雲舎、2021年）ISBN4907613342

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、認定絵本士養成講座にかかる科目として設定しています。子どもと絵本（概論）科目として実施します。
この養成講座では、他に「子どもの文化」「子どもと絵本」（実践）を受講して認定絵本士の申請ができます。毎回授業に参加し、内容を丁寧に復習するとともに、次の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 4 限
場所： 西館 5 階（図書館横） 57 研究室
備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合は、E メールで shirase@g.osaka-seikei.ac.jp まで。
なお、E メールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーション ○絵本専門士・認定絵本士について ○子どもの成長、社会的発達と絵本との関わりについて理解する。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。 ・受講学生間の相互理解を深めるとともに、認定絵本士の役割について確認する。	認定絵本士をめざす仲間との交流を通して、新しい気づきと自らの思いをまとめる。	4時間
第2回 視覚表現・言語表現から見た絵本 ○視覚表現・言語表現から見た絵本について考える ・絵本の視覚表現特性について理解する。 絵本の視覚表現の特性・絵本の視覚表現の実例・視覚表現の特徴ある絵本の比較検討 ・絵本の言語表現特性について理解する。 絵本の言語表現・絵本の言語表現の実例・言語表現に特徴のある絵本の比較検討	視覚表現、言語表現から見た絵本について、学修をまとめる。	4時間
第3回 子どもの知的・社会的発達と絵本との関わり ○各年齢期の子どもの発達と絵本との関わりについて理解する ・乳幼児期における保護者・保育者と子どもの絵本を介したやりとり ・乳児期における子どもと絵本との関わりや、保護者・保育者の援助について ・児童期以降、学校における子どもと絵本との関わり ○絵本が子どもの発達に及ぼす影響に関する学術的知見 ・子どもの知的・社会的発達に着目した研究 ・生涯にわたる学びに向かう力に着目した研究 ・学術的知見から考えられる子どもと絵本との関わりに関する指導者の援助	子どもの発達と絵本との関わりについてまとめる。	4時間
第4回 メディアとしての絵本の位置づけ ○情報メディアとしての絵本の特性について理解する。 ・情報伝達モデルとその構成要素 ・絵本が持つ情報メディアとしての特性 ○電子書籍と子どもの脳の関係 ・電子書籍の特性について、書籍の種別による脳活動の比較 ・学術的知見から考えられる電子書籍 ○絵本と著作権との関係について理解する。 ・我が国の著作権の関係（財産権、人格権、複製権。上演権など） ・絵本を活用した活動での留意点	情報メディアとしての絵本の特性についてまとめる。	4時間
第5回 絵本を探す技術 ネット検索を活用した絵本について考える ○絵本を探す多様な手段（情報源）とキーワード（テーマや登場人物等）について理解する。 ・絵本を探す目的・人々 ・絵本の情報源（目録・ブックリスト等 ・絵本検索の有効なウェブサイト（絵本データベース）などの検索 ○図書館におけるレファレンスサービス ・レファレンスサービスの事例 ・レファレンスサービスの理解と演習	絵本をネット検索する場合の留意点をまとめる。	4時間
第6回 はじめての絵本との出会い ○乳幼児を対象とした絵本の特徴を理解する。 ・乳児・幼児が絵本を読む（見る）ことの意義 ・発達段階に適した絵本の選定 ○乳幼児が絵本に触れるための具体的取組 ・地域での育児支援活動 ・家庭での絵本の読み聞かせ	赤ちゃん絵本、ブックスタートなどについてまとめる。	4時間
第7回 保育・教育の場での絵本との出会い	保育・幼児教育現場における絵本との関わりについてまとめる。	4時間

	保育・幼児教育現場、および、学校現場における子どもと絵本との関わりの現状について ○保育・教育の場における絵本の意義 ・保育・教育の場における絵本を用いた活動の位置づけ ・絵本と子どもをつなぐ保育者・教員の援助のあり方 ○保育・教育の場における絵本を用いた活動の具体的取り組み ・保育・幼児教育場面 ・学校教育場面		
第8回	図書館等での絵本との出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～ ○公共図書館の行う児童サービスについて理解する。 ・図書館内での読み聞かせ、ブックトーク、おはなし会、絵本づくりなど ・図書館以外の幼稚園・保育園での読み聞かせなど ○地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の展開 ・読書推進活動における絵本をめぐる活動の意義と事例 ・関連施設との連携事業の可能性	図書館での絵本の活用事例をまとめる。	4時間
第9回	書店での絵本との出会い ○書店における絵本の売り場づくりの特性について理解する。 ・人々の目を引く絵本の陳列方法 ・POPの見せ方（演習により実施） ○絵本の流通 ・絵本がでるまでの経緯 ・絵本の流通（出版社、取次、書店への配本・陳列）	書店での絵本の売り場で気を付けていることをまとめる。	4時間
第10回	絵本の持つ力 児童文化財の役割について学ぶ ○絵本の研究者等より、さまざまな角度から絵本を見る力を学ぶ。 ・絵本の持つ可能性及び相反する力について理解する。 ・絵本が子どもたちに与える影響について多面的な視野から見つめることにより、批評力を体得する。	児童文化財としての絵本の役割についてまとめる。	4時間
第11回	心に寄り添う絵本～心のケアと絵本の可能性～ ○心のケアが求められている場面や場所における絵本活用の可能性について理解する。 ・絵本がもたらす子どもたちの心のケアの可能性や意義と目的 ・心のケアにつながる絵本の読み聞かせの必要性 ・心のケアに有効な絵本の読み聞かせと活用方法 ・児童自立支援施設や児童養護施設等での読み聞かせ等の取り組みについて	心のケアとしての絵本の可能性についてまとめる。	4時間
第12回	絵本のある空間～絵本のある望ましい空間とは～ ○子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。 ・図書館等の現状や課題について ・地域社会における絵本のある空間の存在意義 ・絵本の望ましい空間やレイアウトのあり方 ・受講生が描く理想の絵本のある空間づくり	理想の絵本のある空間づくりについてまとめる。	4時間
第13回	子どもの心をとらえるもの～子どもの心をとらえて離さないもの～ ○子どもたちの興味について理解する。 ・現在の子どもの興味関心事項について（絵本と人形劇の共通点と相違点、人形劇の特徴と魅力） ・子どもたちの心を惹きつける表現方法について	子どもたちの興味関心事項についてまとめる。	4時間
第14回	ディスカッション～認定絵本士としての今後の活動～ ○認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議する。 ・グループによるディスカッション ・今後認定絵本士として活躍していく上での課題と解決策 ・自分たちが目指す認定絵本士像や活動内容について発表 ○認定絵本士としての役割や行動すべきことを理解する。	認定絵本士としての役割や行動すべきことをまとめる。	4時間

授業科目名	こどもと絵本（実践）				
担当教員名	浅野 法子・白瀬 浩司・田野 晶子・小泉 直美				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	絵本の読み聞かせ活動に長年携わり、大学、公民館活動などで親子絵本読み聞かせ会での講師。書店で絵本のもつ魅力の数々を伝える活動をとおしての絵本販売、出版社での絵本編集などを行ってきた講師などが担当（全14回）				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

「認定絵本士」に必要な資質・能力を身に付けるために、技術を高める項目と感性を磨く項目について学ぶ。絵本の世界を広げる技術として「絵本を探す技術や、ワークショップの企画および実践などの技術」を学ぶ。絵本を紹介する技術として「絵本コンシェルジュ術・ブックトーク・書評の書き方など」を学ぶ。感性を磨くこととしては、「心を豊かにする絵本・絵本を通じて社会を豊かにできる力」とはどのようなことかについて学び、「絵本が生まれるまで」の項目では、絵本作家、絵本編集者を講師として招聘し、学修を進める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	絵本のもつ意義と機能を理解する。 絵本を通して想像する楽しさを広げる。 児童文化財の意義を理解し、活用に向けコーディネート力・企画力を養う。	絵本に関する知識を理解し実践力を養うことができる。
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	絵本に関する専門的知識を有する方（絵本作家、絵本編集者、幼稚園教諭など）から、具体的な知識・技術を学び、コーディネート力、企画力を養う。	絵本の製作に関わる行程について理解を深めることができる。
汎用的な力		
1. DP6. 行動・実践		図書館・地域の読書推進活動等での絵本をめぐる活動の展開を理解し、絵本との出会いをどう進めるかなどのコーディネート力を養う。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ棄権とみなし不合格とします。 レポートなどの提出については、指示された期日を厳守してください。期日を過ぎた場合は、受け付けないこともあります。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
小課題	： 授業時のグループワークに基づく報告、小テスト、小レポート、制作物などを評価する。
ワークシート	： 個別の学修ワークシート（各回の学修テーマに沿った課題、学修成果）の記録を評価する。
定期試験	： 与えられた論題に関する学期末レポートをまとめる。
	40 %

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
絵本専門士委員会課程認定部会	・ 認定絵本士養成講座テキスト	・ 中央法規出版株式会社	・ 2024 年

参考文献等

適宜、講義時に指示する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は、認定絵本士養成講座にかかる科目として設定しています。子どもと絵本（実践）科目として実施します。
この養成講座では、他に「子どもの文化」「子どもと絵本」（概論）を受講して認定絵本士の申請ができます。毎回授業に参加し、内容を丁寧に復習するとともに、次の授業に向けて予習すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜 4 限目

場所： 西館 5 階（図書館横） 57 研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合は、E メールで shirase@g.osaka-seikei.ac.jp まで。
なお、E メールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	絵本の世界を広げる技術①～絵本を探す技術～ ○オリエンテーション ○絵本の世界を広げる技術① ・ 絵本を探す技術（絵本を探す多様な手段を学ぶ） （情報源）とキーワード（テーマや登場人物等）について理解する。 ・ 絵本を探す目的・人々について考える。 ・ 絵本の情報源（目録・ブックリスト等） ・ 絵本検索の有効なウェブサイト（絵本データベース）などの検索	絵本を探すための情報源の見つけ方についてまとめる。	4時間
第2回	絵本の世界を広げる技術②-1～ワークショップの企画～ ワークショップの企画及び実践① ○絵本を活用した表現活動について理解する。 ・ 絵本を活用した表現活動の特性 ・ 子どもの発達過程と絵本を活用した表現活動の教育効果 ・ 絵本を活用した表現活動の事例 ○絵本を活用した表現活動の基礎的技術 ・ 活動に係る計画策定 ・ 活動に係る環境整備（場づくり） ・ 活動の円滑な実施方法	絵本を活用したワークショップの企画案を考える。	4時間
第3回	絵本の世界を広げる技術②-2～ワークショップの実践～ ワークショップの企画及び実践② ○絵本を活用した表現活動の基礎的技術 ・ 活動に係る計画策定 ・ 活動に係る環境整備（場づくり） ・ 活動の円滑な実施方法	絵本を活用したワークショップの企画案をまとめる。	4時間
第4回	絵本の世界を広げる技術③～絵本コンシェルジュ術～ 絵本コンシェルジュ術 ○相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。 ・ 絵本を提案する技術（相談者との対話方法と留意点、要望の把握と提案方法） ○絵本に係る情報収集と整備 ・ 分野の多様性 ・ 絵本に係る情報の収集に有用な文献およびウェブサイト ・ 絵本読書ノートの活用	絵本を提案する技術としてのポイントをまとめる。	4時間
第5回	絵本を紹介する技術①～ブックトークの技術～ ○場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。 ・ ブックトークの目的及び方法 ・ ブックトークの基礎的技術 ・ ブックトークの応用（聞き手の反応を踏まえた対応など） ○ビブリオトーク ・ ビブリオトークの目的及び方法 ・ ビブリオトークの基礎的技術 ・ ビブリオトークの応用	ブックトークについてまとめる。	4時間
第6回	絵本を紹介する技術②～書評・紹介文の書き方～ ○絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する。 ・ 絵本を客観的に捉えることの意義（紹介する対象・目的・方法） ・ 絵本の評価及び評価及び批評に係る基本的な姿勢 ・ 第三者に対する正確な伝達方法 ○書評と紹介文 ・ 書評と紹介文の違い ・ 書評と紹介文の書き方	書評・紹介文の書き方について留意点をまとめる。	4時間
第7回	絵本を紹介する技術③～支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割～	障がい者等の絵本の選択や紹介についてまとめる。	4時間

	○障がい者、病児及び高齢者等、絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を要する人について理解する。 ・障がい者と絵本（視覚障害、聴覚障害、知的障害、ディスリクシア等の障がい種類について学び、各障がいに対応した絵本（点字絵本、拡大絵本、触れる絵本、手話絵本、LLブック等）があること、及び障がい者を対象としたおはなし会の実施方法について考える） ・病児と絵本（病児とその家族の心理について学び、困難な状況における絵本の有効性と絵本を手渡す適切な時期を学ぶ） ・高齢者と絵本（高齢者の特徴、高齢者に対する絵本の役割、高齢者施設等における絵本の活用方法を学ぶ）		
第8回	おはなし会の手法①～おはなし会を開こう～ ○おはなし会について理解する。 ・おはなし会の意義、多様性（大型絵本や紙芝居の活用、ストーリーテリング、音楽との融合）、留意点（集中が苦手な子どもへの対応、聞き手の年齢・人数に適した対応等）を学ぶ ・おはなし会の企画・運営（企画・提案する手法）及び、運営する手法（会場設営・プログラム・選書等）、絵本を伝える手法（読み語り、読みあい、ストーリーテリング等）を学ぶ	おはなし会開催に向けた留意点をまとめる。	4時間
第9回	おはなし会の手法②～おはなし会のテクニック～ ○おはなし会のテクニックについて理解する。 ・おはなし会で活用する手法と効果（手遊び、指人形、ペープサート、エプロンシアター、折り紙、工作、実験等）を取り入れた取組事例を学ぶ ○おはなし会を実践し、導入方法を学ぶ ・おはなし会をおこなってみよう（演習）	おはなし会のテクニックをまとめる。	4時間
第10回	人生で3度、絵本を手にする喜び、大人こそ絵本を①～絵本が大人に与える影響～ ・絵本が大人に与える喜び ・大人と子どものとの絵本の捉え方の相違 ・聞き手から読み手に代わることによって気づく絵本の意義 ・高齢者や入院患者、病氣療養中の方、緩和ケアが必要な大人に対する絵本の役割	絵本が大人に与える影響についてまとめる。	4時間
第11回	人生で3度、絵本を手にする喜び、大人こそ絵本を②～大人向け絵本の選定～ ・大人にとって喜ばれる絵本の選択について ・高齢者や入院患者、病氣療養中の方、緩和ケアが必要な大人に対する絵本の役割 ・高齢者や入院患者、病氣療養中の方、緩和ケアが必要な大人への絵本紹介に向けた企画	高齢者や入院患者、病氣療養中の方、緩和ケアが必要な大人への絵本紹介に向けた企画を考える。	4時間
第12回	ホスピタリティに学ぶ～人を楽しませるための手法～ ○絵本以外で人を楽しませるための手法について理解する。 ・子どもに対するホスピタリティ ・民間施設等で子どもたちが持つ力を引き出す取組み ・経営面から見た対象年齢・興味関心事項の分析（表現方法・活用方法の具現化について）	子どもに対するホスピタリティについてまとめる。	4時間
第13回	絵本が生まれる現場①～作家の感性に触れる～ ○絵本の作り手の思いについて理解する。 ・絵本作家の観点から絵本が出来るまでの過程 ・絵本で読み手に伝えたい思いを理解 ・絵本作成における視覚表現及び言語表現	表現方法、作家の思いをまとめる。	4時間
第14回	絵本が生まれる現場②～絵本の編集～ ○絵本の編集者の仕事の内容・役割について理解する。 ・絵本の作成は、作家や画家だけでなく、編集者も大きく関わっていることを理解する。 ・絵本の基本的な構造を理解 ・絵本の編集過程を理解 ○授業を振り返って（まとめ）	絵本の編集者の仕事についてまとめる。全授業の振り返りをまとめる。	4時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	中川 陽子				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	障害児・者の居宅サービス及び移動介護、家族支援に従事（全28回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。

福祉・保育・教育等の現場では、子どもの生活や発達に加え、子の育ちにかかわるたくさんの人に向き合うことになります。この授業では、他者との意見交換を積極的に行うことや、尊重し合うことの大切さも学びます。そして、社会的養護や子育て支援に関連するキーワードをもとに各自でテーマを設定し、そのテーマについて、実践的な理解や議論等を行い、学びを深め、卒業論文の作成を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

- 保育分野の専門知識ならびに技能
- こども家庭福祉分野の専門知識

目標：

- 保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。
- 自分の設定したテーマに関しての知識と理解を深め、考察を行い自分の意見を述べるができる。卒業研究を完成させ、その内容を説明できる

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP10. 忠恕の心
3. DP8. 意思疎通

- テーマに沿って資料を集め、その内容を説明することができる
- 保育や子育て支援のフィールドを理解し、子どもや保護者への支援を情熱をもって行うことができる
- 他人の意見を踏まえて、自分の意図や主張を伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。テーマに応じて適宜課外学習を行う可能性があります。その際、交通費等の実費負担が生じることがあります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

卒業論文	：	自分の設定したテーマについて卒業論文を作成する。課題発見、論理性、構成、独自の発想・視点、標記の観点から40点満点で評価する。
40 %		
卒業論文への取り組み	：	フィールドワーク等の調査や文献収集などを実行し、自分の研究に取り組んでいるか中間・最終研究発表をもとに自分の研究について独自の発想・テーマ、課題、論理性、構成の観点から20点満点で評価する。
20 %		
授業への取り組み状況	：	各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

30 %

定期試験

：卒業論文／制作の内容について確認課題を行い、10点満点で評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜、授業時に紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間、それぞれ求められる。
- ・その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の回の授業に向けて予習をすること。
- ・卒業論文作成のために文献やデータの収集、フィールドワークを含めた調査研究を意欲的に行い、授業外学修時間でその作成を行うこと。
- ・授業マナーを守り、発表や討議に積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：初回授業時に提示する

場所：中川研究室

備考・注意事項：連絡をとりたい場合は、Gメール（アドレス：nakagawa-yo@g.osaka-seikei.ac.jp）にて、学年、クラス、学籍番号、氏名を明記し、内容をお伝えください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、専門演習について ・専門演習の進め方と評価の説明 ・テーマとその研究対象について考える ・テーマについて掘り下げる ・問い（何を明らかにしたいのか）を明確化する ・年間計画案を考える ・シートの作成	シラバスを読み、どのような研究がしたいのか概要をまとめておく。自分の研究テーマに関するシートを作成する。	1時間
第2回	人々の生活課題と福祉 ・人々の生活課題と福祉（生活課題・生きづらさ・幸せ）について理解を深める ・専門演習のテーマについてシートを用いて発表する ・ゼミ生同士でディスカッションを行う ・再度、整理する ・それを踏まえ、年間計画を修正する ・先行研究を集めていく	自身の研究テーマに関連した文献を収集していく。振り返りシートを作成する。	1時間
第3回	先行研究文献の整理とレビュー 文献収集・レビューを継続しながら、自身の研究の目的を再度明確化する 進捗報告・発表をする	授業内容を踏まえて、引き続き文献を集めて整理する、振り返りシートの作成。	1時間
第4回	研究倫理教育及び研究方法、自己の発見 ・研究倫理について学ぶ ・研究方法についてどのようなものがあるのかを知る（目的、方法、対象者、期間についても考える） ・自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する ・専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していけるかについて検討し、まとめる	何を明らかにしたいのかを再度明確化しておく、振り返りシートの作成	1時間
第5回	研究倫理教育 ・文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施する。	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめる。	1時間
第6回	社会福祉の質的研究 ・質的調査にはどのようなものがあるのか文献から学ぶ ・自身の明らかにしたいことと調査方法について考える	調査方法についてシートの作成。振り返りシートの作成。	1時間
第7回	社会福祉の量的研究 ・量的調査にはどのようなものがあるのか文献から学ぶ ・自身の明らかにしたいことと調査方法について考える	文献の収集。振り返りシートの作成。	1時間
第8回	ここまでの取り組みについての発表とディスカッション、振り返り	第8回の発表に向けてまとめておく。振り返りシートの作成。	1時間

	・各学生の進捗とその内容について共有し、課題についてディスカッションを行う ・ディスカッションからの気づきをシートにまとめ、整理する ・倫理審査について学ぶ		
第9回	卒業研究の意義と目的について再度確認する 自身の成果物を整理しながら、卒業論文とはどのようなものかを理解する。 「卒業研究ガイドライン」で1. 卒業研究の意義と目的、2. 卒業研究に求められることについて考える。 グループワーク、整理を行う。	卒業論文について、教員が解説した内容をまとめ、理解を深める。	1時間
第10回	テーマの設定について確定する 各自、テーマを確定する（題目確定）。 テーマを決めた動機について、学生同士で意見交換を行う。 自分の研究テーマに関係した資料（文献、雑誌・新聞記事、インターネット情報等）、文献レビューのまとめを確認し、 ・研究の社会的・技能的背景 ・明らかにしたいこと ・予想される結果とその意義 以上のことについて、成果物を精査しながら文章化する	自分の研究テーマに関係した資料（文献、雑誌・新聞記事、インターネット情報等）の整理と文章化をする	1時間
第11回	研究目的について シートを基に、研究目的について文章化する ・研究の背景 ・明らかにしたいこと ・予想される結果とその意義 以上のことについて、文章化し、提出する。	研究目的について、卒業研究計画書に記入する	1時間
第12回	研究計画について 研究計画と研究方法（調査方法等）について修正・確定をする 上記のことについて、文章化する 卒業研究計画書を作成する	卒業研究計画書を完成させ、指導教員に提出	1時間
第13回	卒業論文の構成について 卒業研究計画書の完成 卒業論文について、どのような構成にするか検討し、章立てについて考える	卒業論文の一般的な構成内容を理解し、自分の卒業論文の構成を考える。振り返りシートの作成。	1時間
第14回	研究計画（夏の取り組み）、引用文献、参考文献について 引用文献、参考文献についての整理をしながら標記の仕方を学ぶ 夏の具体的な研究計画および活動内容を決める 夏の計画について各自発表	引用文献、参考文献の整理を行う	1時間
第15回	オリエンテーション（後期授業の進め方等）と研究計画の確認 ・後期の授業の進め方について ・研究計画および研究に関して収集したデータの確認 ・夏休みの取り組みについての発表	収集したデータをまとめる。研究計画の進捗確認並びに調整を行う	1時間
第16回	研究計画の確認 研究計画を確認する 研究に関して収集したデータの確認 夏休みの取り組みについての整理をする	収集したデータをまとめる	1時間
第17回	研究データの分析、応用 研究用に収集したデータの分析を行う データの分析結果を基に卒業論文の作成を行う	各自で研究用に収集したデータの分析を行う	1時間
第18回	自己課題の発見 「自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していけるかについて 検討し、まとめる	1時間
第19回	中間発表に向けて テーマの設定、研究目的、研究方発表内容について意見交換をし、自分の研究の課題点を見つけ発表準備を行う。	中間発表用の資料の作成を行う。各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第20回	中間発表（前半） テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表を行う。発表内容について意見交換をし、自分の研究の課題点を見つける。 各発表へのシート作成。	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第21回	中間発表（後半） テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表を行う。発表内容について意見交換をし、自分の研究の課題点を見つける。 各発表へのシート作成。	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第22回	卒業論文作成（目的の確認）	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間

	個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う。 各自進捗の発表・質疑応答		
第23回	卒業論文の作成（先行研究の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う 各自進捗の発表・質疑応答	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第24回	卒業論文の作成（研究方法の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う 先行研究の確認を行う 各自進捗の発表・質疑応答	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。	1時間
第25回	卒業論文の作成（研究倫理の確認・推敲） 個々の状況を踏まえ、卒業論文の作成を行う。 研究倫理の確認を行う 引用・参考文献の標記のチェック 各自進捗の発表・質疑応答 個々の状況を踏まえ、卒業論文の修正を行う 卒業論文の提出を行う（1次締めきり）	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。研究発表会用のレジュメ、資料を作成する。	1時間
第26回	研究発表会（前半） 各自の研究を発表する。 質疑応答・討論 各発表へのシート作成。	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文の作成を行う。研究発表会用のレジュメ、資料を作成する。	1時間
第27回	研究発表会（後半） 各自の研究を発表する。 質疑応答・討論 各発表へのシート作成。	推敲済み最終原稿を完成させる。	1時間
第28回	卒業論文の推敲を行う。 卒業論文を完成させる。 最終提出の準備。 総括と定期試験の説明。	推敲済み最終原稿を完成させ提出する。	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	楠井 淳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	以下の実務経験を有する。高等学校教員、民間および音楽大学付属音楽教室、音楽院の講師として勤務。並びに保育園においても音楽講師として幼児音楽教育に携わる。（全28回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行う。音楽的技能と表現力の発展と向上を本演習の目標とする。また各自の研究テーマを設定し、考察を深めレポートにまとめる。具体的には連弾や合奏等を通して、アンサンブルの楽しさと音楽表現の豊かさを実感し、保育者として必要な音楽的感性を磨き、演奏技術の向上を目指す。そこでは他者との協調力を養い、より良いものを作り上げていく過程も重要となる。更に保育の場で必要となる編曲法を学び、合奏編曲や創作など、より実践的な力と応用力を身につける。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	保育分野の専門知識ならびに技能	保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	保育者・教育者にとって必要な音楽表現の技能。	子どもの音楽表現を援助する為に必要な音楽の演奏技能と伴奏や即興など様々な状況に対応できる実践力を身に付ける事ができる。
汎用的な力		
1. DP6. 行動・実践		自主的な練習を継続することにより、自己の表現力を高める事ができる。
2. DP9. 役割理解・連携行動		アンサンブルなどのグループワークを通して、協同する力を育むと共に自己の役割を果たす事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・実験、実技、実習
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
卒業研究発表	： 演奏表現力、取り組みの状況、協調性、完成度などを独自のルーブリックをもとに評価する。
30 %	
卒業研究レポート・小論文	： 各自のテーマに基づいたレポート・小論文をまとめ、その内容、調査の取り組みなどを独自のルーブリックをもとに評価する。
30 %	
授業内課題	： 授業や課外学習への取り組みについての振り返りシートや授業内課題シートを独自のルーブリックをもとに評価する。
40 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

映像資料や文献を適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期 1 単位、後期 1 単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて 4 単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間、それぞれ求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 月曜日 2 限

場所： 幼児教育第 9 研究室

備考・注意事項： その他の時間帯の質問には第 9 研究室で受け付け、メールでも対応する。
アドレス： kusui@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには学籍番号と氏名を必ず書くこと。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション・卒業研究の進め方 ・授業概要の説明を受け、その内容を理解する。 ・自己の目標をたてる。 ・研究テーマについて考える。	先行研究を調べ、各自の研究テーマを考える。	1時間
第2回	先行研究の紹介、論文レポートの執筆法 ・先行研究の文献を読み、要約する。 ・論文レポートの執筆法について学ぶ。 ・参考文献の調べ方や引用について学ぶ。	各自のテーマを決めるために、先行研究や先行事例の調査をする。	1時間
第3回	合奏1（技術面の向上） ・グループを組み、合奏曲の選曲をする。 ・楽器編成と役割を決定する。 グループ活動：パート別に練習する。 グループ全体での練習。	合奏曲の自己練習（毎日30分以上練習）。課題曲に記されている音楽用語を調べる。楽曲の調性と使用されている主な和音について調べる。	1時間
第4回	合奏2（楽曲の理解とその表現法） グループ活動：グループ全体での練習。 ・楽曲に応じた表現法について考察する。 ・アーティキュレーション、アゴーギクなどを確認しながらグループごとにレッスンを受ける。	合奏曲の自己練習（毎日30分以上練習。強弱、アゴーギクなどの表現法を考察する。	1時間
第5回	研究倫理教育 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、「研究倫理教育」を実施する。	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて、検討しまとめる。	1時間
第6回	合奏3（発表に向けた表現法） グループ活動：グループ全体での練習。 ・発表に向けた表現法について考察する。 ・練習の仕上げを行い、グループごとにレッスンを受ける。	自己練習（一日30分以上）と課題曲の練習の仕上げを行う。	1時間
第7回	合奏4（発表） ・合奏作品の発表。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行なう。	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。	1時間
第8回	鑑賞と課題の設定に向けて ・様々な表現法による作品（絵本や画像に付随する音楽作品、音楽劇など）を鑑賞する。 ・感想をまとめ意見交換する。 ・発表会に向け、自身の表現法について考える。	自己課題を考察、立案する。	1時間
第9回	発表課題の設定（選曲と編曲・創作の準備） ・各自考察してきた内容を基に、様々な様式の音楽表現（絵本に付随する音楽、既成の曲を編曲、劇音楽の創作）について意見交換する。 ・課題を設定し、選曲など準備を進める。 ・必要に応じて編曲や創作を実施する。 ・記譜法を確認する。	発表の内容（方法、選曲など）を考察する。編曲を創作を進める。自己練習をする。	1時間
第10回	発表課題の考察と練習1（考察と編曲・創作） ・表現内容の考察を進める。 ・編曲や創作を進める。 ・自己練習を行う。	編曲や創作を進め、完成させる。自己練習をする。	1時間

第11回	発表課題の考察と練習2（楽器法） ・各種楽器の使用法などを意見交換しながら、練習する。	自己練習（一日30分以上）。	1時間
第12回	発表課題の考察と練習3（発表に向けて） ・編曲や創作を完成させる。 ・次の発表に向けて練習を行う。	自己練習（一日30分以上）。発表のスタイルについて考察する。	1時間
第13回	創作・編曲課題の発表 ・編曲・創作などの音楽表現の発表をする。 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をまとめ意見交換や討議を行う。	意見交換や討議を通して考えたことをまとめる。 編曲課題を完成させて提出する。	1時間
第14回	発表の振り返りと卒業発表と研究テーマの設定 ・発表の振り返りを行う。 ・卒業発表のペア及びグループを決め、課題曲を選ぶ。 ・自己の研究テーマを決定する。 ・前期の授業を振り返り、学んだことや後期の課題をレポートにまとめる。	課題曲の個人練習を行う。研究テーマに基づき、先行研究・先行事例の調査を行い、論文・レポート執筆の準備を整える。	1時間
第15回	自己練習（楽曲の理解・技術面の向上）、研究テーマの設定 ・個人練習を行う。 ・調性、和音、転調について学ぶ。 ・研究テーマに基づき、その調査方法を確認する。	課題曲の自己練習（毎日30分以上練習）。研究内容、方法などを考察する。研究テーマに基づき、資料を収集する。	1時間
第16回	レッスンとペア・グループによる練習1（アンサンブル導入） ・課題曲のペアによる練習を進める。 ・ペア及びグループごとにレッスンを受ける。	課題曲の自己練習（毎日30分以上練習）。楽曲の調性と使用されている主な和音について調べる。	1時間
第17回	レッスンとペアによる練習2（楽曲の理解とその表現法） ・ペアやグループでの練習では、楽曲に応じた演奏法について考察する。 ・アーティキュレーション、アゴーギクなどを確認しながらグループごとにレッスンを受ける。	課題曲のペアによる練習を進める。自己練習（一日30分以上）とグループ練習。	1時間
第18回	自己課題の発見 ・自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する。	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していけるかについて検討し、まとめる。	1時間
第19回	打楽器の奏法と編曲1（リズム楽器の理解と奏法、アレンジの試み） ・ピアノ曲に打楽器を加えたアンサンブル曲の編曲法を学ぶ。 ・各自考察した内容をグループで協議する。 ・実際に楽器を使って、アレンジを試す。 ・打楽器の記譜法を学ぶ。 ・考察した内容を記譜する。	連弾課題曲に打楽器を加えたアンサンブルを考察する	1時間
第20回	レッスンとグループによる練習1（実践と発表についての考察） ・グループごとにレッスンを受ける。 ・自己練習およびグループ練習を行う。 ・発表のスタイルについて意見交換する。	自己練習（一日30分以上）とグループ練習。	1時間
第21回	レッスンとグループによる練習2（表現法の考察） ・グループごとにレッスンを受け、楽曲に応じた表現法を考察する。 ・アーティキュレーションなど表現法について意見交換しながら、グループ練習を行う。	自己練習（一日30分以上）とグループ練習。 ・レポートではまとめた資料の内容をもとに自分自身の考察を進める。	1時間
第22回	レッスンとグループによる練習3（課題の明確化） ・グループごとにレッスンを受け、発表に向け各グループの課題を明確にする。 ・グループ練習を行う。 ・作品としての全体のまとまりについて意見交換し、仕上げをする。	自己練習（一日30分以上）とグループ練習。速度や強弱などの表現法について考察する。作品としての全体のまとまりを考える。グループ練習のまとめを行う。	1時間
第23回	卒業作品発表会 ・音楽表現作品の演奏発表会 ・他のグループの演奏を聴き、批評と感想をレポートにまとめる。意見交換を行う ・授業を振り返って学んだことや、発表の反省や感想、今後の課題についてレポートにまとめる。	自己の課題を確認し、レポート内容に反映させる。レポートの中間発表に向けて現在の状況をまとめる。	1時間
第24回	発表会の振り返りとレポート中間発表	発表した内容を振り返り、新たな課題点を見つける。	1時間

	・発表の映像を観て、振り返りを行う。発表の反省や感想について意見交換を行い、その内容をもとに自己の今後の課題をレポートにまとめる。 ・レポートの目的と調査など、現時点での進行状況を発表する。 ・他者の発表を聞き、批評と感想をまとめ意見交換を行う。		
第25回	研究レポート作成1(調査のまとめ) ・研究の目的に基づいた先行資料の調査を行い、まとめる。	調査を進め、内容をまとめる。	1時間
第26回	研究レポート作成2(研究の過程と結果) ・調査をもとに自らの体験を踏まえ自分自身の考えをまとめる	研究レポート作成を進める。考察をすすめる。	1時間
第27回	研究レポート作成3(考察) ・研究の考察をまとめる。 ・レポートの書式を整える。	研究レポートの書式、目次、参考資料一覧などを整える。	1時間
第28回	研究レポートの仕上げとまとめ ・研究レポートの最終的な仕上げを行う。 ・授業を振り返って学んだことや、発表の反省や感想、今後の課題についてコメントシートを記載する。	研究レポートの最終確認を行い、取りまとめをする。	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	紺谷 武				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	幼稚園等での造形講師				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行う。学生自身が主体となって自身の興味や疑問、探究心を糸口として課題を設定する。また、他者との対話や文化の学びを通して、主体的に作品制作をおこなう。単なる自己表現とならないよう、対象（例えばおもちゃ製作や絵本製作）についての先行研究などを行ない、資料を分類したりしながら、制作の密度を高める。また、美術作品の鑑賞や制作を通して、美術についての理解を深めることで多様な価値観を認識し、作品として出力する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP1. 幅広い教養やスキル
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

美術の知識・技能と保育の知識と結びつけて実践に活用する
保育分野の専門的知識並びに技能

目標：

美術に関する専門知識ならびに技能を身につけ、理解することができる
保育に関する専門的知識並びに技能を身につけ理解することができる。

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力
2. DP6. 行動・実践
3. DP7. 完遂

未知なる制作に対して、問題を解決しながら計画を立てることができる。

自身の計画を遂行することにより、観察力、判断力、考えをまとめ言葉にする力、多様な価値観を認知する力を身に付けることができる。

客観的に計画や構想を捉え、必要に応じて修正しながらやり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・問答法・コメントを求める
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。
授業終了後に授業内容をまとめたレポート等の提出をします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

目標に対する主体的な取り組み	：	主体的なテーマ設定・案出から計画、制作、提出、発表までを行っているかを総合的に評価します。
50 %		
作品の洗練度	：	まとめられた資料等を基礎にして授業時間に見合う質で細部にまで作りこめているか。
30 %		
定期試験（作品とレポート提出）	：	通年で2回のレポート提出。およびそれに準ずる作品の提出。
20 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

必要に応じてプリントやスライドなど適宜、用意する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は通年科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間程度、それぞれ求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：金曜2限
場所：教育第一研究室
備考・注意事項：教員の研究室を訪ねる。アポイントを取ることが望ましいが、時間が合えばいつでも質問してください。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 授業内容の理解と計画 一年間の授業の進め方や目的、授業内容、卒業研究大会および成績評価について理解する。また、自身の制作のテーマについて考える。 なお、研究倫理教育を実施する。	年間の自分の制作のテーマについて考え、案出をする。	1時間
第2回 美術の歴史（多様性の理解） 美術の歴史を学び、多様な価値観を知る。	身近な美術を探して、写真を撮る。	1時間
第3回 作ることにについて（作品制作の模索） 美術に限らず、人間がなにかを作るということについて身近なものから考え、年間を通しての制作のテーマを考える。	作られたものから、作り手を想像してみる。	1時間
第4回 自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する。	自身の興味や関心をひく作品を調べる	1時間
第5回 関連資料の収集・研究倫理教育 制作のテーマに関する資料や論文、作品の写真などを収集する。 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施する。	さまざまな視点から複数の資料を集める。「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめる。	1時間
第6回 関連資料の調査（収集した資料のまとめ） 制作のテーマに関する資料や論文、作品の写真など収集し、また比較、類比、あるいは対比を行ない収集した資料を分類しまとめる。	日常の中にも作品テーマに関係するものがないか、調べる。	1時間
第7回 作品制作の決定 主体的にテーマを決定し、テーマの内容と分類した資料について発表する。	自身に必要な資料や情報についてしっかりと記述しておく。	1時間
第8回 制作のためのサンプル作成とスケジュール 見通しをつけるためのサンプルを作成し、今後のスケジュールを作る。	計画が立っていない場合は、一連の作業を繰り返し、自身の課題をまとめる。	1時間
第9回 作品制作の案出と計画 自身の興味や関心とともに、収集した資料を反映させながら計画を立てる。	自分が決定したテーマを形にする為の準備をする。	1時間
第10回 作品制作の実践 それぞれの計画をもとに実践にとりかかる。	実践に取り掛かった上で、今後の計画を調整する。	1時間
第11回 作品制作の実践と推敲 1 実践を振り返り、推敲する。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第12回 作品制作の実践と推敲 2 推敲を繰り返し、作品の完成度を上げる。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第13回 作品制作の実践と推敲 3 推敲を繰り返し、作品を完成させる。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第14回 作品制作の完成と鑑賞 課題作品の発表と鑑賞を通して、それぞれの価値観に気づく。	自身が気付いた価値観をノートにまとめる。	1時間
第15回 作品制作の模索	前の作品を振り返り、自身の興味や関心をひく作品を調べる	1時間

	1点目の作品の発表を踏まえて、2点目の制作のテーマを考える。		
第16回	作品制作の模索 2 制作のテーマに関する資料や論文、作品の写真などを収集する。	さまざまな視点から複数の資料を集める。	1時間
第17回	関連資料の調査 制作のテーマに関する資料や論文、作品の写真などを調べる。	日常の中にも作品テーマに関係するものがないか調べる。	1時間
第18回	収集した資料をまとめる 比較、類比、あるいは対比を行ない収集した資料を分類しまとめる。	自身に必要な資料や情報についてしっかりと記述しておく。	1時間
第19回	作品制作の決定 主体的にテーマを決定し、テーマの内容と分類した資料について発表する。	計画が立っていない場合は、一連の作業を繰り返し、自身の課題をまとめる。	1時間
第20回	作品制作の案出と計画 自身の興味や関心とともに、収集した資料を反映させながら計画を立てる。	自分が決定したテーマを形にする為の準備をする。	1時間
第21回	作品制作の実践 計画を元実践にとりかかる。	実践に取り掛かった上で、今後の計画を調整する。	1時間
第22回	作品制作の実践と推敲 1 実践を振り返り、推敲する。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第23回	作品制作の実践と推敲 2 推敲を繰り返し、作品の完成度を上げる。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第24回	作品制作の実践と推敲 3 推敲を繰り返し、作品を完成させる。	授業外学習時間にも制作を進める。過程をノートにまとめる。	1時間
第25回	作品制作の鑑賞（中間） 課題作品の発表と鑑賞を通して、それぞれの価値観に気づく。また、自身の作品の課題を記述し、改善につなげる。	自身が気付いた価値観をノートにまとめる。	1時間
第26回	ポートフォリオの作成 ポートフォリオの意義を理解する。 これまでの先行研究、発表、制作を通して1500字以上の小論文を書く。	これまでの作品制作に関わる資料や写真などを収集する。	1時間
第27回	ポートフォリオの作成 2：振り返り これまでの内容を振り返り、内容をプレゼンソフトにまとめる。 また、小論文の校正を行う。	収集した資料や写真を文章にまとめる	1時間
第28回	ポートフォリオの作成 3：推敲とまとめ まとめたものを推敲し、完成させる。	まとめたものを、見やすく伝わりやすいものにする。	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	白瀬 浩司				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	私立中学校・高等学校で教諭としての勤務経験があるほか、20年以上にわたり、保育者・教育者の養成に携わってきた。また、絵本専門士として講演や研修の講師を務めている。(全14回)				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（実践レポートや論文の執筆、発表等）に取り組みます。具体的な事例として子どもが言葉を獲得していく「足がかり」のひとつである絵本と、絵本を用いた活動に焦点をあてながら、主に領域「言葉」の内容をテーマとして選びます。

まずは、絵本の読み聞かせの技法について整理し、日本式のやり方とアメリカ式のやり方を比較しつつ、保育現場での実践に活かせるよう、より良い在り方について捉え返しをおこない、個々の技術向上に役立てます。絵本の読み取り方について認識を深めながら、子どもと同じように絵画情報を読み取れることをめざし、さらには、個別絵本やシリーズ絵本、テーマ絵本などの作品分析（研究）へと進んでいくことになります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

領域「言葉」における絵本読み聞かせに必要な知識と素材に対する事前理解の方法を身につける。

目標：

保育分野の専門知識・技能について理解することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

領域「言葉」における絵本読み聞かせに必要な実際の運用力を身につける。

保育分野の専門知識・技能を実践の現場で発揮することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP7. 完遂

これまでの学びを活かしつつ、探求に値する課題を見つけることができる。

課題解決のために必要な具体的計画・方略を組み立てることができる。

計画・方略に従い、資料・事例収集や実践例を作るために動くことができる。

計画・方略に従い、課題解決のための取り組みを最後までやり遂げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。原則3分の2以上出席した場合のみ、評価の対象とします。規定回数以上の出席がなければ、無評価となります。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

受講姿勢（ワークシート）

： 授業での取り組み状況を毎時のワークシートへの記述で確認する。

30 %

プレゼンテーション

： 卒業論文の中間報告と最終報告を実施。評価基準については、実施の際に明示する。

10 %

卒論草稿

： 卒論の完成に向け、研究を滞りなく進めることができているかどうか。提出期限までに当該章の草稿を提出する。

30 %

卒論完成稿

： 完成した卒業論文が体裁・内容をはじめ、草稿段階での指導をすべてクリアし、整えられているか。

30 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

- 【参考文献】
 - 白瀬浩司『物語のすがた―初等国語教育・絵本と童話の教材分析―』（太陽書房）【ISBN978-4864202473】
 - 今野雅方『考える力をつける論文教室』（ちくまプリマー新書）【ISBN 978-4-480-68861-3】
 - 東郷雄二『新版 文化系必修研究生活術』（ちくま学芸文庫）【ISBN 978-4-480-09205-2】
- その他の関連文献や資料については、適宜、講義時に紹介・配付する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本講座は、前期1単位、後期1単位、さらに論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目となっています。授業時は討議や報告に積極的に参加すること。また、授業外学修が各回平均1時間、それ以外に報告資料作成や論文執筆に取り組む時間を90時間ほど求められます。卒業論文完成に向け、資料や文献の収集、調査、原稿執筆に意欲的に取り組むこと。他の科目同様、実習や就活とも重なる期間がありますが、将来の保育・幼児教育現場での実践に繋がるテーマを設定し、保育者としての知的な強みのひとつを得るためにも、着実にやり遂げてほしいと私は思っています。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜4限

場所： 西館5階（図書館横）57研究室

備考・注意事項： その他連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：shirase@g.osaka-seikei.ac.jp）。なお、Eメールには氏名と学籍番号を必ず入れること。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	専門演習と卒業論文について 本講座の概要（プログラム、作業、テーマ設定・情報収集・論文執筆、評価）を理解する。 前期は、事例として「絵本読み聞かせの技法」について、情報収集・比較検討、統合の作業に取り組む。また、先輩たちの過去の研究テーマを参照しつつ、自身の研究テーマについて複数の候補を挙げてみる。	4時間
第2回	絵本読み聞かせの技法①—文献調査【グループ作業】— まずは、絵本読み聞かせの技法に関する一般的な知識を整理する。それを踏まえた上で、『保育内容・言葉』テキストの絵本読み聞かせの技法に関する記述を可能なかぎり収集する。	4時間
第3回	絵本読み聞かせの技法②—情報比較・統合【グループ作業】— 収集した資料を比較しながら、共通点と相違点を整理して報告を行う。また、読み聞かせの表現（読み方）をめぐる2つの立場について、それぞれの根拠を比較しつつ検討する。	4時間
第4回	絵本読み聞かせの技法③—アメリカ式に関する調査【グループ作業】— アメリカでの絵本読み聞かせにはどのような目的・意図があり、どのような形で実施されるのか、さらに、実際の効果や問題点について整理する。	4時間
第5回	絵本読み聞かせの技法④—日本式とアメリカ式の比較と検証【グループ作業】— 収集した資料を比較しながら、共通点と相違点を整理して報告を行う。また、日本の保育現場でそれぞれをどのような形で運用することが可能かという点について検討・考察する。	4時間
第6回	絵本の基礎知識、絵画情報の読解について 絵本の定義、構造・装丁、役割などについて確認する。大人になると、本から受けとるのは文字情報が専らとなるが、絵本の場合、作品世界の物語を捉える上で絵画情報が重要な場合が多々ある。絵本の読み聞かせを視聴する子どもたちと同様、絵画情報にも着目できるようにする。	4時間
第7回	文字情報と絵画情報から読み解く①—シリーズ絵本『いいからいいから』— シリーズ絵本『いいからいいから』（全5冊）に共通する絵本の構成や物語構造、人物形象などについて理解するとともに、文字情報と絵画情報双方に着目しつつ作品世界を読み解く演習を行う。	4時間
第8回	文字情報と絵画情報から読み解く②—絵本『としょかんライオン』『わすれられないおくりもの』— 授業内容を振り返る。個別絵本の作品論を研究テーマとする者は分析のポイントを参考にする。	4時間

	絵本の表紙・裏表紙あるいは見返しに描かれた絵画情報に注目しつつ、作品の物語世界との照応について理解する。後者の絵本は小学校の国語教材となっていて、文字情報だけで或る登場者が焦点化されて読解の課題とされている。ところが、同じページに描かれた絵画情報を押さえると、その場面をより深く読み解けることを確認する。		
第9回	文字情報と絵画情報から読み解く③—絵本『ハムとケロのおかいもの』『どろんこハリー』— 両作品とも子どもたちが絵画情報への気づきを楽しめる絵本であり、子どもたちが着目した絵画情報について押さえる。さらに後者の絵本では、絵画情報を読み解くと、その絵本が出版された当代の文化状況が反映されていることを確認できる。	授業内容を振り返る。絵本が描かれた時代的文化的背景を研究テーマとする者は分析のポイントを参考にする。	4時間
第10回	研究テーマの絞り込み 卒業論文の研究テーマを絞り込み、担当者とともに検討のうえ確定する。続けて、テーマおよび研究動機の口頭報告を行い、クラス全体で個々が設定したテーマについて共有する。	テーマが確定できなかった者は、次時までにテーマを検討しなおす。	4時間
第11回	研究倫理と先行研究の検索 研究倫理について学んだうえで、各自の研究テーマに関連する先行研究の検索・収集に取り組む。本時に先行研究の検索の仕方や研究論文検索のサイトについて知るとともに、引用の仕方について確認する。	先行研究の収集は、卒論の執筆開始まで継続する。	4時間
第12回	研究計画書をまとめる①—テーマ・設定理由・問題点・研究計画と方法— 卒業研究計画書の〈テーマ・テーマ設定の理由・問い・研究計画と方法〉を整理して書く。	卒業研究計画書の当該項目が未完成の者は、次時までに仕上げる。	4時間
第13回	研究計画書をまとめる②—研究成果の予測（見通し）— 卒業研究計画書の〈予想される結果とその意義〉について整理して書く。	卒業研究計画書の当該項目が未完成の者は、次時までに仕上げる。	4時間
第14回	研究計画報告（夏期休暇中の作業予定も含む） テーマ・全体の研究計画と夏期休暇中の作業予定・研究成果の予測について口頭報告を行い、クラス全体で個々が設定したテーマ・研究計画について共有する。	報告した研究計画に従い、夏期休暇中の作業を進める。	4時間
第15回	読み聞かせ技能養成プログラム作成①—体験や実践の捉え返し【グループ作業】— 後期は、事例としての「読み聞かせ技能養成プログラム作成」で、現状理解・情報収集・実践による検証を経て、保育者（あるいは保護者）が無理なく取り組める技能修得プログラムを作りあげる。また、夏期休暇中の作業進捗を踏まえ、卒論執筆のための準備を同時並行で進めていく。	卒論執筆に向けて、先行研究や資料収集をさらに進める。	4時間
第16回	読み聞かせ技能養成プログラム作成②—習熟に向けた階梯の設定【グループ作業】— 読み聞かせ関連の書籍の記述を踏まえ、具体的な練習方法、読み聞かせのレベル設定、ステップアップ段階に即した絵本作品の選定を行う。	習熟に向けた階梯設定が終わらなかったグループは次時までに完成させる。	4時間
第17回	読み聞かせ技能養成プログラム作成③—解説付きプログラムの完成【グループ作業】— 各グループの報告を聴く。自分のグループでも使いたいアイデアがあれば取り入れ、解説付きプログラム（パンフレット形式）を完成させる。	完成したパンフレットを印刷し、次時の配布に備える。	4時間
第18回	卒論）先行研究の整理、第1章「はじめに」執筆 研究倫理および先行研究の引用の仕方などを確認した上で、各自収集した先行研究や資料の整理を進めつつ、第1章「はじめに」の草稿執筆に取り組む。	第1章の草稿を期日までに執筆し、提出する。	4時間
第19回	卒論）第2章「先行研究と課題」執筆 提出された第1章草稿の内容について個別にアドバイスをを行う。ただし、第1章については卒論全篇が完成した後、改めて改稿（加筆・修正）することになる。個別アドバイスと並行して、第2章の草稿執筆に取り組む。	第2章の草稿を期日までに執筆し、提出する。	4時間
第20回	卒論）第3章執筆 提出された第2章草稿の内容について個別にアドバイスをを行う。個別アドバイスと並行して、第3章の草稿執筆に取り組む。第2章の草稿執筆が遅れている者は、引き続き第2章の草稿を書き進める。	第3章の草稿を期日までに執筆し、提出する。	4時間
第21回	卒論）第4章執筆 提出された第3章草稿の内容について個別にアドバイスをを行う。個別アドバイスと並行して、第4章の草稿執筆に取り組む。第3章の草稿執筆が遅れている者は、引き続き第3章の草稿を書き進める。	第4章の草稿を期日までに執筆し、提出する。学籍前半メンバーは中間報告用の資料を作成する。	4時間
第22回	卒業論文中間報告（学籍前半メンバー）	学籍前半メンバーは各自の論文の加筆修正に取り組む。学籍後半メンバーは中間報告用の資料を作成する。	4時間

	研究テーマ、研究目的とその研究方法、先行研究を踏まえた各自の研究の進捗状況について報告を行う。互いの研究テーマを知るとともに、報告内容に関する質疑応答、感想・意見共有を図り、各自の研究の不十分点や草稿の不明瞭な点に気づき、執筆作業に活かす。報告を聴く側は評価票と一言メモを記入する。		
第23回	卒業論文中間報告（学籍後半メンバー） 研究テーマ、研究目的とその研究方法、先行研究を踏まえた各自の研究の進捗状況について報告を行う。互いの研究テーマを知るとともに、報告内容に関する質疑応答、感想・意見共有を図り、各自の研究の不十分点や草稿の不明瞭な点に気づき、執筆作業に活かす。報告を聴く側は評価票と一言メモを記入する。	学籍後半メンバーは各自の論文の加筆修正に取り組む。学籍前半メンバーも同様。	4時間
第24回	卒論）第2章～第4章の加筆修正 第2章～第4章（本論部分）の加筆修正作業を進める。作業と並行して、仕上がった加筆修正稿に対する個別指導を行う。	第2章～第4章の加筆修正稿を期日までに執筆し、提出する。	4時間
第25回	卒論）第5章「おわりに」執筆 第5章「おわりに」の草稿執筆に取り組む。草稿執筆と並行して、第2章～第4章の加筆修正稿に対する個別指導を行う。	第5章の草稿を期日までに執筆し、提出する。	4時間
第26回	卒論）第2章～第4章の加筆修正、第1章・第5章の改稿、要約執筆 提出された第5章草稿の内容、および第1章草稿の加筆修正について個別にアドバイスを行う。これと並行して、各自で卒論の加筆修正の執筆作業を進めていく。（全篇の加筆修正を終えたら、後日、最終アドバイスを個別にPDFで送付するので、各自で清書執筆作業に入る。）	清書執筆作業を進めながら、学籍後半メンバーは最終報告用の資料を作成する。	4時間
第27回	卒業論文最終報告（学籍後半メンバー） 各自の研究成果を報告する。報告内容に関する質疑応答、感想・意見共有を図り、卒業後の現場実践における各自の課題を明らかにする。報告を聴く側は評価票と一言メモを記入する。	清書執筆作業を進めながら、学籍前半メンバーは最終報告用の資料を作成する。	4時間
第28回	卒業論文最終報告（学籍前半メンバー） 各自の研究成果を報告する。報告内容に関する質疑応答、感想・意見共有を図り、卒業後の現場実践における各自の課題を明らかにする。報告を聴く側は評価票と一言メモを記入する。	清書執筆作業を期日までに終え、指定された体裁で提出する。	4時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	範 衍麗				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定した研究テーマにもとづいて、卒業研究（論文・発表等）を行います。主に安全教育・安全指導、運動遊び、表現遊び、感染症に関する論文を収集し、整理します。研究倫理や研究方法（文献研究・調査研究・観察研究）を学びます。また、文献検索、資料収集、アンケート調査などを行い、卒業研究成果物（論文・レポート）を作成します。そして、パワーポイントを作成し、卒業論文のプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

具体的内容：

保育分野の専門知識ならびに技能を身につける。運動遊び、安全教育、生活習慣の確立に関する知識を身につける。
運動遊び、安全教育・安全管理、基本的生活習慣の指導法を身に付ける。論文を作成する。

目標：

保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。運動遊び、安全教育、基本的生活習慣の知識を身に付けることができる。
保育者として必要とされる指導力を高めることができる。表現遊び、安全教育、生活習慣の指導法を考え、卒業論文を作成することができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP5. 計画・立案力
3. DP6. 行動・実践
4. DP9. 役割理解・連携行動

先行研究を行い、研究課題を決めることができる。
研究計画の立て方を理解し、グループで研究計画書を作成することができる。
資料収集、研究計画の立案、研究発表を行う際に、主体的に行動することができる。
グループで協力しながら授業に取り組み、他者との連携を取りながら自分の役割を遂行することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業への取り組み状況

評価の基準

： 学び姿勢や課題への取り組み方などを総合的に評価します。

30 %

授業内発表

： 中間発表10点満点とする。独自のルーブリックに基づき評価します。

10 %

卒業論文

： 完成した卒業論文、制作の作品、制作レポートについて、独自のルーブリック（授業で配布）を用いて評価します。

50 %

定期試験（口述試験）

： 卒業論文、制作の内容について口述試験を行い、独自のルーブリックを用いて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜配付

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回4時間必要となります。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、次回の授業に向けて準備を整えてください。20分で遅刻として、3回目の遅刻で1回の欠席とします。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：月曜日の昼（12：20-13：00）

場所：中央館4階第8研究室

備考・注意事項：質問は授業の前後やメールでも対応する。
アドレス：fan@g.osaka-seikei.ac.jp
メールには学籍番号と氏名を必ず入れること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、卒業論文とは シラバスを確認し、授業の進め方を理解します。 卒業論文を作成する意義と目的を理解します。 卒業生の卒業論文を読んで、自分の研究テーマを考えます。	卒業生の論文を読んで、研究したいこと及び研究したい理由を書きます。	1時間
第2回	研究方法1文献研究 文献研究の意味を理解し、文献研究の方法を学びます。 研究テーマに関わる文献を収集します。 収集した文献を読んで、先行研究の背景を理解する。	研究したことに関係した文献を調べ、研究テーマを考えます。	1時間
第3回	研究方法2事例研究 観察法の目的を理解し、観察の方法を学びます。 記録の取り方、整理の仕方を身につけます。	研究したいことに関係した文献を調べ、研究テーマを考えます。	1時間
第4回	研究方法3調査研究 アンケート調査の目的を明確し、アンケートの作成について学びます。 アンケート調査の調査方法を決めます。	研究したいことに関係する文献を調べ、卒業研究で明らかにしたいことを考えます。	1時間
第5回	研究倫理教育 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイド」に基づき、「研究倫理教育」を学びます。 引用参考文献の表記について学びます。	研究テーマに関係する文献を調べ、引用を明記します。	1時間
第6回	研究テーマの設定 調べた資料のレジュメを作成します。 「卒業研究ガイドライン」に基づいて、卒業研究に求められることについて考えます。 研究テーマ設定の理由を発表します。	発表用レジュメを作成します。	1時間
第7回	研究テーマについての問題抽出 先行研究などから、問題を抽出します。 調べた文献のレジュメを作成し、発表します。	発表用レジュメを作成します。	1時間
第8回	研究目的の明確化 研究の背景について考えます。 先行研究の文献資料をもとに研究目的を明確します。	研究目的を推敲します。	1時間
第9回	研究方法の具現化 研究テーマにあった具体的な研究方法を決めます。 研究方法の書き方を学びます。	研究方法を書き上げます。	1時間
第10回	卒業論文の作成1研究目的 卒業論文の研究目的を書き上げます。 先行研究を踏まえ、予想される結果とその意義の作成に取り組みます。	研究目的を書き上げます。	1時間
第11回	卒業論文の作成2研究方法 卒業論文の研究方法を検討し、確定します。 論文の構成を理解し、論文の章立てについて考えます。	調査アンケートを作成します。	1時間
第12回	卒業研究計画書の作成 研究目的と研究方法を推敲します。 論文作成に至るまでの計画を立案します。	卒業研究計画書を作成します。	1時間
第13回	卒業研究計画書の完成 卒業研究計画を発表し合い、意見交換を行います。 卒業研究計画書を修正し、完成をします。	卒業研究計画書を完成します。	1時間

第14回	発表資料の作成、テーマ、目的、方法についての発表 研究テーマ、目的、方法についての発表をします。 発表者以外は発表を聞き、質問やアドバイスをします。 夏休みの取り組みについての発表をします。	研究計画に基づいた活動を行います。	1時間
第15回	後期オリエンテーション、研究活動の報告 後期授業の目標と計画を確認します。 夏休みの研究活動報告を行います。	研究テーマにふさわしい研究方法を工夫します。	1時間
第16回	卒業論文の作成3 研究結果 研究結果を節に分けて、書き上げます。	先行研究を調べます。	1時間
第17回	卒業論文の作成4 データの入力と分析 データの入力と分析方法を学びます。 研究結果を書き上げます。	研究テーマに関する先行研究を収集します。	1時間
第18回	自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察します。	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していけるかについて検討し、まとめます。	1時間
第19回	卒業論文の作成と指導1 図と表の作り方 図と表の作り方を学びます。 卒業論文の「結果」の部分を検討し、推敲を行います。	結果の部分を書き上げます。	1時間
第20回	卒業論文の作成と指導2 結果 卒業論文の「結果」の部分を検討し、推敲を行います。	結果の部分を検討し、書式を整えます。	1時間
第21回	卒業論文の作成と指導3 結果の推敲 卒業論文の「結果」の部分を検討し、推敲を行います。 自分の参考文献リストを作成します。	結果の部分を検討し、書式を整えます。	1時間
第22回	発表資料の作成、テーマ、目的、方法、結果についての発表 中間発表を行います。 他者の発表を聞き、質問やアドバイスをします。	発表会での意見をもとに、検討します。	1時間
第23回	卒業論文の作成と指導4 考察 研究結果を発表し、指導助言を受けて修正します。 卒業論文の「考察」の部分を書き上げます。	考察の部分を検討し、書式を整えます。	1時間
第24回	卒業論文の作成と指導5 考察の推敲 研究結果を発表し、指導助言を受けて修正します。 卒業論文の「考察」の部分を検討し、推敲を行います。	考察の部分を書き上げ、書式を整えます。	1時間
第25回	卒業論文の作成と指導6 引用文献 研究結果を発表し、指導助言を受けて修正します。 卒業論文の「引用参考文献」の表記を確認し、修正します。	引用参考文献を確認し、書式を整えます。	1時間
第26回	卒業研究題目届の作成 卒業研究題目届を作成します。 研究結果と考察の推敲を行います。	論文を読み、文章を推敲します。	1時間
第27回	要約の作成と卒業論文の発表 卒業論文の要約を作成します。 卒業論文を発表します。 発表者の発表を聞き、積極的に質問します。	卒業論文の要約を推敲します。	1時間
第28回	卒業論文発表 卒業論文を発表します。 発表者の発表を聞き、積極的に質問します。 引用文献を引用した順に整理し、提出します。 アンケートの原本と分析した資料を整理し、提出します。	チェックリストに基づいて論文の最終チェックをし、提出します。	1時間
第29回			時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	榎原 志保				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立高等学校で英語科教諭として勤務した経験あり（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定したテーマに基づいて卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。保育・教育をめぐる思想・歴史、社会的・制度的問題など、さまざまなテーマの中から自分が興味・関心のあるテーマを選択し、研究に取り組み、最終的に卒業研究作品として仕上げます。研究論文や卒業研究作品の制作を通して、教育・保育・福祉の現場で、子どもの成長・発達や保護者による子育て、社会による子育てに専門職としてかかわっていくに当たって必要な専門的知識・技能、職業理解、課題発見力、意思疎通力、課題完遂力を養います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解
2. DP1. 幅広い教養やスキル

具体的内容：

- 保育分野の専門的知識並びに技能
- 保育分野に関連する幅広い教養

目標：

- 保育に関連する専門知識並びに技能を身につけ、理解することができる。
- 保育分野に関連する幅広い教養を身につけ、職業理解を深めることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見
2. DP7. 完遂
3. DP8. 意思疎通

- 学科での学びを踏まえ、主体的に取り組める有意義な研究課題を発見することができる。
- 与えられた課題、自ら設定した課題に取り組み、指定された形式に沿った卒業研究作品を完成させ、発表することができる。
- 他者としっかりコミュニケーションを取りながら研究を進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・問答法・コメントを求める
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・eラーニング、反転授業
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

研究過程の評価

40 %

試験（卒業論文または卒業作品・レポート提出）

50 %

研究発表に対する評価

10 %

評価の基準

： 研究過程をととして作成したポートフォリオを、独自のルーブリックに基づいて評価する。

： 卒業論文または卒業作品・レポートを、独自のルーブリックに基づいて評価する。

： 専門性、実践力（技能）、協働性、忠恕の観点から成る独自のルーブリックに基づいて総合的に評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

一般社団法人日本保育学会 倫理綱領ガイドブック編集委員会編『改訂 保育学研究倫理ガイドブック』（フレーベル館、2012年）
石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012年）
乙訓 稔『西洋近代幼児教育思想史—コメニウスからフレーベル—』（東信堂、2010年）
乙訓 稔『西洋近代幼児教育思想史—デューイからコルチャック—』（東信堂、2009年）
岡本富郎『保育の思想を学ぼう ―今、子どもの幸せのために―』（明文書林、2014年）
泉 千勢編著『なぜ 世界の幼児教育・保育を学ぶのか』（ミネルヴァ書房、2017年）
矢野智司『大人が子どもにおくりとどける40の物語—自己形成のためのレッスン』（ミネルヴァ書房、2014年）
種村エイ子『いのち 幼児がじっと聞き入る絵本リスト5 5+8 5』（明治図書、2007年）

その他、各回授業の中で適宜紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間、それぞれ求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜日2限（10：40～12：20）
場所： 教育第4研究室
備考・注意事項： オフィスアワー：火曜日2限（10：40～12：20）
質問等連絡をとりたい場合は、Eメールで（アドレスは授業のなかでお伝えします）。
Eメールの件名には、必ず学籍番号と氏名を入れてください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：卒業研究の意義について 『短期大学 卒業研究ガイドライン』に基づいて、本演習の目標と1年間を通じての計画を確認し、卒業研究に取り組む意義を理解します。 卒業生の卒業研究を事例としてグループ学習を行い、本演習でめざす卒業研究の成果について考察し、発表し合います。 本時の学修をとおして、「専門演習」をとおしての学びについて、具体的なイメージと自分なりの目標をもつことをめざします。	卒業生の卒業研究で興味関心のあるものを2編以上読んで、勉強になった点を300字から400字程度で書いてください。	1時間
第2回	卒業研究とは何か①本演習でめざす卒業研究とその流れについて 授業外学習課題として書いてきた卒業生の卒業研究からの学びを発表し合い、本演習をとおしての学びについて、具体的なイメージを表現できるようにします。 卒業研究を進めていく流れについて、いくつかのタイプの事例に基づいて理解します。	保育学生の卒業研究にはどのようなものがあるのかを調べ、発表できるようにしておいてください。	1時間
第3回	卒業研究とは何か②問いを立てることの重要性について 授業外学習課題として調べてきた保育学生の卒業研究について発表し合い、卒業研究のテーマや問い、構成について、幅広い事例を踏まえて理解します。 「問い」が卒業研究の核として重要であることを理解し、その立て方について学びます。	授業や実習をとおしてのこれまでの学びを振り返り、自分がめざす卒業研究の形とテーマ、「問い」について考え、記述してきてください。	1時間
第4回	適切な「問い」を立てるために①調べる 授業外学習課題として記述してきた各自の卒業研究の形、テーマと「問い」を発表し合い、意見交換をとおして、「問い」を深めます。 卒業研究テーマにかかわる文献資料、先行研究の調べ方について学び、実際に調べてみます。 各自のテーマや「問い」にかかわる文献資料、先行研究を調べ、「問い」を練ります。	練り直した「問い」を記述してきてください。文献資料、先行研究を2編以上調べて文献カードに書いてください。	1時間
第5回	「研究倫理」を学ぶ 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、「研究倫理」について学びます。 具体的な事例に照らしながら、「研究倫理」に基づくルールを学び、論文・レポート、制作に取り組むなかで注意すべき点に関する理解を深めます。	専門演習の取り組みのなかで「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめてください。	1時間
第6回	適切な「問い」を立てるために②適切な資料を見つける 様々な資料情報には質の違いがあることを学んで理解し、研究に役立つ適切な資料収集ができるようになることをめざします。	文献資料、先行研究を2編以上調べて文献カードに書いてください。	1時間
第7回	適切な「問い」を立てるために③研究方法について理解する	自分の研究テーマや「問い」にふさわしく、取り組みが可能な研究方法を考え、記述していただきます。	1時間

	研究方法にはどのようなタイプの別があるのかを学んで理解し、各自のテーマや「問い」を追究するのに適した方法を考えます。量的調査と質的調査の違いを知って、自分の研究テーマや「問い」にとって適切な調査方法を考え、自分の研究テーマや「問い」にふさわしく、取り組みが可能な研究方法を選択することに取り組みます。		
第8回	卒業研究計画書の作成①テーマ設定の理由と「問い」を書く これまでの作業と考察を踏まえ、卒業研究計画書におけるテーマ設定の理由と「問い」の作成に取り組みます。（個別作業・個別指導）	卒業研究計画書の「テーマ」、「テーマ設定の理由」と「問い」を書きあげて完成させてください。	1時間
第9回	卒業研究計画書の作成②「研究計画と方法」を書く 卒業研究計画書の「テーマ」、「テーマ設定の理由」と「問い」を提出し、指導助言を受けて修正します。これまでの作業と考察を踏まえ、卒業研究計画書における「研究計画と方法」の作成に取り組みます。（個別作業・個別指導）卒業研究発表会のグループ分けを行います。	卒業研究計画書の「研究計画と方法」を書きあげて完成させてください。	1時間
第10回	卒業研究計画書の作成③「予想される結果とその意義」を書く 卒業研究計画書の「研究計画と方法」を提出し、指導助言を受けて修正します。これまでの作業と考察を踏まえ、卒業研究計画書における「予想される結果とその意義」の作成に取り組みます。（個別作業・個別指導）卒業研究計画発表会に向けての準備を行います。	卒業研究計画書の「予想される結果とその意義」を書きあげて完成させてください。	1時間
第11回	卒業研究計画の発表とピア評価①1グループ目 卒業研究計画を発表し合い、意見交換を行います。	他者の発表や意見を踏まえて、自分の卒業研究計画を練り直し、書き直してください。	1時間
第12回	卒業研究計画の発表とピア評価②2グループ目 卒業研究計画を発表し合い、意見交換を行います。	他者の発表や意見を踏まえて、自分の卒業研究計画を練り直し、書き直してください。	1時間
第13回	卒業研究計画の発表とピア評価③3グループ目 卒業研究計画を発表し合い、意見交換を行います。	他者の発表や意見を踏まえて、卒業研究計画を練り直し、書き直してください。卒業研究作成に向けての準備をする。	1時間
第14回	前期のまとめ 前期演習の総括を行い、後期演習への課題を確認します。	前期の取り組みを振り返り、学びをまとめます。他者からのコメントや指導助言を踏まえて、「卒業研究計画書」を練り直し、完成させて提出します。	1時間
第15回	後期オリエンテーション：卒業論文・作品の制作に向けて 前期演習での学びにつづく後期演習の目標と計画を確認します。卒業研究作成に向けての基本的説明を改めて行い、研究倫理上のルールについても確認します。前期授業で完成させた「研究計画書」に基づき、論文ないし制作レポートの第1章の作成に取り組みます。	論文ないし制作レポートの第1章を書きあげてください。	1時間
第16回	卒業論文・作品の制作①研究の目的と方法、参考文献を書く 論文ないし制作レポートの第1章を提出し、指導助言を受けて修正します。前期に調査・収集した参考文献・資料一覧の作成に取り組みます。（個別作業・個別指導）	論文ないし制作レポートの第1章と参考文献・資料一覧を完成させます。	1時間
第17回	卒業論文・作品の制作②先行研究の状況についてまとめる 論文ないし制作レポートの第1章ならびに参考文献・資料一覧を提出し、確認と指導助言を受けて修正します。参考文献・資料の調査状況に基づき、先行研究状況としてまとめることに取り組みます。（個別作業・個別指導）	先行研究の状況を説明する文章を完成させてください。	1時間
第18回	自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等について、アセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察します。	専門演習の取り組みの中で、自己の課題をどのように改善していけるかについて検討してまとめます。	1時間
第19回	卒業論文・作品の制作③先行研究の内容についてまとめる 先行研究状況をまとめた文章を提出し、指導助言を受けて修正します。各自の卒業研究の基礎となる先行研究の内容についてまとめることに取り組みます。（個別作業・個別指導）	先行研究の内容を説明する文章を完成させてください。	1時間
第20回	卒業論文・作品の制作④1次資料の内容をまとめる	テーマにかかわる1次資料の内容を文章としてまとめてください。	1時間

	先行研究の内容をまとめた文章を提出し、指導助言を受けて修正します。 卒業研究テーマにかかわる1次資料の内容をまとめます。 (個別作業・個別指導)		
第21回	卒業論文・作品の制作⑤1次資料の内容に基づいた考察を行う 卒業研究テーマにかかわる1次資料の内容まとめを提出し、指導助言を受けて修正します。 1次資料の内容まとめを継続するとともに、考察に取り組みます。(個別作業・個別指導)	テーマにかかわる1次資料の内容に基づいた考察を文章としてまとめてください。	1時間
第22回	卒業論文・作品の制作⑥1次資料の内容に基づいた考察をまとめる テーマにかかわる1次資料の内容に基づいた考察文を提出し、指導助言を受けて修正します。 1次資料の内容に基づいた考察の仕上げに取り組みます。	1次資料の内容に基づいた考察文を完成させてください。	1時間
第23回	卒業論文・作品の制作⑦1次資料の内容に基づいた考察を仕上げる 1次資料の内容に基づいた考察文を提出し、指導助言を受けて仕上げます。(個別作業・個別指導) 「卒業論文題目届」を作成して提出します。	卒業論文、作品とレポートを完成させてください。	1時間
第24回	卒業研究発表準備 卒業研究作品の最終的な仕上げと点検ならびにパワーポイント作成など、卒業研究発表会に向けた準備を行います。 (個別作業・個別指導)	発表に向けての準備を完成させてください。	1時間
第25回	卒業研究発表会①1グループ目 各自の卒業研究発表を行い、コメントを交換します。 研究成果に対する自己評価と他者評価を行います。	自他の発表に対するピア評価をまとめてください。	1時間
第26回	卒業研究発表会②2グループ目 各自の卒業研究発表を行い、コメントを交換します。 研究成果に対する自己評価と他者評価を行います。	自他の発表に対するピア評価をまとめてください。	1時間
第27回	卒業研究発表会③3グループ目 各自の卒業研究発表を行い、コメントを交換します。 研究成果に対する自己評価と他者評価を行います。	自他の発表に対するピア評価をまとめてください。	1時間
第28回	まとめ：1年間の学びのまとめ 1年間をとおしての演習での学びを振り返り、自己の学びを総括し、ゼミ全員でその成果を共有します。	学びの振り返りを行い、ポートフォリオを仕上げて提出してください。	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	塩田 桃子				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定したテーマにもとづいて、卒業研究（論文・制作・発表等）を行います。特に、保育・幼児教育における現場で運動あそびや民俗舞踊の実践をするために役立つ研究として、幼児期における運動あそびや身体表現の指導のあり方に関する研究を進めます。また幼児期の子どもになぜ運動が必要か、どのような運動が相応しいのか等、発達を踏まえた指導を考えます。また、運動あそびの意義や本質は何かを追求し、運動あそびを継承・発展・創造する力を育む指導方法を身につけます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育分野の専門的知識並びに技能

目標：

保育に関する専門的知識並びに技能を身につけて理解することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

運動あそび及び身体表現の指導に関する知識並びに技能

幼児期における運動あそびや身体表現の意義を理解し、実践する力を身につけることができる。

汎用的な力

1. DP4. 課題発見

幼児期における運動あそび・身体表現の指導の在り方について、自己課題を見つけることができる。

2. DP5. 計画・立案力

運動あそびの実践および身体表現の発表会に向けて計画を立てることができる。運動あそびの計画を立て、実践することができる。

3. DP6. 行動・実践

計画に基づいて、準備・練習・発表することができる。

4. DP7. 完遂

実践からの学びを振り返り、文章にまとめることができる。

5. DP9. 役割理解・連携行動

自身の役割を見つけ出し、積極的に行動し、他者と連携しながら進めていくことができる。

学外連携学修

有り（連携先：こみち幼稚園・こばと保育園）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合

授業の参加意欲・態度

評価の基準

：運動に相応しい服装を身につけ、つめを切る、アクセサリを外す等、安全面に配慮することができるかを総合的に評価します。積極性、仲間との協同性等の観点から独自のルーブリックに基づき評価します

授業内課題等	：	授業内での課題に対する取り組み等を独自のルーブリックに基づいて評価します。
20 %		
卒業研究（レポート）	：	卒業研究の成果・内容について独自のルーブリックに基づいて評価します。
30 %		
卒業研究（発表）	：	発表内容、発表に向けての取り組み姿勢、仲間との協同性等について独自のルーブリックに基づいて評価します。
30 %		

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

学校体育研究同志会編『新みんなが輝く体育④ 幼児期運動あそびの進め方』創文企画、2021年

履修上の注意・備考・メッセージ

子どもと運動に関わる文献や記事等を積極的に読むこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：	月曜日 12時30分～13時
場所：	第8研究室
備考・注意事項：	時間がかかる場合は、相談の上別の日時を決める。

授業計画

	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション：授業の進め方について・卒業研究とは何か 本授業の概要、進め方、評価等について理解する。 本授業の研究テーマである「幼児期の運動あそびおよび民俗舞踊の指導における研究」について、その意義を理解し、さらに、研究に対する研究倫理の問題、研究の進め方について主体的に考えていく。 卒業生の卒業研究を知り、自分の研究テーマを検討し、学びの流れをイメージする。	4時間
第2回	運動あそびの意義と価値 運動あそびの意義と価値について考える。	4時間
第3回	荒馬（民俗舞踊）①：荒馬とは何か 荒馬（民俗舞踊）とは何かについて、現地の荒馬および保育現場における教材化された荒馬から学ぶ。	4時間
第4回	荒馬（民俗舞踊）②：踊りを知る 荒馬（民俗舞踊）を踊り、振りや身体の使い方をを知る。	4時間
第5回	研究倫理教育 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施する。	4時間
第6回	荒馬（民俗舞踊）③：表現する楽しさを知る 荒馬を踊り込み、振りをすべて覚え、自分なりに表現する楽しさについて学ぶ。	4時間
第7回	荒馬（民俗舞踊）④：表現力を高める ペアで踊り、互いに振りを教え合うことを通して、踊りの質や表現する力を高める。	4時間
第8回	荒馬（民俗舞踊）⑤：リハーサル 発表に向けてのリハーサルを行い、発表準備をする。	4時間
第9回	荒馬（民俗舞踊）⑥：発表 これまでの学習成果を発表する。 ※こばと保育園での発表会を予定。	4時間
第10回	荒馬（民俗舞踊）の指導法①－荒馬で教える中身を問う 実際の子どもたちに民舞で何を教えることができるのかを考える。	4時間
第11回	荒馬（民俗舞踊）の指導法②－荒馬の指導法の検討 荒馬で教える中身を明確にしたうえで、どう教えるのかを考える。	4時間

第12回	荒馬（民俗舞踊）の指導法③：子どもへの直接指導に向けた準備 荒馬を実際に子どもたちに指導するための準備を行う。	子どもたちへの直接指導に向けて相談・準備をしておくこと。	4時間
第13回	荒馬（民俗舞踊）の指導法④：子どもへの直接指導体験 こばと保育園にて実際に指導体験を行う。	子どもへの直接指導体験から学んだことをレポートのまとめること。	4時間
第14回	前期のまとめ 子どもへの直接指導を踏まえたこれまでの学びをまとめ、今後の研究課題を構想する。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第15回	後期のオリエンテーション：前期の振り返りと今後の課題整理 前期を振り返り、後期に向けての準備を行う。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第16回	表現運動の指導①—現場における表現運動 表現運動の基礎・基本を知る。	幼児向けのさまざまなリズムダンスを調べておくこと。	4時間
第17回	表現運動の指導②—創作のための選曲 幼児向けのリズムダンスの曲を考える。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第18回	自己課題の発見 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けて課題を考察する。	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善しているかについて検討し、まとめる。	4時間
第19回	表現運動の指導③：創作方法 子どもへ表現運動の創作のプロセスおよび指導法について、これまでの学びからさらに深め、実践を通して理解する。選曲や創作方法について学ぶ。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第20回	表現運動の指導④：創作活動 子どもへ表現運動の創作のプロセスおよび指導法について、これまでの学びからさらに深め、実際にグループで創作活動を行い、創作方法を理解する。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第21回	表現運動の指導⑤：指導方法 実際に創作した作品を子どもにどのように指導するのかをグループで検討し、表現運動の指導方法について理解を深める。	授業を振り返りまとめる。	4時間
第22回	表現運動の指導⑥（模擬保育の発表）：1・2グループ 先生役と子ども役にわかれ、表現運動の指導について、模擬保育の発表により、理解を深める。	グループで模擬保育に向けた打ち合わせ・準備を行う。	4時間
第23回	表現運動の指導⑦（模擬保育の発表）：3・4グループ 先生役と子ども役にわかれ、表現運動の指導について、模擬保育の発表により、理解を深める。	グループで模擬保育に向けた打ち合わせ・準備を行う。	4時間
第24回	表現運動の指導⑧：実際の直接指導に向けて準備 子どもへの指導に向けた準備を行う。	グループで相談してリハーサルを行う。	4時間
第25回	表現運動の指導⑨：子どもへの直接指導 こみち幼稚園での指導体験を行う。	予想する子どもの姿をイメージして、指導のシミュレーションを行う。	4時間
第26回	研究テーマに基づいた卒業研究レポート①—指導の振り返り これまでの研究成果を卒業研究としてまとめる。全体の構成と、まとめの部分、参考文献の記載に漏れがないかチェックする。卒業研究の完成を目指す。様式のチェック、文章の構成、誤字脱字など、体裁を整える。出来上がった卒業研究の要約を作成する。	出来上がった原稿を読み直し、文章チェックをする。	4時間
第27回	研究テーマに基づいた卒業研究レポート②—指導の課題発見 卒業研究の取り組みを通して、自己の課題を明らかにする。	卒業研究を進める。執筆部分を見直し、構成が逸脱していないかをチェックしておく。	4時間
第28回	卒業研究のまとめ 一年間を振り返り、本授業での学びや、自身の変化や成長を確かめる。	本授業の1年を振り返る。	4時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	鈴木 大介				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では自分で設定したテーマにもとづいて卒業研究（論文・活動レポートの作成、発表等）を行います。具体的には、「文献研究・調査研究」をベースとした研究活動、もしくは「多様な社会貢献・地域貢献活動への参加」をベースとした研究活動を行います。福祉・保育・教育現場等の現場ではあらゆる子どもの生活や発達、そしてその子育て場面に向き合います。同時にそれらを支える地域や多様な主体とのつながり作りも重要となってきます。専門演習では地域子育て支援や地域づくり、社会的養護、社会貢献活動・地域貢献活動等のキーワードをもとに各自でテーマを設定します。そして、そのテーマについて実践的な理解や議論等を行い学びを深め、「卒業論文の作成」や「多様な社会貢献活動・地域貢献活動への参加に基づく活動レポート作成」などを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	保育分野の専門知識ならびに技能	保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。
2. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	児童家庭福祉分野の専門知識	自分の設定したテーマに関しての知識と理解を深め、考察を行い自分の意見を述べるができる。卒業レポートを完成させ、その内容を説明できる
汎用的な力		
1. DP4. 課題発見		テーマに沿って資料を集め、その内容を説明することができる
2. DP10. 忠恕の心		保育や子育て支援のフィールドを理解し、子どもや保護者への支援を情熱をもって行うことができる
3. DP8. 意思疎通		他人の意見を踏まえて、自分の意図や主張を伝えることができる。

学外連携学修

有り（連携先：現在調整中）

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・見学、フィールドワーク
- ・その他（以下に概要を記述）
 - 社会貢献活動・地域貢献活動への参加機会も有り

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。テーマに応じて適宜課外学習を行う。その際、交通費等の実費負担が生じることがある。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

卒業論文・活動レポート	：	自分の設定したテーマについて卒業論文の作成や、教員に認定された多様な社会貢献活動・地域貢献活動への参加に基づく活動レポートの作成を行う。課題発見、論理性、構成、独自の発想・視点、標記の観点から40点満点で評価する。
	40	%
卒業論文・活動論文への取り組み	：	フィールドワーク等の調査や文献収集などを実行し、自分の研究に取り組んでいるか。中間・最終研究発表をもとに自分の研究について独自の発想・テーマ、課題、論理性、構成の観点から20点満点で評価する。
	20	%
授業への取り組み状況	：	各回授業への積極的参加（発表や質問等は加点）や授業態度（受講マナーや私語、携帯電話等の授業の妨げになる場合は減点）を独自のルーブリックを基に総合的に評価する。

30 %

定期試験

：卒業論文・活動レポートの内容について確認課題を行い、10点満点で評価する。

10 %

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業時に紹介

履修上の注意・備考・メッセージ

- ・本科目は前期1単位、後期1単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて4単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間、それぞれ求められる。
- ・その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
- ・研究成果は「卒業論文の作成」「社会貢献・地域貢献活動の参加に基づく活動レポートの作成」のいずれかの形でまとめます。
- ・卒業論文作成のために文献やデータの収集、フィールドワークを含めた調査研究を意欲的に行い、授業外学修時間でその作成を行うこと。
- ・社会貢献活動・地域貢献活動については、その実施日程等から授業外学修時間での参加となる。その際、交通費等の実費負担が生じることがある。
- ・授業マナーを守り、発表や討議に積極的に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：木曜日2限目

場所：幼児教育学科第2研究室

備考・注意事項：連絡をとりたい場合はEメールで（アドレス：suzuki-d@osaka-seikei.ac.jp）、学年、クラス、学籍番号、氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、専門演習について 専門演習の進め方と評価の説明 研究についての概要 専門演習で自分が何を学んでいくかの確認をする	授業を振り返り、自分の研究テーマについて考える。	1時間
第2回	自己覚知 専門職として必要な「自己覚知」について考える 自分自身について、あらゆる角度から強みやウィークポイントをはじめ、あらゆる角度から自分自身について分析をおこない、それを可視化していく	振り返りシートの作成、自己覚知に関する分析シートを作成する。	1時間
第3回	ゼミ交流ワークの理論と実際 ラポールの形成 レクリエーションワークの効果について学ぶ	振り返りシートの作成、発表用レクリエーションワークを考える	1時間
第4回	社会貢献・地域貢献活動について／ゼミ交流ワークの活用と応用と自己の発見 社会貢献・地域貢献活動について、地域活動者の話を聞き、活動のイメージと活動の意義について理解する レクリエーション・ワークの活用方法について学ぶ レクリエーション・ワークを実体験し、理解を深める 自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する ・専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していけるかについて検討し、まとめる	振り返りシートの作成、発表用のレクリエーションを考える	1時間
第5回	研究倫理教育 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、全学生への「研究倫理教育」を実施する	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことができるかについて検討し、まとめる。	1時間
第6回	社会貢献・地域貢献活動および活動レポートの作成について 専門演習の一環として実施する「社会貢献活動・地域貢献活動への参加、活動レポートの作成」について説明を行う	授業内容を踏まえ、「卒業論文の作成」「活動レポートの作成」の選択を考える。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第7回	卒業研究概要の理解および卒業研究の悩みの共有 卒業研究の意義や内容について理解する 「卒業研究ガイドライン」に基づき、教員が解説をおこなう 1. 卒業研究の意義と目的 2. 卒業研究に求められること	振り返りシートの作成。授業内容を踏まえ、卒業研究実施に向けての対応を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第8回	研究資料の探し方およびメディアリテラシーについて 図書館での検索を含めた、研究資料の検索、入手の方法について学ぶ 資料の活用およびメディアリテラシーについて学ぶ	振り返りシートの作成。授業内容を踏まえ、図書館のHPなどを活用し、研究に必要な資料入手の練習をしておく。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間

第9回	研究資料・参考文献リストの作成／活動スケジュールの作成 卒業研究に必要な資料を検索し参考文献リストを作成するリストアップした資料を、図書館及び図書館サイトを通じて入手する また社会貢献・地域貢献活動の活動スケジュールを作成する	卒業研究について、教員が解説した内容をまとめ、理解を深める。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第10回	研究計画書の各項目理解および研究目的の精査 各自、テーマや主たる社会貢献・地域貢献活動の場面を考える テーマや活動場面を決めた動機について、学生同士で意見交換を行う 関連する資料（文献、雑誌・新聞記事、インターネット情報等）を集める ・研究の社会的・技能的背景 ・明らかにしたいこと ・予想される結果とその意義 以上のことについて、文章化する	自分の研究テーマに関係した資料（文献、雑誌・新聞記事、インターネット情報等）を集める。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第11回	卒業研究計画書 下書き作成／活動スケジュールの決定 集めた資料を基に、研究目的について考える ・研究の社会的・技能的背景 ・明らかにしたいこと ・予想される結果とその意義 以上のことについて、文章化する また社会貢献・地域貢献活動の活動スケジュールを確定する	研究目的について、卒業研究計画書に記入する。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第12回	研究調査計画の作成 研究計画と研究方法（調査方法等）について考える 上記のことについて、文章化する 卒業研究計画書を作成する	卒業研究計画書を完成させ、指導教員に提出する。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第13回	卒業研究計画書提出、文献・資料読解演習 卒業論文について、どのような構成にするか検討する 卒業研究計画書の最終提出を行う 参加する社会貢献・地域貢献活動の概要や類似の実践についてまとめる	卒業研究の一般的な構成内容を理解し、自分の卒業研究の構成を考える。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第14回	夏期研究計画と、引用文献、参考文献について 引用文献、参考文献を揃える 引用文献、参考文献の標記の仕方を学ぶ 夏期の具体的な研究計画および活動内容を決める	引用文献、参考文献を標記する。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第15回	オリエンテーション（後期授業の進め方等）と研究計画の確認 後期の授業の進め方について説明する 研究計画および研究に関して収集したデータの確認 夏休みの取り組みについての発表	収集したデータをまとめる。研究計画の進捗確認並びに調整を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第16回	研究計画の確認 研究計画を確認する 研究に関して収集したデータの確認 夏休みの取り組みの発表	収集したデータをまとめる。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第17回	研究データの分析、応用 研究用に収集したデータの分析を行う データの分析結果を基に卒業論文・活動レポートの作成を行う	各自で研究用に収集したデータの分析を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第18回	自己課題の発見 「自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントテストの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する。」	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していけるかについて検討し、まとめる。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第19回	中間発表に向けて テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文をまとめたものについて発表の準備を行う	中間発表用の資料の作成を行う。各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文・活動レポートの作成を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第20回	中間発表（前半） テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文・活動レポートをまとめたものについて発表を行う 発表内容を聞き、自分の課題点を見つける	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文・活動レポートの作成を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間

第21回	中間発表（後半） テーマの設定、研究目的、研究方法、自分の研究テーマに関する先行研究論文・活動レポートをまとめたものについて発表を行う 発表内容を聞き、自分の課題点を見つける	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文・活動レポートの作成を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第22回	卒業研究の作成（研究目的の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文・活動レポートの作成を行う 研究目的の確認を行う	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文・活動レポートの作成を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第23回	卒業研究の作成（研究方法の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文・活動レポートの作成を行う 研究方法の確認を行う	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文・活動レポートの作成を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第24回	卒業研究の作成（先行研究の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文・活動レポートの作成を行う 研究方法の確認を行う	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文・活動レポートの作成を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第25回	卒業研究の作成（研究倫理の確認） 個々の状況を踏まえ、卒業論文・活動レポートの作成を行う 研究方法の確認を行う	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文・活動レポートの作成を行う。また適宜「社会貢献・地域貢献活動」に参加する。	1時間
第26回	卒業研究の作成（添削・推敲） 個々の状況を踏まえ、卒業論文・活動レポートの作成を行う 卒業論文・活動レポートの添削を行う 卒業論文・活動レポートの提出を行う（1次締めきり） 研究発表会用のレジュメ、資料を作成する	各自で研究用に収集したデータの分析と卒業論文・活動レポートの作成を行う。研究発表会用のレジュメ、資料を作成する。	1時間
第27回	研究発表会（前半） 各自の研究を発表する。 質疑応答・討論に積極的に参加する 卒業論文・活動レポートの推敲を行う 卒業論文・活動レポートを完成させる	推敲済み最終原稿を完成させる。研究発表会用のレジュメ、資料を作成する	1時間
第28回	研究発表会（後半） 各自の研究を発表する 質疑応答・討論に積極的に参加する 卒業論文・活動レポートの推敲を行う 卒業論文・活動レポートを完成させる	推敲済み最終原稿を完成させる	1時間

授業科目名	専門演習				
担当教員名	熊谷 綾子				
学年・コース等	2回生	開講期間	通年	単位数	4
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小中学校勤務で音楽授業を担当。音楽教室勤務で幼児から成人の演奏指導、社会貢献分野での生涯学習支援（合唱指導）、高等学校総合文化祭講師として音楽指導に従事				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本演習では、自分で設定したテーマに基づき、卒業研究（論文・演発表）を行う。これまでの学びを基礎に、総合表現としての音楽活動とその指導方法について研究成果の発表を行う。演習を選択した場合は、これまでの学びで培った表現技術に応用し、子どもの表現活動（オペレッタ等の演奏）に取り組むプロセスを体験し、子どもの体験の必要性和保育者の援助について学び、協同して活動に取り組む意義と喜びを理解する。研究を通じ、保育・幼児教育の現場で求められる表現活動の知識・技術、指導法を総合的に修得し、演奏発表を行い記録し、その内容をレポートにまとめる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性

1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解

具体的内容：

保育分野の専門知識ならびに技能

目標：

保育に関する専門知識ならびに技能を身につけ理解することができる。

2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力

保育者・教育者にとって必要な音楽表現の指導法

現場で求められる演奏や表現の知識と技能を応用して指導することができる

汎用的な力

1. DP5. 計画・立案力

生活発表会におけるプログラム（オペレッタ等の演奏会）を立案し、発表会本番までのスケジュールを立てることができる

2. DP6. 行動・実践

計画に基づき、「調べる」「まとめる」「準備する」「発表する」ことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・課題（演習、調査、レポート、ケースメソッドなど）
- ・実験、実技、実習
- ・振り返り（振り返りシート、シャトルシートなど）
- ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
- ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）
- ・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出物にコメント・評価をつけて返却します
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「－」とします。

成績評価の方法・評価の割合

評価の基準

卒業（期末）レポート	：	定期試験期間日が最終稿の締め切り日です。各自が設定した研究テーマについての成果をレポートとしてまとめ、内容、プレゼンテーション力について独自のルーブリックに基づき評価します。
研究発表（実技）または論文	30 %	：
	40 %	：作品の完成度と取り組みの姿勢や内容、協調性などを独自のルーブリックに基づき評価します。但し卒業研究を演奏発表でなく論文で選択した場合にはレポート（30%）と合算した60%で評価します。
授業内課題	：	発表（プレゼンテーション）に伴う制作物やワークシート、計画書、振り返りシートなどの取り組みや提出物、内容について評価します。
	30 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

映像資料や文献を適宜紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は前期 1 単位、後期 1 単位の科目で、論文（又はこれに準ずるもの）を含めて 4 単位の科目であるため、授業に関する授業外学修が平均すると毎回1時間、それ以外に論文等の作成に取り組む時間が通年で90時間、それぞれ求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：月曜日2限

場所：幼児教育学科第 9 研究室

備考・注意事項：研究室在室時や、事前にアポイントを取る場合は、この限りではありません。
第9研究室もしくはkumagai-r@osaka-seikei.ac.jpでも対応します。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第 1 回	オリエンテーション：研究とは 授業概要（評価の方法と講義の目的）についての説明を受け、1年間の流れを理解します。また、研究倫理教育を実施します。 ・1回生での学びを振り返り、総合表現とその研究について考えます。 ・研究の種類やアプローチの方法について紹介します。 ・自身が深めたいテーマを選定します。	1年間の卒業研究計画をイメージし、課題用紙に記述する。	1時間
第 2 回	レポート作成の準備①情報検索と資料収集の方法 ・情報検索と資料収集の方法について学びます。 ・自身が深めたい研究とその目的についてイメージを膨らませます。	自身の深めたいテーマの先行文献や資料を収集し、興味のあるテーマに従って要点をまとめる	1時間
第 3 回	レポート作成の準備②文献の引用と注意点、収集資料の紹介 ・文献の引用と活用の方法を知ります。 ・著作権について学びます。 ・インターネット情報の誤りについて実例を紹介します。 ・グループワークを行い、インターネットの情報の信憑性について考えます。 ・これまで収集した資料について、まとめたことを発表します。 ・他者の発表を聞き、自身のテーマを明確にします。 ・レポート作成の計画をたてます。	自身の課題を見出し、レポート作成の計画を完成させる	1時間
第 4 回	演習準備①立案と計画 ・グループワーキングを行い、発表会までのスケジュールを計画します。 ・発表会に必要な保育者の役割を考え分担します。 ・分担した役割の内容を考えます。 ・レポート作成計画に従い、研究レポートを書く練習を始めます。	実習を通して学んだ保育者の仕事、役割を思い出しながらまとめておく	1時間
第 5 回	研究倫理教育 文部科学大臣決定の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき全学生への「研究倫理教育」を実施します。	専門演習の取り組みの中で「研究活動における不正行為」をどのように防ぐことが出来るかについて検討し、まとめる。	1時間
第 6 回	演習準備②オペレッタとは ・オペレッタについて学びます。 ・表現活動の題材を選曲し、配役を決めます。 ・研究レポートの個別指導を受けます。 ・題材としてのお話を理解します。 ・曲の構成について考え理解します。 ・研究レポートの個別指導を受けます。	楽曲分析を行い楽譜の内容を理解する	1時間
第 7 回	実践練習①個人練習（音楽課題の模索） ・配役に従い、各個人が登場場面の音楽練習を行います。 ・並行して個人レッスンを受講し、自己の音楽的課題を模索します。 ・研究レポートの個別指導を受けます。	自己課題をまとめる	1時間
第 8 回	実践練習②アンサンブル練習（自己課題を明らかにする） ・自身の登場場面と他者の登場場面が重なる箇所について確認し合います。 ・登場場面ごとの練習の方法について話し合い、練習を行います。 ・並行して、複数でのレッスンを受講します。 ・お互いに気付いた点を話し合い、自己課題を明らかにします。 ・研究レポートの個別指導を受けます。	自己課題を明らかにし、個人の表現活動の練習計画をたてる	1時間

第9回	実践練習③全体練習（目標の設定） ・全体での通し練習を行います。 ・他者の演奏を聴き、自身の目標を設定します。 ・研究レポートの個別指導を受けます。	感想レポートの作成。	1時間
第10回	表現指導①効果的な表現技術 ・場面ごとの表現について考え話し合います。 ・場面取りや立ち位置など効果的な舞台の使い方を学びます。 ・音楽に合わせて、体を動かします。 ・全員で話し合い、全体練習の計画を立てます。 ・研究レポートの個別指導を受けます。	全体計画に基づき、個人の計画表を見直し、修正する	1時間
第11回	表現指導②身体表現を伴った音楽の展開と客観的な視点での考察 ・通し練習を行う（録画） ・アンサンブルの楽しさを実感しながら、全体の流れを体得します。 ・研究レポートの・録画した映像を振り返り、作品の水準について話し合います。 ・改善箇所を見出し、部分練習を行う。レッスンを受講します。 ・衣装や必要な制作物について検討し、完成計画をたてます。 ・研究レポートの個別指導を受けます。	他者の演奏から学んだことを整理してまとめる。	1時間
第12回	前期のまとめ①中間発表のためのリハーサル ・オペレッタのリハーサルと振り返りを行います。 ・研究レポートの個別指導を受けます。	自己課題をレポートにまとめる	1時間
第13回	前期のまとめ②オペレッタ発表 ・グループワークの集大成として、オペレッタの実演を行います。（録画） ・録画干渉を通じ、振り返りを行います（振り返りシートの作成） ・研究レポートの個別指導を受けます。	他者の発表からの学びをまとめる。	1時間
第14回	前期のまとめ③研究レポートの中間発表 ・研究レポートの中間発表を行う。 ・前回の振り返りシートをもとにグループでの意見交流を行います。 ・他者の研究レポート発表とグループワーキングを通じ、後期に向けての自己課題を明らかにします。	後期に行う個別の実技課題について検討する。	1時間
第15回	個別の課題の計画と実行 ・自身の研究テーマに従い、発表とレポート制作にむけた計画を立てます。 ・生活発表会を想定した、個々の表現課題に取り組みます。 ・卒業研究レポートの個別指導を受けます。	関連文献の読み込み、研究計画の修正	1時間
第16回	生活発表会の準備①舞台を支える役割について知る ・衣装、舞台装飾等の発表会関連物の制作をします。 ・大道具や小道具、照明などの舞台を支える役割について学びます。 ・各自が並行して音楽練習に取り組みます。 ・卒業研究レポートの個別指導を受けます。	プログラムのデザインや、文面など対象者別の案を考えておく	1時間
第17回	生活発表会の準備②グループ活動 ・発表に向けた実践練習を行います。 ・個人レッスンを受けます。 ・互いに表現内容の考察を行いながら、発表の完成にむけた実践練習を行います。 ・並行して小グループレッスンと卒業研究レポートの個別指導を受けます。	個人練習、卒業研究レポートの作成に取り組む	1時間
第18回	自己のリテラシー・コンピテンシー等についてアセスメントの結果を踏まえて分析を行い、今後に向けての課題を考察する ・発表にむけた実践練習を行います。 ・表現内容の考察を行いながら発表の完成にむけた実践練習を行います。 ・個人レッスンを受けます。 ・卒業研究レポートの個別指導を受けます。	専門演習の取り組みの中で自己の課題をどのように改善していけるかについて検討し、まとめる	1時間
第19回	生活発表会の準備③課題の追求 ・発表にむけた実践練習を行います。 ・生活発表会の完成を想像しながら、実践練習に取り組みます。 ・次回への課題を明らかにします。 ・並行して個人レッスンと卒業研究レポートの個別指導を受けます。	個人練習、卒業研究レポートの作成に取り組む	1時間
第20回	生活発表会の準備④ふりかえり ・生活発表会に向けた実践練習を行います。 ・前回で明らかになった箇所を中心に、部分的な練習を全体で繰り返し行います。 ・互いの改善点をアドバイスし合い、伝えることや、指導することの工夫や、より効果的な方法を考えます。 ・並行して、小グループレッスンと卒業研究レポートの個別指導を受けます。	楽譜の読み込みを行い、楽曲の作りを再確認する。苦手な箇所を明確にする	1時間
第21回	表現研究①身体フォームと呼吸法	授業での学びをレポートにまとめます	1時間

	・特に声楽分野に特化した効果的な表現の方法と技法について学びます。 ・腹式呼吸の練習と全身の構え方、顔や口の開け方などについて理解し実践できるように練習します。		
第22回	表現研究②より広い音域の獲得練習 ・正しい発声法を理解し、くせのない自然な歌唱法のヒントを得ます。 ・頭声区、中声区、胸声区の違いを理解します。 ・子どもの体について学び、無理のない発声指導とその方法について考察します。	授業での学びをレポートにまとめます	1時間
第23回	発表会のリハーサル ・これまでの学びを踏まえて、生活発表会のリハーサルを行います。 ・それぞれが決められた役割と、動きを確認しながら取り組みます。	各自が反省を踏まえ、本番までに改善できるよう、自主練習などに取り組む	1時間
第24回	発表会 ・リハーサルでの反省点を生かし、発表を行います。 ・発表を録画、鑑賞し、振り返りと考察を行います。 ・卒業研究レポートの個別指導を受けます。	発表感想レポートの作成	1時間
第25回	卒業研究レポートの完成①発表準備とシュミレーション ・卒業研究発表会にむけ、文章を推敲し、全体の構成を整えます。 ・プレゼンテーション資料の作成を行い、発表の準備を行います。	プレゼンテーション資料を完成させます	1時間
第26回	卒業研究レポート発表会①リハーサル ・卒業研究レポート発表会にむけたリハーサルと最終チェックを行います。 ・司会、進行の役割分担と発表の順番を決めます。	伝わりやすい発表の工夫を考える	1時間
第27回	卒業研究レポート発表会 ・卒業研究レポートを発表します。 ・他学生への質疑応答を積極的に行い、討論を行います。	推敲済み最終原稿を完成させる。	1時間
第28回	振り返り ・1年間の学びを振り返り、自身の学びについて振り返ります。 ・自身の資料をもとに、表現活動を通じた指導、援助について他学生と意見交換を行い、卒業後への課題や方へと繋がります。	自身の保育観・教育観と今後の課題や抱負を明確にし、文章化する	1時間

授業科目名	こども音楽療育実習				
担当教員名	加戸 敬子・池田 智子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	音楽療法士として障害児施設、児童センターにおいて実践を行う（加戸：全14回） 音楽療法士、教員として障害児施設、特別支援学校において実践を行う（池田：全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

「こども音楽療育概論」および「こども音楽療育演習」で学んだことを踏まえ、障害児と彼らを取り巻く社会を理解し、音楽療育を実践につなげる力を養うことを目的とする。音楽療育を行っている発達支援センター、児童デイサービスで見学実習をし、その後に実習を行う。施設での音楽活動の役割、障害児に対するセラピストの関わり方などを知ること、音楽による発達支援を学ぶ。また記録の書き方や評価方法などを学び、客観的に評価できる力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	プログラムの計画と記録の書き方	対象児に対し目標設定とその目標に応じた選曲と活動の計画ができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	セッションを単独で実施する力	対象児の視点に立って臨機応変に対応することができる。
汎用的な力		
1. DP5. 計画・立案力		プログラムの流れを想定し対象児の目標に沿った計画を立てることができる。
2. DP6. 行動・実践		対象児を目標とする行動の変容に向けて楽器奏や歌唱、言葉かけができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
- ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
- ・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします
- ・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等	
小グループでの実習という形態であるため、原則として毎回出席し実習に臨むこと。規定回数以上の出席、および実習に参加しなければ成績評価を行わず資格申請もできない。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
模擬セッションの取り組み	： セッション計画および実践を10段階で評価する。目標に沿った独自のプログラムで子どもの反応を的確に想定したものであれば9～10点、目標に沿った子ども視点のプログラムであれば7～8点
20 %	
観察実習・本実習記録	： 各10段階で評価し、セラピストの意図と対象児の反応の関係が記録されていれば9～10点、どちらか一方の意図が記録されていれば7～8点、動きを詳細にかけていれば6点とする。
20 %	
実習	： 以下の観点から5段階で評価する。全体の流れをしっかりと把握しスムーズであるか、対象児の視点に立ち反応をよく見ているか、反応に対しその場に応じた関わりができていないか、客観的な記録が書けているか。
40 %	
試験（期末レポート）	： 実習を通して、障害児理解、音楽でのアプローチによる効果、客観的な視点で自己評価ができているかを測る、レポートは定期試験時に提出し内容についてフィードバックし評価する。
20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『静かな森の大きな木』生野里花、春秋社 2001
『統合保育・教育現場に応用する音楽療法・音遊び』下川英子、音楽之友社 2009
『ノードフ＝ロビンズセンター編 音楽療法のためのピアノ小品集』ミッシェール・リットホルズ、クライブ・ロビンズ ヤマハミュージックメディア 2002
『音楽療法の視点に立った保育支援の試み』谷村宏子、関西学院大学出版会 2012

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
本授業は「こども音楽療育概論」および「こども音楽療育演習」を履修した者に限り受講できる。また、実習にあたり障害児の尊厳を守り、守秘義務を遵守できることが条件となる。また、実習参加の基本的なマナーは教育実習・保育実習で定めていることに準ずる。
本授業を含む規定の科目を履修することにより、こども音楽療育士の資格を取得することができる。
見学実習および実習のための交通費は各自負担となり、他に実習費、資格申請費用が必要である。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火・金 昼休み
場所： 西館6階加戸研究室
備考・注意事項： 授業の前後も受け付けるが、それ以外はアポを取る。 kato-hi@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	オリエンテーション、実習事前指導 障害児に対する音楽による発達支援の目的と効果について復習し、見学実習と本実習、評価について説明する。 見学実習先の発達支援センターと児童デイサービスの概要と音楽療育の形態、内容、留意点について知る。また、記録の書き方について復習する。 実習に参加する際の3～4名のグループ分けを行い、大まかなセッションプログラムを決める。	概論と演習の復習をしておく。見学実習園先情報をHPなどで調べる。各活動の曲について候補を挙げておき、この日に決定したセッション表を完成する。	1時間
第2回	セッションのプログラミング 全体のプログラムを4つに分け、流れとグループ内での担当、選曲と活動内容について検討し、決定する。	選曲について考えておく。セッション表を完成する。	1時間
第3回	セッションの導入「はじめの歌」 はじめの歌の練習、内容の検討。 スムーズな導入とは、導入時の緊張をどうほぐすか、泣き止まない子どもへの対応をどうするかなど、様々な場面を想定する。	選曲曲を暗譜しておく。内容について案を考える。ピアノ伴奏を練習しておく。	1時間
第4回	発声・歌唱活動 視覚的な提示を伴って、発声に繋げる方法を検討する。 音の高低、強弱、緩急などを、どのように表現するかを知る。	使用曲を暗譜しておく。歌唱曲に関する小物を考えておく。ピアノ伴奏を練習しておく。	1時間
第5回	リズム・楽器活動 子どもにとって安全であり、興味を持って積極的に参加する楽器活動を展開する方法について検討する。 リズム活動、身体運動を伴うリズム活動、協応動作など、目的を明確化する。	子どもの身体機能やリズム機能について調べておく。使用曲での楽器の使い方を考えておく。ピアノ伴奏の練習をしておく。	1時間
第6回	身体活動・粗大運動、協応動作 子どもの身体レベル、障害種に応じた活動の練習。 粗大運動時の留意点について考える。 子どもに合ったテンポでの伴奏について知る。	運動時の身体の動きが適切であるかどうか、様々な状況を想定しておく。ピアノ伴奏の練習をしておく。	1時間
第7回	クールダウン・おわりの歌 おわりの歌の関わり方を練習する。 活動の終わりに、鎮静化と次回への期待を繋げる方法について検討する。	事前準備と事後の記録を作成する。	1時間
第8回	模擬セッション1 活動ごとの実践 プログラムの各活動ごとの練習と、活動と活動の間の扱い方について検討する。	事前準備と事後の記録を作成する。	1時間
第9回	模擬セッション2 全体を通しての実践 実習先から指定された時間内でセッションを行う。 常に子どもの反応を見ながらセッションを行えるよう、それぞれの役割での動きを検討する。	セッションの詳細な記録をつけておく。	1時間
第10回	音楽療育実習1 療育現場での観察実習 子どもの障害種と特性を観察し、音楽療法士、保育士の対応について学ぶ。 セッション事前・事後のスタッフミーティングに参加し、セッションの目的、結果、評価について知り、他職種の連携について学ぶ。	セッションの詳細な記録をつけておく。ピアノ伴奏の練習をする。	1時間

第11回	音楽療育実習2 発達支援センター集団セッション第1回目 実習の振り返りを行い、反省点を基に次回のセッションについて再検討する。	セッションの詳細な記録をつけておく。ピアノ伴奏の練習をする。	1時間
第12回	音楽療育実習3 発達支援センター集団セッション第2回目 セッション全体の流れを予習し、様々な場面を想定した対応を考える。 セッションの振り返りを行い、記録をつける。	セッションの準備、および実習後には詳細な記録をつけておく。	1時間
第13回	音楽療育実習の記録作成 実習の記録映像を見ながら、1セッションにつき1つの記録を、プログラムの目的、使用曲と共に、Thの動きとそれに対する子どもの反応、気づきについての記録表を作成する。	個々に自分の役割、立場からの視点による記録と考察をしておく。	1時間
第14回	音楽療育実習報告会 セッション記録映像を観ながら1組20分程度の報告と質疑応答を行う。 最終レポートの作成を行う。	発表用パワーポイントを作成しておく。レポートの作成を行う。	1時間

授業科目名	こども音楽療育演習				
担当教員名	加戸 敬子・佃 誉子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	児童発達支援センター、障害児施設、病院において音楽療法士として勤務。（加戸：全14回） 行政主催子育て支援事業、幼稚園、民間幼児教室において音楽療法士、講師として勤務。（佃：全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

音楽の機能を意図的、計画的に使う音楽療法的視点により、子どもの発達を援助する手法を学ぶ。心身の発達と音楽発達の段階、また障害種によって変化させる音楽のアプローチを体験し、ロールプレイを通してクライアントの意思を感じ取る感性を養う。具体的には音楽療育現場で使用されているオリジナル曲の歌唱、楽器活動、身体活動、手遊びなどを学ぶと同時に、目標に応じた選曲やアレンジ、伴奏の付け方、即興演奏を身に付け、セッションプログラムの立案と実践を行える力を習得する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2. 専門的知識・技能、職業理解	音楽療育の目的と手法を理解する。	療育の場で必要な楽曲と楽器類の使用方法についての知識を得ることができる。
2. DP3. 専門的知識・技能を実践で発揮する力	心身状況に応じた音楽を選択し対象児の発達を促す。	対象児の発達に沿ったプログラムを立て、実践することができる。
汎用的な力		
1. DP5. 計画・立案力		対象児の目標に沿ったプログラミングができる。
2. DP6. 行動・実践		対象児の反応に合わせた臨機応変な実践ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

- ・実験、実技、実習
- ・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
- ・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

- ・実習や実技に対して個別にコメントします
- ・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等	
原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価は行わない。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。	
成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
実技課題 3回	： セッションプログラム毎に選曲と実践を行い5段階で評価する。目的に沿って対象児の動きを想定したものであれば5点、目的に沿っていれば3点、流れに沿っていれば2点とする。
30 %	
授業内での模擬セッション	： ロールプレイにおける積極的参加を5段階で評価する。目的に沿って独自の発想が取り入れられていれば5点、積極的に取り組んでいれば4点、目的に沿っていれば3点、一部が目的に沿っていれば2点とする。
20 %	
試験（期末レポート）	： 授業内での模擬セッションの考察を次の観点から評価する。1. 音楽療育の正しい知識2. セッションの目標とプログラムとの一致3. 自身のセッションについての客観的な評価。定期試験時に提出し個々に振り返りを行う。
30 %	
受講状況	： 授業およびグループワークへの積極的な参加や受講態度（模擬セッションへの準備の取り組み方）などを総合的に評価する。
20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

『統合保育・教育現場に応用する音楽療法・音遊び』下川英子、音楽之友社
『音楽療法のための小品集』ノードフ＝ロビンズセンター編集、ヤマハミュージックメディア 2002年
『音楽療法のためのオリジナル曲集「静かな森の大きな木」』生野里花、二俣泉、春秋社 2001年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
本科目を含め規定の科目を履修することにより「こども音楽療育士」の資格を取得できる。本科目は1回生時に「こども音楽療育概論」を履修し一定の成績を修めた者が受講できる。また、後期科目の「こども音楽療育実習」に向けて計画されているため併せて履修すること。1回ずつの授業が実習のプログラムとなるため欠席のないよう留意すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業前後、火・金の昼休み
場所： 西館6階加戸研究室
備考・注意事項： 事前にアポをとること。kato-hi@g.osaka-seikei.ac.jp

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回 オリエンテーションと模擬セッションのグループ決定 授業の概要と評価方法について説明を行った後、4名ずつのグループ分けを行う。	振り返りシートの作成、こども音楽療育概論の復習をしておく。	1時間
第2回 音楽療育の目的と楽器 障害児に対する音楽の目的と効果について知識と理解を深め、使用する楽器の名称と特徴、使用方法、留意点について学ぶ。	振り返りシートの作成、療育現場で使用する楽器について調べておく。	1時間
第3回 リズム楽器と即興 打楽器を使って即興によるグループワークを行い、非言語でのコミュニケーションを体験する。	振り返りシートの作成、リズムパターンに合う身近な言葉を考えておく。	1時間
第4回 目的に応じた活動のための曲① 活動の導入と身体活動 対象児の発達に沿った活動の導入、身体活動に適した曲を紹介し、楽器を介したコミュニケーションと音楽を通した身体活動を体験する。	振り返りシートの作成、授業内で紹介した曲を練習しておく。	1時間
第5回 目的に応じた活動のための曲② 歌唱活動、創作活動 季節や行事に応じた歌唱を紹介し、それを基に創作活動につなぐ手法を学ぶ。	振り返りシートの作成、簡単なオリジナルメロディーを創作する。	1時間
第6回 目的に応じた活動のための曲③ 楽器活動 楽器活動の目的である、他児との交流、手指の巧緻性を高める。リズム感覚の促進、ハーモニーやメロディーを感じる、気分の発散などを行うための音楽と楽器の使い方を紹介し、グループで体験する。	振り返りシートの作成、楽器活動の曲の伴奏を練習しておく。	1時間
第7回 目的に応じた活動のための曲④ 重度心身障害児へのセッション 重度心身障害児の特性と支援の目的・方法を理解し、ニーズに合った音楽の提供と留意点について学ぶ。	振り返りシートの作成、重度心身障害児の特性について調べておく。	1時間
第8回 目的に応じた活動のための曲⑤ 活動の終結 エンディングへの流れを想定し、クールダウンからクロージへと導入する音楽と提供の仕方について学ぶ。	振り返りシートの作成、気分を鎮静化する音楽について調べておく。	1時間
第9回 セッション案の作成とアセスメント、目標設定と方法の検討 セッションを実施するにあたり、想定する対象児の目標設定と使用曲などのプログラミングを考え、セッション表の書き方を学ぶ。	振り返りシートの作成、セッション案を考える。	1時間
第10回 セッションのプログラミング セラピスト役として活動の目的、4つのプログラム、内容を決め、選曲、伴奏のつけ方、楽器の選択、声のかけ方などを考慮したセッション案を作成し、必要な小物の準備をする。	セッション案を考え、表を作成する。小物の作成準備をする。	1時間
第11回 セッションの練習① プログラムの検討 前回に作成したセッション案を検討するため、プログラムごとにセラピスト、コ・セラピスト、伴奏者の役割に分かれて練習をする。	振り返りシートの作成、各々の役割の練習をしておく。	1時間
第12回 セッションの練習② 目的に沿った内容の検討 セッション表を基に、各プログラムごとの練習をグループで行う。	振り返りシートの作成、セッション案が妥当かどうかの振り返り、および伴奏の練習をしておく。	1時間
第13回 セッションの練習③ ロールプレイ	振り返りシートの作成、自身のプログラムを練習し記録をつけておく。	1時間

	作成したセッション表によるロールプレイを行う。終了後は記録を作成する。		
第14回	セッションの評価 第13回の授業で行ったセッションをグループでのディスカッションと記録映像から振り返り、セラピスト役、クライエント役の逐語記録と気付きを記録紙にまとめる。	前回の記録を基に、動画を見てさらに気づいたことを加筆する。	1時間